

**BigFix プラットフォーム  
コンソール・オペレーター・ガイド**



# 第 1 章. コンソールへのアクセス

コンソールは BigFix の操作画面です。オペレーターは、コンソールを使用して、BigFix クライアントを実行するネットワーク・コンピューターを監視し、修復します。コンソールの使用を開始するには、権限が付与されている必要があります。コンソール・ユーザーには以下の 2 種類があります。

- **オペレーター**。Fixlet の管理やアクションの適用といったプログラムの日常的な操作を管理します。このユーザーには、サイト管理者またはマスター・オペレーターから管理権限が割り当てられます。
- **マスター・オペレーター**。他のコンソール・オペレーターに管理権限を割り当てる追加権限を持つオペレーターです。マスター・オペレーターは、以下の操作を行うこともできます。
  - 新しいコンピューター設定の作成。これにより、クライアントをさまざまなグループに分類することができます。
  - 取得プロパティの作成または編集。取得プロパティは、コンピューターのフィルタリングとソートに使用されます。
  - BigFix クライアントのハートビートの変更。これによりプログラムのパフォーマンスを最適化します。
  - サイトのサブスクライブ、またはサブスクライブ取り消し。
  - カスタム・アクションの作成 (このオプションがデプロイメントで選択されている場合)。

資格情報を持っている場合は、すぐにコンソールを操作できます。

1. コンソールを起動します。コンソールのデスクトップ・アイコンをダブルクリックするか、プログラム・メニューからコンソールを選択します(「**スタート**」->「**すべてのプログラム**」->「**BigFix**」->「**BigFix コンソール**」)。
2. 以下のいずれかの表記のユーザー名を使用して、コンソールにログインします。  
`username username@domain domain\user`
3. アクション・サイトを初期化すると、コンソールが開き、Fixlet のインポートが開始されます。この処理が完了すると、インストールされているクライアントに Fixlets が転

送され、そこでメッセージが評価されて結果が返されます。このプロセスには数分か  
かる場合があります。

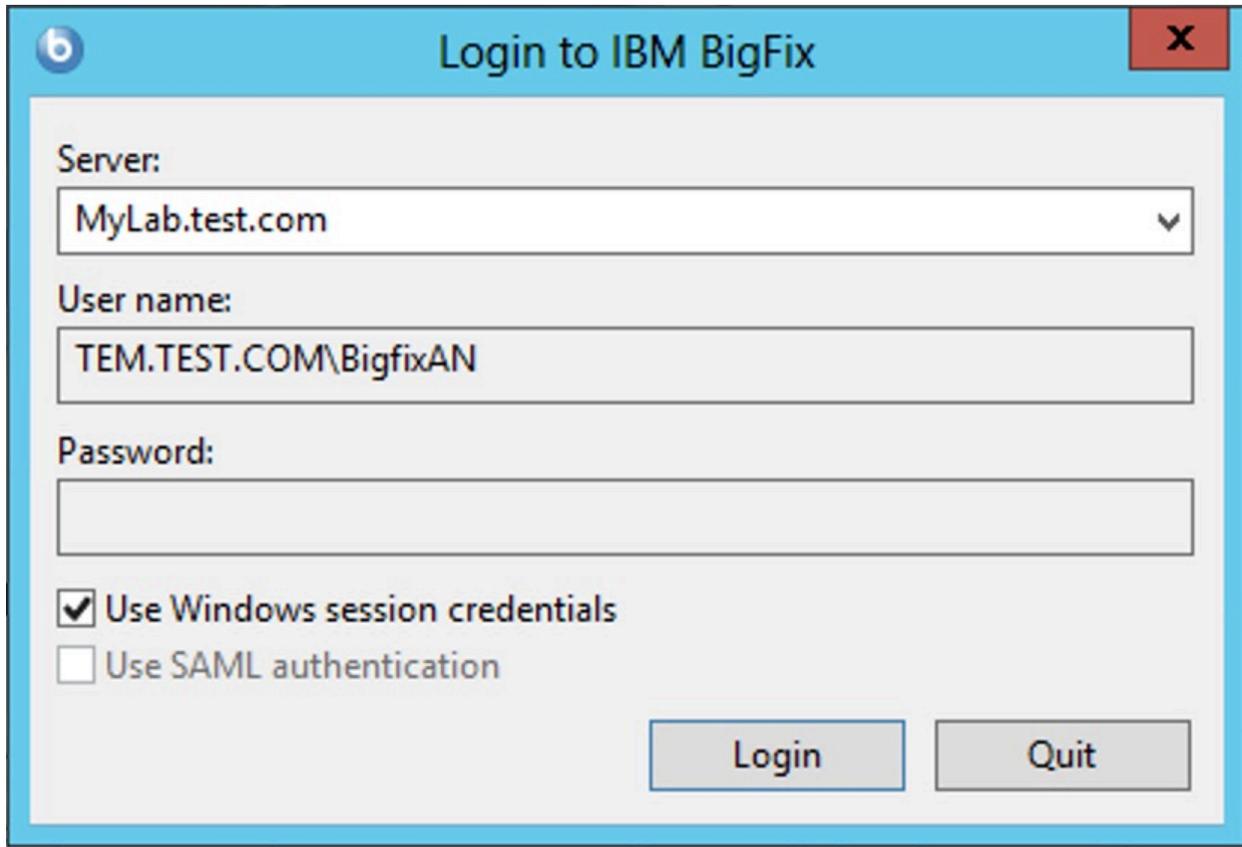
## Windows セッション資格情報を使用したコンソール 認証

以下の条件が満たされた場合、Windows Active Directory のユーザー資格情報を使用して  
BigFix コンソールにログインできます。

- Windows サーバーと Active Directory との統合 (##### )で説明したように BigFix  
を Active Directory ドメインに統合した。
- BigFix コンソールがインストールされているシステムが Active Directory ドメインに属  
している。
- ご使用のユーザー ID が次のように定義されている。
  - コンソールを使用するための必要な権限を持つ BigFix オペレーター。
  - コンソールがインストールされているシステムでの Active Directory ドメイン・  
ユーザー。

 **注:** SSL を有効にする場合は汎用 LDAP オプションを指定し、ご使用の環境に子ドメイ  
ンが含まれる場合はポート番号 3268 (グローバル・カタログを指す) を指定します。

これらの条件が満たされている場合、コンソールにアクセスすると、ログイン・ウィンド  
ウにはご使用のドメイン資格情報が自動的に入力され、「**ログイン**」をクリックしてコン  
ソールに入れます。



Server:  
MyLab.test.com

User name:  
TEM.TEST.COM\BigfixAN

Password:

Use Windows session credentials  
 Use SAML authentication

Login Quit

**注:** この認証方法は、Windows オペレーティング・システムで実行されている BigFix サーバーでのみ有効です。

## BigFix コンソール・ユーザー・インターフェースの概要

BigFix の **メイン・コンソール**・ウィンドウには、左に **ドメイン・パネル** と呼ばれるパネルがあり、そこにボタンとナビゲーション・ツリーが含まれています。このパネルは、コンテンツをグループ化して特定のオペレーター・ドメイン (ソフトウェア・パッチ、マルウェア保護、電源管理など) に関するコレクションにするように設計されています。ドメインを選択し、ナビゲーション・ツリーからトピックを選択すると、関連コンテンツのリストが右に表示されます。このリストから特定の項目を選択すると、リストの下の作業域にさらに詳細なビューを表示できます。以下に、標準的なセッションで使用されることがある機能の内訳を簡単に示します。

## ドメイン・パネル

左にあるこの縦型のパネルは、広範囲のコンテンツの概観を提供し、主要な IT 機能別に情報を素早く細分化できるようにします。各ドメイン内で、このパネルにナビゲーション・ツリーが表示され、これによって Fixlet、レポート、分析などのコンテンツに簡単にズームインできます。このパネルは、ドメインのスタイルによってはさらにセクションに分割される場合もあります。このようなセクションには、例えば次のものが含まれます。

### コンテンツ・フィルター

このセクションがある場合は上部に表示され、選択されたドメインの一部である各種のコンテンツ・フィルターおよびレポートを提供します。左にある開示アイコン (三角形または正符号) をクリックすると、選択した項目を詳細化して示すナビゲーション・ツリーが表示されます。

### 一般コンテンツ

このセクションでは、ドメイン内のすべてのコンテンツにナビゲートできます。コンテンツには、さまざまなサイトから収集された Fixlet、タスク、アクション、分析、コンピューターが含まれる可能性があります。左にある開示アイコン (三角形または正符号) をクリックすると、ツリーが開きます。

## ドメイン・ボタン

これらのボタンはドメイン・パネルの下部にあり、現在使用可能なドメイン・セットを表します。ユーザーがサイトをサブスクライブすると、自動的に正しいドメインに入ります。新規ドメインが必要な場合は、そのドメインのボタンをこのグループに追加します。ボタンの下部にあるコントロールを使用して、表示するボタンの数を調整することができます。

## コンソール・ツールバー

このツールバーは、ドメイン・ナビゲーション・ツリーから選択した項目の中で自在に行き来する場合に使用します。「戻る」ボタンと「進む」ボタンは、ブラウザー内のこれらに対応するボタンと同じ働きをし、コンテンツのナビゲートには重要な手段です。このほか、非表示にした項目や、現在はク

ライアントのどれにも関連していない項目を表示するために使用できるボタンがあります (これにより、使用可能なすべてのコンテンツを表示して、リサーチや複製作成の目的で使用できます)。データベースからコンソール・ディスプレイにコンテンツを再ロードするための最新表示ボタンもあります。

## リスト・パネル

これは、ドメイン・パネルのコンテンツ・フィルターおよびナビゲーション・ツリーによって指定された項目をリスト表示するものです。このリストは、列ヘッダーをクリックしてソートしたり、ヘッダーを左または右にドラッグして再配置したりすることができます。また、ヘッダーを右クリックすると、選択可能なすべてのフィールドのリストが入ったポップアップ・メニューを表示することができます。ヘッダーとして使用するフィールドにチェック・マークを付けてください。

## ショートカット・メニュー

リスト内の項目を右クリックしたときに開くメニューです。リストが異なると、コンテキスト・メニューも異なります。

## 作業域ツールバー

このバーには、現行作業域の内容に基づいて各種のアクションを実行できる、コンテキストに依存したボタンがあります。右上には、特定の文書の最大化または切り離しができる 2 つのアイコンも含まれています。切り離すことで、一度に複数の文書を検査することができます。

## 作業域

作業域は、リスト・パネルと作業域ツールバーの下にあります。リスト・パネルで項目をクリックすると、コンソールによってこのウィンドウに詳細文書が開かれます。以下のリストは、例えば、Fixlet の要素について説明しています。

### 文書タブ

各タイプの文書にはそれに付随する固有のタブ・セットがあります。Fixlet の場合、タブには「説明」、「詳細」、「適用可能

なコンピューター」「アクション履歴」などの項目が含まれています。

### **Fixlet**

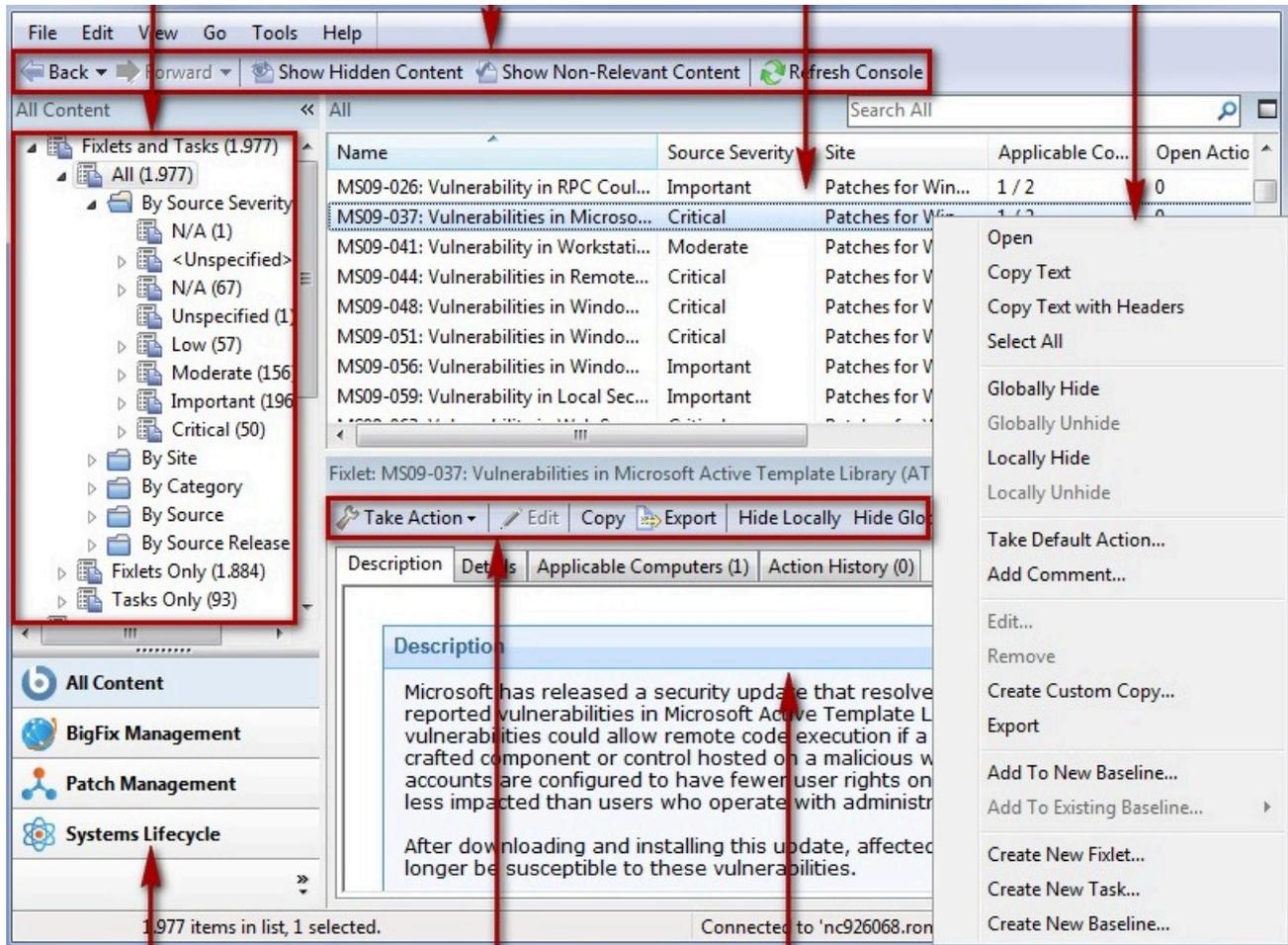
リストから Fixlet を開くとデフォルトの「説明」タブが選択されており、Fixlet 文書によって問題の説明がわかりやすく示されます。

### **アクション・ボタン**

Fixlet 文書には通常、少なくとも 1 つのアクションが含まれていて、作業域にリンクとして表示されています (作業域ツールバーのタスク・アクション・ボタンからも選択可能です)。このボタンをクリックすると、アクションがネットワーク全体に適用されます。

以下に示すのは、標準的なセッションのスクリーン・ショットです。Fixlet およびタスクのサブセットはドメイン・ナビゲーション・ツリーから選択されたもので、ユーザーはリスト・パネルから開いたタスクの説明を閲覧しています。

**ドメイン・パネル    コンソール・ツールバー    リスト・パネル    コンテキスト・メニュー**



ドメイン・ボタン

作業域ツールバー

作業域

一般に、ワークフローはまずドメイン・パネルからリスト・パネルへと進みます。リストから項目を選択した後は、作業域に表示される指示に従ってタスクを完了します。

どのように進むかは、コンテンツ・タイプに応じて異なります。Fixlet には、1つ以上のクライアントで検出された問題の説明があります。分析では、ユーザーのネットワークのクライアントから収集した情報が表示されます。ツリーの「コンピューター」ブランチでは、制御下にある特定のクライアントを調べることができます。

例えば、ドメイン・パネルから Fixlet を選択すると、関連する Fixlet がリスト・パネルに表示されます。リストから Fixlet を 1つ選択すると、それが下部の作業域に表示されます。Fixlet 文書には、現在クライアントに影響を及ぼしている問題についての簡潔な説明が表示されます。必要な場合には、「詳細」タブをクリックして、関連式に使用された基礎のコードおよび提示されたアクションについて調べることができます。そのアクションを対象のコンピューターに適用することに決めた場合は、アクション (作業域ツールバーのボ

タンまたは作業域内のハイパーリンクで表される) をクリックし、プロンプトに従ってください。アクションを適用すると、対象のクライアントが修正され、以後問題は報告されなくなります。その時点で、該当の Fixlet が関連の Fixlet リストから削除されます。

環境設定によって、ネットワークでの即応性とセキュリティ保護のレベルを制御することができます。デフォルト値を調整するには、「ファイル」メニューから「環境設定」を選択してください。

## コンソール・オペレーターのワークフロー・サンプル

BigFix は豊富な機能を持つ強力なプログラムであるため、新規ユーザーにとっては操作が困難に見えるかもしれません。しかし、標準的なワークフローを理解すれば、その操作は単純で直観的なものになります。サンプル・セッションを実行してみましょう。

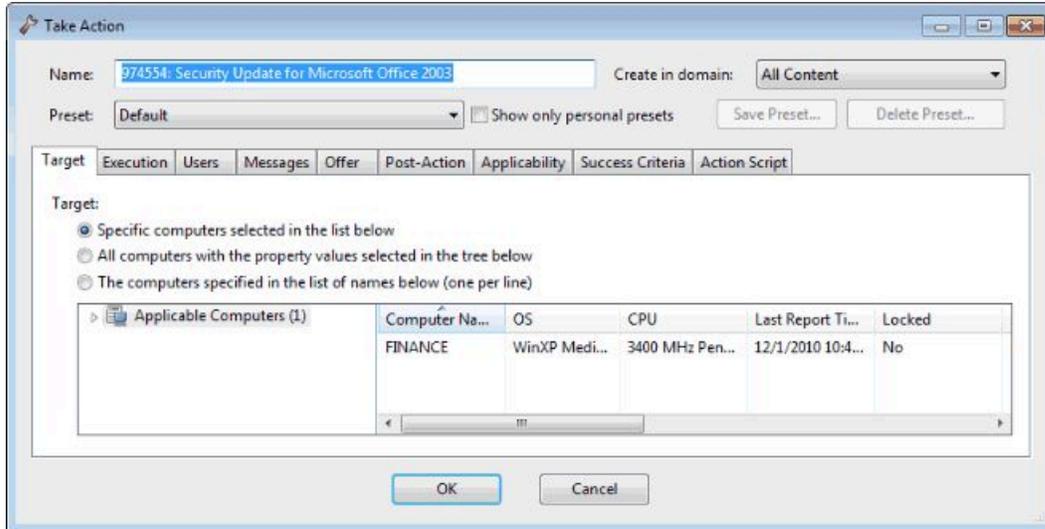
1. BigFix コンソールを起動します。
2. 左のドメイン・パネルで、「**すべてのコンテンツ**」のラベルが付いたボタンをクリックします。これで、サブスクライブしたすべてのサイトが表示されます。次に、ドメイン・パネルの上部にある「**Fixlet とタスク**」という項目をクリックします。これで、右のリスト・パネルに、ネットワークに現在適用可能な Fixlet とタスクのリストが表示されます。

The screenshot shows the BigFix console interface. In the left-hand navigation pane, the 'All Content' section is expanded, and the 'All (1,977)' folder is circled in red. A red arrow points from this folder to the 'All Content' button in the bottom-left navigation pane. The main window displays a table of Fixlets with the following columns: Name, Source Severity, Site, Applicable Co..., and Open Actio... The table lists several Fixlets, including MS09-026, MS09-037, MS09-041, MS09-044, MS09-048, MS09-051, MS09-056, and MS09-059. Below the table, a detailed view for 'Fixlet: MS09-037: Vulnerabilities in Microsoft Active Template Library (ATL) Could Allow Remote Code Exe...' is shown. The detailed view includes a 'Description' tab, a 'Details' tab, and an 'Applicable Computers (1)' tab. The description text reads: 'Microsoft has released a security update that resolves several privately reported vulnerabilities in Microsoft Active Template Library (ATL). The vulnerabilities could allow remote code execution if a user loaded a specially crafted component or control hosted on a malicious website. Users whose accounts are configured to have fewer user rights on the system could be less impacted than users who operate with administrative user rights. After downloading and installing this update, affected computers will no longer be susceptible to these vulnerabilities.'

3. リスト・パネルで、関心のある Fixlet をクリックします。リストの下の作業域に、対応する文書が開きます。これは、Fixlet のテキストで、適用に際して決定するために必要な情報と実行すべき特定のアクションを示しています。

The screenshot shows the detailed view for Fixlet MS09-060. The 'Description' tab is selected, showing the text: 'This update resolves a problem that can cause programs that use the Outlook View Control with Forms 2.0, such as Microsoft Office Outlook with Business Contact Manager, to stop functioning as expected after Security Update for Microsoft Office Outlook 2007 (KB972363) is installed.' Below the description, there are two 'Note' sections and a 'File Size' of 814.90 KB. The 'Actions' section contains three items: 'Click here to initiate the deployment process.', 'Click here to view Microsoft Security Bulletin MS09-060.', and 'Click here for information on troubleshooting Office patches.' A red arrow points to the first action item.

4. メッセージの下部に、影響を受けるコンピューターを修正するためのアクションを開始するリンクが1つ以上表示されています。最も適切と思われるアクションをクリックしてください。「**アクションの実行**」ダイアログが開きます。



5. 「**対象**」タブを使用して、アクションの対象にする、影響を受けるコンピューターのサブセットを選択します。以下のように、アクションの適用には複数の手法があります。

#### 以下の一覧で選択したコンピューター

最初の対象ボタンでは、目的のコンピューターを右下のパネルから選択することができます。このパネルには、この Fixlet が現在関連しているすべてのコンピューターがリストされています。右クリック・メニューを使用すると、リスト内のすべてのコンピューターを選択できます。この手法では、Fixlet アクションは、指定されたリストに制限されます。

#### 以下のツリーで選択したプロパティ値を持つすべてのコンピューター

2番目のボタンを選択すると、指定されたプロパティのセットを持つコンピューターに対してアクションを実行できます。アクション期間の有効期限が切れるまでは、指定されたプロパティをコンピューターが満たしている場合は常にそのコンピューターが対象になります。すべてのアクションと同様に、影響を受けるコンピューターのみがアクションを実際に受け取ります。

#### 以下の名前一覧で指定したコンピューター

3 番目のボタンを選択して、コンピューターのリストを指定します。

6. 残りのタブを使用して、実行スケジュール、クライアント・メッセージ、特殊スクリプトなどのアクションを作成し、「OK」ボタンをクリックします。詳しくは、「**アクションの実行**」ダイアログの説明を参照してください。
7. パスワードを入力すると、Fixlet アクションがネットワーク全体に適用され、設定したフィルターに従って、そのアクションを必要とする各コンピューターに個別に適用されます。

これは、コンピューターの標準的な保守および修復に使用するプロセスです。このインターフェースについて検討すると、セキュリティの問題の修復、コンピューターのインベントリー作成、ユーザーの管理、および各パッチやアップグレードの詳細な監査証跡の維持にも役立つことが分かります。これらのタスクはそれぞれ異なりますが、すべて同様のワークフローを使用して実行することができます。このインターフェースを試用し、機能についてさらに学んでください。

# 第 2 章. Fixlet とタスク

## Fixlet とタスクの概要

**Fixlet とタスク**は、BigFix の中心的な要素です。これらは、関連文を使用して対象を特定のコンピューターに絞り込んで、問題の影響を受ける BigFix クライアントのみを修復します。これらにはともに、マウスをクリックするだけで問題を解決できる**アクション・スクリプト**が含まれています。

Fixlet とタスクの主な違いは、その解決方法です。

- Fixlet は、脆弱性を検出する関連句によってトリガーされます。脆弱性を修復するためにアクションが呼び出されると、Fixlet は自動的に関連性を失い、その特定の BigFix クライアントに適用できなくなります。Fixlet アクションがネットワークで伝達される際に、その進行状況をコンソール、Web レポート、および視覚化ツールでトラッキングできます。ネットワーク内のすべての BigFix クライアントが修復されると、Fixlet は関連しなくなり、リストから削除されます。問題が再発した場合は、Fixlet がリストに再び表示され、問題に再び対処できる状態になります。
- タスクには 1 つ以上のアクション・スクリプトが付属しており、設定の調整やメンテナンス・タスクの実行に利用できます。一般にタスクは、アクション・スクリプトが実行された後も関連したままとなります。タスクは繰り返し適用できるように設計されているため、結果として永続的であることがほとんどです。

Fixlet とタスクには、リストからクリックするだけで適用できるようにする**デフォルト・アクション**が含まれている場合があります。また、どちらもベースラインにグループ化して、より高いレベルで自動化することができます。すべてのデフォルト・アクションを含んでいる Fixlet またはタスクでベースラインを作成すれば、企業ポリシーや共通稼働環境の保守などの手間のかかる作業を、シングルクリック操作で実行できます。標準的な運用の場合、Fixlet の関連度は全体的なベースラインの関連度に寄与しますが、タスクの関連度は寄与しません。同様に、ベースラインから作成されるアクションは、Fixlet アクションとタスク・アクションの両方で構成でき、一般には Fixlet アクションの関連度のみがグ

ループを実行するかどうかの決定に寄与します。これらは Fixlet とタスクを特徴付ける機能です。以下の表に両者の違いをまとめます。

	Fixlet メッセージ	タスク
関連度の解釈:	マシンが修復可能な状態にある	このコンテキストでアクションを実行できる
修復成功の成立:	関連度が false になる	アクションが完了するまで実行される
ベースラインの関連度への寄与		いいえ
グループ・アクション実行への寄与		いいえ

Fixlet またはタスクをいつでも開いて、対象のクライアントを指定するために使用される基本の関連式、および問題に対処できるように設計されたアクション・スクリプトを調べることができます。この言語は人間が判読できるため、トリガーの適用性と修復アクションの有効性の両方を十分に信頼することができます。また、ネットワーク内のどのコンピューターが各 Fixlet またはタスクの影響を受けるかを、正確に把握できます。伝達後は、実行された各アクションの進行状況と最終履歴をクライアントごとに表示できます。

## Fixlet とタスクの相違点

BigFix コンソールにおける Fixlet とタスクの定義を詳しく調べると、同じ項目があります。この 2 つの間の相違点は、有効範囲とデフォルトの動作にあります。

有効範囲の関連事項:

- Fixlet は、施行ルールに対するコンプライアンスが欠如している場合に、それを修正するために使用されます。要約すると、Fixlet は、既知の「破られた」条件を取り出して、それを修正します。
- タスクとは、実行する構成アイテムのことです。言い換えると、タスクは、「必ずしも破られたとは言えない条件」を取り出して、それを、「必ずしも修正されたとは言えない」何か他のものに変更します。

例:

- Fixlet は、Update AntiVirus definitionに例えることができます。
- タスクは、Run Antivirus scanに例えることができます。

デフォルトの動作の関連事項:

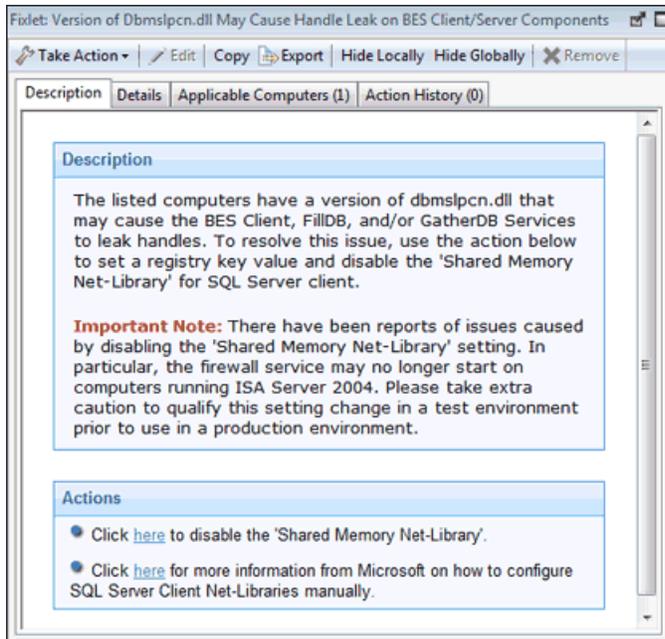
- Fixlet は、アクション・スクリプトを終了すると、関連度をチェックし、それが true (Fixlet は関連状態にある) から false (破られたものはすべて修正済みである) に変化していることを確認し、それが完了したら、「**修正済み**」と報告します。
- タスクは、アクション・スクリプトを終了したときに、関連度を再度チェックしません。アクション・スクリプト内のすべての行が完了した場合、クライアントはそのアクションは正常に完了したと見なし、「**完了**」と報告します。したがって、ベスト・プラクティスとしては、タスクが実行されて正常に完了したことを確認するために、タスクによって実行されるアクションに対して成功条件を設定することをお勧めします。

## Fixlet とタスクの表示

Fixlet またはタスクを表示するには、以下のようにします。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーから、「**Fixlet とタスク**」というラベルのアイコンをクリックします。
2. 右側に表示されるリスト・パネルで項目をクリックすると、その項目が開きます。

作業域 (まだ選択されていない場合は「**説明**」タブをクリック) に Fixlet メッセージの本文が表示されます。



各 Fixlet またはタスクを選択すると、独自のウィンドウが表示されます。

各 Fixlet またはタスクの作業域には、4 つのタブがあります。

- **「説明」**：このページには、問題とそれを修正するための 1 つ以上のアクションの説明が示されます。アクションは、説明ページの下部にあるリンクで示されています。アクションをクリックすると、「アクションの実行」ダイアログが開きます。このダイアログで、さらにアクションの対象を指定したり、スケジュールしたりできます。アクションのハイパーリンクを誤ってクリックしても、実際に適用する前に、いつでもアクションを変更(またはキャンセル)することができます。
- **「詳細」**：このダイアログには、カテゴリ、セキュリティ ID、ダウンロード・サイズ、ソース、重要度、および日付などの Fixlet/タスクのプロパティが含まれています。また、関連式とアクションの背後にあるコードもリストされます。このダイアログの下部に、この項目に付加しておくコメントを入力できるテキスト・ボックスがあります。
- **「適用可能なコンピューター」**：これは、選択した Fixlet またはタスクの対象となっているすべてのコンピューターのフィルター/リストです。左のフォルダーから項目を選択してリストをフィルタリングし、列ヘッダーをクリックしてリストをソートすることができます。

- 「**アクション履歴**」：これは、この Fixlet またはタスクから適用されたすべてのアクションのフィルター/リストです。新規の項目の場合は、リスト内にアクションはありません。コンソール内の他のフィルター/リストと同様に、左のパネルを使用してアクションをフィルタリングし、右のリストの上にある列ヘッダーをクリックしてアクションをソートすることができます。

## Fixlet とタスクのモニター

Fixlet またはタスクがネットワーク内のどこかで関連状態になると、BigFixは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーの「**Fixlet とタスク**」アイコンの下の使用可能なリストにその Fixlet またはタスクを追加します。アイコンを開いてその下のサブカテゴリーをクリックすることによって、このリストをフィルタリングできます。各アイコンはデータ・グループを表します。データ・グループを使用して右のリスト・パネルに表示する項目を絞り込むことができます。その後、リスト表示領域で列ヘッダーをクリックして、項目をソートできます。

リスト・ヘッダーには以下の情報が含まれています。

- 「**名前**」：作成者が Fixlet メッセージに割り当てた名前。
- 「**ID**」：作成者が Fixlet メッセージに割り当てた数値 ID。
- 「**ソースの重要度**」：Fixlet メッセージの重要度を示すための指標で、Fixlet 作成者が割り当てます。代表的な値は、「きわめて重要」、「重要」、「中」、「低」です。
- 「**サイト**」：関連する Fixlet メッセージを生成しているサイトの名前。
- 「**適用可能なコンピューターの数**」：現在 Fixlet メッセージの影響を受ける、ネットワーク内のBigFixクライアントの数。
- 「**オープンなアクション数**」：当該の Fixlet メッセージに対して開かれている個別アクションの数。
- 「**カテゴリー**」：Fixlet メッセージのタイプ (セキュリティー・パッチまたは更新など)。
- 「**ロックを解除されたコンピューターの数**」：この Fixlet の影響を受ける、ロックを解除されたコンピューターの数。
- 「**ダウンロード・サイズ**」：このアクションでダウンロードされる修正ファイルまたはパッチのサイズ。

- **ソース:** Fixlet 情報を提供したソース企業の名前。
- **「ソース ID」:** Fixlet を元のソースに関連付けるために Fixlet に割り当てられた識別番号。
- **「ソース公開日」:** この Fixlet メッセージがリリースされた日付。

例えば、「ソースの重要度」フォルダーを開き、「重要」を選択して緊急度の低い Fixlet メッセージを除去することによって、Fixlet リストをフィルタリングすることができます。

Name	Source Severity	Applicable Co...	Open Action C...	Ci
Adobe Flash Player Required - BES Console	Important	1 / 7	0	Su
BES Clients using Main BES Server instead ...	Important	1 / 7	0	Su
BES Clients using Main BES Server instead ...	Important	1 / 7	0	Su
Missing Office Web Components - BES Co...	Important	3 / 7	0	Su
MS08-047: Vulnerability in IPsec Policy Pro...	Important	1 / 2	0	Se
MS08-049: Vulnerabilities in Event System ...	Important	1 / 2	0	Se
MS08-052: Vulnerabilities in GDI+ Could All...	Important	1 / 2	0	Se
MS08-067: Vulnerability in Server Service C...	Important	1 / 2	0	Se

Fixlet: Adobe Flash Player Required - BES Console

Take Action | Edit | Copy | Export | Hide Locally | Hide Globally | Remove

Description | Details | Applicable Computers (1) | Action History (1)

**Description**

Adobe Flash Player 9 or greater needs to be installed for Internet Explorer to use many dashboards and wizards in the BES Console.

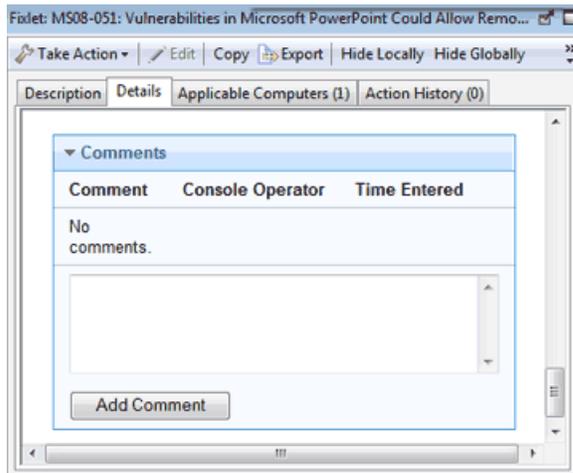
**Note:** Starting with Internet Explorer 10, Adobe Flash Player is a built-in add-on.

次に、「適用可能なコンピューターの数」(影響を受けるコンピューターの数が表示されます)で Fixlet メッセージをソートして、どの Fixlet メッセージが最も多くのコンピューターに関連しているのかを調べることができます。上にリストされている列のいずれかが表示されない場合は、Fixlet ヘッダーを右クリックして、ポップアップ・メニューから列を選択してください。

## Fixlet とタスクについてのコメント

Fixlet またはタスクに、他のオペレーターが読むことのできるコメントを添付できます。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**Fixlet とタスク**」を選択します。
2. 右側のリスト・パネルで Fixlet またはタスクをクリックして選択します。
3. その下の文書パネルで、「**詳細**」タブを選択し、下部までスクロールします。



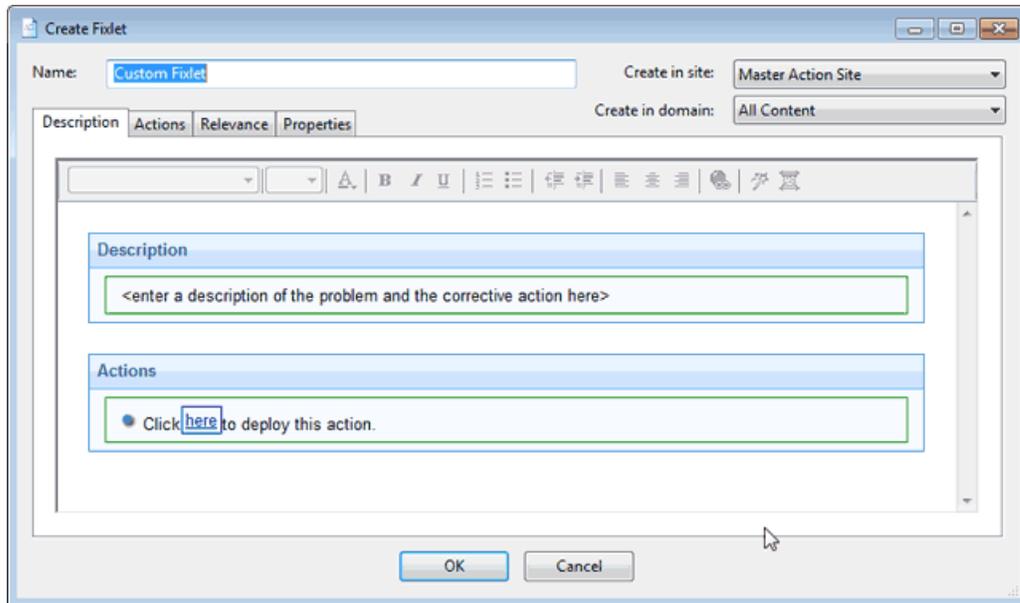
4. テキスト・ボックスにコメントを入力し、「**コメントの追加**」ボタンをクリックします。

入力したコメントには、そのコメントを見る他のオペレーター向けに、入力者の名前と時刻がスタンプされます。Fixlet とタスクに加えて、アクション、コンピューター、および分析にもコメントを添付することができます。

## Fixlet とタスクの作成またはカスタマイズ

独自のカスタム Fixlet メッセージまたはタスク・メッセージを最初から作成するには、以下の手順に従います。

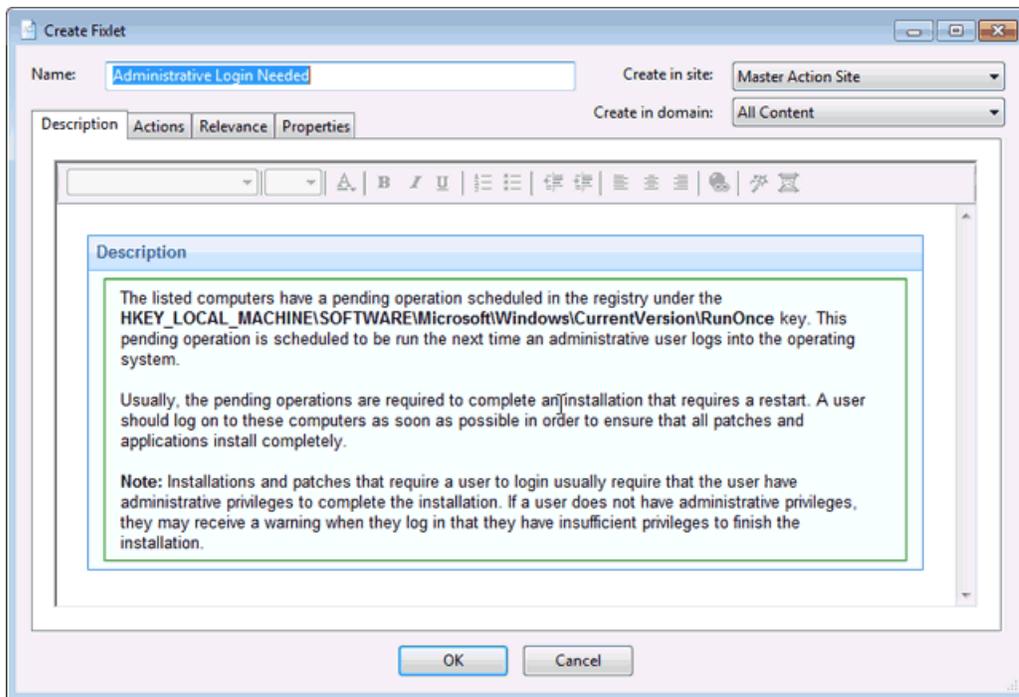
1. 「**ツール**」 > 「**Fixlet の新規作成**」または「**タスクの新規作成**」を選択します。入力フィールドが空白になっている作成ダイアログが開きます。



**注:** ダイアログから正しくない文字を削除するには、ウィンドウを右クリックして「エンコード」を選択し、適切な言語を選択します。ウィンドウを閉じてから再度開いてください。

**注:** Fixlet 名またはタスク名の最大長は 255 文字です。

Fixlet またはタスクをカスタマイズすることが必要な場合もあります。その場合は、既存の Fixlet またはタスクを複製して変更します。これを行うには、まずリスト・パネルで目的の Fixlet またはタスクを選択し、「編集」>「カスタム・コピーの作成」を選択します (または項目を右クリックして、コンテキスト・メニューから「カスタム・コピーの作成」を選択します)。対応する作成ダイアログが開きますが、今回は元のコンテンツが既に入力されています。

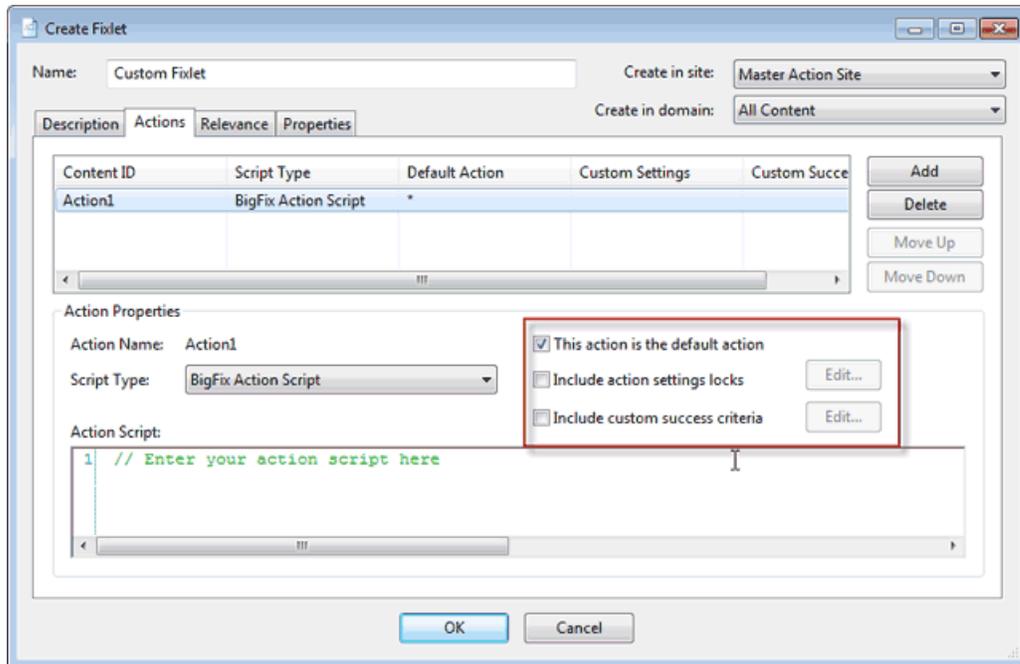


いずれの場合も、作成ダイアログには同じオプションが表示されます。左上のテキスト・ボックスに、カスタマイズしたメッセージの名前を入力します。この名前は、Fixlet またはタスクが表示される際のタイトルになります。この名前はソートとフィルタリングに使用できるため、コンテンツが管理しやすくなるように、一貫性のある命名規則を作成してください。

2. 右上のドロップダウン・メニューから、ホスト先となる**サイト**と**ドメイン**を選択します。

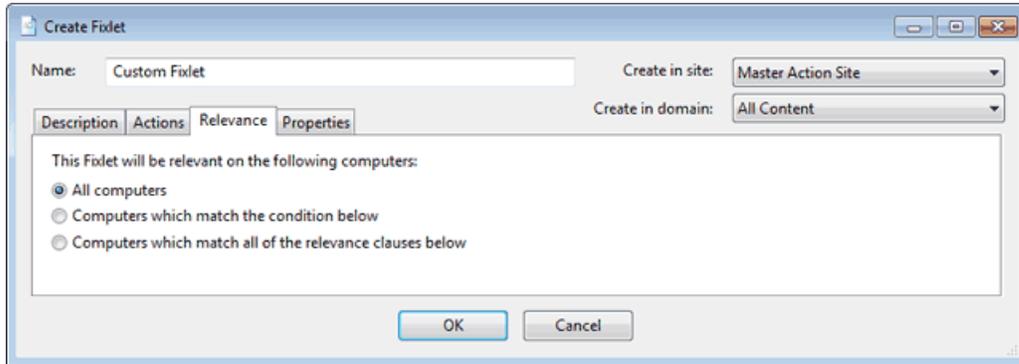
次に、各タブを順にクリックして Fixlet とタスクをさらに定義します。

3. **説明:** このボックスに説明テキストを入力します。ダイアログ上部のテキスト操作ツールバーを使用して、フォーマットを拡張できます。
4. **「アクション」:** このダイアログでアクションを定義します。右側にあるボタンを使用して、アクションの追加、削除、または位置の変更を行います。その下のエリアでは、アクションのプロパティをカスタマイズします。ドロップダウン・メニューから**「スクリプト・タイプ」**を選択します。その下のテキスト・ボックスでは、新しいアクション・スクリプトを入力したり、元のアクション・スクリプトを変更したりすることができます。

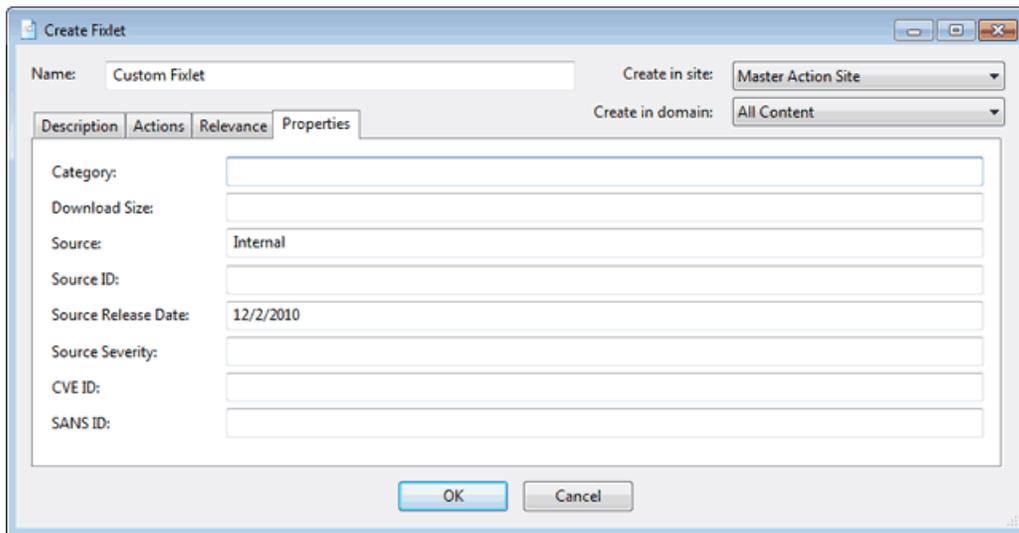


以下の3つのチェック・ボックスは、アクションを変更するために使用できます。

- 「このアクションをデフォルトにする」：このボックスでデフォルト・アクションを作成します。
  - 「アクション設定ロックを含める」：アクション設定ロック (開始時刻、終了時刻、除外日など) をカスタマイズする場合は、このチェック・ボックスの右側にある「編集」をクリックします。このパネルには、障害および再適用の動作も含まれています。
  - 「カスタム成功条件を含める」：アクションの成功を定義する条件を指定できます。
5. 「関連度」：以下のダイアログでは、デフォルトである「すべてのコンピューター」への適用をそのまま使用するか、別のボタンをクリックして条件または関連文を入力します。これは、関連するコンピューターを Fixlet またはタスクのターゲットとして含めるための方法です。関連言語について詳しくは、「#####・#####」を参照してください。



6. 「プロパティ」: Fixlet またはタスクのプロパティ (カテゴリー、ダウンロード・サイズ、日付、重要度など) を設定します。SANS (SysAdmin、Audit (監査)、Network (ネットワーク)、Security (セキュリティ)) または CVE (Common Vulnerabilities and Exposures (共通脆弱性と暴露)) の ID 番号を追加することもできます。

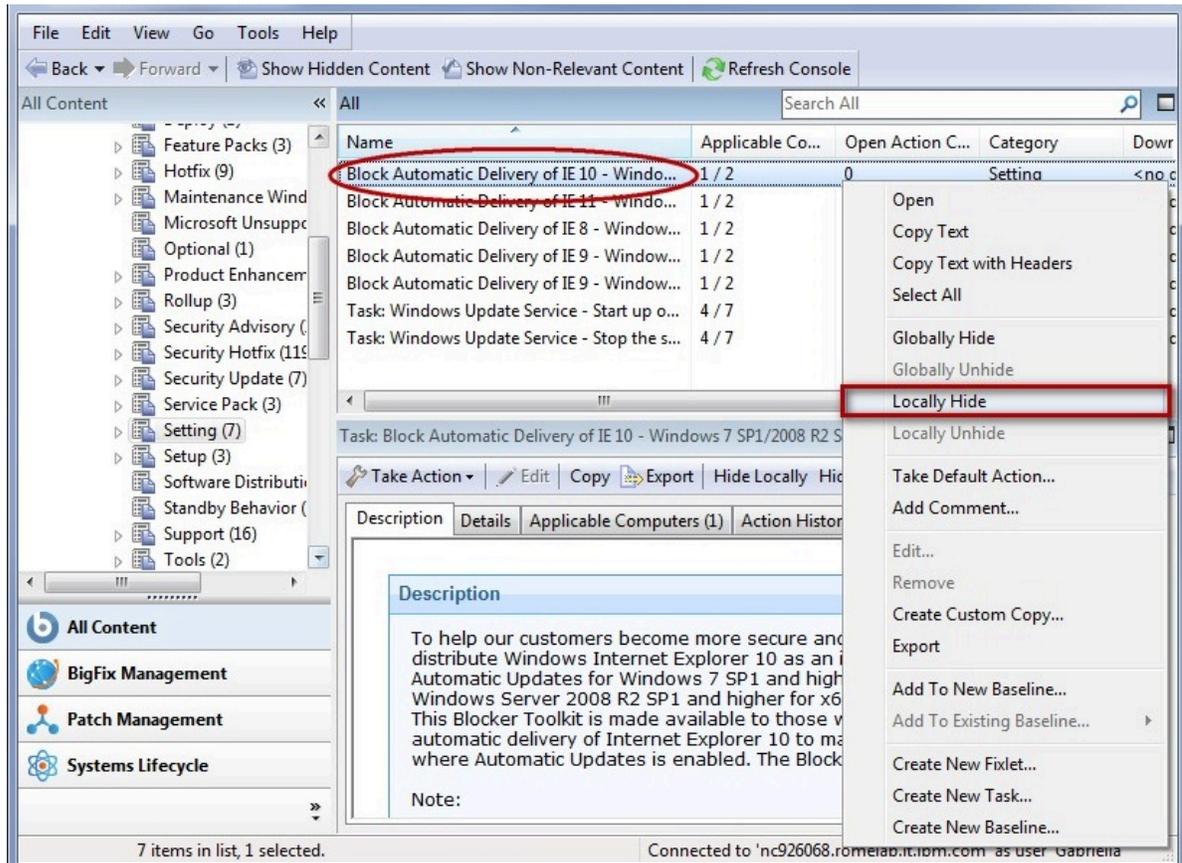


7. 定義が完了したら、「OK」をクリックします。Fixlet またはタスクは伝達する必要があるため、秘密鍵のパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。パスワードを入力して「OK」をクリックするとすべてのクライアントに送信され、各クライアントで関連度が評価され、そのステータスが折り返し報告されます。これで、新しいコンテンツの適用状況をコンソールからリアルタイムで追跡できるようになります。

## Fixlet とタスクを非表示にする

Fixlet またはタスクは、以下の手順で非表示にすることができます。

1. 任意の Fixlet リスト・パネルまたはタスク・リスト・パネルから、非表示にするメッセージを選択します。
2. 目的の項目を右クリックし、ポップアップ・メニューから「全体で非表示」または「ローカルで非表示」を選択します (または「編集」>「非表示」>「全体で非表示」または「ローカルで非表示」を選択します)。



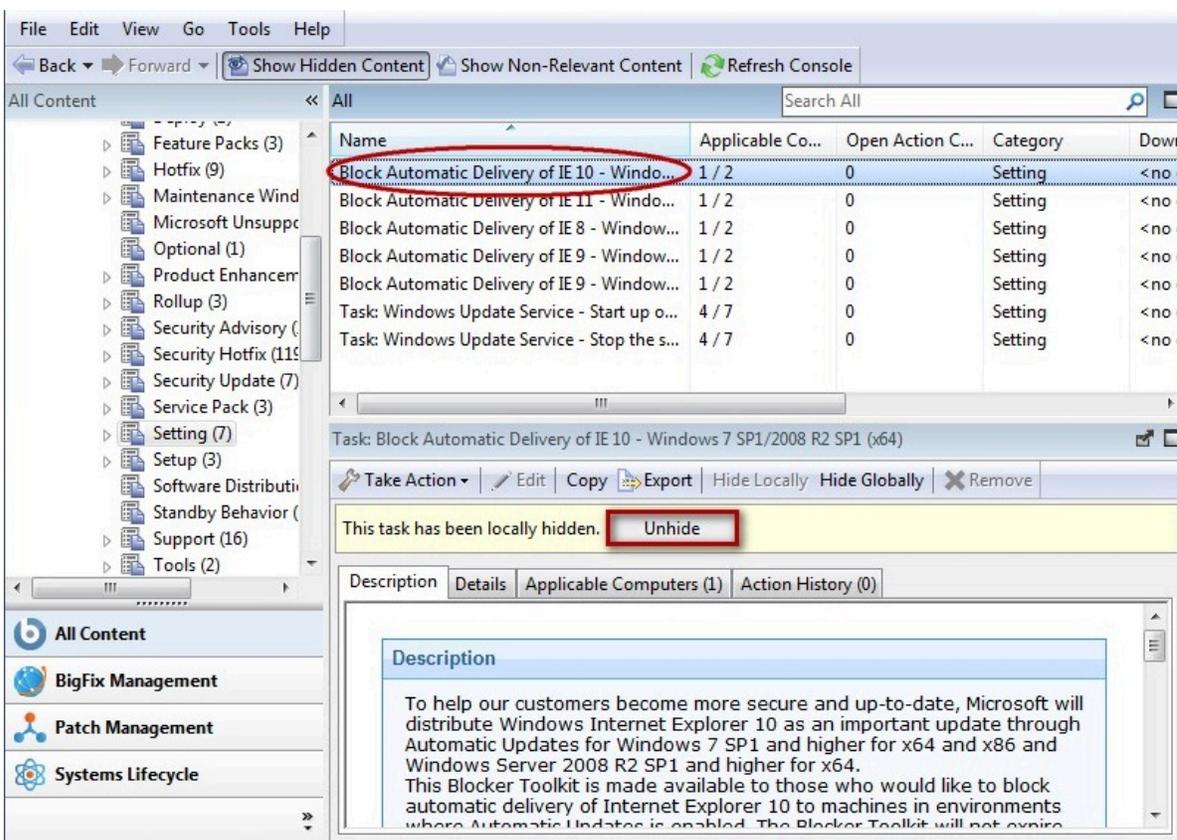
選択した Fixlet またはタスクがリストに表示されなくなります。項目をローカルで非表示にした場合、他のコンソール・ユーザーにはその項目が引き続き表示されます。マスター・オペレーターは、Fixlet またはタスクを全体で非表示にして、マスター以外のすべてのユーザーに対してもその項目を非表示にすることができます。

非表示にした Fixlet またはタスクは引き続き使用可能であり、いつでも復元または「再表示」できます。その方法を以下に示します。

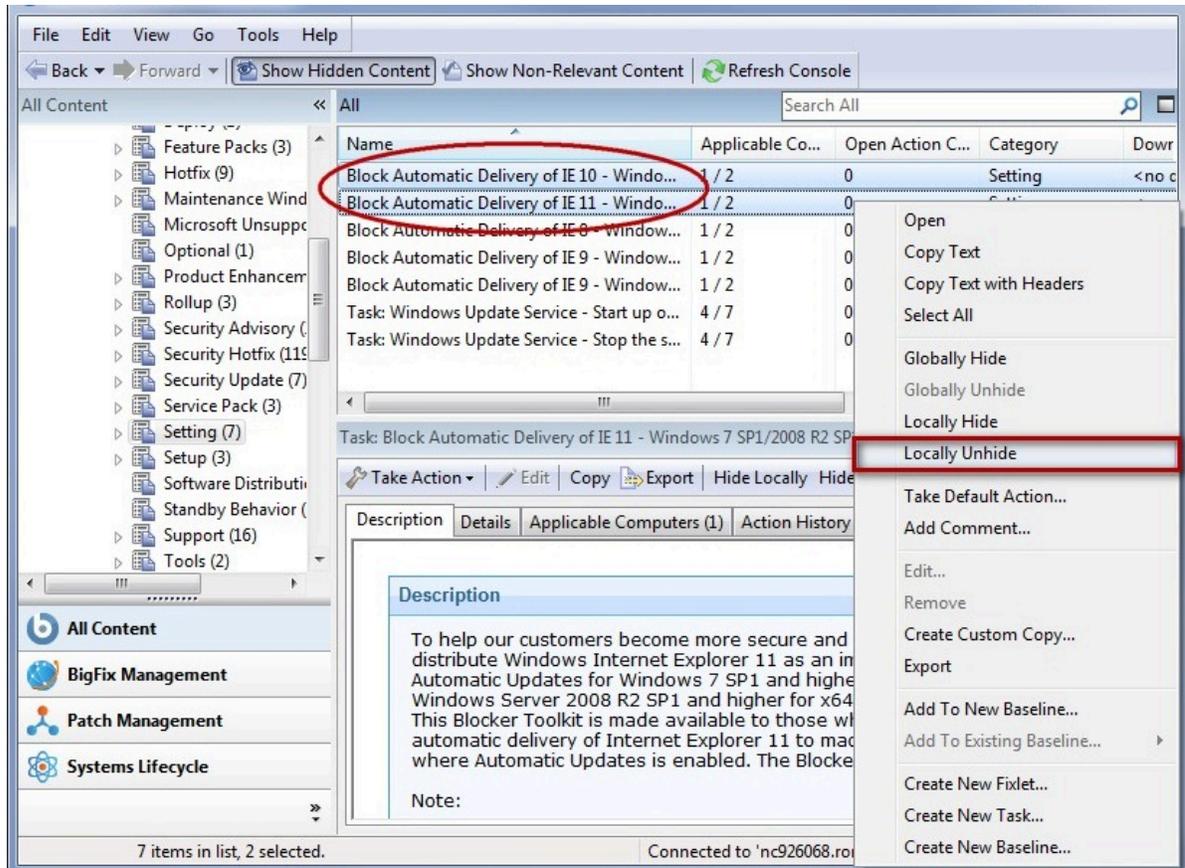
1. コンソール・ツールバーで、「非表示コンテンツを表示」ボタンをクリックします。このボタンを選択すると、非表示のコンテンツを含むすべてのコンテンツがリストに表示されます。



2. リスト内の Fixlet またはタスクを個別にクリックして再表示することができます。結果として表示される作業域には、「再表示」ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、項目が通常の状態に戻ります。



3. 複数の Fixlet またはタスクを再表示することができます。そのためには、対象の項目を選択し、そのグループを右クリックしてコンテキスト・メニューから「再表示」を選択するか、複数の項目を選択し、「編集」>「非表示」>「グローバルに再表示」または「ローカルで再表示」を選択します。



Fixlet またはタスクは単に無視すればよいので、一般には非表示にする必要はありません。これらを非表示にする重要な理由の 1 つとして、独自のポリシーを優先しなければならない場合が挙げられます。例えば、Fixlet メッセージが特定のセキュリティー更新のインストールを推奨している場合に、その更新をご使用のネットワークに適用してはならない理由があるとします。この場合、この Fixlet を非表示にするとユーザー・インターフェースにその Fixlet が表示されなくなり、他のコンテンツに集中できます。一般のオペレーターが適用してはならない Fixlet とタスクを、マスター・オペレーターが非表示にする場合もあります。

## 関連式の表示

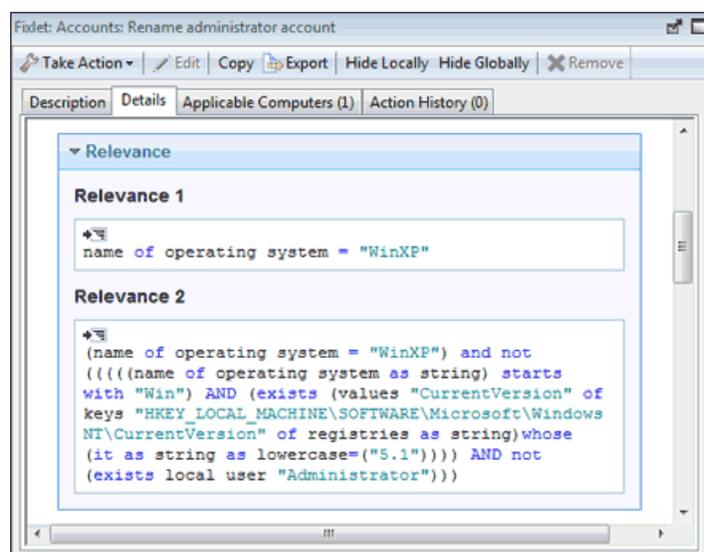
Fixlet メッセージがネットワーク内のコンピューターに関連付けられた場合、そのメッセージを起動した正確な原因と、どのような推奨アクションがあるかを把握することをお勧めします。これを調べるのは簡単です。なぜなら、これらの事項は Relevance Language (コ

ンピューターに対する探索や処理をするための、人間が読める言語) で書かれているからです。

関連式を表示するには、以下のようにします。

1. 「Fixlet の一覧」 パネルから Fixlet メッセージをクリックして、下の作業域に詳細な Fixlet 文書を開きます。
2. 「詳細」 タブを選択します。

これで、各種プロパティをリストしたページが開き、その下に以下のような、**関連句**と **アクション・スクリプト** をリストしたページが開きます。



このウィンドウには、コンピューターを調べる方法と、これが関連としてトリガーされた理由が示されます。通常は、複数の関連句があり、それらがすべて一緒に AND 処理されて、特定のBigFixクライアントが影響を受けるかどうか判別されます。

「**アクション・スクリプト**」を表示するには、ビューにスクロールダウンします。

## 関連度の概要

コンピューターのさまざまな側面を迅速かつ非侵略的に検査するために、**Relevance Language** が作成されました。この人間が判読できる言語は、本製品の中心的な存在であり、Fixlet の作成者はこの言語を使用して、修正が必要なコンピューターのみ (他のものは

含まない) をアクションの対象にすることができます。不具合のあるマシンのみを確実に修正することができます。

Relevance Language では、コンピューターのプロパティを余すところなく迅速に照会することができます。ほとんどのコンソール・オペレーターは Fixlet メッセージの作成を他のユーザーに任せているため、Relevance Language を使用しなくてもコンソールの操作に影響することはありません。ただし、パワー・ユーザーであれば、Relevance Language で作成した短いコードの行 (「関連式」と呼ばれます) を使用してコンソールをカスタマイズできます。これにより、ネットワーク上の BigFix クライアント・コンピューターを非常にきめ細かく制御できます。

典型的な関連式を以下に示します。

### vendor name of processor

この式は CPU の製造元の名前 (Intel や AMD など) を返します。この名前を使用して関連度を判別することができます。

関連式を使用して取得プロパティを作成し、作成した取得プロパティを使用してネットワーク内のクライアントを編成してフィルタリングすることができます。例えば、BigFix クライアント・コンピューターの情報を得るために役立つと思われるプロパティを以下に挙げます。

表 1. BigFix クライアント・コンピューターのプロパティ

プロパティ名	関連式	結果
Pentium	Pentiumを含むメインプロセッサのファミリー名	プロセッサが Pentium である場合は true。
小さなドライブ (Small drive)	「C:」ドライブの総スペース < 2000000000	ドライブが 2 GB より小さい場合は true。
時計が不正 (Bad clock)	絶対値 (現在時 - 見かけの登録サーバー時間) > 1 時間	時計が 1 時間以上停止している場合は true。
IE バージョン	レジストリー内「iexplore.exe」アプリケーションのファイル・バージョン	Windows コンピューターでの Internet Explorer のバージョン番号。

プロパティ名	関連式	結果
Mailto App	レジストリー内のキー 「HKEY_CLASSES_ROOT \mailto」の適用	Windows コンピューターで、ブラウザーからの Mailto 要求を処理するアプリケーションの名前。
Word 実行中 (小文字での)	名称が 「winword.exe」の実行中のアプリケーションが存在する	Windows BigFix クライアント・コンピューターで Word が稼働している場合は true。
Bios 日付	Bios の日付	Windows コンピューター上の BIOS 日付 (存在する場合)。
プロセッサ	プロセッサの数	BigFix クライアント・コンピューター内のプロセッサの数を返します。

上記のカスタム・プロパティがどのように機能するかを確認するには、「**プロパティの管理**」ダイアログを使用します。「**新規追加**」ボタンをクリックしてプロパティ名を入力し、テキスト・ボックスに関連式を入力します。

有用な取得プロパティの数は非常に多いため、ここにすべてを挙げることはできません。取得プロパティを幅広く掲載したリストについては、サポート Web サイトを参照してください。関連度について詳しくは、「**Relevance Language リファレンス**」を参照してください。

## 第 3 章. アクション

アクションとは、選択したターゲットに対して実行されるスクリプトです。アクションは、ポリシー違反および機密漏れの修正や、構成ステップの実行のために使用されます。Fixlet、タスク、およびベースラインの修復作業は、アクションによって実行されます。

アクションは、アクションの実行コマンドを使用して、コンソール・オペレーターによってトリガーされます。アクションは単独で実行することも、Fixlet、タスク、またはベースラインの一部として実行することもできます。

アクションは、アクション言語という専用言語を使用して記述されます。詳しくは、[BigFixDeveloper](#) サイトを参照してください。

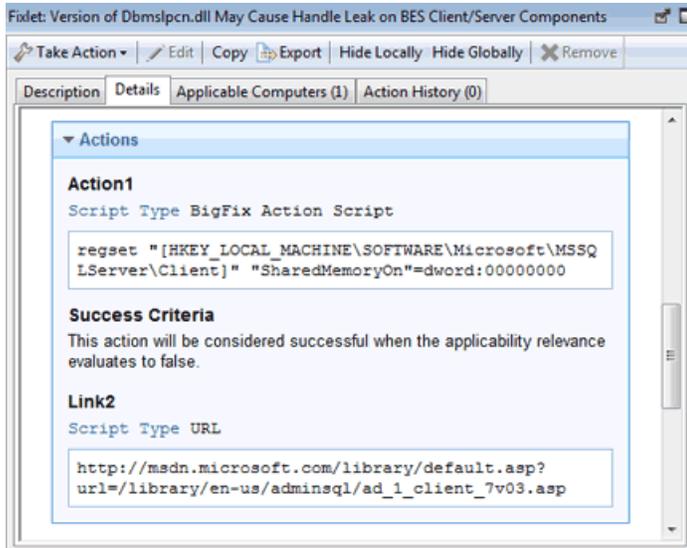
アクションを Relevance 式と組み合わせて使用して、特定の BigFix クライアントの特定のソリューションをカスタマイズすることができます。

アクションには以下の 2 つのタイプがあります。

### デフォルト・アクション

これらのアクションは Fixlet およびタスクの作成段階にオプションで組み込まれます。これらは Fixlet またはタスクの適用時に、該当するターゲットに対して自動的に実行されます。

Fixlet メッセージまたはタスクの「詳細」タブで、デフォルト・アクションについての情報を表示できます (デフォルト・アクションが定義されている場合)。



関連する Fixlet またはタスクをデプロイするには、「アクションの実行」コマンドを実行する必要があります。アクションの実行コマンドの実行時に、その場でまだアクションをカスタマイズすることができます。同時に実行依頼する Fixlet の数が 1 つか複数かに応じて、以下の方法を使用することができます。

- [Fixlet またはタスクの適用の一部としてのデフォルト・アクションの実行 \(##### 33\)](#)
- [マルチアクションの実行 \(##### 34\)](#)

## カスタム・アクション

これらのアクションは、デフォルト・アクションではカバーされない問題を修正したり、事態に対処したりする場合や、または使用している環境に特化したアクションのカスタマイズを行うために使用されます。カスタム・アクションはデフォルト・アクションより優先されます。カスタムアクションを作成し、実行依頼するには、[カスタム・アクションの実行 \(##### 36\)](#) コマンドを実行する必要があります。

**⚠ 警告:** アクションを自動的に取り消すことはできません。この機能が必要な場合は、該当のアクション内にコーディングする必要があります。

BigFix コンソールからアクションに対して実行できるアクティビティを以下に示します。

## アクションの実行

BigFix の核となっているのは、アクションを実行して、コンピューターにポリシーまたはフィックスを適用する機能です。このトピックでは、その方法について説明します。

アクションを実行するには、以下の複数の方法があります。

- [Fixlet またはタスクの適用の一部としてのデフォルト・アクションの実行 \(##### 33\)](#)
- [マルチアクションの実行 \(##### 305\)](#)
- [カスタム・アクションの実行 \(##### 36\)](#)

選択したアクションの実行方法にかかわらず、「OK」をクリックしてアクションを実行すると、以下のようになります。

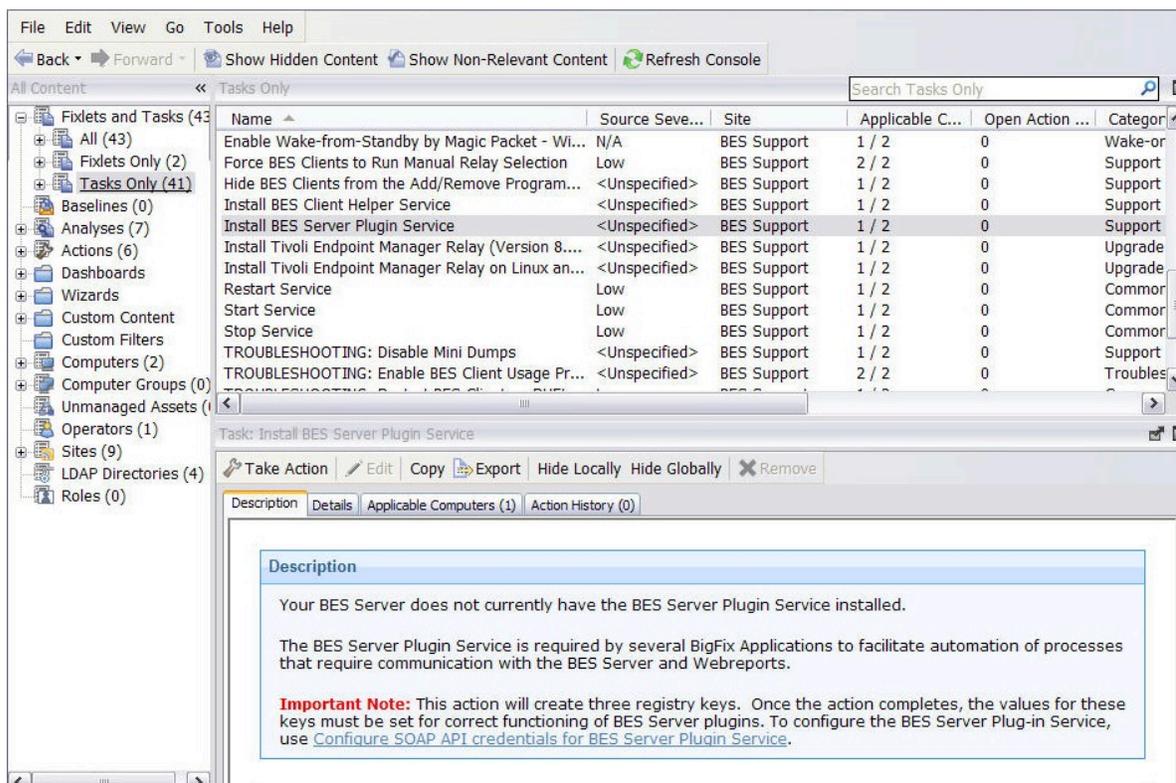
1. コンソールが、要求をサーバーに送信します。
2. サーバーは、アクションを発行したコンソール・オペレーターに関連付けられた *op site* フォルダー (アクションがマスター・オペレーターによって発行された場合は *actionsite* フォルダー) にアクションを格納します。
3. サーバーが、アクションの「ターゲット」タブで選択されたコンピューター、またはアクションを発行したオペレーターによって管理されるすべてのコンピューターに、アクションを伝搬します。
4. それらのコンピューターで、アクションの適用条件が評価されます。アクションに記述された Relevance 式が true に評価された場合、アクションは適用可能です。
5. アクションがコンピューターに適用可能な場合、そのアクションがサーバー・フォルダーからコンピューターに取り込まれ、実行されます。

コンピューターが「コンピューター」タブに追加され、そのコンピューターで実行されているアクションのステータスが、アクションが完了するまで更新されます。

## Fixlet またはタスクの適用の一部としてのデフォルト・アクションの実行

Fixlet またはタスクを、その Fixlet またはタスクに含まれるアクションを実行することによって適用します。その方法については、このトピックに記載された指示に従ってください。

1. 該当する Fixlet またはタスクをクリックすると、選択したオブジェクトの内容が、下の作業域に表示されます。



2. Fixlet またはタスクに関連付けられたアクションは、以下のいずれかの方法で実行できます。

- 関連する Fixlet またはタスクを右クリックし、ポップアップ・メニューから「デフォルト・アクションの実行」を選択します。
- 関連する Fixlet またはタスクをクリックし、「作業域」ツールバーで「デフォルト・アクションの実行」を選択します。
- 関連する Fixlet またはタスクをクリックし、「説明」タブを選択します。スクロールダウンして推奨アクションを確認します。実行するアクションに関連するリンクをクリックします。

**注:** これらのオプションが使用可能なのは、選択した Fixlet またはタスクにデフォルト・アクションが含まれている場合のみです。

「アクションの実行」ダイアログが開きます。

The screenshot shows the 'Take Action' dialog box with the following settings:

- Name:** Install BES Server Plugin Service
- Create in domain:** All Content
- Preset:** Default
- Execution Tab:** Selected
- Constraints:**
  - Starts on: 08/07/2013 at 21:58:28 client local time
  - Ends on: 10/07/2013 at 21:58:28 client local time
  - Run between: 1.00.00 and 2.59.00 client local time
  - Run only on: Sun, Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat client local time
  - Run only when: Active Directory Path matches
- Behavior:**
  - On failure, retry: 3 times
    - Wait: 1 hour between attempts
    - Wait until computer has rebooted
  - Reapply this action:
    - whenever it becomes relevant again
    - while relevant, waiting: 15 minutes between reapplications
  - Limit to: 3 reapplications
  - Start client downloads before constraints are satisfied
  - Stagger action start times over: 5 minutes to reduce network load

- このダイアログで、アクションの値を確認し、必要に応じて更新できます。このダイアログの入力フィールドおよびタブで設定できる値について詳しくは、[アクションの実行 \(##### 301\)](#)を参照してください。
- 編集が終了したら、「**OK**」をクリックしてアクションを適用します。
- 認証パスワードを入力し、「**OK**」をクリックします。

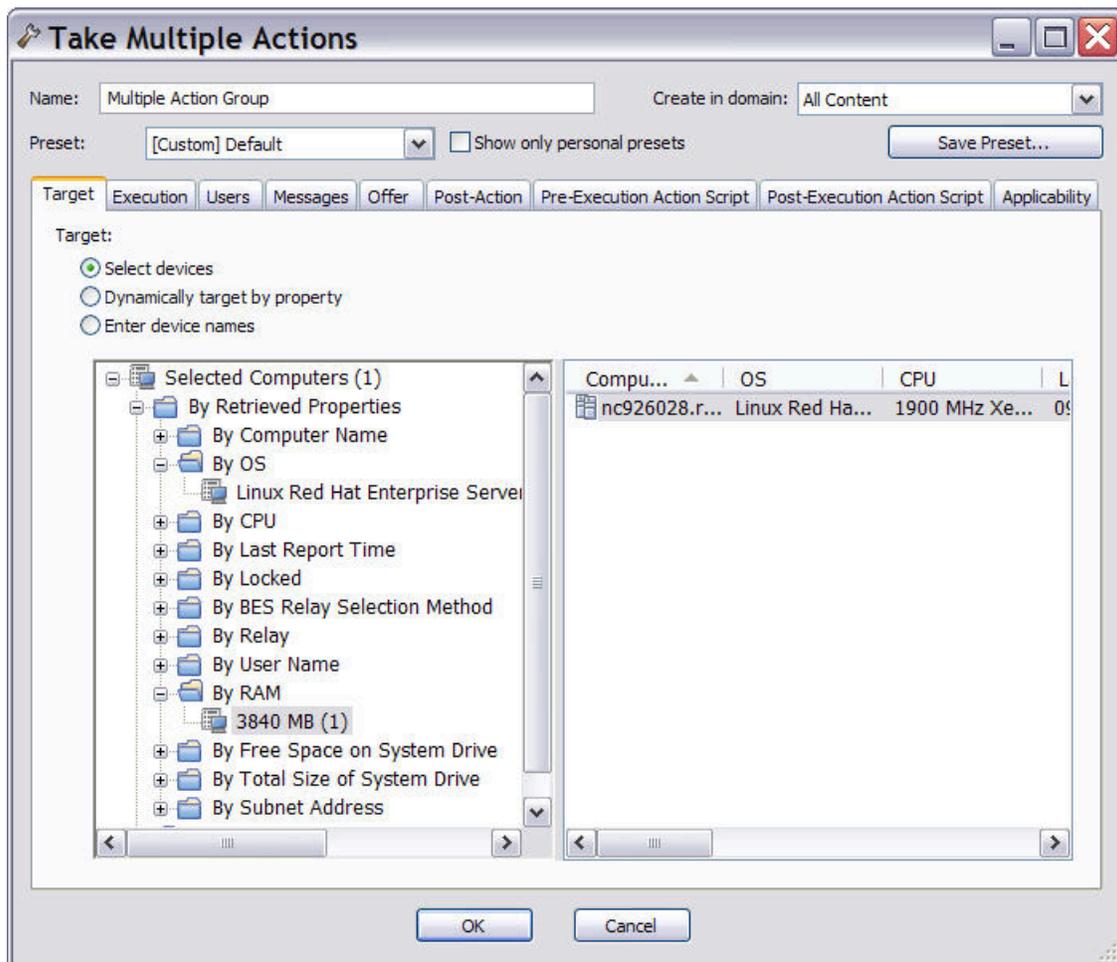
## マルチアクションの実行

このトピックでは、「**マルチアクションの実行**」コマンドを使用して、Fixlet またはタスクのセットを単一のグループで適用する方法について説明します。

グループに含めるそれぞれの Fixlet またはタスクには、デフォルト・アクションが関連付けられていることが必要です。

このタスクの実行方法は以下のとおりです。

1. デフォルト・アクションを含むタスクまたは Fixlet の選択したグループを右クリックします。
2. 「デフォルト・アクションの実行」を選択します。「マルチアクションの実行」ダイアログが開きます。



3. このダイアログで、選択したアクションが、ネットワーク内のコンピューターにどのように適用される必要があるかを指定します。このダイアログに含まれる入力フィールドは、[アクションの実行 \(##### 301\)](#)の表示に含まれるものと同じですが、以下の追加フィールドがある点が異なります。

## エラーに関係なく、アクション・グループのメンバー・アクションをすべて実行する

このフィールドは、「実行」タブに属しており、グループの1つ以上のオブジェクトでエラーが発生した場合にアクションの実行を停止するかどうかを指定します。

### 「実行前アクション・スクリプト」タブ

アクションのグループを適用する前に実行するアクション・スクリプトを指定できます。

### 実行後アクション・スクリプト

アクションのグループを適用した後に実行するアクション・スクリプトを指定できます。

4. 編集が終了したら、「OK」をクリックしてアクションを適用します。
5. 認証パスワードを入力し、「OK」をクリックします。進行状況のダイアログが表示され、適用の段階に関する情報が継続的に提供されます。

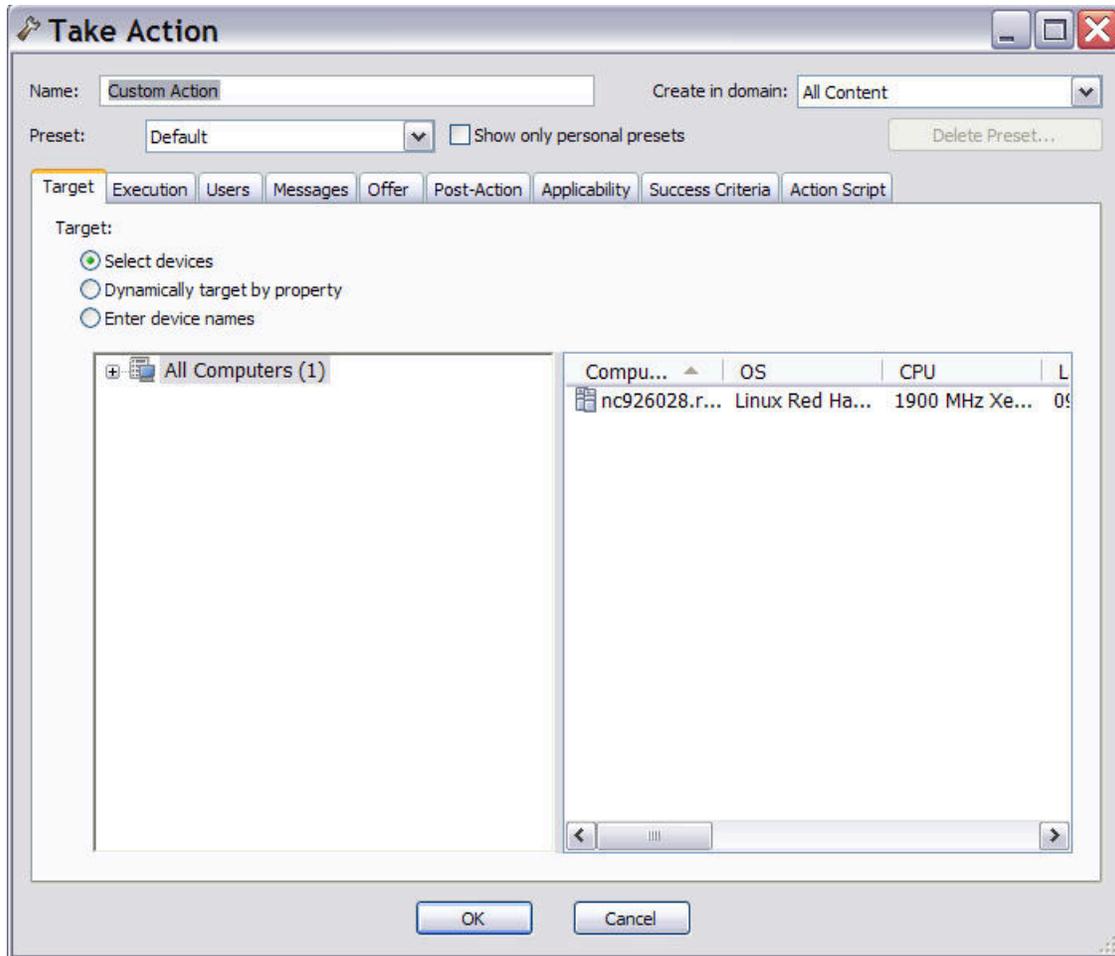
 **注:** Fixlet またはタスクのグループ化と、同じオブジェクトのセットを含むベースラインの作成の違いは、ベースラインに含まれるオブジェクトが順番にバインドされることです。

## カスタム・アクションの実行

このトピックでは、「カスタム・アクションの実行」コマンドを使用して、カスタム・アクションの作成と実行を一度に行う方法について説明します。

このタスクの実行方法は以下のとおりです。

1. カスタム・コンテンツ権限を持つオペレーターとしてコンソールにログオンします。
2. メイン・ツールバーで「ツール」を選択して、「カスタム・アクションの実行」を選択するか、または、アクション・リスト・パネルの項目の1つをマウスで右クリックして、「カスタム・アクションの実行」を選択します。「アクションの実行」ダイアログが開きます。



- 3.
4. [アクションの実行 \(##### 301\)](#)の説明に従って、入力フィールドへの入力を行います。
5. 編集が終了したら、「**OK**」をクリックしてアクションを適用します。
6. 認証パスワードを入力し、「**OK**」をクリックします。

## 実行されたアクションのモニター

このトピックでは、実行されたアクションの適用の進行状況をトラッキングする方法について説明します。

アクションがスケジュール済みになると、BigFix サーバーは、個々のコンピューターに信号を送って待機中のアクションがあることを通知しようとします。BigFix クライアントがすぐにアクション・サイトからアクション情報を収集し、アクションを実行するのが理想

的ですが、しかし通常は、適用時に一部のコンピューターの電源がオフになっていることもあり、モバイル・コンピューターがドックに装着されていないこともあります。このようなコンピューターが電源オンになるかドックに装着されてネットワークに接続すると、直ちにそれらのコンピューターにも修復アクションが同様に適用されます。

BigFix コンソールから、実行されたアクションのステータスを随時確認することができます。以下を行うことができます。

### アクションの全体的な状態をモニターする

これは、アクション・リスト・パネルの「状態」列で確認することができます。

Time Issued	State	% Complete	Name	Site
08/07/2013 13.11.28	Open	100,00% (1/1)	TROUBLESHOOTING: Run BES Client Diagnostics (Linux/UNIX/...	BES Support
04/07/2013 14.19.10	Expired	0,00% (0/1)	RHBA-2011:1114 - Seekwatcher Bug Fix Update - Red Hat Ent...	Patches for RHEL 6
04/07/2013 14.18.30	Expired	0,00% (0/1)	RHSA-2013:0245 - Java-1.6.0-Openjdk Security Update - Red ...	Patches for RHEL 6
04/07/2013 12.59.51	Expired	0,00% (0/1)	TROUBLESHOOTING: Run BES Client Diagnostics (Linux/UNIX/...	BES Support

状態には、以下のものがあります。

#### オープン

アクションは、1つ以上のコンピューターでアクティブです。アクションは、有効期限が過ぎるか、オペレーターによって停止されるまで、オープンのままになります。開いているアクションは削除できません。

#### 停止

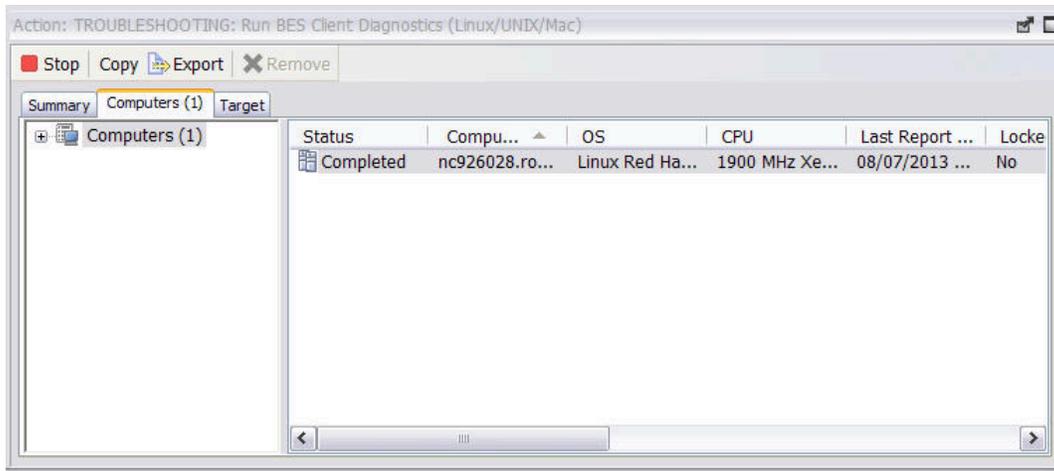
オペレーターがアクションを停止しました。アクションは、有効期限が過ぎるか、削除されるまで、停止のままになります。

#### 有効期限が切れました

アクションは有効期限を過ぎています。アクションが期限切れになると、ターゲットは評価を停止します。したがって、期限切れアクションの場合、ターゲット状況は、期限切れ時にクライアントによって最後に報告されたステータスのスナップショットです。

### 選択されたコンピューター上のアクションのステータスをモニターする

これは、選択されたアクションの「コンピューター」タブで確認できます。



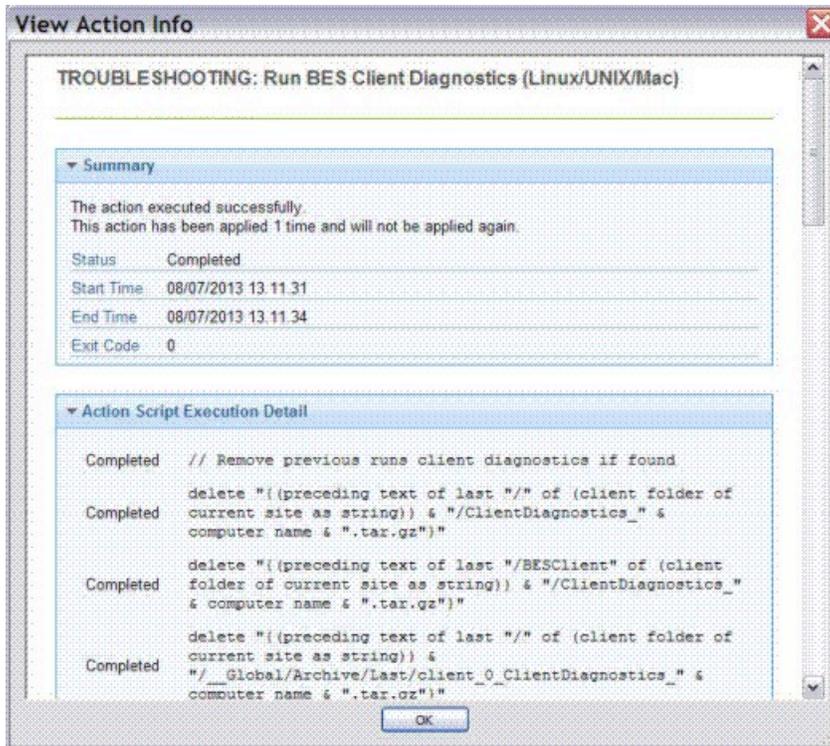
このダイアログにアクセスするには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーション・ツリーで「**アクション**」アイコンをクリックします。
2. アクション・リスト・パネルでアクションを選択します。アクションに関する情報が作業域に表示されます。
3. 作業域で「**コンピューター**」タブを選択します。

各種ステータスについては、[アクション: 「コンピューター」 \(##### 162\)](#)を参照してください。

### コンピューターでのアクションの進行状況をモニターする

特定のコンピューターで実行されたアクションの、各ステップの結果を確認することができます。これは、「**アクション情報の表示**」ダイアログに表示されます。



このダイアログにアクセスするには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーション・ツリーで「アクション」アイコンをクリックします。
2. アクション・リスト・パネルでアクションを選択します。
3. 作業域で「コンピューター」タブを選択します。
4. リストの任意のコンピューターを右クリックします。
5. コンテキスト・メニューから「アクション情報の表示」を選択するか、「編集」メニューから「アクション情報の表示」を選択します。

このパネルの値については、[アクション情報の表示 \(##### 313\)](#)を参照してください。

## アクション実行の詳細の表示

適用中のアクションに関する詳細を表示するには、このトピックで説明されている手順に従います。

この情報を表示するには、以下の手順を実行します。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「アクション」アイコンをクリックします。
2. リスト・パネルでアクションをクリックします。アクションの実行に関する詳細が、下部の作業域に表示されます。

The screenshot shows the BigFix console interface. On the left is a navigation tree with categories like 'Fixlets and Tasks (810)', 'Dashboards', 'Wizards', etc. The main area displays a table of actions. Below the table, the details for the selected action 'Accept License for Software Use Analysis' are shown, including a 'Summary' tab and a 'Reported Computers (1)' section.

Time Issued	State	% Complete	Name	Site
24/07/2013 17.21.56	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Software Use Analysis	Master Operator Site
24/07/2013 17.21.25	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Server Automation	Master Operator Site
24/07/2013 17.21.05	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Security and Compliance	Master Operator Site
24/07/2013 17.20.31	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Power Management	Master Operator Site
24/07/2013 17.20.13	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Patch Management	Master Operator Site
24/07/2013 16.17.08	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Lifecycle Management	Master Operator Site

Below the table, the details for the selected action are shown:

Action: Accept License for Software Use Analysis

Buttons: Stop, Copy, Export, Remove

Summary | Reported Computers (1) | Target

**Status**

100,00% Completed (1 of 1 applicable computers)

Status	Count	Percentage
Completed	1	100,00%

**Behavior**

**Messages**

No user interface will be shown before running this action.  
No message will be shown while running this action.

**Users**

アクション文書には3つのタブがあります。タブは以下のとおりです。

## 概要

このタブにはアクションの概要が表示され、アクションのステータスやダウンロードの進行状況に関するセクションがあります。ここには、以下のようなアクションの動作に関する情報が表示されます。

- ダウンロードの進行状況
- アクション ID
- ユーザー
- 実行オプション
- ポストアクション

- Relevance 句
- アクション・スクリプトのテキスト
- 成功条件

このダイアログの下部には、コメントを入力できるテキスト・ボックスがあります。このコメントは、同じコンテンツ・サイトにアクセスした別のオペレーターが表示することができます。

このタブの内容について詳しくは、[アクション: 概要 \( \(ページ\) 174\)](#)を参照してください。

### 「コンピューター」

ここには、指定したアクションの影響を受けるコンピューターと、各コンピューターにおけるアクションの状態が表示されます。

適用されたアクションは、明確に定義された一連の段階に沿って、個々のコンピューター上で進行します。

このタブに表示される値と、各段階におけるコンピューターに対するアクションのステータスについて詳しくは、[アクション: 「コンピューター」 \( \(ページ\) 162\)](#)を参照してください。

### ターゲット

対象選択方式とアクションの対象とされた元のコンピューター・サブセットを示します。このタブの内容は読み取り専用であり、アクションの実行時に指定された対象選択方式 (リストから明示的に選定されるか、取得プロパティによって間接的に選定されるか) に応じて、静的な場合と動的な場合があります。

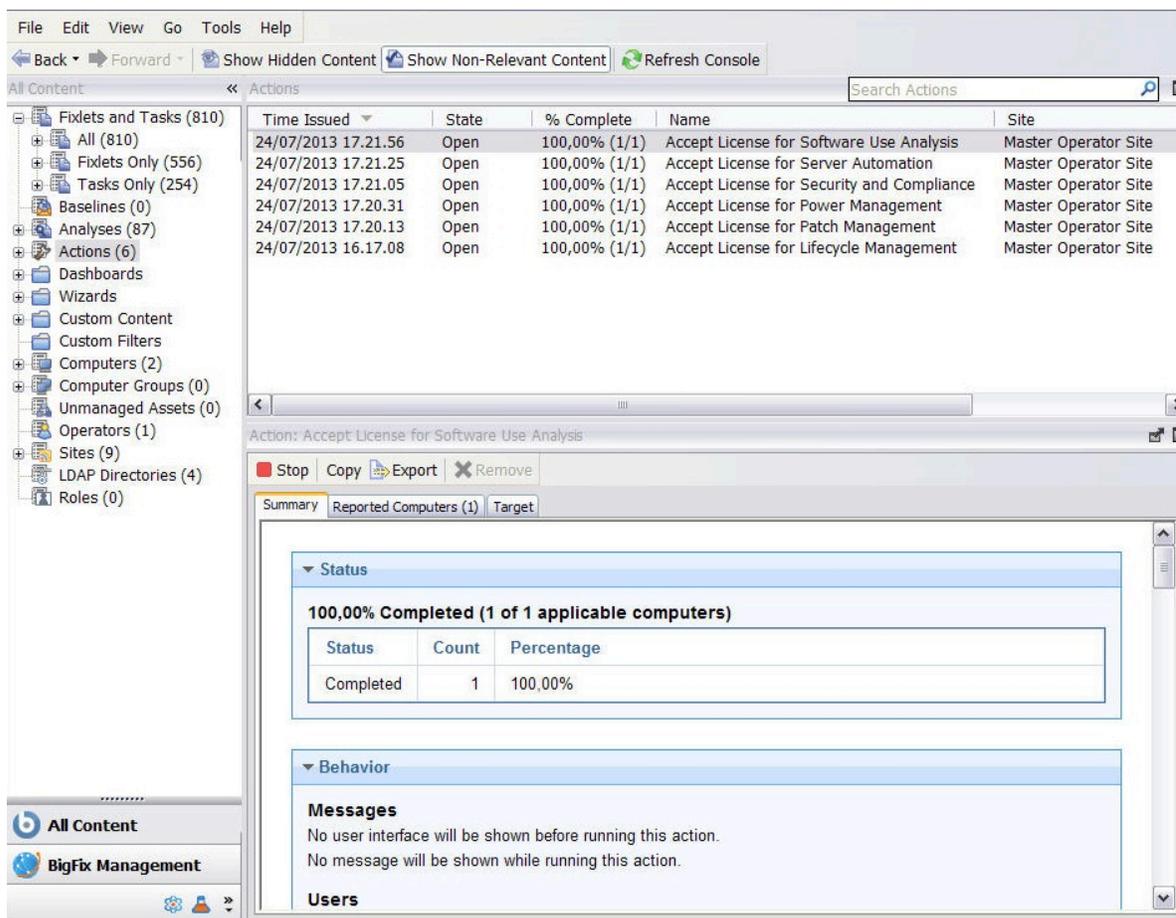
対象選択方式とそれぞれの方式の結果については、[アクション: ターゲット \( \(ページ\) 178\)](#)を参照してください。

## アクションでのコマンドの実行

このトピックでは、アクションで実行できるコマンドと、それらのコマンドの実行方法について説明します。

使用可能なコマンドにアクセスするには、以下の手順に従います。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「アクション」アイコンをクリックします。
2. リスト・パネルでアクションをクリックします。4つのアイコンを持つツールバーが作業域の上部に表示されます。



## 停止

既にトリガーされているが、まだ有効期限が切れていないアクションの適用を停止するには、このボタンをクリックします。

このコマンドは、アクションが既に開始されたコンピューターでの実行を完了し、コンピューターが使用できない、ネットワーク接続がない、収集頻度が不十分であることなどが原因で、アクションの実行がまだ開始されていないコンピューターでアクションが実行されるのを防止します。

または、アクションを右クリックしてプルダウン・メニューから「**アクションの停止**」を選択するか、「**編集**」メニューから「**アクションの停止**」を選択して、アクションを停止することもできます。

 **注:** パスワードを入力して、アクションの停止を確認する必要があります。

 **注:**

BigFix Platform V9.5 Patch 5 から、次の条件が満たされる場合は、マスター以外のオペレーター (NMO) によって送信されたアクションを、マスター以外の他のオペレーターが停止できるようになりました。

- オペレーター定義で、「**他のオペレーターのアクションの表示**」有効な権限と「**他のオペレーターのアクションの停止**」有効な権限の値が両方とも「はい」であること。「**他のオペレーターのアクションの停止**」権限は、オペレーター・レベルと役割レベルの両方で設定できます。
- オペレーターに割り当てられているコンピューター管理権限の役割が、アクションを送信したオペレーターに割り当てられている役割と同一であるか、そのスーパーセットであること。

コンソールに表示される、停止されたアクションの状態の概要の例を次に示します。

Summary		Computers (1)	Target
▼ Details			
ID	00-77		
Domain	All Content		
Type	Single Action		
State	Stopped		
Issued	11/22/2016 9:27:08 AM by nmo2		
Stopped	11/22/2016 11:37:00 AM by nmo3		

## コピー

適用するアクションのコピーをその場で作成するには、このボタンをクリックします。「**アクションの実行**」パネルが開きます。このパネル

で、コピーしたアクションをカスタマイズし、このアクションをトリガーすることができます。

 **注:** 適用を開始した後に、アクションの対象またはスケジューリングを修正する方法はありません。適用済みでまだ実行を完了していないアクションを修正する場合は、上記で説明した方法でまずアクションを停止し、次に、目的の特性を持つ新規アクションを開始する必要があります。

## エクスポート

このアクションのコピーを保存するには、このボタンをクリックします。編集したアクションを後からカスタム・アクションとしてインポートし、実行することができます。

## 削除

データベースからこのアクションを削除するには、このボタンをクリックします。アクションを削除できるのは、アクションが停止されている場合のみです。

現在の状態のアクションに対して実行できないコマンドは、グレーアウトされています。

# コメントの追加

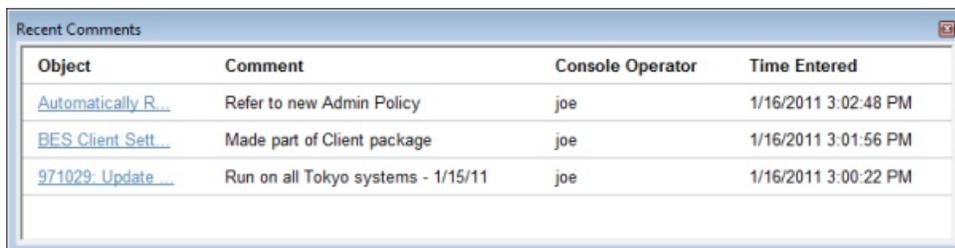
BigFix のコンソール・オペレーターは、ほとんどの BigFix オブジェクトに対してコメントを作成することができます。このトピックでは、コメントをアクションに追加する方法について説明します。

アクションに対するコメントを作成するには、以下の手順に従います。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**アクション**」アイコンをクリックします。
2. アクションを右クリックし、「**コメントの追加**」を選択します。
3. 開いたダイアログ・ボックスにコメントを入力します。

同様に、タスク、Fixlet、コンピューター、および分析に対してコメントを付加できます。これらのコメントには、キーワードまたは操作メモを含めることができます。これはフリー・フォームのフィールドであるため、独自のコメント用の規則を作成することができます。

すべてのコメントが集約されたリストを表示するには、「ツール」メニューから「最近のコメントを表示」を選択します。



Object	Comment	Console Operator	Time Entered
<a href="#">Automatically R...</a>	Refer to new Admin Policy	joe	1/16/2011 3:02:48 PM
<a href="#">BES Client Sett...</a>	Made part of Client package	joe	1/16/2011 3:01:56 PM
<a href="#">971029: Update ...</a>	Run on all Tokyo systems - 1/15/11	joe	1/16/2011 3:00:22 PM

このダイアログには、当日までに作成されたすべてのコメントがタイム・スタンプでソートされてリストされ、最新のコメントが先頭になっています。コメントに責任を持つコンソール・オペレーターの名前は説明の横にリストされます。各コメントに含まれるリンクによって、元のオブジェクトがメイン・ウィンドウに開き、オブジェクトの説明やその他の側面について表示することができます。

## カスタム・アクションを使用した提案の作成

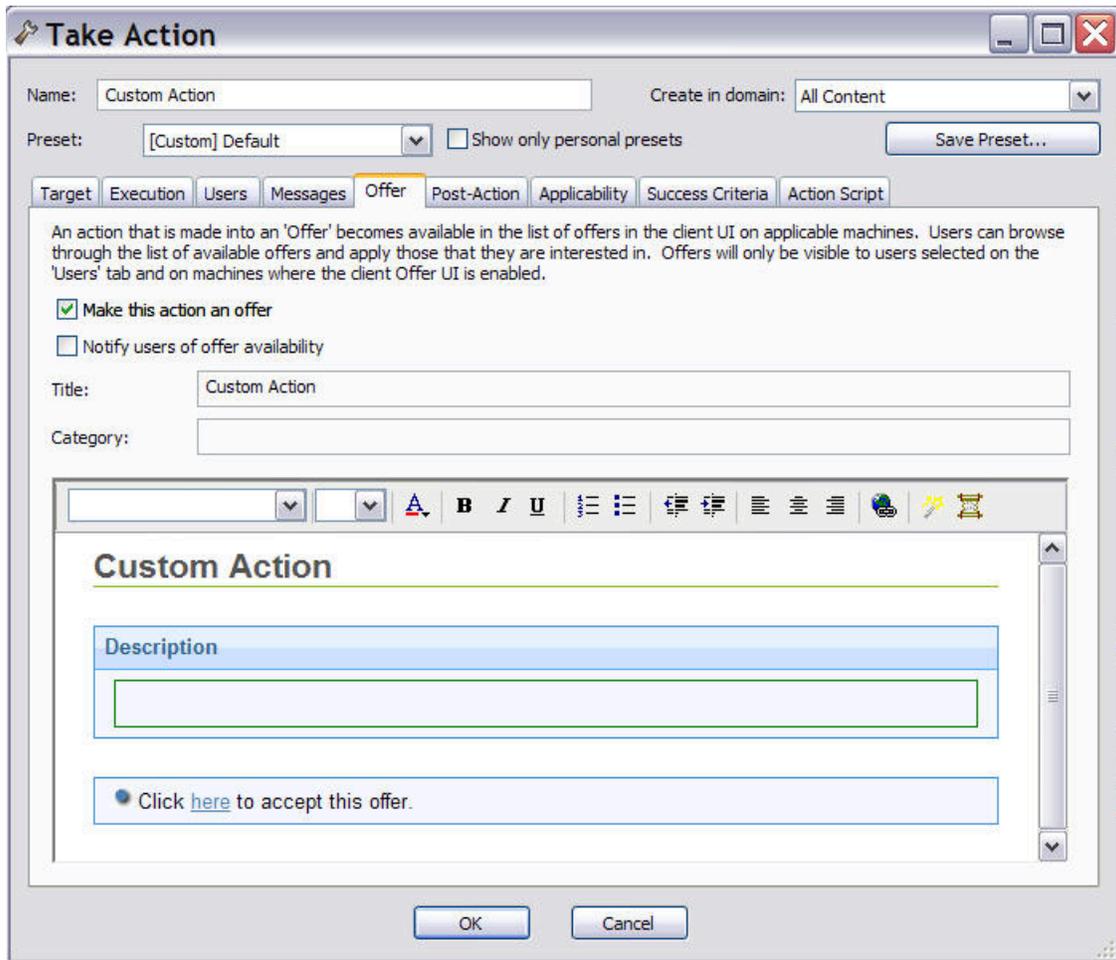
ユーザーに、自分の裁量で選ぶことができるダウンロードのセットを提供する場合は、このトピックの指示に従います。この機能は、セルフプロビジョニングとも呼ばれます。

これらの提案はカスタム・アクションの一種として配信されるため、標準的なアクションから期待される対象選定機能やスケジューリング機能がすべて含まれています。これらの提案は、Windows オペレーティング・システムおよび macOS オペレーティング・システムでのみ使用できます。

**⚠ 重要:** これらのアクションは昇格された許可を使用して実行されます。そのため、この機能を使用して、特権を持たないユーザーが、より高い許可を使用して実行される特別に承認されたアクションをトリガーすることを許可できます。

このような提案を通知するには、以下の手順に従ってください。

1. メイン・ツールバーで、「ツール」を選択します。
2. 「カスタム・アクションの実行」を選択します。「アクションの実行」ダイアログが開きます。
3. 「提案」タブをクリックします。



このダイアログの入力フィールドおよびタブで設定できる値については、[「提案」タブ \(##### 275\)](#) を参照してください。

4. 「アクションの実行」ダイアログのその他のタブをクリックすると、提案を通知するアクションを詳細にカスタマイズすることができます。
5. 提案をデプロイする準備ができたなら、「OK」をクリックします。
6. アクション提案は、対象として明確に指定されたすべてのコンピューターに配信されます。そして、この選択されたユーザー・グループに対して提案が表示され、各自のスケジュールに基づいて提案を受け入れるようプロンプトが出されます。

 **注:** このタブは、[Fixlet またはタスクの適用の一部としてのデフォルト・アクションの実行 \(##### 33\)](#)で説明されているように、デフォルト・アクションを実行する場合にも使用することができます。

# 第 4 章. サイト

## サイトの概要

サイトとは、ユーザー、HCL、または他のベンダーにより内部的に作成される Fixlet メッセージの集合です。サイトをサブスクライブし、Fixlet メッセージの最新バッチをダウンロードするスケジュールに同意します。

サイトのコレクションにナビゲートしてドメイン・パネルで開くことによって、それらのサイトを表示および管理することができます。新規のサイト・サブスクリプションを追加するには、ベンダーまたは HCL からマストヘッド・ファイルを取得します。サイトは通常、セキュリティーや、ソフトウェアまたはハードウェアの特定部分の保守など、単一のトピック専用になっています。ただし、複数のサイトが特性を共有する場合、このようなサイトはグループ化されてドメインになります。ドメインは、さまざまなコンソール管理者の標準的な職務に従って設計されます。例えば、共通オペレーティング環境の修正や保守を担当するユーザーは、さまざまなオペレーティング・システム用のサポート・サイトおよびパッチ・サイトがすべてまとめられてパッチ管理ドメインになっていることに気付くでしょう。

ユーザー独自のカスタム・サイトをセットアップし、使用ネットワークに合わせて特に開発した Fixlet をそこに追加することもできます。そうすれば、他のオペレーターとの間で最新の社内パッチを送受信でき、適切な場所や部門にそれらのパッチを素早く適用できます。

## サイトの選択

インストール時に、プログラムは、特定の管理サイトおよびメンテナンス・サイトをサブスクライブするように自動的にセットアップされます。ご使用のライセンスの条件に応じて、その他のサイトへのサブスクリプションも備わっている場合があります。これは、それらのサイトからのコンテンツが社内に自動的に取り込まれ、BigFix クライアントを実行中のすべてのコンピューターで関連度が評価されることを意味します。これらのサイトは

順次適切なドメインに自動的に登録され、コンテンツを簡単に機能セクションに分割することができます。

### 「ライセンスの概要」ダイアログからサイトをサブスクライブする

1. BigFix 管理ドメインから「**ライセンスの概要**」ノードを選択します。使用可能なサイトがリストされた、「**ライセンスの概要**」ダイアログが表示されます。
2. サブスクライブするサイトに関連付けられた有効化ボタンをクリックします。
3. パスワードを入力してサイトをサブスクライブします。これで、新規サイトがドメイン・パネルの「**サイトを管理**」ノードにリストされます。
4. 「**サイトを管理**」ノードを開き、新しくサブスクライブしたサイトを選択します。
5. サイト・ダイアログから、「**コンピューターのサブスクリプション**」タブをクリックして、そのサイトを適切なコンピューターに割り当てます。
6. 「**オペレーター許可**」タブから、このサイトに関連付けるオペレーターとそれらのオペレーターの権限レベルを選択します。
7. 完了したら、「**変更を保存**」をクリックします。

注: ライセンスを変更した場合は、Fixlet サイトを再サブスクライブする必要があります。新規ライセンスが旧ライセンスに関連付けられますが、サポート・サイトのみは自動的に更新されます。

### マストヘッドを使用したサブスクライブ

マストヘッド・ファイルを使用してサイトをサブスクライブするには、以下の手順に従ってください。

1. まず、該当するサイトのマストヘッド・ファイルを検索します。マストヘッド・ファイルには `.efxm` という拡張子が付いています。これを行うためには、以下のいくつかの方法があります。
  - **Fixlet サイト**: HCL では、新規サイトが使用可能になるとそれらのサイトへのリンク・リストを通知することがあります。

- **Fixlet サブスクリプション:** Fixlet メッセージにより、サブスクリプションが提供される場合があります。該当の Fixlet アクションをクリックするだけで、サブスクリプションが開始されます。
  - **マストヘッドのダウンロード:** ベンダーの Web サイトからマストヘッド・ファイルをダウンロードして、サイトをサブスクライブすることもできます。
2. ご使用のコンピューターに保存したマストヘッドは、以下の 2 つの方法のいずれかでアクティブ化できます。
    - マストヘッドをダブルクリックする、または
    - 「ツール」メニューから「外部サイト・マストヘッドの追加」を選択し、マストヘッドが入っているフォルダーを参照して、「開く」をクリックする。
  3. 秘密鍵のパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。パスワードを入力して、「OK」をクリックします。

マストヘッドがすべてのクライアントに伝搬され、クライアントはすぐに新規サイト Fixlet メッセージの評価を開始します。

## ライセンス・ダッシュボードを使用したサブスクライブ

ドメイン・パネルにある BigFix 管理のライセンス・ダッシュボードを使用して、Fixlet サイトをサブスクライブすることもできます。

1. 「BigFix 管理」ドメインを開き、上部までスクロールして関連付けられたダッシュボードを表示します。
2. 「ライセンス・ダッシュボード (Licensing Dashboard)」からサブスクライブするサイトを選択します。

## サイト・プロパティの表示

サブスクリプションの開始後に、そのプロパティと署名権限を調べることができます。これは、特定の Fixlet メッセージまたはアクションの発信元を追跡する場合に便利です。その方法を以下に示します。

- 左のドメイン・パネルから該当のサイトをクリックします。

「**サイト・プロパティ**」が作業域に表示され、サイトの発行者についての詳細情報とコンテンツの収集元の URL が表示されます。

The screenshot shows the BigFix console interface. On the left, the 'All Content' tree has 'Sites (21)' selected. The main window displays a table of sites:

Name	Type	Domain	Creator
BES Asset Discovery	External		
BES Inventory and License	External		
BES Support	External		

Below the table, the details for 'BES Asset Discovery' are shown:

External Site: BES Asset Discovery

Save Changes Discard Changes Gather Add Files... Remove

Details Computer Subscriptions Operator Permissions Role Permissions

**Details**

Type	External Content Site
Current Version	77
Gather URL	http://sync.bigfix.com/cgi-bin/bfgather/assetdiscovery
Publisher	BigFix, Inc.

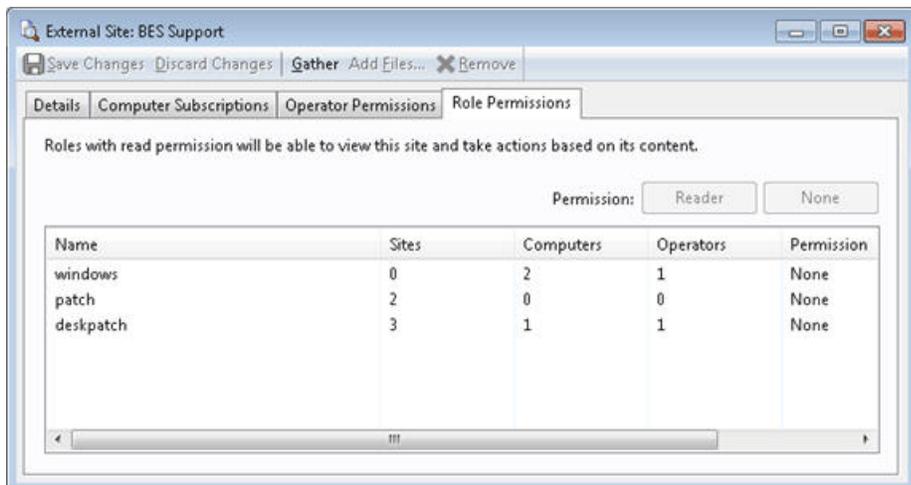
**Subscription**

All clients that satisfy the externally defined criteria are subscribed to this site.

**External Subscription Constraints**

サイトのタイプによっては、サイトにその他のプロパティを含めることができます。特定のコンピューター・セットにサイトを割り当てることができます。カスタム・サイトでは、サイトの所有、書き込み、および読み取りのためのオペレーター許可を割り当てることができます。外部サイト (不可欠のサポート・サイトを除く) では、コンピューターとオペレーターの両方に対する制約を設定できるので、マスター・オペレーターがサイトのドメインを微調整することができます。

また、任意のサイトに役割を割り当てることができるので、事前に作成したディレクトリー・アクセス役割を選択して、サイトへの読み取り特権をそれらの役割に付与することができます。これらの追加プロパティにアクセスするには、「**役割の権限**」タブをクリックします。

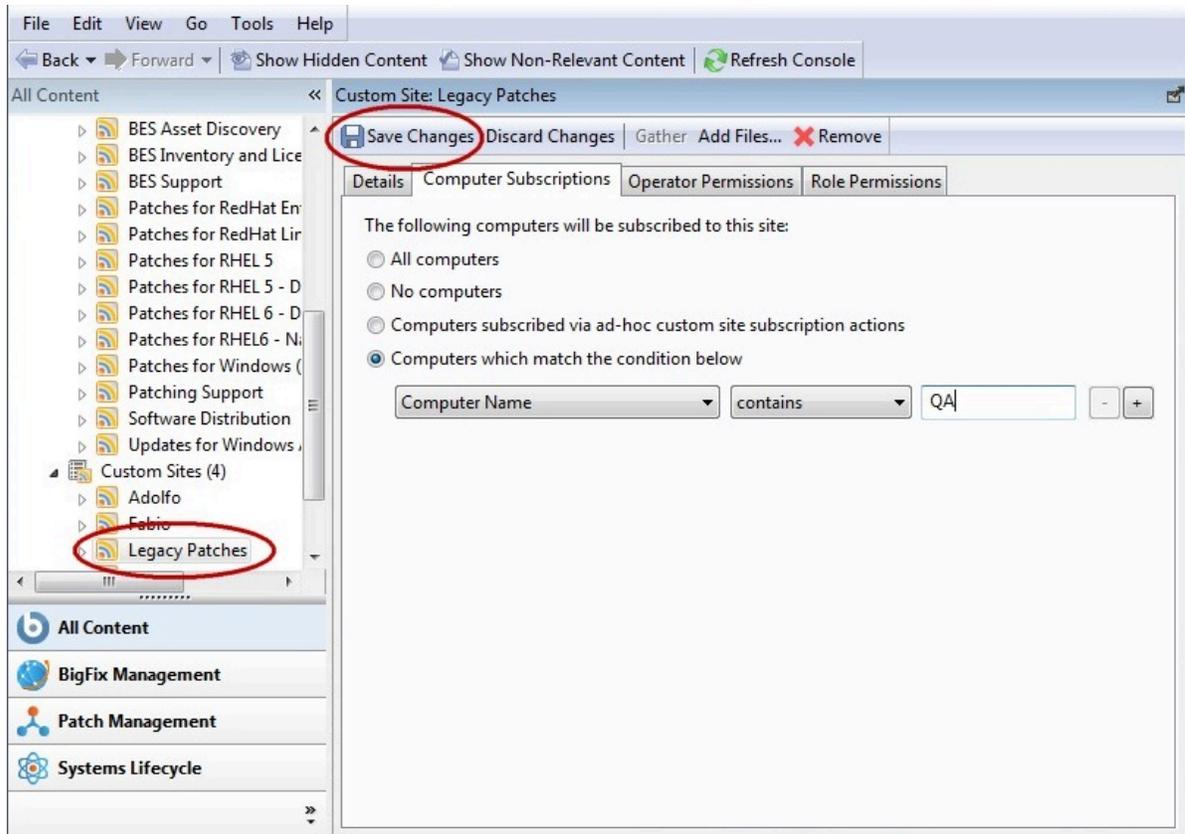


リストから役割をクリックし、ボタンを使用して、読み取り権限を割り当てるか、または拒否します。

## コンピューターの制限

BigFix のクライアントまたはクライアント・グループが重複する Fixlet メッセージを保存している場合があります。この原因は、一般的にはサイトのコンテンツのオーバーラップです。さらに、Linux マシンが Windows Fixlet を取得する場合のように、一部の BigFix クライアントが余分な Fixlet メッセージを収集する場合があります。プログラムは関連のない Fixlet メッセージや重複する Fixlet メッセージを無視するため、これはプログラムの動作には何の問題もありませんが、クライアントのディスク・スペースを消費する可能性があります。「**サイトのサブスクリプション**」ダイアログを使用して、選択した外部サイトにサブスクライブするクライアントの数を絞り込むことができます。その方法を以下に示します。

1. **ドメイン・パネル**から目的のサイトを選択します。



2. 「コンピューターのサブスクリプション」タブを選択します。コンピューターを選択する方法はいくつかあります。

- 「すべてのコンピューター」。このボタンをクリックすると、すべてのクライアントがこのサイトに自動的にサブスクライブされます。これはデフォルトのアクションです。
- 「なし」。これをクリックすると、すべてのクライアントがアンサブスクライブされます。
- 「アドホック・カスタム・サイトのサブスクリプション・アクションを介してサブスクライブするコンピューター」。カスタム・サイトを選択すると、このオプションも使用可能になり、関連コンピューターをそのサイトにサブスクライブするアクションを作成して、随時ベースでコンピューターを柔軟に割り当てることができます。
- 「以下の条件に一致するコンピューター」。ここをクリックして、Endpoint Manager クライアントがサイトにサブスクライブするには TRUE と評価されなければならない条件を作成します。デフォルトは、コンピューター名の解析ですが、プルダウン・リストには有用なサブスクリプション基準として使用できる

複数のプロパティーが含まれています。さらに基準を追加するには、正符号をクリックします。AND または OR を使用して、条件を組み合わせて指定することができます。

- このサイトへのコンピューターのサブスクリプション方法に問題がない場合は、作業域ツールバーから「**変更を保存**」をクリックします。プライベート・パスワードを入力して、サブスクリプション要求をネットワークに伝搬します。

## 閲覧者の制限

サイトに制限を設定してアクセスを制限することができます。カスタム・サイトに対するオペレーターの権限の場合と同様、ほとんどの外部サイトのオペレーターとコンピューターの両方を制限できます。

すべてのオペレーターがすべてのサイトについて知っている必要はありません。一部のサイトは、任命されたアンチウィルス専門家や財務 IT 管理者などのオペレーターが 1 人で管理するのが最も簡単である可能性があります。マスター・オペレーター特権がある場合は、任意の指定サイトを表示できるマスター以外のオペレーターの数を制限することができます。その方法を以下に示します。

- ドメイン・パネル**から目的のサイトを選択します。

The screenshot shows the BigFix console interface. In the left-hand navigation pane, under 'External Sites (13)', the 'BES Support' site is selected and circled in red. The main window displays the configuration for 'External Site: BES Support'. The 'Operator Permissions' tab is active, showing a table of operators with read permissions. The table has columns for 'Name', 'Last Login Time', and 'Of'. The 'Fabio' operator is highlighted in blue.

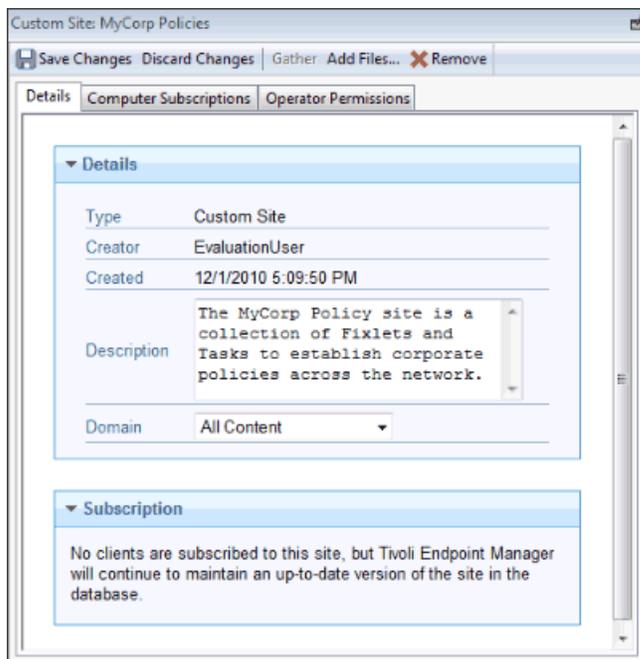
Name	Last Login Time	Of
IEMAdmin	08/09/2014 17:02:48	Lo
Fabio	26/08/2014 15:44:59	Lo
Winpatch	19/08/2014 15:48:09	Lo
Inxpatch		Lo
Gabriella	14/09/2014 13:35:48	Lo
canreboot	26/08/2014 08:53:28	Lo
Adolfo	27/08/2014 10:37:36	Lo

2. サイトのプロパティーが作業域に表示されます。「**オペレーター許可**」をクリックします。
3. 「**全体に対する読み取り権限を付与する**」のボックスをクリックできます。それ以外の場合は、このボックスをクリアして個別ユーザー・ベースで権限を設定します。
4. 選択に問題がない場合は、「**OK**」をクリックします。

## カスタム・サイトの作成

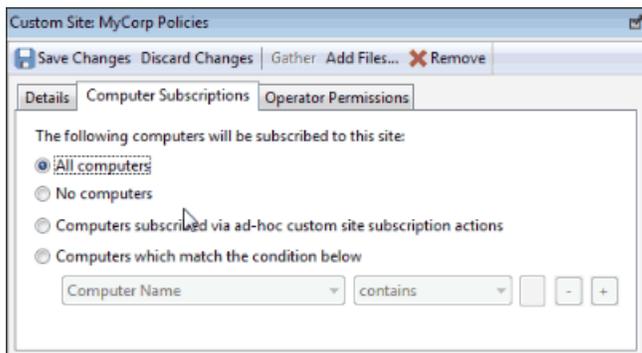
カスタム・サイトを作成して、使用するネットワークに関連する独自の Fixlet メッセージをホストすることができます。その方法を以下に示します。

1. 「**ツール**」 > 「**カスタム・サイトを作成**」を選択します。
2. カスタム・サイトの名前を求めるプロンプトが出されます。名前を入力し、「**OK**」をクリックします。
3. サイトについて記述するために、ドメイン・パネルの「**サイト**」 > 「**カスタム**」の下でサイトを見つけてクリックします。



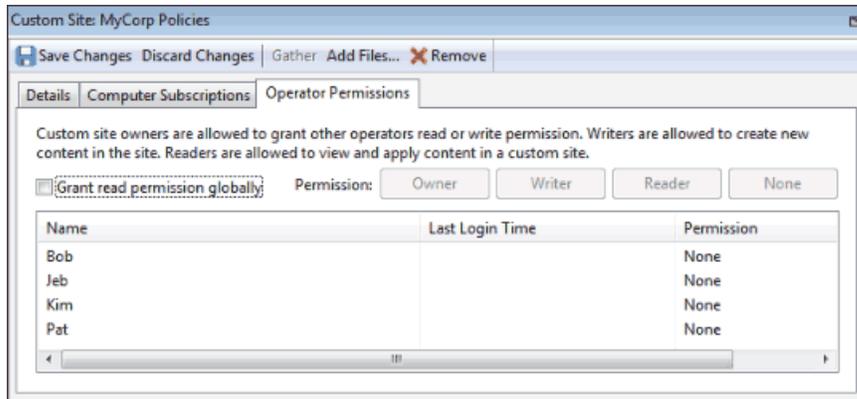
「**詳細**」タブで、サイトの説明を入力します。「**ドメイン**」プルダウン・メニューから、サイトを格納するドメインを選択します。

4. 「**コンピューターのサブスクリプション**」タブで、このサイトをサブスクライブする BigFix クライアント・コンピューターのサブセットを指定します。



これにはいくつかの選択肢があります。

- 「**すべてのコンピューター**」。このボタンをクリックすると、すべてのクライアントがこのサイトに自動的にサブスクライブされます。
  - 「**なし**」。コンピューターをサブスクライブさせる準備がまだ整っていない場合は、このボタンをクリックします。
  - 「**アドホック・カスタム・サイトのサブスクリプション・アクションを介してサブスクライブするコンピューター**」。これを選択するには、関連するコンピューターにサイトをサブスクライブさせるためのアクションを作成する必要があります。
  - 「**以下の条件に一致するコンピューター**」。これを選択すると、BigFix クライアントがサブスクライブするための一連の条件 (そのすべてが TRUE に評価されると条件が成立) を設定できます。プルダウン・メニューで、多数のプロパティから組み込む対象としてテストするものを選択できます。
5. 「**オペレーター許可**」タブでは、特定のオペレーターに特定のアクセス許可を付与することができます。



これにはいくつかのオプションがあります。

- 「**全体に対する読み取り権限を付与する**」。すべてのオペレーターに読み取り許可を与える場合は、このボタンをクリックします。
- あるいは、リストから特定のオペレーターをクリックし、特定の権限 (**所有者、作成者、閲覧者、なし**など) を割り当てます。

6. 作業域の上にある「**変更を保存**」ボタンをクリックして、サイトの記述を完了します。パスワードを入力して新しいカスタム・サイトを伝達する必要があります。

## サブスクリプションの取り消し

オペレーターは、自身の承認なしにアクションが実行されることはないため、組織でさまざまなサイト・サブスクリプションを試すことができます。それにもかかわらず、サブスクリプションが有用でないことがわかった場合は、以下のようにサイトが存在するドメインからサイトを削除することで、サブスクリプションを取り消すことができます。

1. ドメイン・パネルで「**サイト**」を含んでいるアイコンを展開します。「**外部**」または「**カスタム**」アイコンから、削除するサイトを選択します。
2. サイトを開き、作業域ツールバーで「**削除**」ボタンをクリックします。
3. 確認のダイアログで「**はい**」をクリックし、パスワードを入力してサイトの削除を完了させます。

**注:** ライセンスのアップグレードと管理はコンソール・プログラムで行う必要があるため、BigFix サポート・サイトからサブスクリプションを取り消すことはできません。

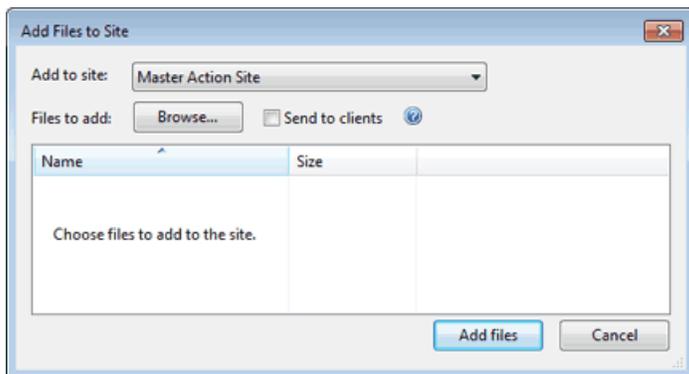
## サイトへのファイルの追加

バージョン 8.1 以降では、サイトにファイルを追加することができます。テキスト・ファイルやユーティリティー・ファイルのように単純なファイルでも、ダッシュボードやドメインのように高い性能を持つファイルでも追加できます (このセクションの最後で説明します)。ファイルはマスター・アクション・サイト、カスタム・サイト、およびオペレーター・サイトに追加できますが、対象のサイトに対する書き込み許可が必要です。つまり、マスター・アクション・サイトにはマスター・オペレーターのみがファイルを追加できます。また、カスタム・サイトの作成者はカスタム・サイトにのみファイルを追加でき、マスター以外のオペレーターは自分自身のオペレーター・サイトにのみファイルを追加できます。この機能を使用すると、以下のように便利な環境を実現できます。

- サイトをサブスクライブしているすべてのクライアントにユーティリティー・ファイルを配置
- カスタム・ダッシュボードを複数のコンソール・ユーザーと共有
- カスタム・ドメインを複数のコンソール・ユーザーと共有

サイトにファイルを追加する方法は以下のとおりです。

1. 「ツール」 > 「**サイトへのファイルの追加**」を選択します。または、目的のサイトを表すドメイン・ツリー・ノードにナビゲートし、「**ファイル**」サブノードを右クリックしてコンテキスト・メニューから「**ファイルの追加**」を選択することもできます。「**ファイルの追加**」ダイアログ・ボックスが開きます。



2. このダイアログをドメイン・ツリーから表示した場合は、サイトが既に選択されています。そうでない場合は、「**サイトへの追加**」プルダウンから目的のサイトを選択します。

3. 「参照」 ボタンをクリックし、ファイル選択用ダイアログで追加するすべてのファイルを選択します。複数のファイルを選択できます。また、「参照」 ボタンを複数回クリックしてファイルを追加できます。
4. このファイルを、選択したサイトをサブスクライブしているすべてのクライアントに適用する場合は、「クライアントに送信」 ボックスにチェック・マークを付けます。
5. 一連のファイルの選択が完了したら、「ファイルの追加」 をクリックして終了します。

追加できるファイルについては、いくつかの制限があります。

- すべてのファイル名がサイト内で固有でなければなりません。名前が競合している場合は、既存のファイルを上書きするかどうかを尋ねられます。
- **.fxf** 拡張子を持つファイルは、クライアントで Fixlet 文書と見なされるため、追加できません。この種類のファイルを追加しようとする、エラーになります。
- 「\_\_」 (連続する 2 つの下線) で始まるファイルは、特別なサイト・メタデータ用に予約されているため、追加できません。この種類のファイルを追加しようとする、エラーになります。
- 「クライアントに送信」 ボックスにチェック・マークを付けて大容量のファイル (100 KB を超えるもの) を追加しようとする、警告ダイアログが開き、処理を続行した場合にネットワーク・トラフィックのスパイクが発生する可能性があることが通知されます。

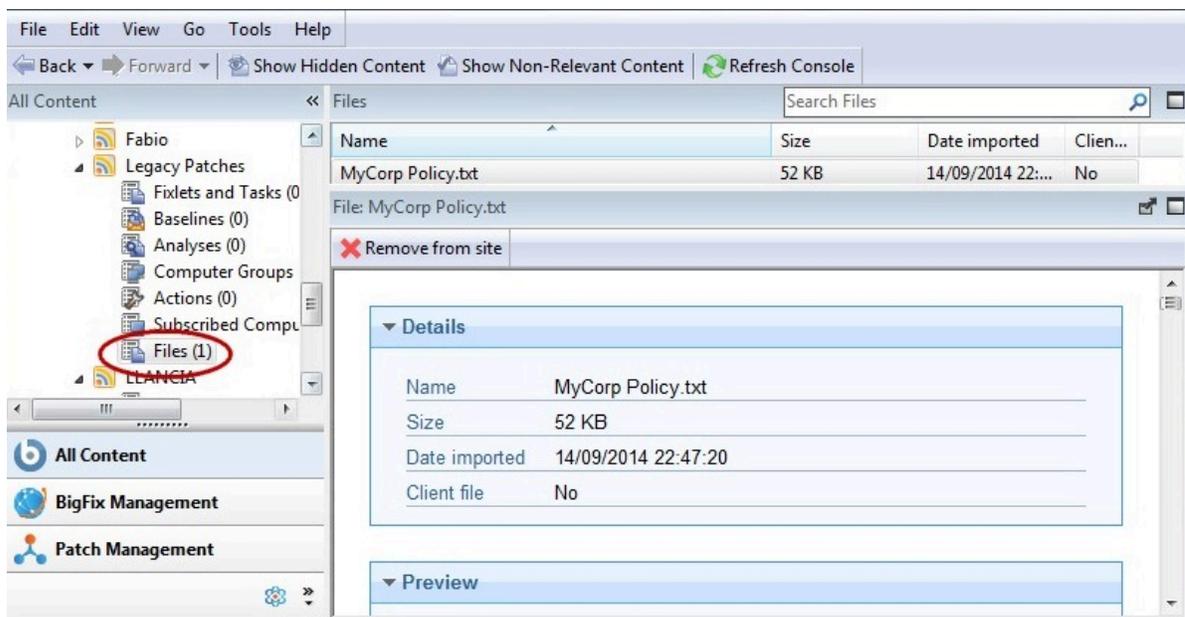
一部のファイルは、そのファイル拡張子に従ってさまざまに解釈されます。

- **ojo**: 拡張子 .ojo が付いたサイト・ファイルは、ダッシュボードとして読み込まれ、サイトのすべての閲覧者に表示されます。このダッシュボードは、ドメイン・ツリー内のサイト・ノードの「ダッシュボード」 サブノードでも表示されます。
- **BESDomain**: 拡張子 .BESDomain が付いたサイト・ファイルは、サイトのすべての閲覧者に表示されるドメインとして読み込まれ、ドメイン・バーにあるドメインのリストに表示されます。
- **bfa**: 拡張子 .bfa が付いたサイト・ファイルは、bfarchive ツールで作成された BigFix アーカイブ・ファイルと見なされます。このアーカイブはアンパックされ、すべてのファイルが追加されます。

## サイト・ファイルの表示と削除

『**サイトへのファイルの追加**』の説明に従ってサイトにファイルを追加すると、これらのファイルを表示または削除できます。自分が作成したサイト・ファイルは、ドメイン・ツリーから直接選択できます。

1. ドメイン・ツリーで目的のサイトを開きます。
2. 「**ファイル**」ノードをクリックします。リスト・パネルに目的のファイルが表示されます。ファイルの1つをクリックすると、作業域の下部にそのファイルが表示されます。



3. このリストのカラム・ヘッダーには、以下のものが含まれています。
  - 「**名前**」: サイト・ファイルの名前
  - 「**サイズ**」: ファイルのサイズ
  - 「**インポートされた日付**」: ファイルがサイトにインポートされた日付
  - 「**クライアント・ファイル**」: サイトにサブスクライブ済みのクライアントがファイルをダウンロードしたかどうか
4. このリスト内の任意のファイルをクリックすると、詳細情報とプレビューが表示されます。

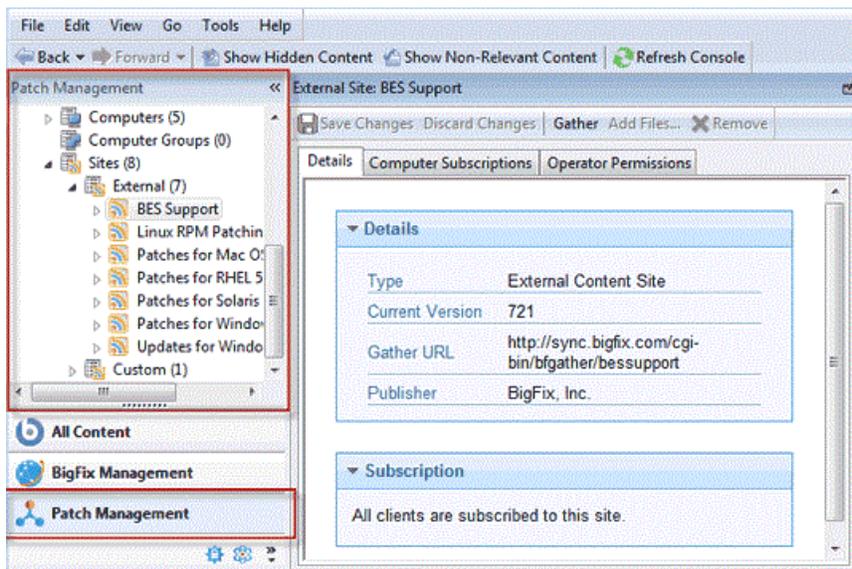
5. このファイルをサイトから削除するには、「**サイトからの削除**」をクリックします。または、「**編集**」 > 「**削除**」を選択することもできます。ファイルを削除するには、ファイルの追加時と同じ権限が必要です。

# 第 5 章. ドメイン

## ドメインの概要

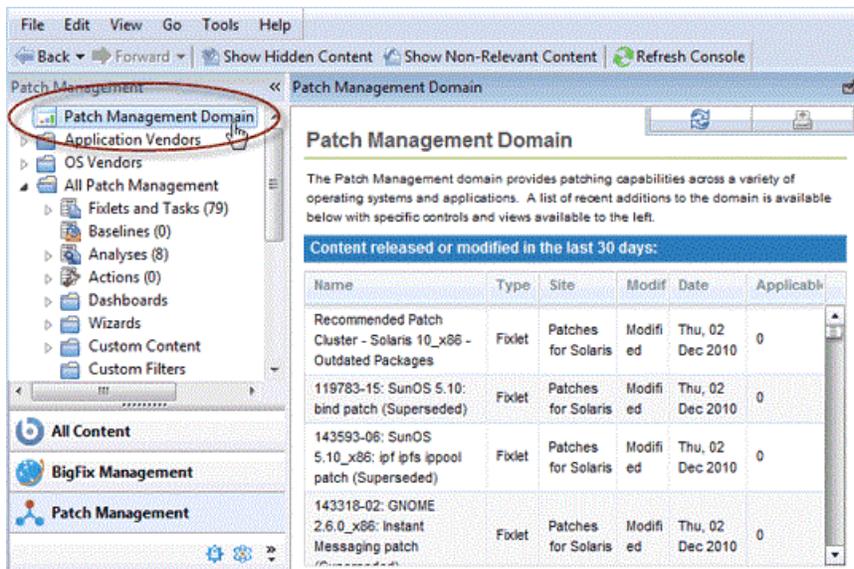
ドメインは、BigFix コンソールでの主要な編成要素です。ドメインは、各種オペレーティング・システムのパッチ管理など、一連の関連するサイトで構成されます。ドメインには、特定のコンソール・オペレーターの仕事 (パッチ管理、AntiVirus 管理、電源管理など) が反映されています。

ドメインは、コンソールの左端のパネルに表示されます。



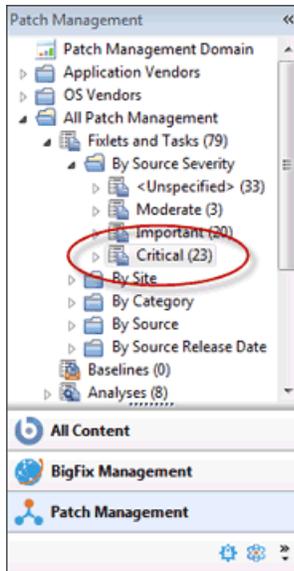
パネルの下部にあるボタンから目的のドメインを選択します。これでドメインのコンテンツが表示されます。一部のドメインには、表示可能なコンテンツをベンダーで絞り込むためのコンテンツ・フィルターなどの構造が追加されています。

一般には、ドメインの概要でコンテンツの範囲を把握します。



この特別な概要には、ドメインに最近追加された新しい Fixlet、分析、タスクなどが一目で分かるように表示されます。

「一般コンテンツ」セクションでは、さまざまなトピック、コンテンツ・タイプ、およびフォルダーを開くことで、提供されている情報をさらに分割できます。ここに表示されるトピックのほとんどは、1回クリックすると右上のリスト・パネルにコンテンツが表示されます。展開アイコン (プラス/マイナス記号または三角形のアイコン) 付きの項目では、そのアイコンをクリックするとフィルタリング・オプションが表示されます。任意のフォルダーをドリルダウンして、元のトピックのサブセットを表すリーフ・ノードまで進みます。これで、リスト・パネルには指定したサブセットのみが表示されます。

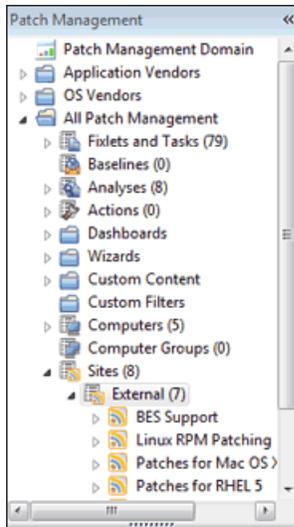


上の図では「Fixlet とタスク」が開かれて「ソースの重要度」フォルダーまで展開されています。このフォルダー内では「**きわめて重要**」な Fixlet のみが選択されているため、結果のリスト・パネルは短くなり、扱いやすくなります。

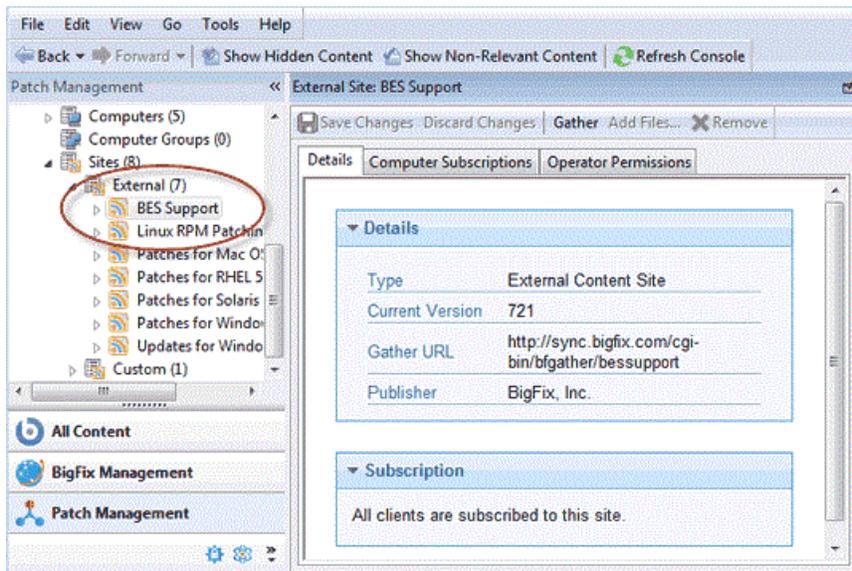
一般には、必要に応じて「**サイト**」セクションを開き、サイトを個別に調査します。ドメインはそれぞれに構造が異なるため、詳細に調べてください。

## ドメイン・サイト

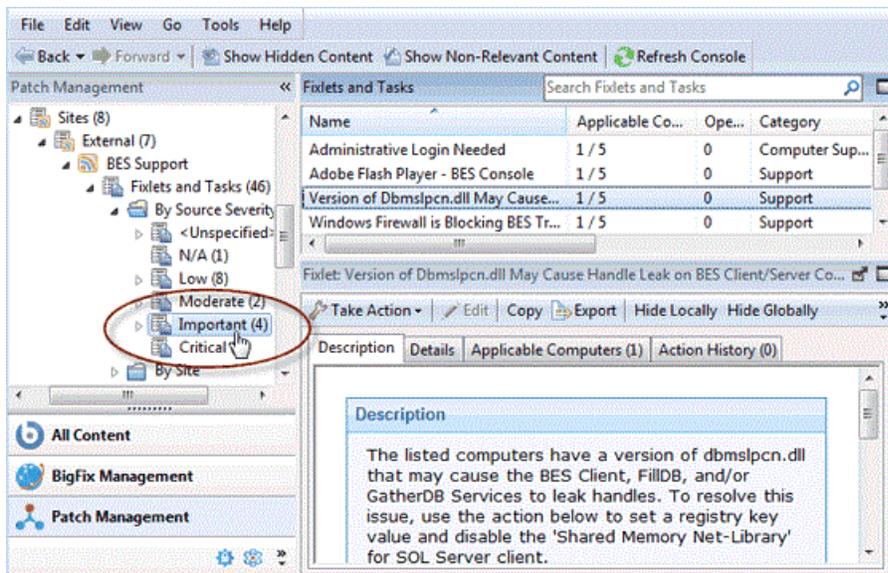
ドメインは、構成が似ているために便宜上グループ化された、関連するサイトで構成されます。ドメインを構成するサイトは簡単に調べることができます。



「サイト」ヘッダーを見つけて展開アイコンをクリックします。ナビゲーション・ツリーが「外部」サイトと「カスタム」サイトまで開きます。「外部」の横の展開アイコンをクリックして各種サイトを表示します。各サイトをクリックして、その最上位プロパティを調べることができます。

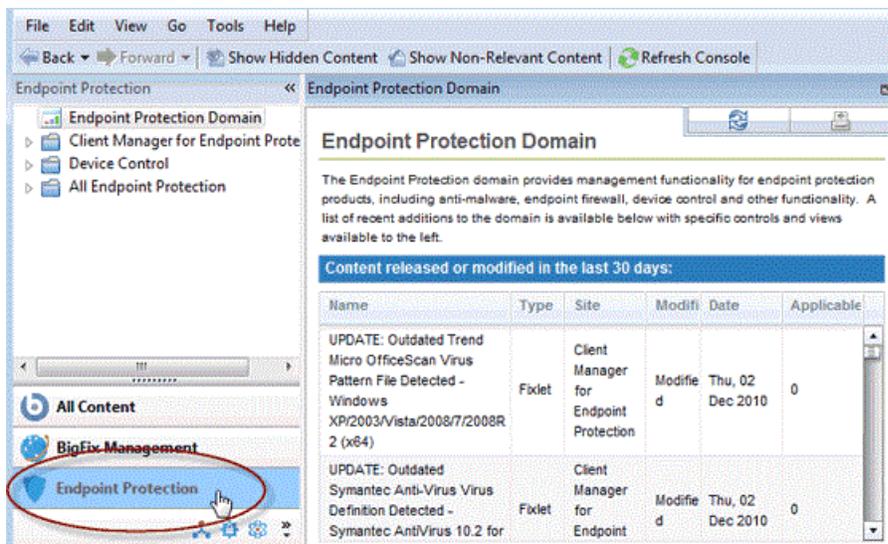


サイト・アイコンの横の展開アイコンをクリックして、データのサブセットを調べます。リーフ・ノードに到達するまでドリルダウンを続行して、各サイトの特定のサブセットを調べることができます。目的のサブセットに到達すると、リスト・パネルにコンテンツが表示されます。



## ドメインの選択

一般的には、ユーザーが使用可能な複数のドメインがあり、各ドメインには、指定されたコンソール・オペレーターの担当範囲に該当する関連タスクのグループが含まれています。サイトをコンソールに追加すると、それらのサイトは適切なドメインに組み込まれ、必要に応じて新規ドメインが作成されます。ドメイン・パネルはコンソールの左にあり、そのパネルの下部にドメインに対応するボタンが表示されています。

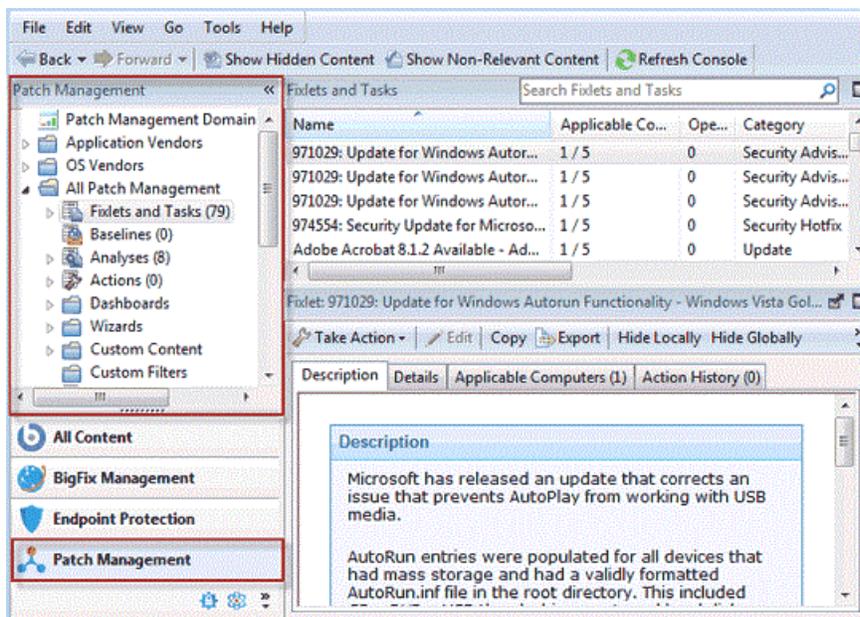


クリックするドメインに応じて、通常は概要が作業域に表示されます。作業域には、コンテンツへの最新追加項目のリストが表示されており、素早く評価することができます。

ボタンのリストの下部にあるプルアウト・メニューを使用して、表示するボタンの数を調整することができます。

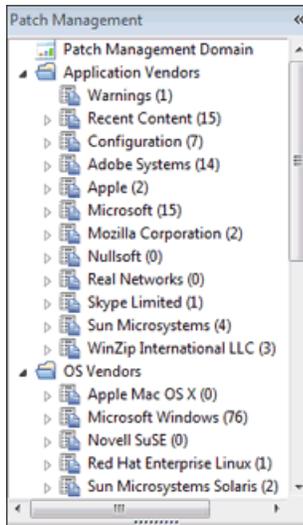
## ドメインのナビゲート

ドメインは、すべてが同様の目的および構造を持つサイトの論理コレクションです。したがって、各ドメインは固有の構造を反映し、それに従ってコンテンツを表示します。しかし、すべてのサイトにはコンテンツの管理方法に一定の類似性があり、ほとんどのオプションとオプション間でのナビゲート方法を検討するには、単純なドメインで十分です。ここでは、パッチ管理を例として使用します。

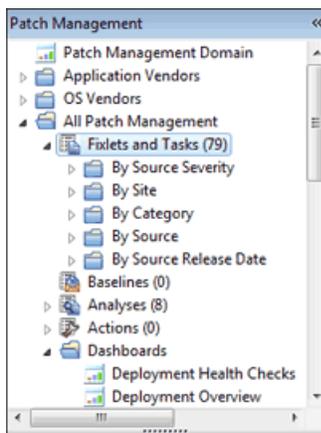


ドメイン・ボタンをクリックすると、そのドメインがドメイン・パネルに表示されます。この例では、ドメイン・コンテンツ・フィルターとして機能する「アプリケーション・ベンダー」と「OSベンダー」の2つのフォルダーがあります。すべてのドメインにこのようなフィルターがあるわけではありませんが、情報を論理パーティションにグループ化することには利点があるので、これはかなり一般的です。ここでは、ソフトウェア・ベンダー (Adobe、Mozilla など) か OS ベンダー (Mac、Windows、Linux など) か、どちらかに基づいてソフトウェアをグループ化する方法を示します。開示アイコン (ご使用のオペレー

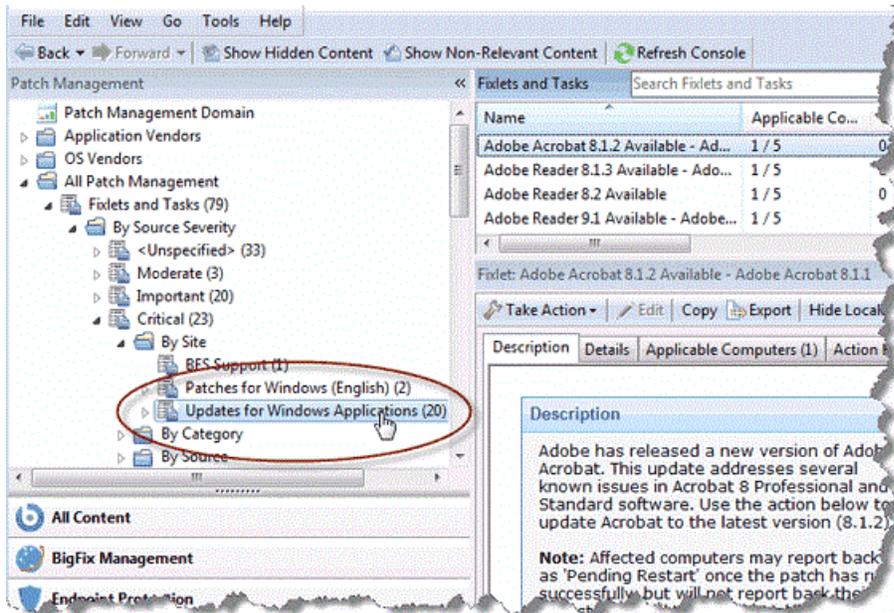
ティング・システムに応じて、正符号/負符号のアイコンまたは回転した三角形のアイコンをクリックするか、ツリー・ノード自体をダブルクリックして、ノードを開いてそのサブヘッダーを探します。



ドメイン・フィルタの下に、ドメイン・コンテンツのさらに一般的な表示が現れます。

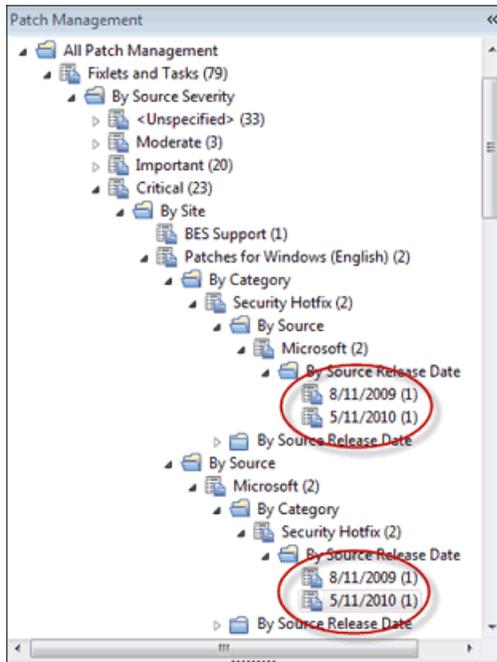


「すべてのパッチ管理 (All Patch Management)」のラベルが付いたアイコンに注意してください。このアイコンは、このドメインのメイン・コンテンツを表し、このドメインを形成するすべてのサイトから組み合わされた Fixlet とタスクの結合で構成されています。このカテゴリーを開いて、ソース別または重要度別にドリルダウンできます。「**ソースの重要度**」フォルダーの下にはコンテンツの明細が表示されるので、「**きわめて重要**」のみ、「**重要**」のみ、またはその他の Fixlet 重要度のカテゴリーを選択してそれを集中的に調べることができます。これらのアイコンを 1 回クリックすると、この基準に適合するすべてのコンテンツが右のリスト・パネルに表示されます。



アイコンをダブルクリックして開き、コンテンツをさらにフィルタリングします。例えば、「ソースの重要度」>「きわめて重要」の下で、きわめて重要な Fixlet の結果セットをフィルタリングして「サイト別」に表示できます。最後に、リーフ・ノードでアイコンをクリックして、重要度およびサイトでフィルタリングされたコンテンツのリストをリスト・パネル内に作成できます。ドリルダウンするにつれて、各種フィルターが AND 処理され、さらに小さく、かつ対象を絞った各レベルのセットが作成されます。

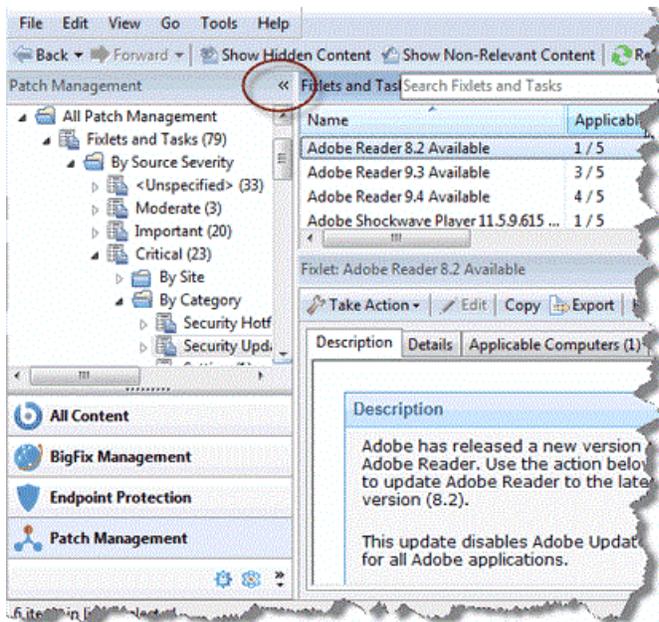
これらのナビゲーション・アイコンの動作はすべて同じです。シングルクリックで特定のカテゴリが強調表示され、ダブルクリックでそのカテゴリを開いて更に絞り込むことができます。一般に、各アイコンは宛先か、または調べる新規ツリーの先頭を表します。アイコンをクリックすると、そのアイコンにより暗黙に指示されるデータの特定のサブセットが、右のリスト・パネルに開きます。ドリルダウンは、最終リーフ・ノードで終わります。このリーフ・ノードでは、使用可能なすべてのフィールドを使用して AND 処理されています。同じサブセットのリーフ項目を取得する方法はたくさんあることに注意してください。なぜなら、フィールド基準は単に一緒に AND 処理されるだけであり、どの順序で選択するかは問題ではないからです。



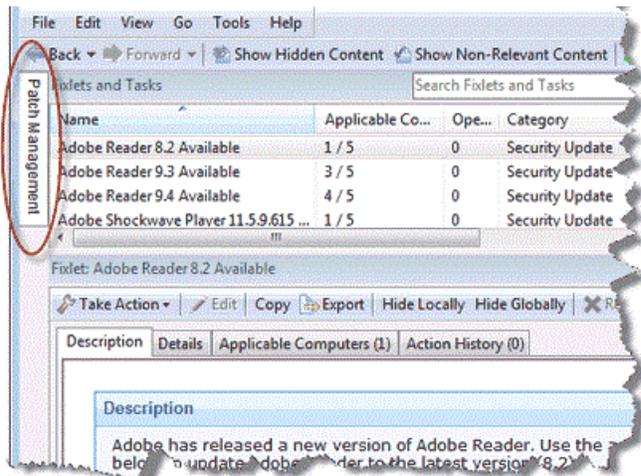
**Fixlet、タスク、分析、アクション、ベースライン、コンピューター、およびコンピューター・グループ**は、ほとんどの場合、ドメインのメイン・ナビゲーション・ツリーに表示されます。その他のコンテンツ (フィルター、カスタム・コンテンツ、カスタム・サイトなど) も、多くの場合は同様に表示されます。ドメインを担当するオペレーターは、構造全体を一目で簡単に把握することができます。ドリルダウンしてフィルタリングし、選択範囲を絞る操作はすぐに習得することができます。

## ドメイン・パネルの最小化

パネル・スペースを広げる必要がある場合は、ドメイン・パネルの右上にある最小化アイコンをクリックして、ドメイン・パネルを最小化できます。

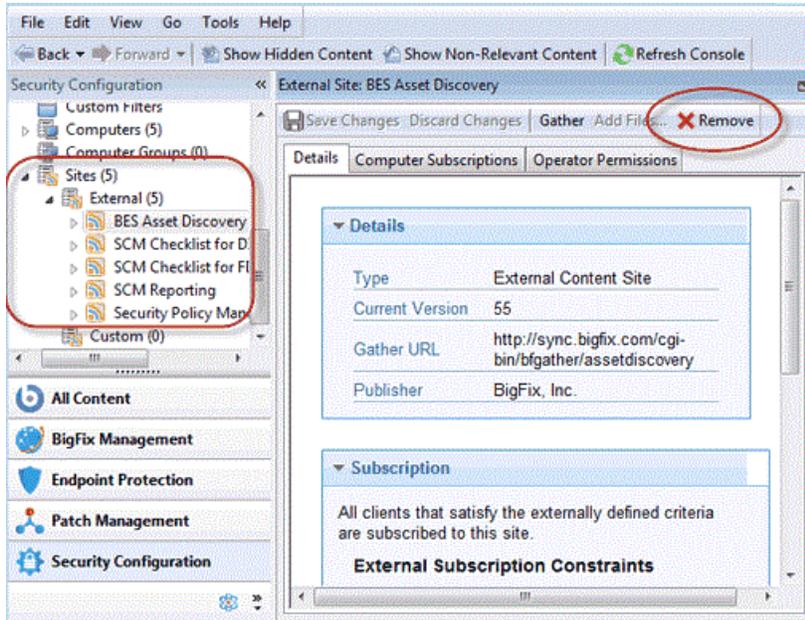


これにより、パネルが縮小されてコンソール・ウィンドウの左の小さいスタブになります。ドメイン・パネルを復元するには、このスタブをクリックします。



## ドメインを削除する

ドメインは、そのドメインを構成するサイトをすべて削除することで削除できます。ドメイン・パネルで、サイトの集合を表すアイコンを見つけます。



サイト・アイコンを開き、「外部」サイトにナビゲートします。各サイトを順にダブルクリックし、作業域上部の「削除」ボタンを使用して、その場所に存在するすべてのサイトを削除します。「内部」サイトに対して同じ操作を行います。これでドメインは表示されなくなります。

# 第 6 章. 役割

## 役割の概要

役割は、複雑なアクセス許可を編成および認可するのに役立つ強力なツールを提供します。グループと同様、役割にもさまざまなメンバーを定義することができますが、各役割には暗黙のアクセス許可が組み込まれています。

コンソール・オペレーターにはアクセス許可がすでに割り当てられている場合があるので、ユーザーに役割も割り当てた場合は、事実上、そのユーザーのアクセス許可を拡張することになります。アクセス許可が競合する場合は、最もレベルの高い許可が選択されません。

使用可能な役割を表示するには、ドメイン・パネルで「すべてのコンテンツ」を選択し、「役割」のラベルが付いたノードを選択します。表示されるリストから、役割に関連付けるコンピューター、オペレーター、グループ、およびサイトを選択します。

複数のサーバーがインストールされている BigFix 分散サーバー・アーキテクチャー (DSA) 環境では、役割に関連するアクションはプライマリー・サーバーでのみ実行できます。セカンダリー・サーバー上では、役割の作成、変更、および削除はできません。これらのアクションを実行しようとしても阻止され、以下のエラー・メッセージが表示されます。

```
This operation requires a role change that can be performed only on the main server.
```

## 役割の作成

役割を作成して、さまざまなオペレーターが共有できるアクセス許可のセットを定義することができます。役割によってアクセス許可の汎用カテゴリーを作成できます。その後、個々のオペレーター、コンピューター、グループ、およびサイトを役割に関連付けることができます。

役割を作成するには、以下の手順を実行します。

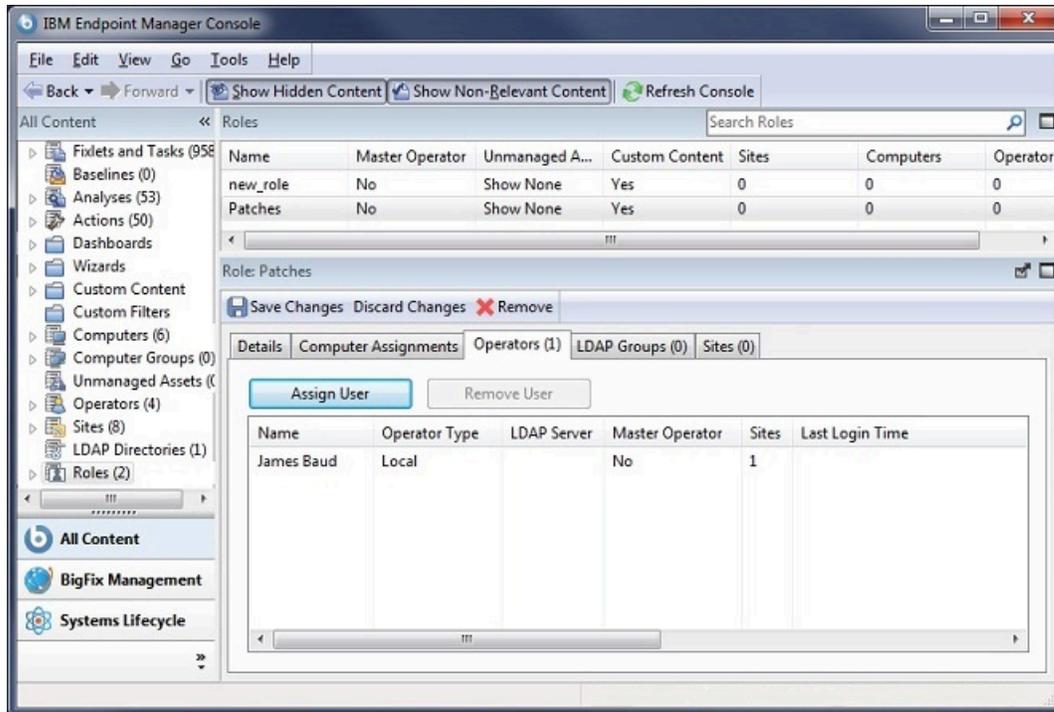
1. 「ツール」 > 「役割の作成」をクリックするか、役割の作業域を右クリックしてから「役割の作成」を選択します。「役割の作成」ダイアログが表示され、名前の入力を求めるプロンプトが出されます。
2. 役割の内容を表す名前を入力します。「役割」パネルが開きます。
3. オプションで、役割の簡単な説明を入力します。役割に関連付ける許可レベルと、再起動とシャットダウンの権限、および BigFix ユーザー・インターフェースにアクセスするための許可を設定します。このタブにリストされたフィールドは、オペレーターの「詳細」タブにリストされ、ローカル・オペレーターの追加 (##### ) に記載されているフィールドに対応します。
4. 対応するタブをクリックして、役割に関連付けるために、コンピューターの割り当て、オペレーター、LDAP グループ、サイト、および WebUI アプリケーションを設定します。
5. 作業が終了したら、必ず「変更を保存」をクリックしてください。

## 役割の割り当て

役割を作成してそのアクセス許可を設定したら、コンソール・オペレーター、クライアント・コンピューター、LDAP グループ、および Fixlet サイトをその役割に割り当てることができます。

このタスクを実行するには、以下の手順を実行します。

1. ドメイン・パネルで「すべてのコンテンツ」をクリックし、「役割」ノードを選択します。現在定義されている役割のリストが表示されます。
2. オブジェクトを関連付けたい役割をクリックします。「役割」ダイアログが開きます。



3. 各タブをクリックして特定のオブジェクトを役割に割り当てます。それぞれのタブには、役割にオブジェクトを追加または割り当てるためのボタンがあります。
4. 「追加」または「割り当て」ボタンをクリックすると、指定した役割に関連付ける項目を1つ以上選択するためのダイアログが表示されます。アクセス許可が競合する場合は、最も制限が少ないアクセス許可が優先されます。
5. 作業が終了したら、必ず「**変更を保存**」をクリックしてください。

# 第 7 章 クライアント・コンピューター

## クライアント・コンピューターの概要

クライアント・コンピューターは、BigFix クライアントが稼働しているネットワーク内のコンピューターです。クライアント・ソフトウェアをインストールすると、これらのマシンを高いレベルで制御できるようになり、共通の稼働環境の維持、最新パッチの提供、スワイウェアの検出、プロパティの表示と要約、レポートの作成などのさまざまな操作が可能となります。

クライアント・コンピューターには、企業の部門を定義して編成する機能などの多数の機能を扱うための設定を適用できます。クライアント・コンピューターは、これらの設定やその他のコンピューター・プロパティに従って自動的にグループ化できます。これにより、特定のドメインを特殊な修復の対象にすることができます。設定を使用して、リレー、帯域幅、アイドル時間、バッファなど多数の要素が定義されます。

メイン・インターフェースにあるドメイン・パネルのナビゲーション・ツリー内の「コンピューター」アイコンでは、多数のコンピューターをさまざまなプロパティでフィルタリングおよびソートできるので、ネットワークの状況を簡単に把握できます。

視覚表示ツールでは、グローバルに分散した大規模ネットワークを素早く監視し、修復の適用状況とコンプライアンスを企業全体で追跡することができます。Web レポートでは、オペレーターがブラウザーにアクセスして監査証跡を表示し、わずか数回のクリックでリストやグラフィック・レポートを生成することができます。

## コンピューターに対するアクションの実行

コンピューターに対して以下のアクションを実行できます。

### 更新の送信

任意のコンピューターを右クリックし、「**更新の送信**」を選択すると、表示されているコンピューター情報が更新されます。

### Wake On LAN 要求の送信

任意のコンピューターを右クリックし、「**Wake On LAN 要求の送信**」を選択すると、そのコンピューターの電源が入ります。

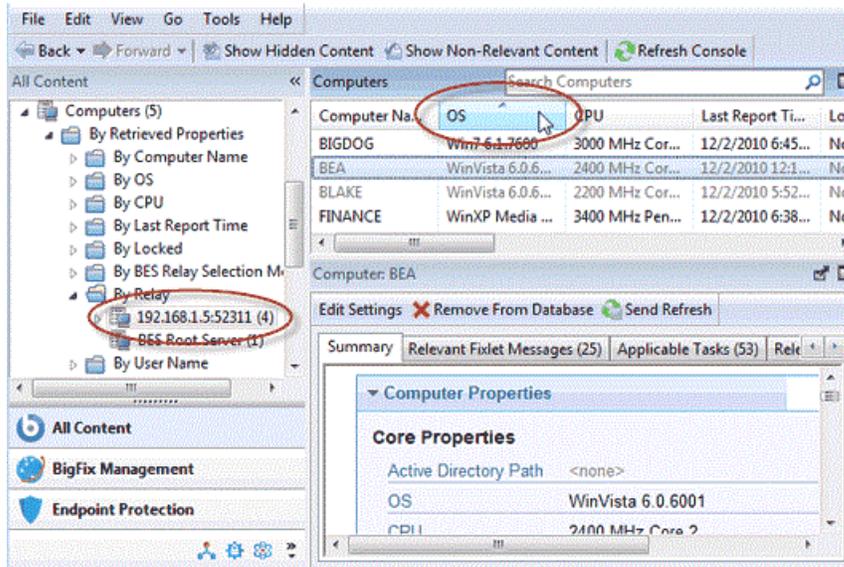
### クライアント・アラート要求の送信

任意のコンピューターを右クリックし、「**クライアント・アラート要求の送信**」を選択すると、そのコンピューターがディープ・スリープ・モードからウェイクアップし、すべてのコンテンツを調べるためのサイクル全体を実行してから、何も変更がない場合は再びスリープ状態に戻ります。

## コンピューター・ステータスのモニター

BigFixネットワーク内のコンピューターを分析できます。Relevance Language を使用して、BigFix クライアントに照会し、リアルタイムで応答を取得できます。これは、ネットワークの傾向や潜在的な問題領域を分析するための非常に有益な手段になります。ネットワーク内のコンピューターをさまざまなプロパティ別にソートおよびフィルタリングして表示するには、以下の手順に従ってください。

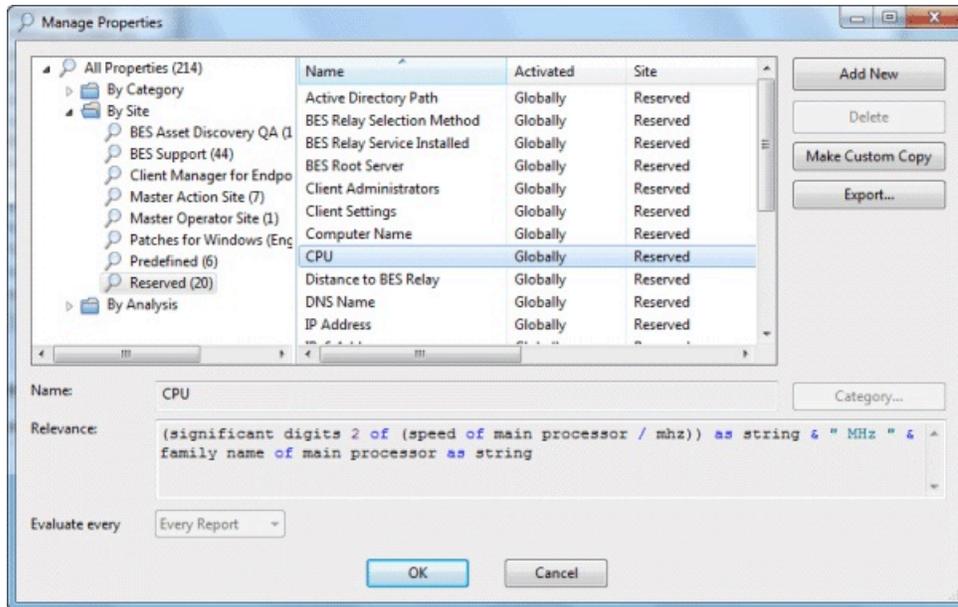
1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター**」アイコンを選択します。ネットワークのクライアント・コンピューターがリスト・パネルに表示され、各種プロパティ別にソートおよびフィルタリングできる状態になっています。
2. リストをフィルタリングするには、「**取得プロパティ別**」を（「**コンピューター**」アイコンの下のナビゲーション・ツリーで）クリックして、フォルダーを開きます。



リストをソートするには、結果のリスト・パネルで目的の列ヘッダーをクリックします。もう一度クリックすると、ソート順が逆になります。

フォルダー名および列ヘッダーは、ネットワーク・コンピューターの重要かつ絶えず更新されるプロパティ (取得プロパティと呼ばれます) を表します。列ヘッダーを定義する関連式を表示するには、以下のようにします。

1. 「ツール」メニューから「プロパティの管理」を選択します。ダイアログが開き、初期段階ではBigFixで事前定義済みのデフォルト・プロパティ (「OS」、 「CPU」、 「コンピューター名」、 など) がリストされています。
2. 取得プロパティをクリックします。すぐ下のテキスト・ボックスに、この列を定義するために使用されている関連式が表示されます。



例えば、「CPU」というヘッダーの付いた列は、以下の関連式によって生成されます。

**(significant digits 2 of (speed of main processor / mhz)) as string & "Mhz" & family name of main processor...**

つまり、「CPU」は、関連式とストリングを連結したもので、以下のような出力を生成します。

**2800 Mhz Pentium 4**

- 各プロパティには、評価期間があります。この期間が短いほど、クライアントがそのプロパティを評価する頻度が高くなります。そのため、コンソールはより最新の状態になりますが、クライアントのパフォーマンスに影響が出る場合もあります。評価に時間がかかる関連式や変更速度が遅い関連式には、長い期間を割り当てるようにしてください。

コンピューター・リスト・パネルの列ヘッダーを右クリックすると、表示するプロパティを素早く選択できます。表示されるポップアップ・メニューで、表示するプロパティにチェック・マークを付けたり、チェック・マークを外したりすることができます。ヘッダーからプロパティを削除すると、そのプロパティは「コンピューター」タブの下のナビゲーション・ツリーからも削除されることに注意してください。

## コンピューターのグループ化

BigFix コンソールでは、コンピューターをより効率的に対象として指定できるように、グループ化できます。例えば、特定の既存のソフトウェア・プロジェクトに干渉しないようにするために、開発用コンピューターをグループ化することができます。コンピューターはいくつかの方法でグループ化できますが、最もよく使用される手法は**手動でのグループ化**と**自動でのグループ化**の2つです。手動グループは静的ですが、自動グループは包含プロパティの現在の値に応じて動的に変化します。

グループを作成すると、ネットワーク・コンピューターを簡単にフィルタリングして分離できるようになります。ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「コンピューター」アイコンを開き、「**グループ別**」フォルダーを選択します。これで、リストに追加するグループを選択できます。あるいは、「**コンピューター・グループ**」アイコンをクリックし、そのアイコンの下にあるグループを選択することもできます。

コンピューターのリストが表示されているときは必ず、「**グループ別**」フォルダーが見つかるはずですが、例えば、Fixlet またはタスクで「アクション」ボタンをクリックすると、選択した Fixlet の影響を受けるコンピューターのみをリストに表示する「**関連するコンピューター**」アイコンが表示されます。「**グループ別**」フォルダーを開いて、選択したグループのみが表示されるようにコンピューターのリストを絞り込みます。

 **注:** コンピューターは、複数のグループに属することができます。

## コンピューターについてのコメント

BigFix クライアント・コンピューターに、他のオペレーターが読むことのできるコメントを添付できます。

1. コンピューターのサブカテゴリーの1つを選択してリストを絞り込む場合は、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター**」アイコンを選択し、そのアイコンを開きます。
2. 右側のリスト・パネルでコンピューターをクリックして選択します。
3. その下の文書パネルで、「**概要**」タブを選択します。

4. ページの下部までスクロールし、テキスト・ボックスにコメントを入力して、「**コメントを追加**」ボタンをクリックします。

入力したコメントには、そのコメントを見る他のオペレーター向けに、入力者の名前と時刻がスタンプされます。コンピューターと同様に、Fixlet、タスク、アクション、および分析にもコメントを添付することができます。

## 取得プロパティの作成

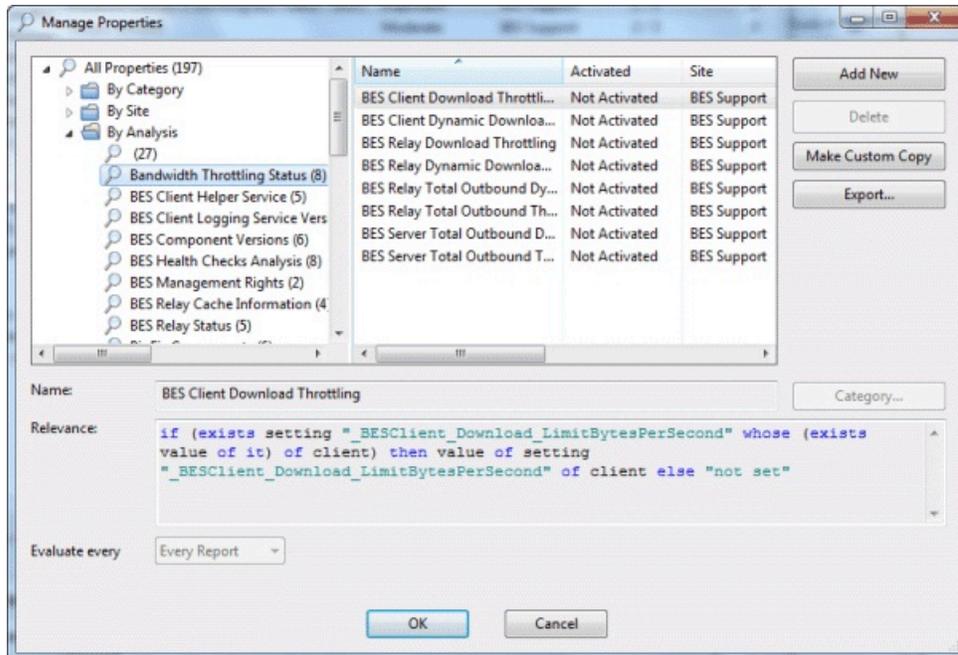
さまざまな**取得プロパティ**を定義して、BigFix クライアントから情報を収集できます。幅広いコンピューター属性を取得プロパティとして監視することができます。いくつかの理由から、独自のカスタム取得プロパティを作成することが推奨されています。

- 取得プロパティを作成すると、それ以降のすべてのコンピューター・リストでそのプロパティをフィルターとして使用できます。これにより、通常は視覚化が難しい可能性があるデータ・セットを制御することができます。
- 新たに作成したプロパティは、コンピューター・リストの列ヘッダーに追加され、その値でリストをソートすることができます。
- 取得プロパティを使用して、Fixlet アクションの対象を微調整することができます。
- 取得プロパティは、Web レポートで使用してグラフ化することもできます。

BigFix では、頻繁に要求される多数の条件でコンピューターをグループ化するのに十分な、一連の取得プロパティが事前に定義されています。ただし、場合によってはクライアントのグループ化とソートをよりいっそう制御することが必要になります。

プロパティを作成するには、以下の手順に従います。

1. 「**ツール**」 > 「**プロパティの管理**」を選択します。「プロパティの管理」ダイアログが表示されます。



左側のフィルター・パネルでプロパティをフィルタリングすることで、右側に表示するプロパティのサブセットを選択できます。

- このリストで必要なプロパティが見つからない場合は、新しいプロパティを作成します。「**新規追加**」をクリックし、新しい取得プロパティの名前を入力し、評価する関連式を作成します。これにより、ハードウェア特性やレジストリー項目のほか、クライアント・コンピューター上の特定ファイルに含まれるデータにもアクセスできます。新しいプロパティを定義すると、クライアントが対応する関連式の値を自動的に計算し、データベースに返します。
- 「**OK**」ボタンをクリックします。

**注:** これらのプロパティの一部は、特定のオペレーティング・システムを対象としており、他のオペレーティング・システムの場合は空白の文字列を返します。プロパティに対して複数の結果が取得された場合は、リスト全体が取得されます。

## クライアント・ダッシュボードの作成

コンソール内のダッシュボードに類似したカスタム・BigFix クライアント・ダッシュボードを作成できます。ダッシュボードは、ローカル・コンピューターを分析し、現在の結果

を表示することができる埋め込み関連句を含む HTML ファイルです。ダッシュボードを持つクライアントには、結果のレポートを表示する追加のタブがあります。

クライアント・ダッシュボードを作成するには、\_\_BESData フォルダー内に \_\_UISupport (2つの先行する下線に注意) という名前の新しいフォルダーを作成する必要があります。これは、BES クライアント・フォルダーのサブフォルダーであるため、最終的なパス名は次のようになります。

### Program Files/BigFix Enterprise/BES Client/\_\_BESData/\_\_UISupport

このフォルダーに、ダッシュボード・ファイル (\_dashboard.html) と付随するグラフィック・ファイルを置きます。次にクライアントを起動すると、クライアントはこれらのファイルをインターフェースに取り込んで「**ダッシュボード**」タブに追加します。このタブをユーザーがクリックすると、ダッシュボードによって各関連句の最新の値が計算されて表示されます。

HTML では、以下の形式の特別なタグ内に関連文が埋め込まれています。

```
<?relevance statement ?>
```

例えば、時刻を見つけて表示するには、次のようにします。

```
<?relevance now ?>
```

クライアントは、この文を含むページを表示するときに、関連句「now」を評価し、その値でタグを置換します。次のサンプル HTML では、「Date:」という単語を表示し、次に現在の日時を表示します。

```
<html>
  <body>
    Date: <?relevance now ?>
  </body>
</html>
```

関連度の評価をユーザーが更新できるようにするには、以下の行をファイルに追加します。

```
<html>
```

```
<body>
  Date: <?relevance now ?>
  <A href="cid:load?page=_dashboard.html">Refresh</A>
</body>
</html>
```

この「Refresh」というリンクによって、ページが再読み込みされます。ページが再読み込みされると、関連句が再評価されます。他の関連式をこのページに追加する方法は、簡単に分かります。例えば、OSとコンピューター名を出力するには、以下の2行を追加します。

```
<html>
<body>
  Date: <?relevance now ?>
  Operating System: <?relevance name of operating system ?>
  Computer Name:<?relevance computer name ?>
  <A href="cid:load?page=_dashboard.html"> Refresh </A>
</body>
</html>
```

スタイル・シートを使用して出力をフォーマットすることができます。プリセット・フォーマット用の、デフォルトのスタイル・シートである **offer.css** を使用できます。以下の例のダッシュボードは、タイトル、ヘッダー、更新リンク、および取得プロパティー値のセクションで構成されます。

```
<html>
  <head>
    <link type="text/css" rel="stylesheet" ref="offer.css"></link>
    <title> Dashboard Example</title>
  </head>
  <body>
    <div class="header">
      <div class="headerTitle">
        <font size="6"><?relevance computer name ?></font></div>
```

```

<div class="headerCategory">
  <font size="1">(Last updated: <?relevance now ?>)</font><BR>
  <div>
    <font size="1"><a href="cid:load?page=_dashboard.html">Refresh</
a></font>
  </div>
</div>
<div class="section">
  <div class="sectionHeader">Computer Information</div>
  <div class="subsection">
    <table>
      <tr><td valign="top"> OS: </td>
        <td><?relevance operating system ?></td></tr>
      <tr><td valign="top"> RAM: </td>
        <td><?relevance (size of ram)/1048576 ?> MB</td></tr>
      <tr><td valign="top"> DNS Name: </td>
        <td><?relevance dns name ?></td></tr>
    </table>
  </div>
</div>
</body>
</html>

```

関連式について詳しくは、「**Relevance Language リファレンス**」を参照してください。

## コンピューターのロック

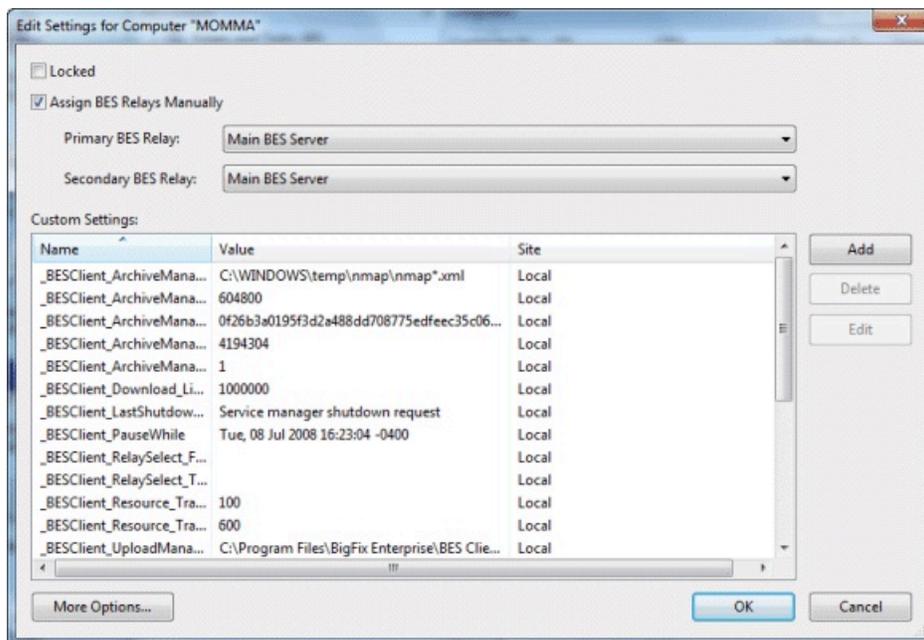
ネットワーク内の任意の BigFix クライアントの**ロック状態を変更**できます。これにより、Fixlet アクションの実行対象から、特定のコンピューターまたはコンピューター・グループを除外することができます。これは、例えば、特定の開発用コンピューターをすべての変更または更新の対象から除外したいという場合に役立ちます。また、限られた一連

のロック解除されたコンピューターで新規 Fixlet アクションをテストし、ネットワークの残りの部分はロックされたままにするための強力な手法を提供します。クライアント・コンピューターは、(明示的にロック解除されるまで) 永続的にロックすることも、定義した期間だけロックすることもできます。

アクションを送信することにより、クライアントのロック状態に変更を加えます。したがって、コンソール・オペレーターは、コンピューターをロックまたはロック解除するための正しい認証を提供する必要があります。クライアントがロックされている場合でも、そのクライアントが受け入れ可能なアクションのサブセットがあります。これらには、クロックの変更、ロック解除アクション、BES サポート・サイトからのアクションなどがあります。

コンピューターをロックまたはロック解除するには、以下の手順に従います。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター**」アイコンをクリックして、ネットワーク接続された BigFix クライアント・コンピューターのリスト・パネルを開きます。
2. ロックするコンピューターを選択します。
3. 右クリックしてメニューから「**コンピューターの設定を編集**」を選択するか、または「**編集**」メニューから「**コンピューターの設定を編集**」を選択します。「設定の編集」ダイアログが開きます。



4. チェック・ボックスをクリックして、コンピューターをロックまたはロック解除します。

コンソールにはロックの有効期限を設定する明示的なインターフェースはありませんが、それを実行するカスタム・アクションを作成できます。詳しくは、[BigFixDeveloper サイト](#)を参照してください。

## コンピューターの削除

この機能を使用すると、廃止状態のコンピューターなど、既にレポートを送ってきていないコンピューターを削除できます。データベースからコンピューターを削除する場合、クライアントのアンインストールまたはアンサブスクライブを行う必要はありません。該当のクライアントが再アクティブ化されてコンソールにレポートを戻すようになると、そのコンピューターは以前の情報を維持したままの状態データベースに組み込まれます。それまでは、そのクライアントはコンソールにリストされません。

データベースからコンピューターを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター**」アイコンをクリックして、リスト・パネルにクライアントのリストを表示します。
2. リスト内のコンピューターを右クリックし、コンテキスト・メニューから「**データベースから削除**」を選択します (または、「**編集**」メニューから「**削除**」を選択します)。
3. 続いて表示されるダイアログで削除を確認します。

このコンピューターは、BigFix クライアント自体によって再アクティブ化されない限り、これ以降コンソールには表示されません。

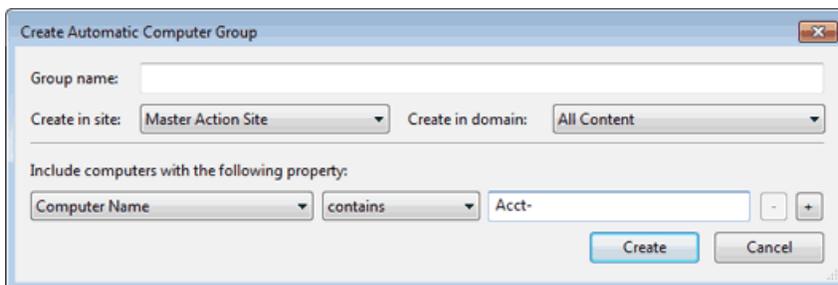
# 第 8 章. コンピューター・グループ

## コンピューター・グループの概要

BigFix クライアント・コンピューターをグループ化して、大規模ネットワークのメンテナンスを簡素化することができます。コンピューターをグループ化する方法は、単純な手動での選択から柔軟性の高い自動でのグループ化までさまざまです。

単純なグループ化の手法では、コンピューター・リスト・パネルのリストからグループのメンバーを手動で選択します。手動での選択内容を簡単に確認するには、右クリックで表示されるコンテキスト・メニューから「**グループとして表示**」をクリックします。作業域に「**アドホック・コンピューター・グループ**」文書が開き、ここでグループのさまざまなプロパティを素早く分析できます。アドホック・グループは一時的なものですが、同じコンテキスト・メニューから「**マニュアル・グループに追加**」を選択することで、永続的なグループを作成できます。これらの手法は簡単ですが、数千台のコンピューターを含むネットワークでは非常に煩わしい作業になる可能性があります。

より強力な手法では、自動でグループ化するための条件を定義します。「**ツール**」メニューから、「**自動コンピューター・グループの新規作成**」を選択します。



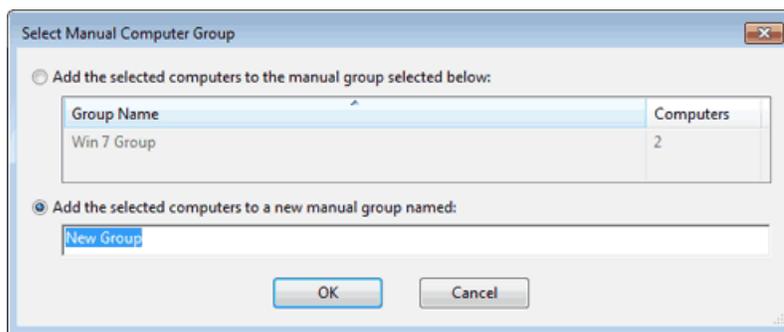
ここでは、特定のコンピューター・プロパティの値に基づいてグループのメンバーシップを定義できます。例えば、関連式を使用して、IP アドレスの範囲、オペレーティング・システム、アプリケーション、およびその他多数の条件によってコンピューターをグループ化することができます。こうして作成されるグループでは、メンバーの登録と登録解除が自動で行われるというメリットがあります。このため、コンピューターの用途を別のタ

スクや部門に変更すると、グループがオペレーターの介入なしに自動的に切り替えられます。

## マニュアル・コンピューター・グループの作成

コンピューター・グループを手動で作成するには、以下の手順に従います。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター**」アイコンをクリックし、結果のリスト・パネルで Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらグループ化するコンピューターをクリックして選択します。
2. 選択したコンピューターを右クリックし、メニューから「**マニュアル・グループに追加**」を選択します。
3. 「**マニュアル・コンピューター・グループの選択**」ダイアログで、選択したコンピューターを既存のグループに追加するか、新しいグループを作成するかを選択できます。



既存のグループを選択するか、新しいグループを指定して、「**OK**」をクリックします。

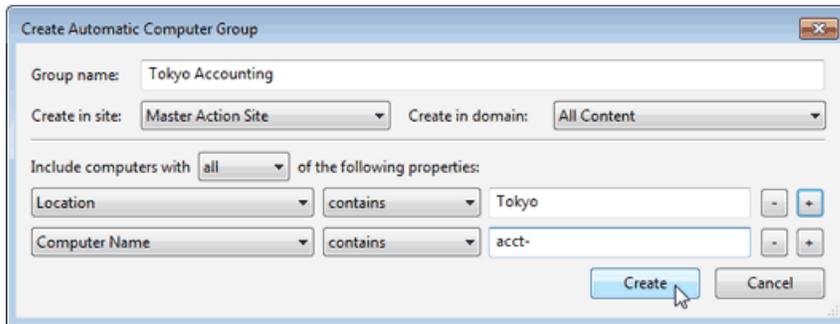
このコンピューター・グループは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリー内の「コンピューター・グループ」アイコンの下に追加され、ネットワーク・コンピューターを適度なサイズの単位に分割するために役立ちます。

グループでは、デバイスに対する管理権限を持つすべてのオペレーターがメンバーシップを編集できるグローバル・スコープのグループ化メカニズムが使用されています。手動グループはマシンに対する権限を持つオペレーターによって共有されますが、動的なグループにはそれぞれ独自のスコープがあります。

## 自動コンピューター・グループの作成

コンピューターを自動的に登録するグループを作成するには、以下の手順に従います。

1. 「ツール」 > 「自動グループの新規作成」をクリックします。
2. 「自動コンピューター・グループの新規作成」ダイアログで、グループの名前を入力し、グループを配置するサイトとドメインを選択します。



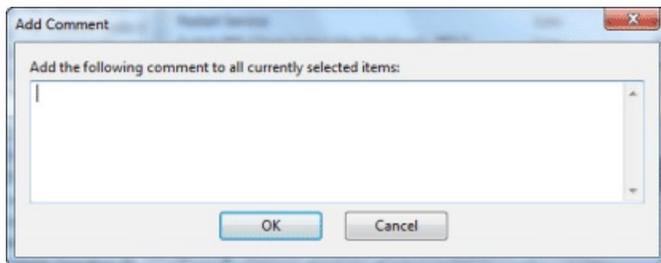
3. ダイアログの下部にある3つのボックスに、プロパティ、関係、および値を入力します。例えば、Windows コンピューターを自動的に登録するグループを作成するには、「OS」「含む」「Win」を選択します。「+」ボタンをクリックして、グループ・メンバーシップを特定するために AND (すべてのプロパティを含む) または OR (いずれかのプロパティを含む) で連結できる新しいプロパティを追加します。
4. 作業が完了したら、「作成」をクリックしてグループの設定を伝達します。

これで、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーの「コンピューター・グループ」アイコンの下に新しい自動コンピューター・グループが表示されます。この自動コンピューター・グループを使用して、ネットワークをより操作しやすい単位に分割することができます。静的に定義されるマニュアル・グループとは異なり、自動グループはグループのプロパティの評価に応じてグループの母集団が変動します。

## コンピューター・グループについてのコメント

コンピューター・グループに、他のオペレーターが読むことのできるコメントを添付できます。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター・グループ**」アイコンを開き、アイコンの下でカテゴリーの1つを選択しリストを絞り込みます。
2. 右側にある結果のリスト・パネルでコンピューター・グループをクリックして選択します。
3. その下の文書パネルで、「**説明**」タブを選択します。
4. ページの下部までスクロールし、テキスト・ボックスにコメントを入力して、「**コメントを追加**」ボタンをクリックします。



入力したコメントには、そのコメントを見る他のオペレーター向けに、入力者の名前と時刻がスタンプされます。コンピューター・グループと同様に、Fixlet、タスク、アクション、および分析にもコメントを添付することができます。

## コンピューター・グループの削除

BigFix 管理からコンピューターを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター・グループ**」アイコンをクリックします。
2. 結果のリスト・パネルでコンピューター・グループを右クリックし、コンテキスト・メニューから「**削除**」を選択します (または、「**編集**」メニューから「**コンピューター・グループの削除**」を選択します)。

このコンピューター・グループがリストから削除されます。

# 第 9 章. 分析

## 分析の概要

分析はプロパティ式のコレクションであり、オペレーターはこれを使用することで、ネットワーク上の BigFix クライアント・コンピューターの各種プロパティを表示および要約できます。この集合はグループとしてラベルを付けられ、編集され、コンピューターのグループに対してアクティブ化されます。これにより、結果をまとめて表示することができます。例えば、ネットワークにカスタム・アプリケーションをインストールした場合に、そのカスタム・アプリケーションに関連したマシンの状態についての重要な情報を得るための分析を作成するとします。以下のような複数のプロパティで分析を作成します。

- カスタム・アプリケーションがインストールされているか。
- カスタム・アプリケーションのバージョンは何か。
- アプリケーションは現在稼働中であるか。

これらのプロパティで構成された分析により、オペレーターはマシンのグループに対して分析をアクティブ化して、このカスタム・アプリケーションに関連するネットワークの状態を可視化することができます。

ネットワーク・コンピューターの重要な側面 (ハードウェア、アプリケーション、サーバー/リレー/クライアントの関係など) を調査するいくつかの分析があらかじめ作成されています。

このようなデフォルトの分析を研究すると、独自の分析の作成や既存の分析のカスタマイズを行う際の参考になります。カスタム分析は、個々の会社の運営にとってきわめて重要なネットワークの各側面を監視する際に役立ちます。

各分析の基礎となる取得プロパティは、関連式を使用して作成されます。例えば、最新の BigFix クライアント・ソフトウェアを完全にインストールしていることを確認するには、**version of client** などの式を使用します。この単純な式は、分析の対象であるすべてのコンピューターで評価されます。これによりオペレーターは、各コンピューターで稼働し

ている BigFix クライアントのバージョンを明確に確認したり、各バージョンを実行しているマシンの台数の概要を確認したりできます。

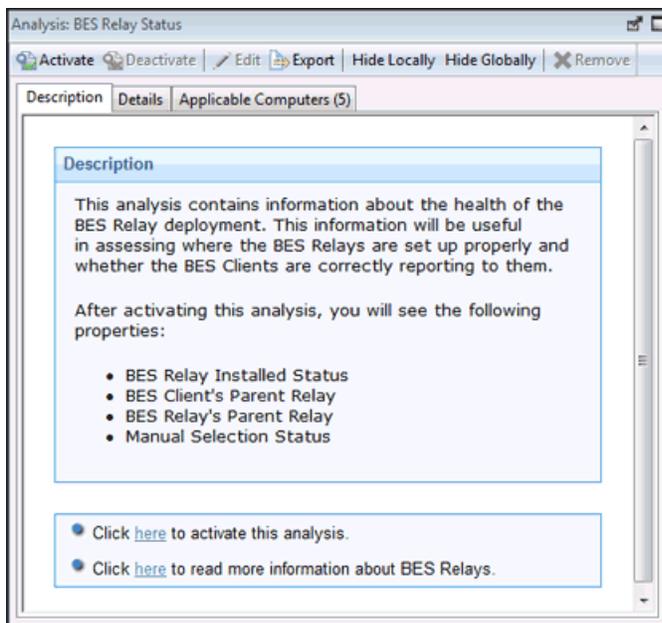
分析の対象指定は、さらに別の関連文で行います。例えば、接続されているすべてのクライアントを対象に指定する場合は TRUE という単純な関連文を使用します。一般には、**name of operating system as lowercase starts with "win"** (分析の対象を Windows コンピューターに限定) などの関連文を使用して範囲を絞り込みます。

## 分析の表示

分析を表示するには、以下のようにします。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「分析」アイコンをクリックします。
2. 結果の「分析」リスト・パネルで、エントリーをクリックします。

リストの下の作業域 (まだ選択されていない場合は「説明」タブをクリック) に分析の本文が表示されます。



分析の表示領域には、いくつかのタブがあります。

- 「説明」: これは HTML ページで、分析に関する説明が示されています。

- **「詳細」**：このパネルには、選択された分析のプロパティ別のプロパティ・リスト、および選択されたコンピューターを対象として使用されている関連文が表示されます。下部には、この分析に付加するコメントを入力するためのテキスト・ボックスがあります。
- **「結果」**：このダイアログには、分析の実際の結果がリストされます。このリストは、事前に割り当てたプロパティによってフィルタリングおよびソートすることができます (このタブは分析がアクティブになっている場合のみ利用可能です)。
- **「適用可能なコンピューター」**：これは、選択した分析が適用可能なすべてのコンピューターのフィルター/リストです。左のフォルダーから項目を選択してリストをフィルタリングし、列ヘッダーをクリックしてリストをソートすることができます。

## 分析のモニター

分析をアクティブ化すると、BigFix は、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーの「分析」アイコンによって表示されるリストに、その分析を追加します。分析リスト・パネルには、以下の列ヘッダーによりソート可能なエントリーがあります。

- **「名前」**：作成者が分析に割り当てた名前。
- **ステータス**：分析のアクティブ化の状態。
- **「サイト」**：関連している分析を生成しているサイトの名前。
- **「適用可能なコンピューターの数」**：ネットワーク内で現在分析されている BigFix クライアントの数。
- **「アクティブ化したユーザー」**：この分析をアクティブ化したコンソール・オペレーターの名前。
- **「アクティブになった時刻」**：分析がアクティブ化された日時。

ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーのすべてのアイコンと同様に、分析アイコンを開いてその下の任意のアイコンを選択することによって、このリストをフィルタリングできます。各アイコンをクリックすると、右に詳細な分析リストが表示されます。その後、リスト表示領域で、列ヘッダーをクリックして分析をソートできます。

例えば、「アクティブ化された分析」サブアイコンを開き、次に「アクティブ化したユーザー」フォルダーを開いて特定のオペレーターを選択することにより、リストをフィルタ

リングして、そのオペレーターがアクティブ化した分析のサブセットを表示することができます。

## 分析についてのコメント

分析に、他のオペレーターが読むことのできるコメントを添付できます。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**分析**」アイコンを選択し、その下のサブカテゴリーの1つを選択してリストを絞り込みます。
2. 結果として表示される右側のリスト・パネルで分析をクリックして選択します。
3. 下の作業域で「**詳細**」タブを選択します。このダイアログの下部までスクロールして「コメント」テキスト・ボックスを表示します。
4. テキスト・ボックスにコメントを入力し、「**コメントの追加**」ボタンをクリックします。

入力したコメントには、そのコメントを見る他のオペレーター向けに、入力者の名前と時刻がスタンプされます。分析と同様に、Fixlet、タスク、アクション、およびコンピューターにもコメントを添付することができます。

## 分析の作成

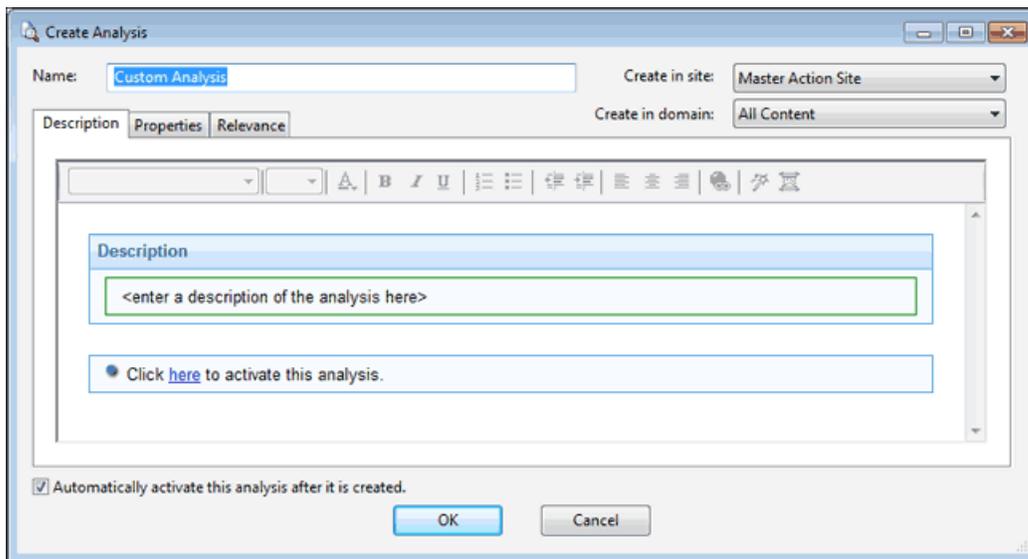
分析では、管理対象の BigFix クライアントの指定プロパティーを作成してトラッキングできます。これらのプロパティーはネットワークの任意のサブセットから取り出すことができるため、インベントリー、ライセンス交付、セキュリティー、およびポリシーを管理するプロセスが簡素化されます。Web レポートを使用して、各分析の履歴を確認することができます。

分析は、マスター以外のオペレーターが取得プロパティーを作成する唯一の手段でもあります。これらのオペレーターは「**プロパティーの管理**」ダイアログにアクセスできないためです。

独自のカスタム分析を作成するには、以下の手順に従います。

1. 「**ツール**」 > 「**分析の新規作成**」を選択します。

2. 「分析の作成」ダイアログが開き、新しい分析の名前を入力するためのテキスト・ボックスが表示されます。



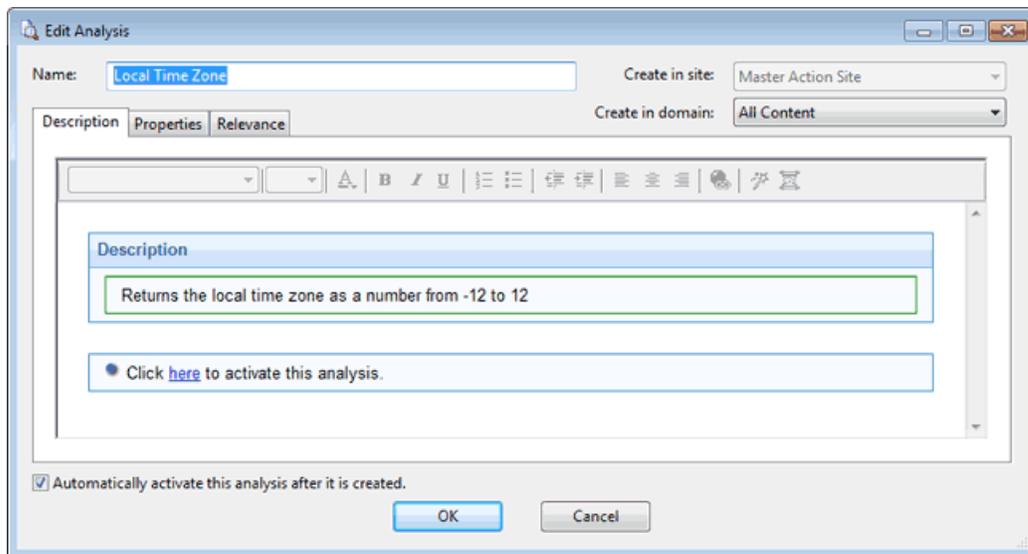
この名前はソートとフィルタリングに使用できるため、分析にアクセスしやすくなるように、一貫性のある命名規則を作成してください。名前を入力し、右側のドロップダウン・メニューから分析のホスト・サイトとドメインを選択します。このダイアログには3つのタブがあります。各タブを順にクリックして分析を定義します。

- **説明:** このダイアログでは、分析を説明するテキストを入力できます。テキスト・ボックスの上部にあるテキスト編集ツールを選択して、カスタム・コンテンツを作成できます。
  - **「プロパティ」:** 「プロパティを追加」ボタンをクリックし、名前と関連式(返されるプロパティ値を作成するために評価される式)を指定して、分析の中心となる取得プロパティを追加します。
  - **関連度:** この分析の対象として選択されるコンピューターを判別する別の関連式を入力します。
3. 分析を自動的にアクティブにする場合は、ダイアログの下部にあるボックスにチェック・マークを付けます。分析の定義に問題がない場合は、「OK」をクリックします。
4. 完成した分析は伝達する必要があるため、秘密鍵のパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。パスワードを入力して「OK」をクリックすると、分析がすべてのクライアントに送信され、各クライアントで関連度が評価され、そのステータスが折り返し報告されます。これで、ネットワーク・クライアントの指定プロパティをコンソールから監視できるようになります。

## 分析の編集

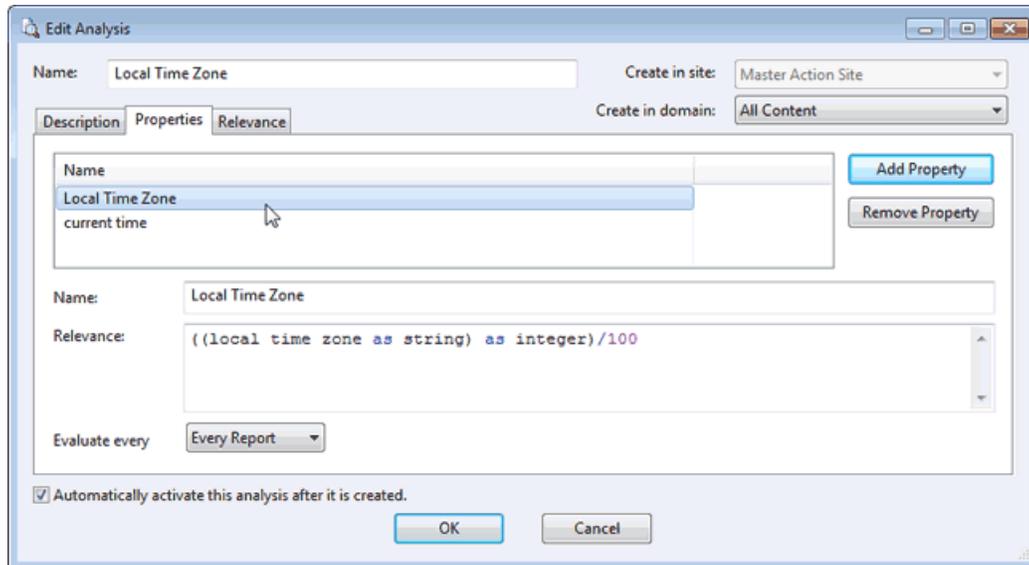
分析を編集するには、以下の手順に従います。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**分析**」アイコンを開き、フィルターとして「**マイ・アナリシス**」を選択します。結果として表示されるリスト・パネルで、編集する分析を選択します。編集可能でない分析もあるので注意してください。
2. 「**編集**」>「**カスタム分析を編集**」を選択します (または、分析を右クリックし、ポップアップ・メニューから「**編集**」を選択します)。
3. 「**分析の編集**」ダイアログが開きます。



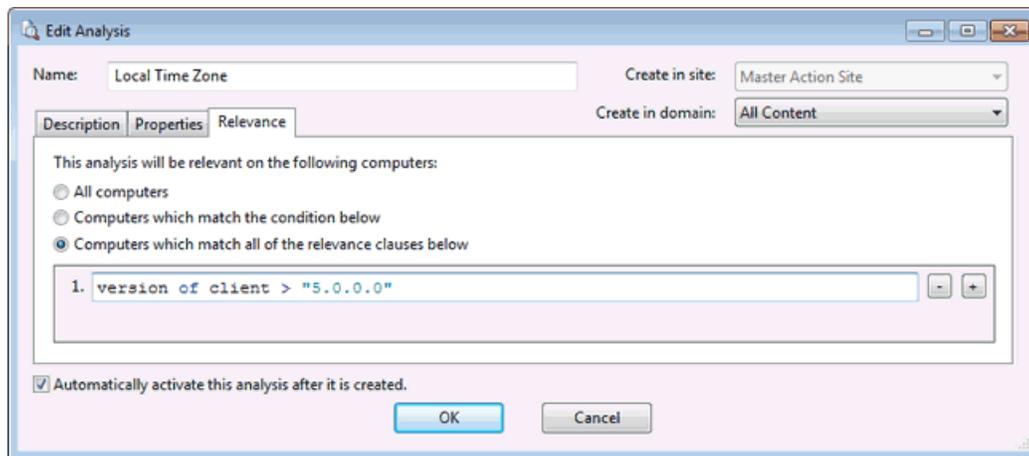
分析の**名前**を編集し、プルダウン・メニューからホスト先のサイトとドメインを選択します。その下には3つのタブがあります。各タブを順にクリックして分析をカスタマイズします。

- **説明:** 分析対象のプロパティを説明するように、分析の説明を編集します。
- 「**プロパティ**」: これは分析の核となる部分です。



「プロパティを追加」をクリックするか、既存のプロパティを選択すると、「関連度」ボックスが編集可能になります。新しいプロパティを追加する場合は、名前と関連度を入力してプロパティを定義します。そうでない場合は、既存のテキストを編集します。関連句は、評価されて取得プロパティ値を返します。プロパティをさらに追加したり、「プロパティを削除」ボタンをクリックして強調表示されたプロパティを削除したりできます。

- 「関連度」：ここでは、分析の対象となる特定のコンピューターを指定するための関連文を定義します。



「すべてのコンピューター」を選択するか、またはネットワーク・クライアントのサブセットを対象にする式を入力します。あるいは、分析の適用を制限する特定の条件または関連句を設定できます。

4. 編集内容に問題がない場合は、「OK」をクリックします。
5. 完成した分析は伝達する必要があるため、秘密鍵のパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。パスワードを入力して「OK」をクリックすると、編集した分析がすべてのクライアントに送信されます。

## 分析を非表示にする

分析は以下の手順で非表示にすることができます。

1. 任意の分析リスト・パネルから、非表示にする分析を選択します。
2. 分析を右クリックし、コンテキスト・メニューから「**分析を全体で非表示にする**」または「**分析をローカルで非表示にする**」を選択します (または「**編集**」メニューから同じ項目を選択します)。

選択した分析が分析リストに表示されなくなります。分析をローカルで非表示にした場合、他のコンソール・ユーザーにはその分析が引き続き表示されます。マスター・オペレーターは、分析を全体で非表示にして、マスター以外のすべてのユーザーに対してもその分析を非表示にすることができます。

非表示にした項目は引き続き使用可能であり、いつでも復元または再表示できます。その方法を以下に示します。

1. コンソール・ツールバーで、「**非表示コンテンツを表示**」アイコンをクリックします。
2. 復元する分析を右クリックし、ポップアップ・メニューから適切なアクションを選択します。再表示するか、または非表示の範囲を全体とローカルの間で切り替えることができます。

# 第 10 章 個のベースライン

## ベースラインの概要

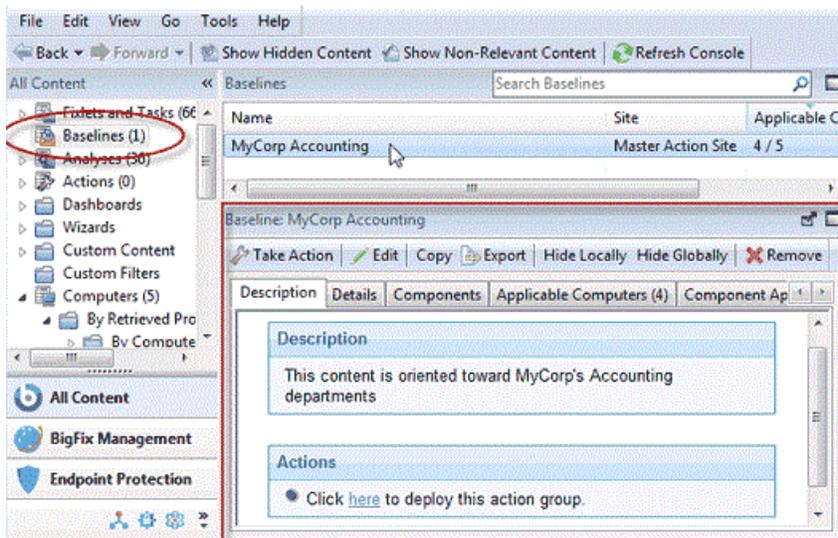
ベースラインは、Fixlet メッセージとタスクの集合です。ベースラインを使用すれば、アクションのグループを 1 つのコマンドでネットワーク全体に効率的に適用することができます。

ベースラインを使用すれば、共通の稼働環境を維持できます。これにより、ある特定のドメイン内のすべてのユーザーが、確実に同じソフトウェア、パッチ、およびドライバーを使用するようになります。ベースラインは、グループに組み込む Fixlet メッセージ、タスク、およびその他のベースラインを選択するだけで簡単に設定できます。ベースラインの適用範囲を限定するには、関連式で IP アドレス、コンピューター名、オペレーティング・システム、その他のさまざまな限定子を使用してネットワークのサブセットを対象に指定します。

例えば、「All critical hotfixes」という名前のベースラインを作成し、Fixlet リストに表示されている最新のきわめて重要なホット・フィックスすべてをそのベースラインに取り込むことができます。あるいは、「Finance department baseline」という名前のベースラインを作成して、その特定のコンピューター・グループが最新の財務プログラム、財務テーブル、更新、およびパッチで常に更新されるようにすることができます。

## ベースラインの表示

ベースラインを使用すると、Fixlet メッセージとタスクをグループ化して 1 グループにし、ワンクリックで簡単に適用操作ができるようになります。既存のベースラインを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーでベースライン・アイコンをクリックします。結果のリスト・パネルから項目をクリックします。ベースラインの本文が下部の作業域に表示されます。



ベースラインの表示領域には、複数のタブがあります。

- **「説明」**：これは通常、問題とそれを修正するためのアクションに関する説明が示された HTML ページです。
- **「詳細」**：このタブには、ベースライン・プロパティがリストされています。このタブのセクションには、関連式およびベースライン・アクションの背後にあるコードと、その他のベースライン・プロパティについての詳細が示されます。下部までスクロールすると、自分用または他のコンソール・オペレーターのためのメモとして、コメントを入力できます。
- **「コンポーネント」**：このタブには、コンポーネント、つまり Fixlet メッセージ、タスク、およびこのベースラインにグループ化されたその他のベースラインがリストされています。ベースラインではコンポーネントのコピーを作成するので、これらのコピーのいずれかが、コピーの作成元の Fixlet またはタスクと同期していない場合があります。この状況が発生すると、ソースがコピーと異なることを示すメッセージが表示され、現行ソースとの同期が可能なことが通知されます。
- **「適用可能なコンピューター」**：これは、選択したベースラインの対象となっているすべてのコンピューターのフィルター/リストです。左のフォルダーから項目を選択してリストをフィルタリングし、列ヘッダーをクリックしてリストをソートすることができます。
- **「コンポーネントの適用条件」**：これは、ベースラインの各種コンポーネントのフィルター/リストです。ここには、ベースラインを現在適用できるコンピューターの数が表

示され、スラッシュの後に、適用できないコンピューターの数が表示されます。項目を表示して検査するには、リストの項目をダブルクリックします。

- **「アクション履歴」**：これは、このベースラインから適用されたアクションのフィルター/リストです。新規のベースラインの場合は、リスト内にアクションはありません。コンソール内の他のフィルター/リストと同様に、左のパネルを使用してアクションをフィルタリングし、列ヘッダーをクリックすることでアクションをソートすることができます。

## ベースラインのモニター

ベースラインがネットワーク内のどこかで関連状態になると、BigFix コンソールは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーの「**ベースライン**」アイコンの下に表示されるベースラインのリストにそれらのベースラインを追加します。アイコンを開いてサブセットの1つを選択することによって、このリストをフィルタリングできます。右に表示される結果のリスト・パネルで、列ヘッダーの1つをクリックしてベースラインをソートできます。列ヘッダーに含まれている可能性があるフィールドは以下のとおりです。

- **名**：作成者がベースラインに割り当てた名前。
- **ID**：作成者がベースラインに割り当てた数値 ID。
- **サイト**：関連するベースラインを生成しているサイトの名前。
- **「適用可能なコンピューターの数」**：ネットワーク内で現在このベースラインの対象になっているBigFixクライアントの数。
- **「オープンなアクション数」**：該当のベースラインに対して開かれているアクションの数。

上にリストされている列のいずれかが表示されない場合は、ベースライン・ヘッダーを右クリックして、ポップアップ・メニューからその列を選択してください。

## ベースラインについてのコメント

ベースラインに、他のオペレーターが読むことのできるコメントを添付できます。

1. ベースラインのサブカテゴリーの 1 つを選択してリストを絞り込む場合は、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**ベースライン**」アイコンを選択し、そのアイコンを開きます。
2. 右側のリスト・パネルでベースラインをクリックして選択します。
3. その下の文書パネルで、「**詳細**」タブを選択し、ページの下部までスクロールします。
4. テキスト・ボックスにコメントを入力し、「**コメントの追加**」ボタンをクリックします。

入力したコメントには、そのコメントを見る他のオペレーター向けに、入力者の名前と時刻がスタンプされます。ベースラインと同様に、Fixlet、アクション、コンピューター、および分析にもコメントを添付することができます。

## ベースラインの作成またはカスタマイズ

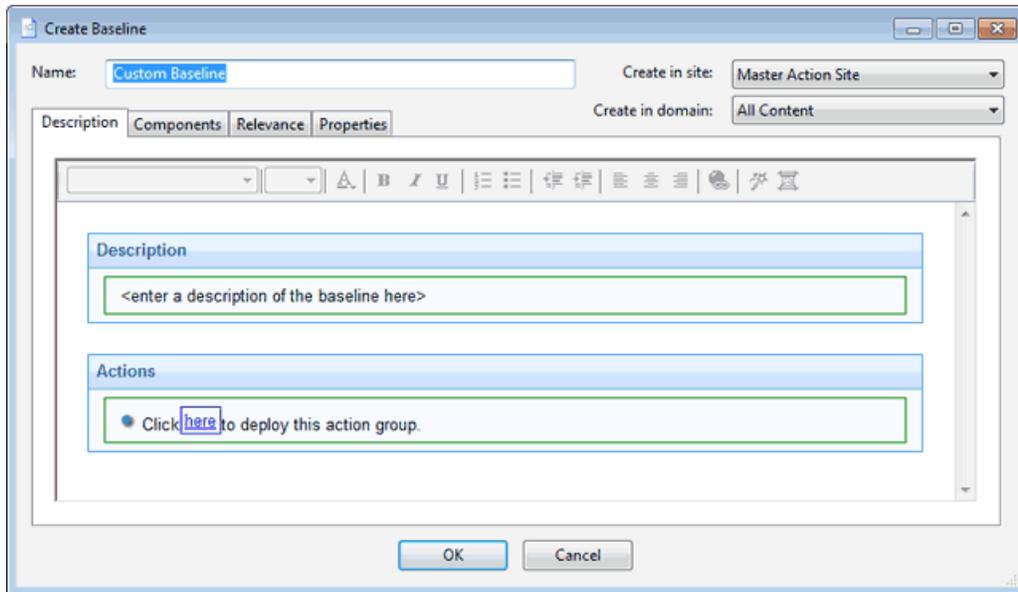
ベースラインを使用して複数の Fixlet とタスクを収集してグループ化し、対象コンピューターのセットに即座に適用することができます。ベースラインと名付けられたのは、社内ガイドラインへのコンプライアンスを確保するためにネットワーク全体にわたって適用できる最小限の条件を示すためです。独自のカスタム・ベースラインを最初から作成するには、以下の手順に従います。

- Fixlet またはタスクのリストで 1 つ以上の項目を強調表示し、コンテキスト・メニューから「**新しいベースラインに追加**」を選択します。「**ツール**」メニューから「**ベースラインの新規作成**」を選択することもできます。

ベースラインを複製してカスタマイズする場合は、まず任意のリストからベースラインを選択し、以下の手順に従います。

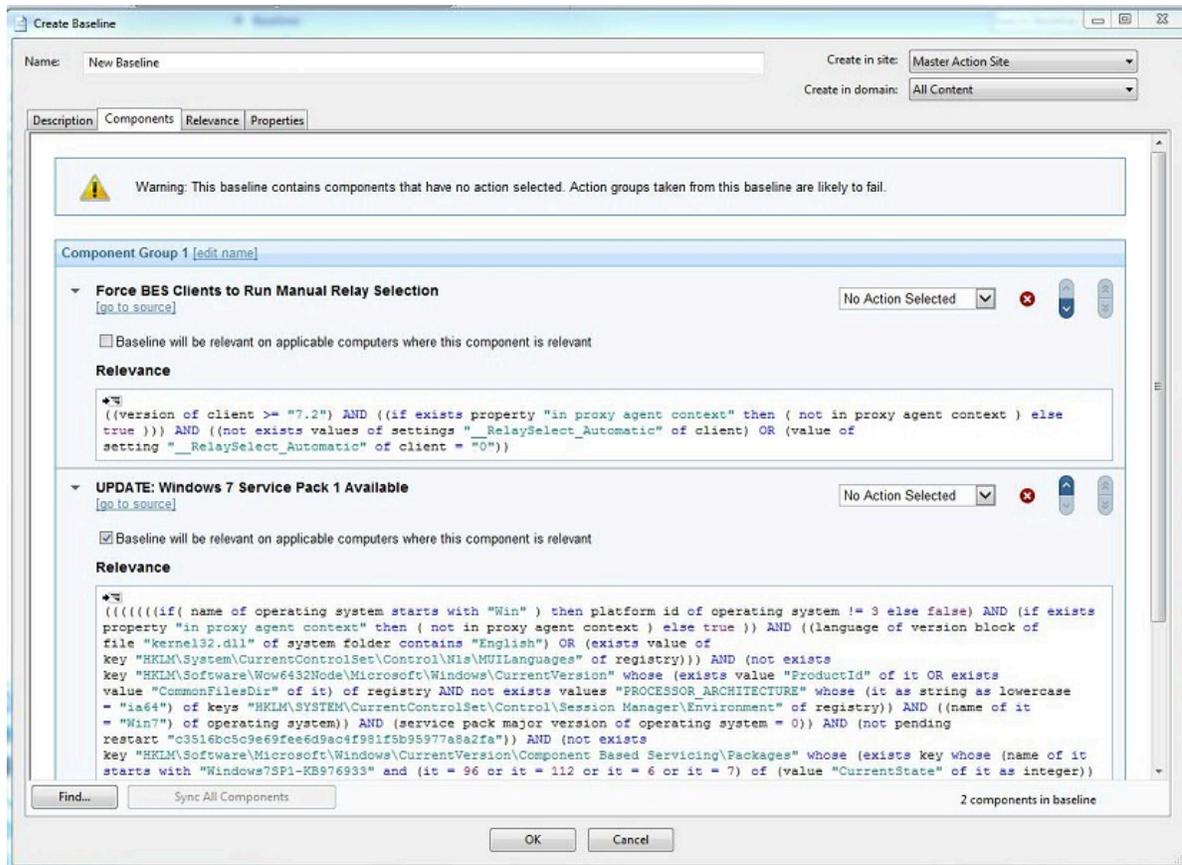
- 「**編集**」>「**カスタム・ベースラインのコピーを作成**」を選択するか、またはベースラインを右クリックしてポップアップ・メニューから「**カスタム・コピーの作成**」を選択します。

どちらの場合も、4 つのタブを持つダイアログが開きます。



ダイアログの上部で、カスタム・ベースラインの名前、およびこのベースラインをホストするサイトとドメインを指定できます。その下の各タブを順にクリックして、ベースラインを定義します。

- **「説明」**：このダイアログでは、カスタム・ベースラインの説明を HTML ページとして記述できます。ウィンドウ上部のテキスト・ツールバーを使用してテキストを編集します。
- **「コンポーネント」**：ベースラインのコンポーネントを追加またはカスタマイズすることができます。新しいコンポーネントを追加するには、「**グループにコンポーネントを追加**」リンクをクリックします。結果のダイアログで、既存のベースライン・グループに追加する新しい Fixlet メッセージ、タスク、およびその他のベースラインを選択できます。



上の例では、追加された2つのコンポーネントが展開され、それぞれの関連度を表示しています。チェック・ボックス「このコンポーネントが関連する適用可能なコンピューター上では、ベースラインが関連します」は、関連コンポーネント（タスクまたは Fixlet）によって、そのコンポーネントが関連するコンピューターにベースラインが関連状態にされるかどうかを知らせるために使用されます。デフォルトでは、タスクの場合は未チェック、Fixlet の場合はチェック・マークが付けられています。

**注:** 関連付けられたアクション・グループが関連状態であり、後で開始するようにスケジュールされている場合は、その後に非関連状態になった場合でも開始します。

- 「**関連度**」：ここに関連文を入力するか、既存の関連文を変更できます。これにより、ベースラインの適用対象を特定のコンピューターへとさらに制限できます。デフォルトでは、この関連文は TRUE になります。この場合、ベースラインを構成する個々の Fixlet とタスクで適用対象の指定が行われます。Relevance Language について詳しくは、「Inspector Libraries」を参照してください。

- 「**プロパティ**」: ベースラインのプロパティをカスタマイズするか、元のプロパティをそのまま使用します。ここではベースラインをカスタマイズしているので、ソース・フィールドを更新して新しい作成者を反映させます。このタブには、カテゴリ、ダウンロード・サイズ、ソース情報、および CVE/SANS ID コードを指定するためのフィールドがあります。

ベースラインの変更が完了したら、「**OK**」をクリックします。カスタマイズしたベースラインは伝達する必要があるため、秘密鍵のパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。パスワードを入力して「**OK**」をクリックすると、ベースラインがすべてのネットワーク・クライアントに送信され、各クライアントで関連度が評価され、そのステータスが折り返し報告されます。これで、独自のカスタム・ベースラインの適用状況をコンソールから追跡できるようになります。

## ベースラインを非表示にする

ベースラインは以下の手順で非表示にすることができます。

1. 任意のベースライン・リスト・パネルから、非表示にするベースラインを選択します。
2. ベースラインを右クリックし、ポップアップ・メニューから (または「**編集**」メニューから) 「**ベースラインを全体で非表示にする**」または「**ベースラインをローカルで非表示にする**」を選択します。

選択したベースラインがベースライン・リストに表示されなくなります。ベースラインをローカルで非表示にした場合、他のコンソール・ユーザーにはそのベースラインが引き続き表示されます。マスター・オペレーターは、ベースラインを全体で非表示にして、マスター以外のすべてのユーザーに対してもそのベースラインを非表示にすることができます。

非表示にした項目は引き続き使用可能であり、いつでも復元または再表示できます。その方法を以下に示します。

1. コンソール・ツールバーで、「**非表示コンテンツを表示**」ボタンをクリックします。

2. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**ベースライン**」アイコンをクリックします。これで非表示コンテンツがすべて表示されます。
3. リスト・パネルで、ベースラインを選択して「**編集**」 > 「**非表示**」 > 「**ローカルで再表示**」または「**全体で再表示**」を選択するか、ベースラインを右クリックしてコンテキスト・メニューから同じオプションを選択します。非表示のベースラインを開き、下の作業域で「再表示」ボタンをクリックすることもできます。

ベースラインは単に無視すればよいので、一般には非表示にする必要はありません。ベースラインを非表示にする主な理由は、メッセージがご使用のネットワークと無関係であると思われる場合に、コンソールを起動するたびにベースラインが表示されるのを避けるためです。

# 第 11 章. リレーとサーバー

## リレーの概要

リレーはインストール済み環境のパフォーマンスを大幅に向上できる、オプションのネットワーク・コンポーネントです。多くの場合、ダウンロードやパッチは大規模なファイルであり、プログラムの帯域幅の非常に大きな部分を占めます。リレーは、ダウンロードの負荷の大部分を BigFix サーバーから引き継ぐように設計されています。パッチをサーバーから直接ダウンロードする代わりに、指定されたリレーからダウンロードするようにクライアントに指示できるので、サーバーの負荷とクライアント/サーバーのネットワーク・トラフィックの両方が大幅に減少します。リレーは、クライアントから受信したデータをサーバーに渡す前にコンパイルおよび圧縮するので、アップストリーム方向の処理でも同様に役立ちます。Windows 200x、Windows 7、Vista、または XP ベースのクライアントならどれでも、リレーとして使用できます。その他にも、Solaris や一部の Linux バリエーションなど、同様にリレーをサポートできるオペレーティング・システムがあります。最新情報については、サポート・サイトを参照してください。

1 台のリレーは以下の 2 つのボトルネックを同時に解決します。

- **BigFix サーバーの負荷を軽減します。** このサーバーには多くの任務がありますが、中でも困難なジョブはパッチおよびその他のファイルの配布です。リレーのセットアップによりこの負荷を軽減できるので、サーバーは各クライアントに同じファイルを配布する必要がなくなります。代わりに、ファイルを一度だけリレーに送信すれば、リレーがそのファイルを複数のクライアントに配布します。サーバーのオーバーヘッドは平均して、リレーとクライアントの比率に応じて減少します。
- **低帯域幅接続での輻輳を緩和します。** BigFix サーバーがリモート・オフィスの十数台のコンピューターと低速の VPN 経由で通信している場合、それらのコンピューターの 1 つをリレーとして指定してください。これにより、BigFix サーバーは、各 BigFix クライアントに VPN 経由で個別にパッチを送信する代わりに、1 つのコピーだけをリレーに送信します。リレーは、それ自身の高速 LAN を経由してリモート・オフィスの他のコンピューターにファイルを配布します。これによって、ネットワークのリモート・グループの VPN ボトルネックが効果的に除去されます。

**注:** リレーを LAN 上のスイッチを経由して接続されたサブネットで使用すると、全体のネットワーク使用量も緩和することができます。詳しくは、HCL ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

リレーの割り当ては簡単で、クライアントはリレーを自動的にディスカバーしてリンクするように構成できます。プログラムによってクライアントが最も近いリレーをディスカバーできるようにすることも、クライアントを手動で構成することもできます。

## リレーの要件

リレーは、BigFix サーバーのほとんどのダウンロード・タスクを引き継ぎます。複数のクライアントが同じリレーからのファイルを同時に要求した場合は、それらのファイルを提供するために、かなりの量のコンピューター・リソースを使用する可能性があります。それ以外の場合は、リレーの負荷はそれほど大きいものではありません。リレー・コンピューターの要件は、以下の 3 つの主要な要因に応じて大きく変わります。

- ファイルをダウンロードする接続クライアントの数
- 各ダウンロードのサイズ
- ダウンロードに割り振られた時間

リレーのシステム要件は、ワークグループ・ファイル・サーバーの要件と似ています。1 GHZ の CPU、256 MB の RAM、ハード・ディスク上に 5 GB の空き容量があるコンピューターの場合、コンソール・オペレーターがファイルのダウンロードを適切な時間に配分すれば、1000 台ものコンピューターに対するリレーとして作動できます。以下に、追加の要件と推奨事項を示します。

- リレーをインストールできるのは、Windows 200x、7、Vista、または XP、Red Hat Enterprise Linux 4/5/6/7、および Solaris 10 で稼働しているコンピューターのみです。
- リレーは通常のワークステーションにインストールできますが、複数のクライアントが同時にファイルをダウンロードすると、コンピューターの処理が低下する可能性があります。

- リレーのインストール候補として適しているのは、ワークグループ・ファイル・サーバーを始め、常時電源が入っているサーバー品質のコンピューターです。

## リレーのセットアップ

リレーをセットアップするには、一部のサーバー任務を引き継ぐ Windows 200x、Windows 7、Vista、または XP クライアント・コンピューターを指定する必要があります。リレーがセットアップされると、ネットワーク内のコンピューターは自動的にリレーを検出して接続できます (または、BigFix クライアントが指定のリレーを指すように手動で割り当てることもできます)。

これによって、パッチの適用と管理に必要なクライアント/サーバー通信が大幅に減少します。クライアントはこれらの指定されたリレーからダウンロードを開始するので、BigFix サーバーに対するシン接続の負荷が最小限になります。クライアントはまた、ステータス情報をリレーにアップロードし、リレーはその情報をサーバーに渡す前にコンパイルして圧縮します。

クライアント・コンピューターをリレーとして構成するには、以下の手順に従ってください。

1. ドメイン・パネルから「Fixlet とタスク」を開き、「タスクのみ」を選択します。
2. 「BigFix リレーのインストール」のラベルが付いたタスクをダブルクリックします。その下にタスク・ウィンドウが開きます。「説明」タブが選択されていることを確認してください。リレーのインストール・フォルダーを配置する場所は以下の 3 つから選択できます。
  - 「指定パスにインストールする (Install to a given path)」。このオプションでは、リレーのインストール・フォルダーのパスを指定できます。
  - 「空き容量が最大のドライブにインストールする (Install on the drive with most free space)」。このアクションでは、容量に最も余裕のあるドライブをインストール・フォルダーとして自動的に選択することができます。
  - 「デフォルトの場所にインストールする」。これが推奨アクションです。インストール・フォルダーとして最適の場所が自動的に検出されます。

3. BigFix のデプロイメントでインターネットに接続されたリレーまたは内部のリレー (アクセス保護が望ましい) を、認証リレーとして設定します。リレーを認証として設定する方法については、「[認証リレー \(##### 129\)](#)」を参照してください。

リレーの作成が完了したら、クライアントはリレーを自動的にディスカバーして接続することができます。この場合は常に、経由するホップ数が最も少ないリレーが検出されます。

クライアントを手動で構成する必要がある場合、「[リレーの使用 \(ページ\) 112](#)」で説明するように、特定のリレーを指して使用するよう各コンピューターに通知する必要があります。

## リレーの使用

リレーをセットアップする場合は、ネットワークの BigFix クライアントに、サーバーからでなくそのリレーから情報を収集するように指示する必要があります。BigFix では、自動的にリレーを割り当てることができます。これに伴うリスクがないわけではありませんが、以下の 2 つの理由で得策と言えます (リスクについて詳しくは、「[管理者ガイド](#)」を参照するか、サポート・サイトにアクセスしてください)。

- クライアントは経由するホップ数が最も少ないリレーを判別できるので、トポロジーが最適化されます。
- ラップトップの接続や切り離し、コンピューターの起動やシャットダウン、新規ハードウェアの追加やハードウェアの取り外しなどによって、ネットワーク構成は絶えず変化します。クライアントは、構成を動的に評価し、ネットワークの変更に応じて最も効率のよい接続を維持することができます。

 **注:** リレー・システムでは、エンドポイントに対してローカルであるリレーをプライマリ・リレーとして割り当てないでください。

## 自動リレー

ここでは、BigFix クライアント・コンピューターを最も近いリレーに自動的にサインアップさせる方法を示します。

1. ドメイン・パネルで「**コンピューター**」アイコンをクリックして、BigFix クライアント・コンピューターのフィルター/リストを表示します。
2. 最適なリレーに自動的に接続させる一連のコンピューターを選択します。
3. 強調表示されたコンピューターを右クリックし、ポップアップ・メニューから「**コンピューター設定の編集**」を選択します。
4. 「**リレーの選択方法**」ボックスにチェック・マークを付けます。
5. 「**最適なリレーを自動的に検出**」ボタンを選択します。
6. 「**OK**」ボタンをクリックします。

## 複数クライアントの手動割り当て

ローカル・ネットワークのすべてのコンピューター (または任意のサブセット) を、指定されたリレーから収集を行うように選択できます。設定するのが1台のコンピューターか複数のコンピューターかで、手順が異なります。ここでは、複数のコンピューターが1台のリレーを指すように設定する方法を示します。

1. ドメイン・パネルで「**コンピューター**」アイコンをクリックして、BigFix クライアント・コンピューターのリストを表示します。
2. BigFix リレーに接続するコンピューターのセットを右クリックします。左のフィルター・パネルを使用して、コンピューター・リストをさらに絞り込むことができます。
3. 強調表示されたコンピューターを右クリックし、ポップアップ・メニューから「**コンピューター設定の編集**」を選択します。
4. 「**プライマリー・リレー**」のラベルが付いたボックスにチェック・マークを付けます。
5. プルダウン・メニューからリレーの名前を選択します。
6. 「**OK**」ボタンをクリックします。

## 単一クライアントの手動割り当て

ここでは、1 台のコンピューターが 1 台のリレーを指示するように設定する方法を示します。

1. ドメイン・パネルで「**コンピューター**」アイコンをクリックして、BigFix クライアント・コンピューターのフィルター/リストを表示します。
2. BigFix リレーに接続する 1 台のコンピューターを右クリックします。
3. ポップアップ・メニューから「**コンピューターの設定を編集**」を選択します。
4. 「**リレーを手動で割り当て (Assign Relays Manually)**」のラベルが付いたボックスにチェック・マークを付けます。
5. 「**プライマリー・リレー**」プルダウン・メニューから、リレーを選択します。
6. 「**OK**」ボタンをクリックします。

## BigFix サーバーおよびリレーの調整

BigFix で最高のパフォーマンスを得るには、サーバーとリレーの調整が必要になる場合があります。ネットワーク全体にわたってデータの流れを調整する 2 つの重要な方法として、スロットリングとキャッシングがあります。

### 送信ダウンロード・トラフィックのスロットリング

スロットリングでは、BigFix サーバーの最大データ・レートを設定することができます。データ・レートを変更する方法を以下に示します。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**Fixlet とタスク**」アイコンを開き、「**タスクのみ**」をクリックします。
2. タスク・リストの上の検索ウィンドウで、「スロットリング」と入力して該当するタスクを検索します。
3. 結果のリストで、「**サーバー設定: 送信ダウンロード・トラフィックのスロットリング**」という名前のタスクをクリックします。その下にタスク・ウィンドウが開きます。「**説明**」タブが選択されていることを確認します。以下の 3 つの選択肢があります。
  - **送信ダウンロード・トラフィック総量の上限を設定する**。これを選択すると、サーバーに許可する 1 秒あたりの最大キロバイト数を直接設定できます。

- **設定を無効にする。** これを選択すると、BigFix サーバーでのダウンロード・トラフィックを最大限までスロットリングできます。
  - **詳細情報を入手する。** このオプションを選択すると、帯域幅スロットリングに関する詳細情報を表示するブラウザー・ウィンドウが開きます。
4. スロットリングの上限を選択した場合は、続いて表示される「**アクションの実行**」ダイアログでスロットリングの対象となる一連のコンピューターを選択できます。「**OK**」をクリックしてタスクを伝達します。

### ダウンロード・キャッシュ・サイズ

BigFix サーバーおよびリレーでは、クライアントから最後に要求されたダウンロードのキャッシュを保持することで、必要となる帯域幅を最小限に抑えています。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**Fixlet とタスク**」アイコンを開き、「**タスクのみ**」をクリックします。
2. タスク・リストの上の検索ウィンドウで、「**キャッシュ**」と入力して該当するタスクを検索します。
3. 結果のリストで、「**リレー/サーバー設定: ダウンロード・キャッシュ・サイズ**」という名前のタスクをクリックします。その下にタスク・ウィンドウが開きます。「**説明**」タブが選択されていることを確認します。リスト内のコンピューターのダウンロード・キャッシュ・サイズを変更するためのリンクを選択します。このリストには、BigFix サーバーだけでなくリレーが含まれている場合があります。
4. キャッシュするメガバイト数を入力します。デフォルトは 1024 MB (1 ギガバイト) です。
5. 続いて表示される「**アクションの実行**」ダイアログで、一連のコンピューターを選択し、「**OK**」をクリックします。

## 動的スロットリング

大規模なダウンロードが使用可能になった時、適用環境内の各リンクに、帯域幅に関する固有の問題が生じることがあります。サーバーからクライアントのリンク、サーバーからリレーへのリンク、およびリレーからクライアントへのリンクについて検討する必要があり、それぞれに個別の調整が必要な場合があります。別のセクションで説明したように、単純にデータ・レートの最大値を設定 (スロットリング) することが可能であり、そのために、順守可能な幅広いポリシーが用意されています。例えば、BigFix クライアントでリレーからのホップ数が 3 を超えている場合は、クライアントを 2 KB/秒にスロットリングすることが考えられます。ただし、最適なデータ転送速度は、現在の階層およびネットワーク環境に応じて、大幅に変わる可能性があります。

より適切な手法は、ネットワーク容量全体を監視して分析する動的な帯域幅スロットリングを使用することです。標準的なスロットリングでは最大データ・レートを指定するだけですが、動的なスロットリングでは「ビジュー時間」の比率が加わります。これは、帯域幅のうち、ネットワークがビジューであるときに割り振る部分の割合です。例えば、ネットワーク・トラフィックの存在が検出された場合に、ダウンロードに使用される帯域幅を使用可能な帯域幅の 10% 以下に抑えるように指定できます。動的なスロットリングでは、ビジュー率が低すぎて実際的でない場合のために、最小データ・レートも指定します。

任意のリンクに対して動的スロットリングを有効にすると、現在のデータ・スループットが監視され、分析されて、適切なデータ・レートが設定されます。競合するトラフィックが存在しない場合は、スループットが最大レートに設定されます。トラフィックが存在する場合は、指定したパーセンテージまたは最小レートのどちらか高い方までデータ・レートがスロットリングされます。動的スロットリングを正しく機能させるには、サーバー側とクライアント側の両方で動的スロットリングを有効にする必要があります。

動的な帯域幅スロットリングは、コンピューター設定で制御します。リンクごとに、以下の 4 つの基本的な設定があります。

### **DynamicThrottleEnabled**

この設定のデフォルトはゼロ (無効) です。その他の任意の値の場合、指定されたリンクの動的スロットリングが有効になります。

### **DynamicThrottleMax**

この設定は、通常、デフォルトでは最大の符号なし整数値になります。これはフルスロットルを示します。リンクによっては、この値に、最大データ転送速度 (1 秒あたりのビット数または K ビット数) が設定されます。

### DynamicThrottleMin

この設定のデフォルトはゼロです。リンクに応じて、この値に、最小データ転送速度 (1 秒あたりのビット数または K ビット数) が設定されます。この値は、以下に示すパーセンテージ・レートの下限を設定します。

### DynamicThrottlePercentage

この設定は、デフォルトでは 100% です。100% は、通常の (動的ではない) スロットリングと同じ効果があります。これは、最大帯域幅のうち、ネットワークがビジーであるときに使用する部分の割合です。通常は、5% から 10% の値が使用され、既存のネットワーク・トラフィックよりも優先されることがないようにします。(この設定にゼロを使用すると、100% と同じことになります。)

動的帯域幅設定は、他の設定と同じように作成または編集することができます。つまり、任意のコンピューター・リストで項目 (または項目のグループ) を右クリックし、コンテキスト・メニューから「**コンピューターの設定を編集**」を選択します。

具体的な変数名には以下のものがあります。

### BigFix のサーバー設定とリレー設定:

```
_BESRelay_HTTPServer_DynamicThrottleEnabled  
_BESRelay_HTTPServer_DynamicThrottleMaxKBPS  
_BESRelay_HTTPServer_DynamicThrottleMinKBPS  
_BESRelay_HTTPServer_DynamicThrottlePercentage
```

### BigFix クライアントの設定:

```
_BESClient_Download_DynamicThrottleEnabled  
_BESClient_Download_DynamicThrottleMaxBytesPerSecond
```

```
_BESClient_Download_DynamicThrottleMinBytesPerSecond  
_BESClient_Download_DynamicThrottlePercentage
```

### 一括設定:

```
_BESGather_Download_DynamicThrottleEnabled  
_BESGather_Download_DynamicThrottleMaxBytesPerSecond  
_BESGather_Download_DynamicThrottleMinBytesPerSecond  
_BESGather_Download_DynamicThrottlePercentage
```

**注:** 上記の設定を有効にするには、影響を受けるサービス (サーバー、リレー、またはクライアント) を再起動する必要があります。

サーバーとそれに接続されたクライアントに、異なる最大値と最小値を設定した場合、接続において、2つの値のうち小さい値が選択されます。

## 第章12. ライセンス・カウント・プロセスのアクティブ化

現在、1つ以上の製品へのクライアントの関連付けは、BigFix Inventory (\*) ユーザーによって手動で実行されます。

BigFix Inventory スキャナーを有効にして、この関連付けを自動的に指定するために、管理者は以下の図のライセンス・カウント・プロセスを次の方法でアクティブ化できます。

- オプションで、[クライアントのカテゴリー化 \(##### 121\)](#)の説明に従って、クライアントのメトリックをカテゴリー化する。
- [サイト・マッピング・ファイルの配布 \(##### 124\)](#)の説明に従って、ライセンス交付を受けた製品の情報をクライアントに配布する。
- [ライセンス・タグの生成 \(##### 125\)](#)の説明に従って、各クライアント上で正しいライセンス・タグを生成する。

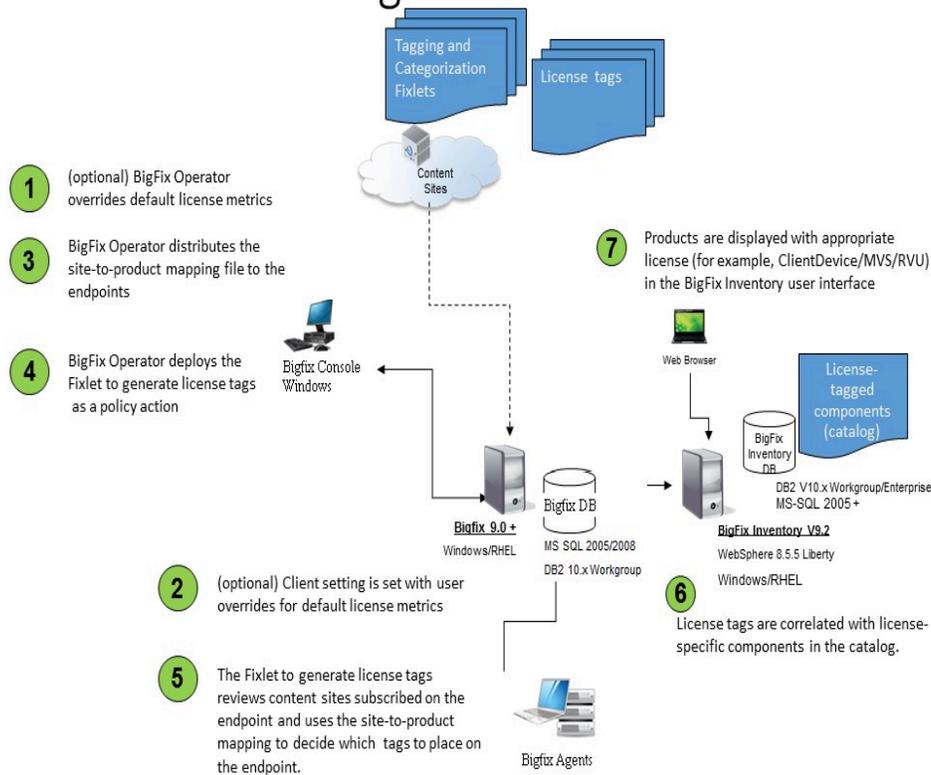
上記のすべてのアクションを実行したら、ソフトウェア・スキャンを実行し、ソフトウェアのデータをインポートして BigFix Inventory に表示される結果を確認する必要があります。

 **注:** (\*) 以下のセクションで説明する概念および手順は、BigFix Inventory と HCL License Metric Tool (ILMT) の両方に該当します。

以下の図は、ライセンス・カウント・プロセスを示しています。

図 1. ライセンス・カウント・プロセス

## License Counting Process flow



## 前提条件

ライセンス・カウント・プロセスをアクティブ化する前に、以下の要件を満たしていることを確認してください。

- BigFix サーバーのバージョンは、9.0 以降でなければなりません。
- サブスクライブしたコンピューターのエージェントのバージョンは、8.2 以降でなければなりません。
- コンソールがインストールされたコンピューター上の Internet Explorer の ActiveX オプションは、以下のとおりです。
  1. 「ツール」 > 「インターネット・オプション」 > 「セキュリティ」 タブに移動します。
  2. 「インターネット」ゾーンを選択します。
  3. 「レベルのカスタマイズ」をクリックします。

4. 「スクリプトを実行しても安全だとマークされていない ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行」を見つけます。

5. これを「ダイアログを表示する」に設定します。

このローカルの Internet Explorer の設定により、「サイト・マッピング・ファイルの配布 (Distribute site mapping file)」 Fixlet を実行できるようになります。

## クライアントのカテゴリー化

クライアントをカテゴリー化する際、ライセンス交付を受けた製品から、選択した製品ごとにデフォルト以外のメトリックをクライアントに割り当てます。

この操作の結果が、以下のクライアント設定の値です。

`_BESClient_LicenseType_productname`

クライアント・オペレーティング・システムに基づいて、製品のデフォルト・メトリックが厳格に決定されます。

以下の表にこのマッピングを示します。

**表 2. クライアント・プラットフォームと製品のデフォルト・メトリック間のマッピング**

OS タイプ	OS 名の例	デフォルト・メトリック
サポートされる Microsoft Windows Server	Solaris、HP-UX、AIX	RVU
サポートされる Microsoft Windows	UNIX	RVU
サポートされる Microsoft Windows	SLES、RHEL、Debian、Ubuntu、Centos	RVU
サポートされる Microsoft Windows Server	Windows 2008、Windows 2012	RVU
サポートされる Microsoft Windows	Windows 7、Windows 8、Windows 10	ClientDevice

OS タイプ	OS 名の例	デフォルト・メトリック
Server 以外の OS		
サポートされる Mac OS X	Leopard、Lion、Yosemite	オペレーティング・システム名で MAC サーバーであるかどうか明確に区別できない場合は、ClientDevice。この場合、デフォルト・メトリックは RVU です。

例えば、クライアントが Red Hat Enterprise Linux (RHEL) である場合、そのクライアントの製品すべてのデフォルト・メトリックは RVU です。

管理者は、1つ以上の製品のデフォルト・メトリックをオーバーライドできます。

すべてのメトリックで可能な値は、RVU、MVS、ClientDevice です。

メトリックを RVU、MVS、または ClientDevice に設定するには、管理者は Fixlet の「**RVU クライアントのカテゴリー化 (Categorize RVU Clients)**」、「**MVS クライアントのカテゴリー化 (Categorize MVS Clients)**」、または「**ClientDevice クライアントのカテゴリー化 (Categorize ClientDevice Clients)**」を実行します。

クライアントをカテゴリー化するには、BigFix コンソールから以下のステップを実行する必要があります。

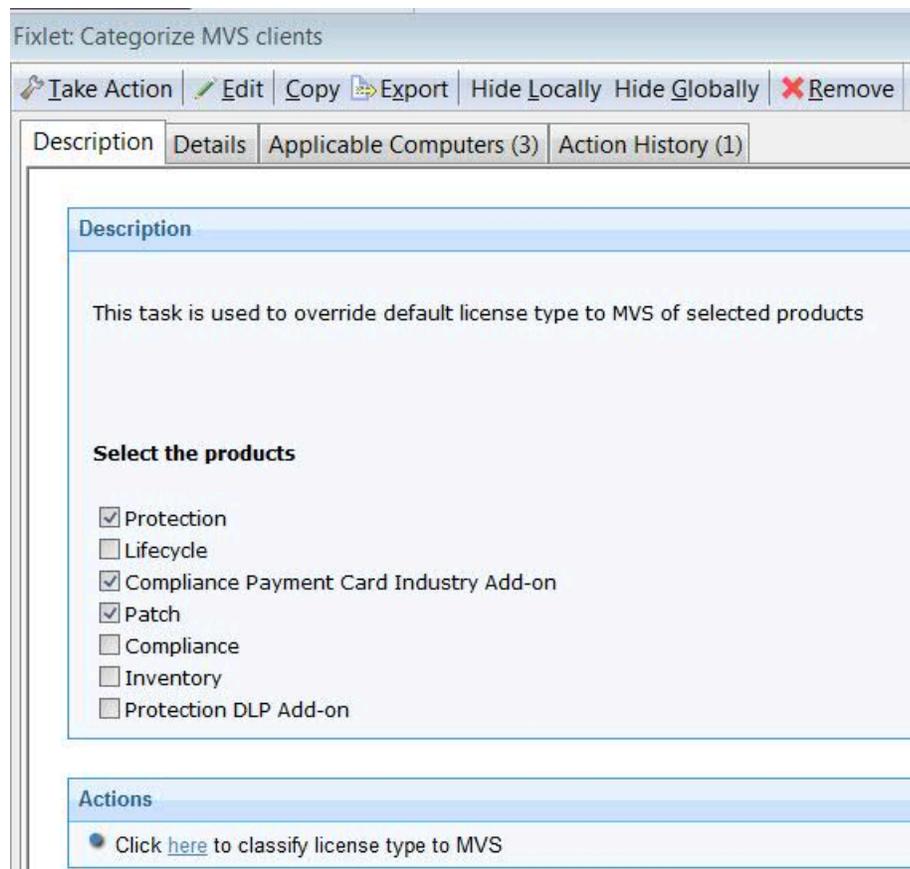
1. 「**サイト**」 > 「**外部サイト**」 > 「**BES サポート**」に移動します。
2. 「**Fixlet とタスク**」を選択します。
3. 必要に応じて、「**Fixlet とタスク**」ペインで以下を選択します。
  - 「**ClientDevice クライアントのカテゴリー化 (Categorize ClientDevice clients)**」 (選択した製品のデフォルトのライセンス・タイプを ClientDevice にオーバーライドする場合)。
  - 「**MVS クライアントのカテゴリー化 (Categorize MVS clients)**」 (選択した製品のデフォルトのライセンス・タイプを MVS にオーバーライドする場合)。
  - 「**RVU クライアントのカテゴリー化 (Categorize RVU clients)**」 (選択した製品のデフォルトのライセンス・タイプを RVU にオーバーライドする場合)。

製品によって使用されるライセンス・タイプを MVS にオーバーライドする例:

- Protection
- Compliance\_Payment\_Card\_Industry\_Add-on
- Patch

以下のパネルを参照してください。

図 2. MVS クライアントのカテゴリ化



## 現在のライセンス・メトリックの表示

分析は、クライアント・コンピューターのプロパティーを表示および要約するためにコンソール・オペレーターが使用する、プロパティー式のコレクションです。

この場合、「**ライセンスのオーバーライド (License Overrides)**」分析は、クライアント・コンピューターごとに以下の情報を表示します。

- そのクライアント・コンピューターのライセンスのデフォルト・メトリック。
- メトリックによって識別される、オーバーライドされた各メトリックに対する製品のリスト。
- 「**ライセンスのオーバーライド状況 (License Override Status)**」 ブール値フラグ。

図 3. ライセンスのオーバーライド分析

Analysis: License Overrides

Activate Deactivate Edit Export Hide Locally Hide Globally Remove

Description Details Results Applicable Computers (3) View as list

Applicable Computers	DefaultMetric	ClientDevice Overrides	RVU Overrides	MVS Overrides	License Override Status
nc0500...	RVU	Patch, Compliance		Protection, Lifecycle, Inventory	True
NC050...	ClientDevice		Compliance, Patch	Inventory, Lifecycle, Protection	True
NC050...	RVU	Compliance, Patch		Inventory, Lifecycle, Protection	True

## サイト・マッピング・ファイルの配布

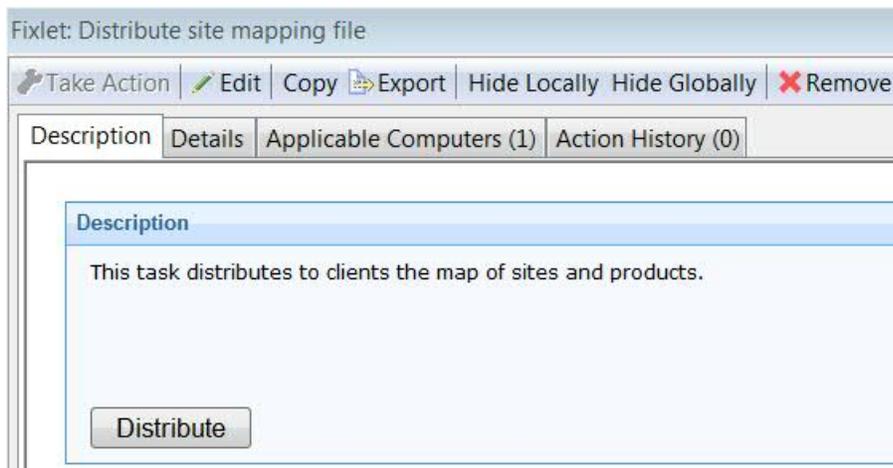
「**サイト・マッピング・ファイルの配布 (Distribute site mapping file)**」 Fixlet は、クライアント上のライセンス交付を受けた製品およびそれらの関連サイトの更新を担当します。

サイト・マッピング・ファイルは、ライセンス・タグを生成する前にクライアント上で使用可能でなければなりません。

このファイルを配布するには、以下のステップを実行する必要があります。

1. 「**サイト**」 > 「**外部サイト**」 > 「**BES サポート**」に移動します。
2. 「**Fixlet とタスク**」を選択します。
3. 「**Fixlet とタスク**」ペインで、「**サイト・マッピング・ファイルの配布 (Distribute site mapping file)**」を選択します。このアクションにより、サイトおよび製品をマップするマッピング・ファイルが、サブスクライブしたコンピューターに即時に配布されます。新規製品をインストールしたときは、このアクションを繰り返します。

図 4. 「サイト・マッピング・ファイルの配布 (Distribute site mapping file)」 Fixlet



## ライセンス・タグの生成

- ライセンス・タグを生成する前に、「**サイト・マッピング・ファイルの配布 (Distribute site mapping file)**」 Fixlet を実行してください。

「**BigFix ライセンス・タグの生成 (Generate BigFix license tags)**」 Fixlet は、クライアントがサブスクライブする各サイトの製品のライセンス・タグの更新を担当します。

クライアントにサイト・サブスクリプションがない場合は、そのクライアントはすべてのライセンス交付を受けた製品のタグを保管します。

各タグは、製品名、メトリック (デフォルトまたはユーザーによってオーバーライドされたメトリック) およびエージェントのバージョンを反映します。このタグは、該当するディレクトリーにあります。前にインストールされた、プラットフォーム・エージェントに関連するクライアント・タグは、Fixlet が正常に完了しても非表示のままであり、BigFix Inventory コンソールに以後、表示されません。

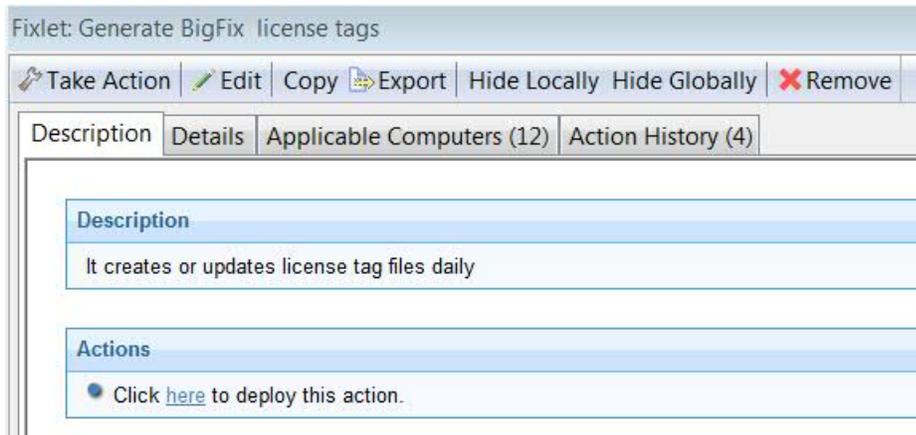
ライセンス・タグを生成するには、以下のステップを実行する必要があります。

1. 「**サイト**」 > 「**外部サイト**」 > 「**BES サポート**」に移動します。
2. 「**Fixlet とタスク**」を選択します。

3. 「Fixlet とタスク」 ペインで、「BigFix ライセンス・タグの生成 (Generate BigFix license tags)」を選択します。このアクションにより、サブスクライブしたコンピューター上にライセンス・タグが作成されます。

**注:** Fixlet 「BigFix ライセンス・タグの生成 (Generate BigFix license tags)」は初回は手動で実行する必要があります。その後は、毎日実行するようにスケジュールされます。

図 5. 「BigFix ライセンス・タグの生成 (Generate BigFix license tags)」 Fixlet



## トラブルシューティング

BigFix Inventory が、BigFix クライアント・コンピューター上に指定されたライセンス・タグを誤って解釈した場合、エンドポイントは正しく分類されず、BigFix Inventory 内での手動による分類が必要です。

## 制限

BigFix サーバーのバージョン 9.2 以前を実行している場合、「ライセンスの概要」ダッシュボードに表示される製品名は、LCP ツールに表示される製品名と異なります。

この不一致は、BigFix サーバーのバージョン 9.5 では発生しません。

LCP ツールによって使用される名前は、BigFix Inventory によって使用される名前であり、商標変更イニシアチブに適合します。

LCP ツールに表示される名前については、以下の表の右側の列を参照してください。

**表 3. BigFix サーバーのバージョン 9.2 以前を実行している場合に表示される名前。**

「ライセンスの概要」	
ダッシュボードでの名前	LCP ツールでの名前
Patch_Management	Patch
Lifecycle_Management	Lifecycle
Power_Management	Lifecycle
Server_Automation	Lifecycle
Tivoli_Remote_Control	Lifecycle
Software_Use_Analysis	インベントリー
Security_and_Compliance	コンプライアンス
PCI_DSS_Security_and_Compliance	Compliance_Payment_Card_Industry_Add-on
Core_Protection_Module_(Trend)	Protection
Trend_Micro_Data_Protection	Protection_DLP_Add-on
Starter_Kit_for_Lifecycle_Management	Starter_Kit_for_Lifecycle

この表に記載のない製品は、無視されます。

# 第章13. クライアント - リレー - サーバー認証

## クライアント認証

クライアント認証 (バージョン 9 で導入) は、BigFix で使用されるセキュリティー・モデルを拡張して、信頼できるクライアント・レポートおよびプライベート・メッセージを実現します。この機能には後方互換性がなく、バージョン 9.0 より前のクライアントは、認証を行うリレーまたはサーバーとは通信できません。

 **注:** クライアント認証機能の一部のセキュリティー・オプションは、`minimumSupportedClient` サービスおよび `minimumSupportedRelay` サービスを設定することでも定義できます。詳しくは、Windows システムの場合は追加の管理コマンド (##### )、Linux システムの場合はBigFix 管理ツールの実行 (##### )を参照してください。

オリジナルのセキュリティー・モデルには、以下の 2 つの中心となる機能があります。

- **クライアントはサーバーからのコンテンツを信頼する。** クライアントが受信するすべてのコマンドと質問は、クライアント上にインストールされた公開鍵に対して検証されるキーによって署名されます。
- **クライアントはプライベート・レポートをサーバーに送信できます。** クライアントはサーバーに送信するレポートの暗号化を選択でき、レポートに含まれた内容を攻撃者が解釈できないようにすることができます。この機能はデフォルトでは無効になっており、設定を使用してオンに切り替えます。

クライアント認証では、セキュリティー・モデルを拡張して、以上の 2 つの機能の次のようなミラー・イメージを提供します。

- **サーバーはクライアントからのレポートを信頼できます (否認防止)。** クライアントはサーバーに送信するレポートをすべて署名します。これにより、レポートが攻撃者からのものでないことを検証できます。

- **サーバーはクライアントにプライベート・データを送信できる (メールボックス)。**サーバーは、攻撃者がデータを解釈できないようにするために、個々のクライアントに送信するデータを暗号化することができます。

認証済みリレーを使用する通信は、SSL を使用してすべての通信を暗号化する、信頼できるプライベートな両方向の通信チャンネルです。ただし、非認証リレーとその子の間の通信は、その通信が暗号化されたレポートまたはメールボックス宛のアクションやファイルでないかぎり、暗号化されません。

このレベルのセキュリティは、さまざまな目的に役立ちます。企業において、インターネットに接続するノード、DMZ 内、または完全には信頼できないすべてのネットワーク接続に対して認証リレーを要求するセキュリティ・ポリシーを採用している場合があります。認証を行うことにより、まだご使用のデプロイメントに参加していないクライアントがデプロイメント情報を取得するのを防ぐことができます。

## 認証リレー

### コンテキスト

認証として設定されていないインターネットに接続されたリレーを含む BigFix デプロイメントは、セキュリティ脅威にさらされます。この状況でのセキュリティ脅威は、リレーおよびコンテンツや操作への認証されていないアクセスを引き起こし、それらに関連付けられているパッケージを秘密情報を含む **「Relay Diagnostics」** ページにダウンロードする可能性があります (秘密情報の例: ソフトウェア、脆弱性情報、パスワード)。

リレーを“認証”リレーとして構成し、エージェントを認証できます。これにより、信頼されたエージェントのみが、サイト・コンテンツの収集やレポートの通知を行うことができます。DMZ にある、インターネットに接するリレー用の認証リレー構成を使用します。エージェントを認証するように構成されたリレーは、サーバーが発行および署名した TLS 証明書を鍵交換中に提示する子エージェントまたはリレーとのみ、TLS 通信を実行します。

リレーが##として設定されている場合、ご使用環境での BigFix クライアントのみがそれに接続でき、クライアント間の通信は TLS (HTTPS) を介して発生します。また、この設定は、リレーとサーバーの診断ページへの未承認アクセスを防止します。

**注:** 新しいクライアントをインストールする必要があり、認証リレーにのみ到達できる場合、手動でキーを交換する必要があります。詳細については、[手動での鍵交換 \(##### 131\)](#)を参照してください。

## リレー認証を有効にする方法

リレーを認証リレーにアップグレードするには、次のステップを実行します。

1. BES サポート Web サイトで **BES クライアント設定**を探します。リレー認証 Fixlet を有効にします。
2. Fixlet を実行してアクションが完了するのを待ちます。

また、`_BESRelay_Comm_Authenticating` 構成設定を手動で更新することにより、認証のリレーを構成できます。設定のデフォルト値は 0 で、リレー認証が無効なことを示します。認証を有効にするには、値を 1 に設定します。詳細については、「[認証 \(##### \)](#)」を参照してください。

デフォルトにより、すべてのクライアントは 6 時間ごとにその親リレーで再登録されます。既存のクライアントはそれぞれをリレーで再登録しない限りレポートを送信できません。

## 鍵交換の処理

登録を試みたエージェントが鍵と証明書を持っていない場合、そのエージェントは、選択したリレーとの鍵交換を自動的に実行しようとします。そのリレーが非認証リレーである場合、エージェントはリレー・チェーンをたどってサーバーに要求を転送し、サーバーがエージェントの証明書に署名します。エージェントは、後で認証リレーへの接続時にこの証明書を使用できます。

認証リレーでは、このような鍵交換の自動操作は拒否されます。一般的なシナリオを以下に示します。

新規の BigFix 9.5 環境をデプロイした場合や、既存の BigFix 環境を 9.5 にアップグレードした場合、すべてのエージェントは、リレーとの鍵交換を自動的に実行します。管理者が、インターネットに接しているリレーを認証リレーとして構成している場合、既存のエージェントはすでに証明書を保有しており、正しく稼働します。これ以上のアクション

は不要です。新規のエージェントを認証リレーに接続した場合、そのエージェントに対して[手動の鍵交換 \( \(ページ\) 131\)](#)手順を実行しない限り、そのエージェントは稼働しません。

## 手動での鍵交換

エージェントが証明書を保有しておらず、インターネットを介して接続されたネットワーク上の認証リレーにのみ到達できる場合、そのエージェントに対して以下のコマンドを手動で実行すれば、エージェントは認証リレーとの鍵交換を実行できるようになります。

```
BESClient -register <password> [http://<relay>:52311]
```

クライアントは認証リレーとの鍵交換にパスワードを含めます。これにより、鍵交換をその親に転送する前にクライアントが検証されます。

認証リレーへの手動登録を行うもう 1 つの方法は、クライアント設定

`_BESClient_SecureRegistration` に値を設定することです。この値は、認証リレーへの手動登録を行うために必要なパスワードを指定します。この設定は、クライアントの起動時にのみ読み取られます。リレーは `clientsettings.cfg` 構成ファイルに指定できます。この構成ファイルについて詳しくは、[Windows クライアント \( \(ページ\) \)](#)を参照してください。

リレーではパスワードは以下のように構成できます。

- リレーに対するクライアント設定 `_BESRelay_Comm_KeyExchangePassword` の単一パスワードとして。
- リレー・ストレージ・ディレクトリー内の `KeyExchangePasswords` という名前のファイルに保管されるワンタイム・パスワードの改行区切りリストとして (`HKEY\SOFTWARE\WOW6432Node\BigFix\Enterprise Server\GlobalOptions` の値 **StoragePath**)。

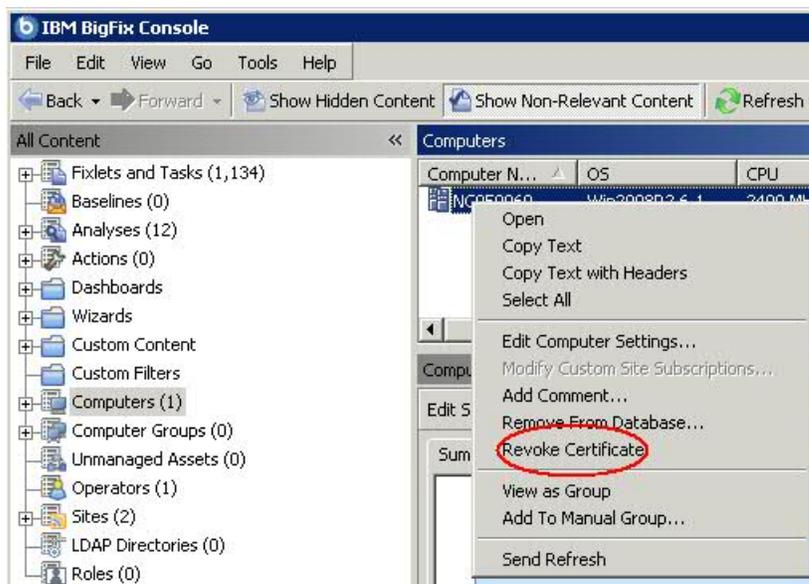
 **注:** 使用できるのは ASCII 文字のパスワードのみです。非 ASCII 文字を含むパスワードは使用できません。

## クライアント証明書の取り消し

クライアントの認証後に、クライアントの有効性を疑う何らかの理由がある場合は、クライアントの証明書を取り消すことができます。証明書を取り消すと、そのクライアントは信頼できる通信に対して認証されなくなります。クライアントはコンソールから削除され、取り消しリストが更新されてすべてのリレーにより収集されることにより、そのクライアントの鍵は認証リレーとの通信には使用できなくなります。

コンピューターを取り消すには次のようにします。

1. コンピューターのリストで、コンピューターを右クリックします。



2. ポップアップ・メニューで、「証明書の取り消し」をクリックします。
3. コンピューターの証明書を削除して問題がなければ、確認ダイアログで「OK」をクリックします。

これにより、取り消しがリレーへと通知されます。取り消された後は、そのクライアントは自身の秘密鍵を使用して認証リレーからコンテンツを収集することはできなくなります。取り消されたクライアントは、コンソールのコンピューター・リストに表示されなくなります。

## 取り消されたクライアントの再登録

クライアントの取り消し手順では、クライアントがコンソールから削除され、クライアントの証明書失効リストが更新されます。

クライアントは、非認証リレーに接続可能な場合は自動的に新規の証明書を取得できません。

そのようなリレーを使用できない場合は、以下の手動クリーンアップを実行してクライアントを再度登録する必要があります。

1. クライアントを停止します。
2. KeyStorage クライアント・ディレクトリーとクライアント・コンピューター ID を削除します。
3. 手動による鍵交換手順を実行します。
4. クライアントを開始します。

この手順が完了すると、クライアントは新しい証明書と新規のクライアント・コンピューター ID を取得します。

**注:** 認証リレーに接続されているが、ルート・サーバーからブロックされている SuSe クライアントの証明書を取り消す必要がある場合は、パスワードを使用した手動での登録を実行する前に、以下のエントリーを `besclient.conf` ファイルに必ずコピーしてください。

```
Settings\Client\__Relay_Control_Server  
Settings\Client\__RelayServer1
```

手動での登録は、実際には、構成ファイル内のこれらのエントリーを自動的に削除し、再度作成しません。そのため、登録が完了した後、クライアントがその認証リレーと再度通信できるように、それらのエントリーを手動で追加する必要があります。

## メール・ボックス

クライアント・メールボックスを使用すると、暗号化されたアクションを、すべてのクライアントにブロードキャストする代わりに特定のクライアントに送信できます。これにより、クライアントはすべてのアクションに対して資格を持つ必要がなくなるため効率性が

向上し、ネットワーク・トラフィックが最小化されます。その結果、以下のようになります。

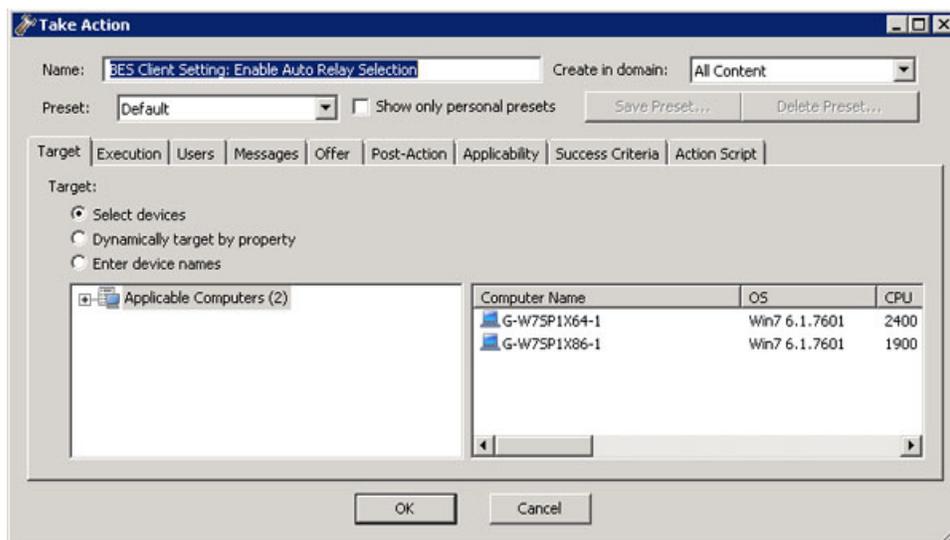
- クライアントは、ターゲットとなった場合にのみ中断される。
- クライアントは、自身に関連しないアクションについて、レポート、評価、収集、およびアクション処理を実行する必要がなくなる。

メッセージは受信者ごとに特別に暗号化されるためプライバシーが保証されます。ターゲット・クライアントのみがそのメッセージを復号できます。

クライアントのメールボックスは特別なアクション・サイトとして実装され、各クライアントは自動的にそのサイトをサブスクライブします。クライアントは、このサイトに加えてマスター・サイトおよびオペレーター・サイトでアクションをスキャンすることを知っています。

暗号化されたアクションをクライアント・メールボックスに直接送信するには、以下の手順を実行します。

1. 「**アクションの実行**」 ダイアログを開きます (「ツール」メニューやその他のダイアログで使用可能)。



2. 「**ターゲット**」 タブをクリックします。
3. 「**デバイスの選択**」 または 「**デバイス名の入力**」 をクリックします。クライアントの静的なリストを指定した場合にのみ、メールボックスが使用可能になります。動的にターゲットとなったコンピューターは暗号化されず、代わりにオープンな状態でマス

ター・サイトまたは特定のオペレーター・サイトに送信されます。バージョン 9.0 より前のターゲット・クライアントを選択した場合も、アクションはマスター・サイトまたはオペレーター・サイトに送信されます。

4. 「OK」をクリックします。コンピュータ ID またはコンピューター名によりターゲット設定されたアクションが、暗号化されてクライアント・メールボックスに送信されます。

アクションをデプロイするオペレーターの ID がアクションとともに含まれています。アクションを実行する前に、クライアントはまず現在そのオペレーターにより管理されているかどうかを判別します。そうでない場合、クライアントはアクションの実行を拒否します。

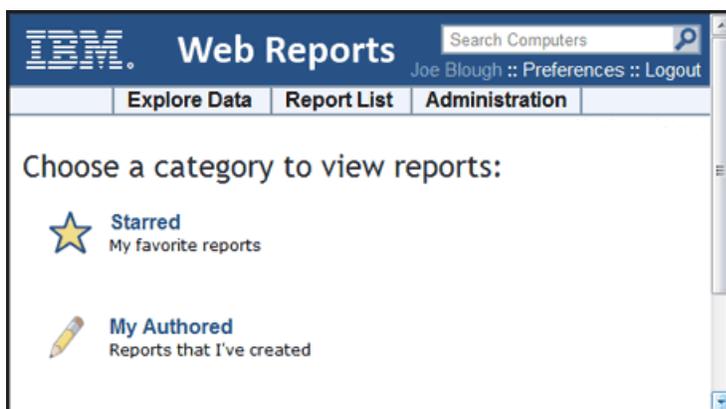
# 第 章14. 表示とレポート

## Web レポート

「Web レポート」プログラムでは、ローカル・データベースの状況をモニター、印刷、またはアーカイブすることができます。これにより、関連する Fixlet メッセージの概要と後続の修復結果を取得することができます。ネットワーク内の管理対象コンピューターの数と、全体的なせい弱性ステータスを要約したグラフを作成できます。また、包括的な統計と検出された最も一般的な問題のリストを検索できます。関連頻度の高いこれらの Fixlet メッセージをドリルダウンして、いつでも詳細を調べることができます。

Web レポートは、他の BigFix サーバーのデータベースを読み込み、そのデータを集約する機能も備えています。これによって、複数のデータベース・サーバーを持つ大規模なまたは広範囲にわたる企業の最上位ビューが提供されます。集約サーバーによって、数十万台のコンピューターがある複数のネットワークからの情報を表示できます。

データベース内のデータを複数の異なる視点から表示し、出力を保存または印刷することができます。また、Excel に出力をエクスポートして、さらに操作することもできます。これらは BigFix Web レポート・プログラムが提供する機能で、「ツール」>「Web レポートを起動」を選択することで、いつでもデスクトップから実行できます。ログインするには、資格情報を入力する必要があります。資格情報を入力すると、以下の導入パネルが表示されます。



パネルの上部には、主なリンクが3つあります。

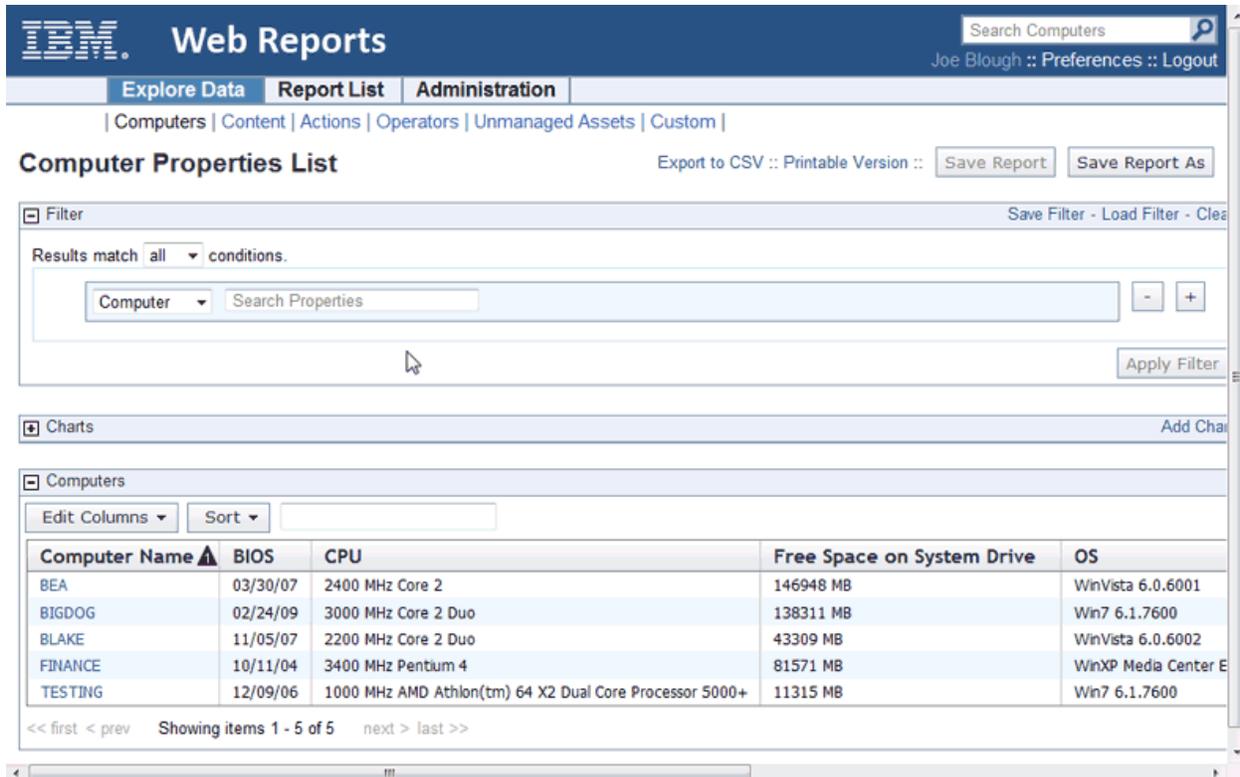
- **「データの検索」**：このリンクをクリックすると、事前定義されたレポートやグラフのグループを表示できます。これらのレポートやグラフは簡単にフィルタリングおよびカスタマイズできます。このセクションでは、コンピューター、アクション、オペレーターなど、BigFix によって管理する最も基本的なデータについて、概要をわかりやすく示します。
- **「レポート一覧」**：このリンクをクリックすると、Fixlet コンテンツを中心に編成された基本的なレポートを表示できます。簡潔で直観的なインターフェースを使用して、レポートの作成やカスタマイズを行うことができます。オペレーティング・システムの配布や脆弱性の傾向など、一般的に必要ないくつかのレポートが組み込まれています。それらを表示するには、リスト内の該当のタイトルをクリックします。独自のカスタム・レポートを作成し、パブリックまたはプライベート (自分だけが表示可能) のいずれかとして保存することができます。パブリック・レポートはレポート・リストに追加されます。プライベート・レポートは正しいパスワードでログインした場合のみ使用可能です。
- **「管理」**：このリンクをクリックすると、アクティビティのスケジューリングや、フィルター、オペレーター、データベース設定、およびユーザーの管理など、さまざまな管理機能にアクセスできます。

また、開始時に使用できる 2 つのレポート・カテゴリがあります。

- **「星印付き」**：このリンクをクリックすると、星印付きとしてフラグを立てたお気に入りのレポートに直接移動できます。
- **「自分で作成」**：このリンクをクリックすると、個人的に作成したレポートのリストが表示されます。

構成によっては、この起動パネルから利用可能なカテゴリがさらに多いこともあります。

以下に示すのは、ネットワーク内のコンピューターをプロパティ別に要約した、一般的なレポートの一部です。このレポートを作成するには、「**レポート一覧**」をクリックして、「**コンピューターのプロパティ一覧 (Computer Properties List)**」を選択するだけです。



The screenshot displays the IBM Web Reports interface. At the top, there is a navigation bar with 'IBM. Web Reports' and a search box labeled 'Search Computers'. Below this, there are tabs for 'Explore Data', 'Report List', and 'Administration'. The main content area is titled 'Computer Properties List' and includes a filter section with a dropdown menu set to 'all' and a search box. Below the filter is a table of computer properties.

Computer Name ▲	BIOS	CPU	Free Space on System Drive	OS
BEA	03/30/07	2400 MHz Core 2	146948 MB	WinVista 6.0.6001
BIGDOG	02/24/09	3000 MHz Core 2 Duo	138311 MB	Win7 6.1.7600
BLAKE	11/05/07	2200 MHz Core 2 Duo	43309 MB	WinVista 6.0.6002
FINANCE	10/11/04	3400 MHz Pentium 4	81571 MB	WinXP Media Center E
TESTING	12/09/06	1000 MHz AMD Athlon(tm) 64 X2 Dual Core Processor 5000+	11315 MB	Win7 6.1.7600

At the bottom of the table, there is a pagination control showing 'Showing items 1 - 5 of 5'.

Web レポートは、「ツール」>「Web レポートを起動」の下のコンソールから、いつでも表示できます。

どの Web レポート・サーバーでも、別の BigFix サーバーからのデータを集計するようにセットアップできます。集計サーバーのセットアップについては、サイト管理者に問い合わせてください。詳しくは、「**管理者ガイド**」を参照してください。

Web レポートのインターフェースは機能が非常に豊富なため、詳細な資料は本書の取り扱い範囲を超えています。詳しくは、「**Web レポート・ガイド**」を参照してください。

## ダッシュボードの表示

ダッシュボードは、リアルタイムに更新されるレポートのリストであり、ご使用の BigFix ネットワークの概略を提供します。

「**すべてのコンテンツ**」ドメインをクリックすると、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーの「**ダッシュボード**」の下に、環境内の使用可能なダッシュボードがすべて表示されます。特定のコンテンツ・サイトを選択した場合は、そのコンテンツ・サイトで使

用可能なダッシュボードのみが表示されます。これらのレポートはデータベースにアクセスして、ネットワークの状況をタイムリーかつコンパクトに提供します。

ダッシュボードを実行するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーの「**ダッシュボード**」アイコンから該当のダッシュボードを選択します。そのダッシュボードが、右側の作業域に表示されます。

BigFix コンソールをインストールすると、以下の一連のダッシュボードを使用できるようになります。

## ベースライン同期ダッシュボード

ベースライン同期ダッシュボードを使用して、ベースライン、ソース Fixlet、およびアクションが同期していることを確認します。ベースライン・コンポーネントがソース Fixlet に同期していることを確認することによって、ネットワーク全体にまたがってアクションを適用する場合の問題が防止されます。

このサンプル・シナリオは、このダッシュボードをどのように戦略的に使用できるかを示しています。例えば、一連の新規のベースラインを作成してテストした後、一部のパッチにエラーがあるとベンダーから報告されたと仮定します。このような理由から、新規の Fixlet が、エラーになったパッチのあるものの置き換えとして、BigFix によってリリースされます。ベースラインのうちのどれが影響を受けるかをチェックするのは、時間がかかる可能性があります。ベースライン同期ダッシュボードを使用すれば、数回のクリックだけで、ベースラインのどれが非同期になっているかを表示し、必要に応じてそのコンテンツを自動的に更新できます。

 **注:** このダッシュボードはまた、非同期のベースラインから発行されたすべてのアクションを表示し、それをクローズしてから再度発行するオプションを提供します。

ベースライン同期ダッシュボードにアクセスするには、次のようなステップを実行します。

1. ドメイン・パネルで「**すべてのコンテンツ**」ドメインをクリックします。
2. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーの「**ダッシュボード**」アイコンから該当のダッシュボードを選択します。
3. 「**BES サポート**」を選択します。

4. 「ベースライン同期ダッシュボード」をクリックします。ダッシュボードが開きます。

<input type="checkbox"/>	ID	Baseline Name	Site Name	Open Actions	Components	Sync Status
<input type="checkbox"/>	338	<a href="#">Windows Patches - 2012 August - English - Office/Apps</a>	Local Windows Patches	0	1	in-sync
<input type="checkbox"/>	339	<a href="#">Remove Old Shockwave 11.xx and Install New version</a>	ActionSite	1	5	out-of-sync
<input type="checkbox"/>	340	<a href="#">Windows Patches - 2009 March, May - English - OS</a>	Local Windows Patches	0	3	in-sync
<input type="checkbox"/>	341	<a href="#">Custom Baseline - MS13-051</a>	ActionSite	0	1	in-sync
<input type="checkbox"/>	342	<a href="#">Test Baseline</a>	Local Windows Patches	0	12	in-sync
<input type="checkbox"/>	343	<a href="#">Windows Patches - 2012 May - English - OS</a>	Local Windows Patches	0	4	in-sync

ダッシュボードに、各ベースラインごとに次のような情報が示されます。

- ID
- ベースライン名
- サイト名
- 開いているアクションの数
- ベースライン・コンポーネントの数
- 同期の状況

コンポーネント列の感嘆符アイコンは、そのベースラインが同期中であっても、そのメンバーの中に構成の誤りがある可能性があることを強調表示しています。そのような構成の誤りは、訂正しないと、問題の原因となる可能性があります。アイコンの上にカーソルを移動すると、構成の誤りの詳細が表示されます。例えば、構成の誤りの原因として、以下が考えられます。

- 特定のコンポーネントの関連度が非同期になっている。
- 特定のコンポーネントに、ソース Fixlet がない。
- 特定のコンポーネント・アクションに、ソース・アクションがまったくない。
- ベースライン内にコンポーネントが存在しない。

- このベースラインには、アクションが選択されていないコンポーネントが含まれています。

このダッシュボードから、以下を行うことができます。

### 特定のベースラインの検索

ID、名前、またはサイト名を「**検索**」フィールドに指定することで、特定のベースラインを検索できます。

### ダッシュボードでの非同期のベースラインの制限のためのベースラインのフィルター処理

「**ベースラインのフィルター**」をクリックすることで、ダッシュボードに表示するベースラインをフィルターできます。次のいずれかの条件を選択することができます。

- 関連度が非同期である。
- アクションが非同期である。
- ソース Fixlet ID または名前。

ベースラインは、選択した条件のいずれかまたはすべてに一致する可能性があります。条件を選択したら、「**適用**」をクリックします。

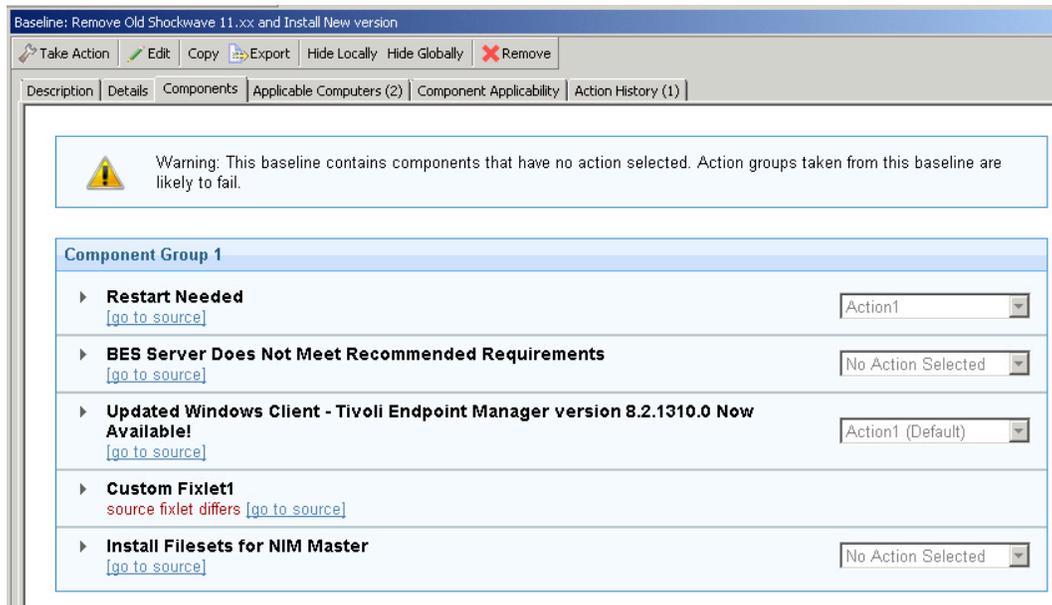
### 非同期のベースラインのフィルターのリセット

「**フィルターのリセット**」をクリックすると、フィルターを一切適用せずに、すべてのベースラインを表示できます。

### ベースライン・コンポーネントの同期状況の表示

ソース Fixlet に関して非同期のパーツを持つ Fixlet はどれかを確認するには、各非同期のベースラインの横の「**同期状況**」をクリックします。

「**ベースライン・コンポーネント・リスト**」ダイアログには、各コンポーネントの詳細な同期状況が表示されます。



## ベースラインの同期

ベースライン・コンポーネントの関連度またはアクションがソース Fixlet のものと異なる場合、ベースラインは非同期になります。ベースラインを同期することは、ソース Fixlet の関連度に合致するようにベースライン・コンポーネントを更新することを意味します。

ベースライン同期ダッシュボードで、非同期のベースラインを選択し、「ベースラインの同期」をクリックします。

## 適用状態チェック・ダッシュボードおよび適用の概要ダッシュボード

適用状態チェック・ダッシュボードおよび適用の概要ダッシュボードを使用して、ご使用の BigFix 環境における適用状態を管理し、モニターします。

これらのダッシュボードは、リレーの適用状態、コンソールの適用状態、サーバーの適用状態、クライアントの適用状態、および適用の最適化について、重要な適用状態の指標をトラッキングします。それぞれのチェックについて、以下を確認できます。

- 説明
- 特定の適用の詳細
- 高、中、低の重大度

- **成功、警告、または失敗**のステータス
- 修復の手順

BigFix コンソール管理者は、このダッシュボードを定期的を確認して、チェックで記述されたすべての障害を修復する必要があります。

適用状態チェック・ダッシュボードにアクセスするには、以下の手順に従います。

1. ドメイン・パネルで「**すべてのコンテンツ**」ドメインをクリックします。
2. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーの「**ダッシュボード**」アイコンから該当のダッシュボードを選択します。
3. 「**BES サポート**」を選択します。
4. 「**適用状態チェック・ダッシュボード**」をクリックします。ダッシュボードが開きます。

Deployment Health Checks

## BigFix Deployment Health Checks

Last Update: Wed, Jul 24 2013 at 10:57:17 PM

Please activate the [BES Health Checks Analysis](#) in the BES Support site to enable additional health checks.

**Deployment Information**

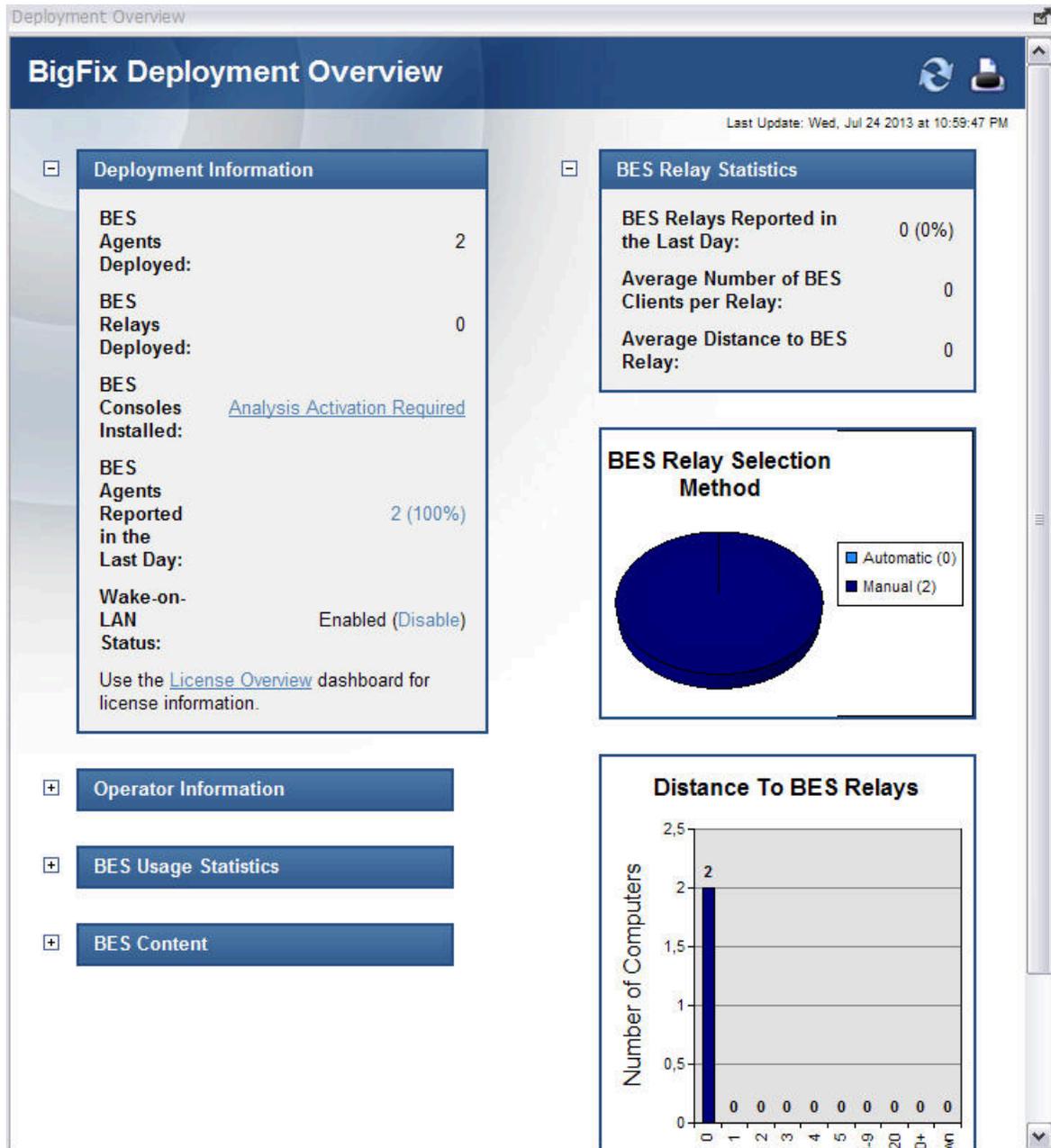
Use the buttons below to copy the deployment information to your clipboard. Press the 'Collect Deployment Information' button first to gather and view your deployment information and enable the 'Copy to Clipboard' button. Next, press the 'Copy to Clipboard' button to copy the information to your clipboard.

**Collect Deployment Information** **Copy to Clipboard**

- BES Relay Health**
- BES Console Health**
- BES Server Health**
- BES Client Health**
- Deployment Optimization**
- Wake-on-LAN**

適用の概要ダッシュボードにアクセスするには、以下の手順に従います。

1. ドメイン・パネルで「**すべてのコンテンツ**」ドメインをクリックします。
2. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーの「**ダッシュボード**」アイコンから該当のダッシュボードを選択します。
3. 「**BES サポート**」を選択します。
4. 「**適用の概要ダッシュボード**」をクリックします。ダッシュボードが開きます。



## ライセンスの概要ダッシュボード

ライセンスの概要ダッシュボードを使用して、コンテンツ・サイトにサブスクライブします。

コンテンツ・サイトにサブスクリプションを追加すると、それらのサイトからのコンテンツが環境内に自動的に取り込まれ、BigFix クライアントを実行中のすべてのコンピューターで関連度が評価されます。

このダッシュボードに表示されている使用可能なコンテンツ・サイトのリストは、購入した BigFix のライセンスと厳密に関連しています。BigFix を購入すると、ユーザーは、BigFix スイートのどの製品を購入したかを明示するライセンス番号を受け取ります。この情報は、スイートのうちのユーザーが購入した製品のためのサブスクリプションをライセンスの概要ダッシュボードに設定するために、インストール時に製品によって使用されます。

インストール時に自動的にサブスクライブされた BigFix プラットフォームに関連したコンテンツを除き、ライセンスの対象となっている他のコンテンツ・サイトへのサブスクリプションは、ライセンスの概要ダッシュボードから手動で追加する必要があります。このことは、例えば、ライセンスに BigFix for Patch 製品が含まれていたとしても、BigFix for Patch の機能の使用を開始するには、ライセンスの概要ダッシュボードにアクセスして、使用可能な Patch コンテンツ・サイトのサブスクリプションを追加する必要があるということを示します。

ライセンスの概要ダッシュボードにアクセスするには、以下の手順に従います。

1. ドメイン・パネルで「**BigFix 管理**」ドメインをクリックします。
2. 「**ライセンスの概要ダッシュボード**」をクリックします。ダッシュボードが開きます。

Enabled Sites	Subscribed Computers
<a href="#">BES Asset Discovery</a>	4
<a href="#">Patches for RHEL 5</a>	4

3. ダッシュボードをスクロールダウンして、既にサブスクライブしたコンテンツ・サイトと、使用可能だが、まだサブスクリプションを追加していないコンテンツ・サイトを確認します。

「ライセンスの概要」ダッシュボードの使用方法と、このダッシュボードに収められている情報についての詳細は、[ポストインストール手順 \(ページ\)](#) を参照してください。

## メンテナンス・ウィンドウ・ダッシュボード

メンテナンス・ウィンドウ・ダッシュボードを使用して、BigFix がアクション (主にメンテナンス・アクティビティ) を実行できる期間を定義します。

クライアント・ロック機能を使用すると、コンピューター、またはコンピューターのグループをアクション実行の対象から除外することができます。クライアント・ロック機能は、例えば、特定の開発用コンピューターを変更または更新の対象から除外する場合に役立ちます。また、ネットワークがロックされたままの状態、限られた一連のロック解除されたコンピューターで新規アクションをテストするための手法も提供します。

メンテナンス・ウィンドウ・ダッシュボードを使用すると、BigFix クライアントに対してメンテナンス・ウィンドウを設定し、強制することができます。メンテナンス・ウィンドウ・ダッシュボードおよびタスクを使用して、メンテナンス・ウィンドウを変更したり削除したりすることができます。また、メンテナンス・ウィンドウの分析を使用して、ご使用のコンピューターの現在のメンテナンス・ウィンドウを確認することができます。

1 台のコンピューター、またはコンピューターのグループに対してメンテナンス・ウィンドウを強制するには、以下の手順に従います。

1. ドメイン・パネルで「**すべてのコンテンツ**」ドメインをクリックします。
2. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーの「**ダッシュボード**」アイコンから該当のダッシュボードを選択します。
3. 「**BES サポート**」を選択します。
4. 「**メンテナンス・ウィンドウ・ダッシュボード**」をクリックします。ダッシュボードが開きます。

**Maintenance Window Dashboard**

This wizard creates and manages Maintenance Window Tasks. Run as a policy action, these tasks will unlock selected computers during the specified maintenance windows. The computers will be locked during all other times.

Use the "[Maintenance Window Analysis](#)" to view additional maintenance window information.

By default, the Maintenance Window is informational and is not enforced within Bigfix. Use the "[Enforce Maintenance Window with Client Locking](#)" task to tie a computer's maintenance window to its locked state. Please read KB Article [#1736](#) to fully understand all implications of client locking.

**Maintenance Tasks**

+ Create New Maintenance Window

Tasks	Window	Computer(s) with

5. 「新規メンテナンス・ウィンドウの作成」をクリックして、新しいメンテナンス・ウィンドウを設定します。メンテナンス・ウィンドウを作成すると、作成したウィンドウが「メンテナンス・タスク」に表示されます。

**Create New Maintenance Window**

Name:

Window Size:  Minute(s)

Start Time:  Client Local Time

Schedule Task:

Run on:

**注:** 遡及的な開始日 (現在の日付以前の日付) で週間メンテナンス・ウィンドウを作成した場合、メンテナンス・ウィンドウ分析は最初の実行まで *Next Maintenance Window* プロパティについて間違った値を返します。現在または未来の日付を選択してください。

6. 「クライアント・ロック機能を使用してメンテナンス・ウィンドウを強制」タスクを使用して、コンピューターにメンテナンス・ウィンドウを設定します。コンピューターは、メンテナンス・ウィンドウの間はロック解除され、それ以外の期間はロックされます。各コンピューターでアクティブにできるメンテナンス・ウィンドウは、一度に1つのみです。「クライアント・ロック機能を使用してメンテナンス・ウィンドウを強制」タスクはクライアント・ロックの状態と日付を更新するので、この日付よりも前に実行されたロックまたはロック解除のアクションは無効になります。同様に、ロックまたはロック解除のアクションが後で実行される場合もこのタスクは無効になります。このケースでは、このタスクを再び実行する必要があります。

 **注:** 代替手段として、以下の手順に従って、コンピューターをロックまたはロック解除することもできます。

- a. コンピューターを右クリックします。
  - b. 「**コンピューター設定の編集**」を選択します。
  - c. チェック・マークをクリックして、コンピューターをロックまたはロック解除します。
7. メンテナンス・タスクをクリックして、コンピューターにメンテナンス・ウィンドウを適用します。
  8. コンピューターにメンテナンス・ウィンドウが設定されると、「メンテナンス・ウィンドウ」プロパティに true または false が返されます。

## リレーの正常性ダッシュボード

リレーの正常性ダッシュボードを使用して、ネットワーク全体でリレーのステータスを監視します。

BigFix コンソールから、「**ダッシュボード**」 > 「**BES サポート**」 > 「**リレーの正常性ダッシュボード**」をクリックします。

「**リレーの正常性ダッシュボード**」に、BigFix 環境のリレーに関する特定の詳細情報が表示されます。

リレーの正常性ダッシュボードにアクセスすると、「**概要**」タブに移動します。

「**概要**」タブの「**設定**」アイコンをクリックして、以下を行います。

- 「**概要**」タブで表示するテーブルを指定します。
- テーブルを表示する順序を変更します。

「**概要**」タブでは、各テーブルにさまざまな情報が表示されます。  
各テーブルの「**設定**」アイコンをクリックして、以下を行います。

- テーブルで表示する行数を指定します。
- 1行に表示するテーブルの数を指定します。
- テーブル・データのクリティカルしきい値または警告しきい値と見なすべき値を設定します。これらのしきい値に基づき、アイテムが構成されている上限に近づいている場合は、テーブルでアイテム名が黄色で強調表示され、アイテムが構成されている上限を超えている場合は、赤で強調表示されます。

テーブルによって異なる、固有のテーブル関連設定もあります。

### リレーあたりのエンドポイント

リレーごとのクライアント・コンピューターの数が表示されます。「平均値」行は、デプロイメントがどれだけ不均衡かを示します。

### 階層

リレー階層をヒストグラムで表示します。1は最上位リレーを表し、2はセカンダリー・リレーを表します。

 **注:** このテーブルは、リレー・ループが存在する場合に、それを識別するのに役立ちます。

### 非アクティブ

リレーの非アクティブ期間を表示します。これは、リレーが送信した最後のレポートが受信されてからの期間を示します。「**サービス状況**」も表示されます。サービス状況が停止している場合、リレー名は赤で強調表示されます。

### リレー・キャッシュ

特定のエンドポイントのリレー・キャッシュが、事前設定しきい値 (設定で定義できます) を超えている場合に警告します。リレー名をクリックすると、

コンピューターのプロパティーが開きます。このパネルで、そのリレーに構成されているダウンロード・キャッシュの限度を確認して、リレーが現在キャッシュ・ファイルを削除している理由を把握できます。

### リレー・サイト・バージョン

収集しているサイトが最新でないために、注意が必要なリレーを表示します。「バージョン差異」列には、リレーが収集する特定サイトのバージョンがルート・サーバーから何バージョン古いかが表示されます。

「リレー」タブをクリックします。

「リレー」タブには、以下が表示されます。

- リレー名。
- 特定のリレーに接続されているクライアント・コンピューターの数。
- リレーとそのクライアント・コンピューター間の最大距離。リレーとそのクライアント・コンピューターが同じサブネット内にいる場合、テーブルの「最大ホップ数」列には 0 が表示されます。そのリレーにクライアント・コンピューターが接続されていない場合は、「適用外」と表示されます。一部の距離がわかっているだけの場合でも、「適用外」と表示されます。
- リレー階層 (最上位)。

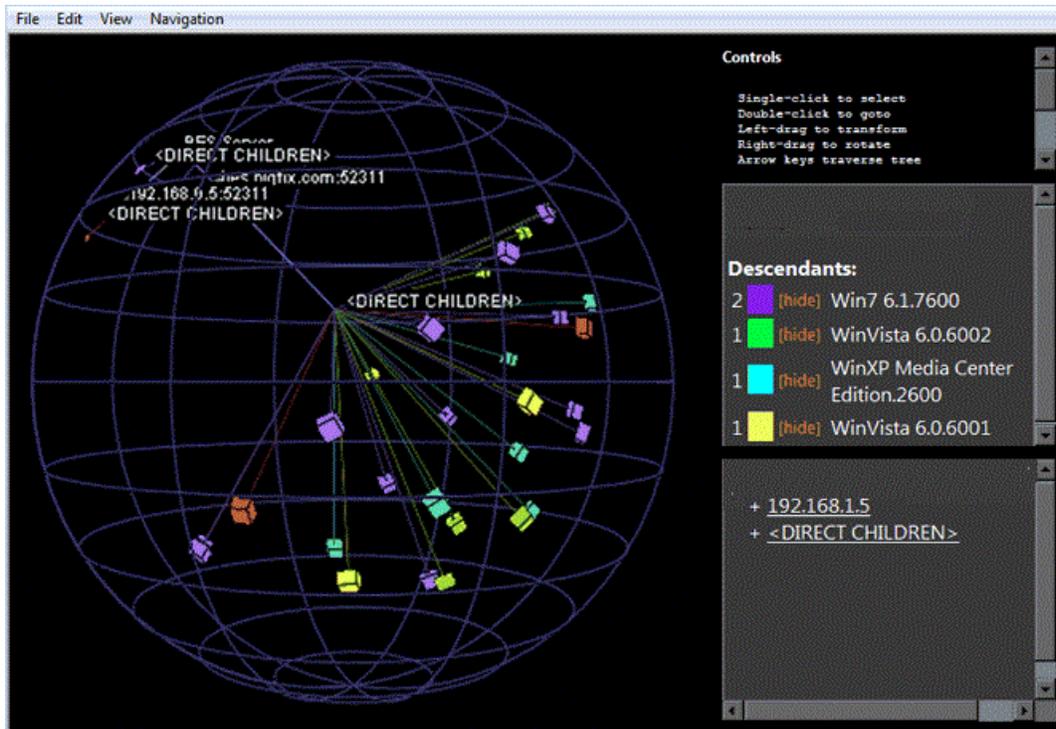
 **注:** タブの右上の検索バーにリレー名を入力すると、リレーを簡単に見つけることができます。

## データの視覚表示

**視覚表示ツール**を使用すると、管理対象ネットワーク全体にわたるデータを表示し、操作することができます。このツールでは、対話式の 3D の球体を使用してデータをマップし、ネットワーク内のさまざまな階層関係を視覚表示することができます。

 **注:** **視覚表示ツール**はバージョン 9.5 パッチ 7 以降では使用できません。

視覚表示ツールでは、Fixlet の関連性、アクションの状態、および取得プロパティーを示すグラフィカルなネットワーク・マップをリアルタイムで表示できます。



一例を挙げると、ある企業のネットワーク全体で現在 MS04-011 のパッチがまだ適用されていないすべてのコンピューターを、アクティブ・ディレクトリーの階層として表示することができます。そうすれば、クライアントにパッチが適用されるにつれて、クライアントが赤色から緑色に変化する様子をネットワーク全体でリアルタイムで監視することができます。別の例を挙げると、現在 Microsoft Office を使用しているすべてのクライアントを、バージョン別に色分けして表示することができます。

あるいは、ユーザー独自の階層を作成することもできます。「都市」、「建物」、「フロア」という名前のすべてのマシンに設定を割り当てることができます。次に、以下のようにして、これらのプロパティを連結する「ロケーション」と呼ばれる動的設定を作成することができます。

ロケーション設定の設定 = (「都市」設定の値 & 「;」 & 「建物」設定の値 & 「;」 & 「フロア」設定の値)

この設定の区切り文字としてセミコロンを指定することで、ネットワーク接続された各都市から各建物のフロアまで、ロケーション・ベースの階層としてコンピューターを視覚表示することができます。

データのユーザー独自のカスタム・ビューを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. 「ツール」 > 「視覚表示ツールを起動...」を選択します。
2. 「視覚表示パラメーター」ダイアログには3つのタブがあります。
  - 「全般」：リレー、Active Directory、IP アドレス、または取得プロパティーの中から目的の表示階層を指定します。
  - 「色分け」：クライアント・ノードを色分けする方法を指定します。Fixlet の関連度、ベースラインの関連度、取得プロパティー、アクションの状態、またはカスタム関連句に基づくカラー・スキームを使用できます。
  - **コンピューター**：Active Directory と取得プロパティーをフィルターとして使用して、表示するコンピューターを制限します。Endpoint の管理下にあるコンピューターをすべて表示するには、「**すべてのコンピューターを表示する**」をクリックします。
3. ネットワークのカスタマイズ済み視覚表示を生成するには、「OK」をクリックします。
4. 3D の球体にマップされたネットワークのグラフが表示されます。右上の隅にリストされた「コントロール」を使用すると、データのビューを変更することができます。
5. コンピューターのノードをダブルクリックして、最前部に持ってきます。視点を微調整するには、グラフ内で要素をドラッグします。
6. 「ビュー」 > 「スピン・モード」を選択することで、モデルを絶えず回転させることができます。
7. 選択した各コンピューターから、その兄弟、親、または子の階層に移動するには、「ナビゲーション」メニューを使用します。

# 第 15 章. メニュー

## ファイル・メニュー

「ファイル」メニューには、以下のコマンドがあります。

**インポート** .bes ファイルをインポートします。これは、デフォルトのタスク、アクション、ベースライン、または自分が作成またはカスタマイズした可能性のあるその他のコンテンツです。

**エクスポート** タスク、アクション、Fixlet、ベースラインなどをエクスポートします。エクスポートしたオブジェクトは、後で自分自身または別のコンソール・ユーザーがインポートできます。エクスポートは、カスタマイズされたコンテンツを作成するための便利なメカニズムです。単にコンテンツをエクスポートし、任意のテキスト・エディターで編集した後に、カスタマイズしたバージョンをインポートします。

**設定...** 更新、BigFix クライアントのハートビート、色分け、キャッシング、およびその他の永続的なコンソール環境設定を設定します。

「**データベースの変更...**」 現在接続されているユーザーのサインイン・パスワードを変更します。

**終了**

プログラムを終了します。

## 「編集」メニュー

「編集」メニューには、以下のコマンドがあります。

表 4. 「編集」メニュー

コマンド	説明
切り取り	テキストを切り取ってクリップボードに保存します。このコマンドは、コンソールでデー

コマンド	説明
「テキストのコピー」	<p>タ入力に使用する各種テキスト・ボックスで使用されます。</p> <p>テキストをコピーしてクリップボードに保存します。</p>
「テキストとヘッダーのコピー」	<p>テキストを関連付けられているヘッダーとともにコピーし、クリップボードに保存します。</p>
貼り付け	<p>クリップボードの内容を挿入します。このオプションは、パネル上に編集可能なテキスト・ボックスがある場合にのみアクティブになります。</p>
すべて選択	<p>現行ウィンドウ内のすべての項目を選択します。ウィンドウによっては、作業域のテキストやリスト・パネルの項目が対象となります。</p>
「非表示 >」	<p>選択したオブジェクト (Fixlet、タスク、ベースライン、または分析) をリスト・パネルから削除します。オブジェクト自体は実際に削除されず、コンソール・ツールバーで「<b>非表示コンテンツを表示</b>」をクリックすることで再び表示できます。これらのオプションは、リスト・パネルでオブジェクトをクリックした場合にのみ選択可能となります。別の方法として、オブジェクトを右クリックし、コンテキスト・メニューから非表示のオプションを選択することもできます。これには 4 つのオプションがあります。</p> <p>「<b>全体で非表示</b>」：すべてのコンソールにわたってオブジェクトを非表示にします。</p> <p>「<b>全体で再表示</b>」：選択したオブジェクト (Fixlet、タスク、ベースライン、または分析</p>

コマンド	説明
「カスタム・オブジェクト・コピーの作成... (Create Custom Object Copy...)」	<p>のいずれか) を再びリストに表示します。対象のオブジェクトを見つけるには、「<b>非表示コンテンツを表示</b>」ボタンをクリックします。</p> <p>「<b>ローカルで非表示</b>」：現在のコンソールでのみオブジェクトを非表示にします。それ以外のコンソールでは引き続きそのオブジェクトが表示されます。オブジェクト自体は実際に削除されず、「非表示コンテンツを表示」ボタンをクリックしてナビゲーション・ツリーから選択することで再び表示できます。</p> <p>「<b>ローカルで再表示</b>」：「非表示コンテンツを表示」ボタンをクリックした後に、ローカルに非表示となっているコンテンツをこのコマンドで再表示できます。</p> <p>現在選択しているオブジェクト (Fixlet、タスク、ベースライン、コンピューター・グループ、または分析) のカスタマイズされた複製を作成します。コピーごとに、ヘッダー名を作成し、関連するアクションを説明するメッセージを作成できます。関連式のカスタマイズまたは追加を行って、Fixlet またはタスクの対象を絞り込むこともできます。</p>
削除...	<p>カスタマイズされたオブジェクト (Fixlet、タスク、ベースライン、コンピューター・グループ、分析、サイト・ファイルなど) をそのリストから削除します。これを選択して確定すると、カスタマイズされたオブジェクトがリストから恒久的に削除されます。</p>
「カスタム・オブジェクトを編集... (Edit Custom Object...)」	<p>カスタマイズされたオブジェクト (Fixlet、タスク、ベースライン、コンピューター・</p>

コマンド	説明
「グループ >」	<p>グループ、または分析) のメッセージ、アクション、関連度、およびプロパティを編集します。</p> <p>マニュアル・グループにコンピューターのグループを管理します。この項目を展開すると、以下の項目が表示されます。</p> <p><b>「グループとして表示」</b>：選択した一連のコンピューターからアドホック・グループを作成します。その後、この特定グループに関連する Fixlet、タスク、ベースライン、アクション、および分析を表示できます。</p> <p><b>「マニュアル・グループに追加...」</b>：選択したコンピューターを名前付きグループに追加します。既存のグループにコンピューターを付加するか、または新規の名前付きグループを作成できます。選択したクライアントに新しいグループ名を伝達するには、パスワードを入力する必要があります。</p> <p><b>「マニュアル・グループから削除」</b>：指定したグループからコンピューターを削除します。まず、左側のナビゲーション・ツリーでグループを選択し、リストからコンピューターを選択します。変更を伝達するには、パスワードを入力する必要があります。</p>
「アクションの停止」	<p>選択したアクションを停止します。</p>
「ユーザー管理権限の割り当て...」	<p>コンピューター単位で管理権限の付与と取り消しを行うための画面を開きます。</p>
検索...	<p>検索フィールドおよび検索文字列の指定を要求するダイアログを開きます。検索文字列を含むフィールド、または含まないフィールドを検索できます。また、非表示にすることが</p>

**コマンド****説明**

可能なオブジェクト (Fixlet、タスク、ベースライン、分析など) については、表示設定に基づいて検索できます。

## ビュー・メニュー

ビュー・メニューには以下のコマンドがあります。

「非Fixlet メッセージ、タスク、分析などの非表示コンテンツを表示することができます。表 コンテンツは、ローカルに (このコンソールのみで)、またはグローバルに (すべてのコンソールで) 非表示にすることができます。このコンテンツを表示するには、この項目ンテを選択するか、コンソール・ツールバー上で同じ名前のボタンをクリックします。ナ ツビゲーション・ツリーですべてのコンテンツが表示できるようになり、必要に応じての表非表示項目を選択して再表示することができます。

**示」**

**関連** Fixlet メッセージとタスクのような、関連しないコンテンツを表示できます。通 常、BigFix は、ネットワークに関連する項目のみを動作時に表示します。したがっ いコて、例えば、修復のために目に留まるのは、数千もの使用可能な Fixlet の中のほんの ンテわずかな Fixlet のみになります。ある項目がネットワーク全体で修正済みになると、 ンツその項目はそれ以降は関連がなくなり、表示されません。そのような項目をこのメ を表ニュー項目で調べることができるので、自分で使用するために複製を作成する場合や 示 目的を変更する場合に便利です。

「スコンソール・ウィンドウの下部のステータス・バーに、関連するメッセージの数と接 テー続されたデータベースを表示します。このメニュー項目を選択すると、項目の状態を タ 切り替えることができます。

**ス・**  
**バー**  
**を表**  
**示」**

**最新** BigFix データベースから最新情報を取り出します。一般に、管理者 (および「環境設 表示定」ダイアログでの選択項目) によって決定されるスケジュールに基づいて、情報は自

動的に更新されます。更新ではデータベースへのアクセスが行われるので、使用時には十分に注意してください。

## 「移動」メニュー

「移動」メニューでは、ドメインを素早く選択できるほか、コンソールのフォーカスを別のエリアに変更できます。このメニューには以下のコマンドがあります。

**すべてのコンテンツ** すべてのドメインの組み合わせを含む最上位ドメインを開きます。

**「その他のドメイン名 (Other Domain Names)」** 指定したドメインを開きます。サブスクライブしている特定の Fixlet サイトによっては、作成した各種のドメインがこのメニュー内の次の数項目として表示されます。

**「現在のリスト」** コンソールのフォーカスをコンソールの右上にあるリスト・パネルに移動します。

**「現在の文書」** コンソールのフォーカスをコンソールの右下にある作業域内の現在の文書に移動します。

## ツール・メニュー

ツール・メニューには以下のコマンドがあります。

**「カスタム・アクションの実行...」** BigFix クライアント・コンピューターのサブセットを対象として、カスタム・コマンドを実行します。

**「Fixlet の新規作成...」** 対象とアクションが指定されたカスタム Fixlet メッセージを作成します。

**「タスクの新規作成...」** カスタム・タスクを作成します。これは Fixlet メッセージに似ていますが、コンソール・オペレーターがソフトウェアのインストール、設定の更新、または他のローカル・ポリシーの設定に使用するタスクです。

**「ベースラインの新規作成...」** カスタム・ベースラインを作成します。これを使用して、タスク、Fixlet メッセージ、およびその他のベースラインのグループを設定し、シングルクリックで任意のコンピューター・グループに適用することができます。

「**分析の新規作成...**」 BigFix クライアント・コンピューターの指定のプロパティーに基づいて、カスタム分析を作成します。

「**自動コンピューター・グループの新規作成...**」 名前、CPU、IP アドレスなどの各種のクライアント・プロパティーに基づいて、自動的に定義されたコンピューター・グループを作成します。

「**マニュアル・コンピューター・グループの新規作成...**」 任意のコンピューター・リストからデータを取り込むことができるコンピューター・グループを手動で作成します。

「**外部サイト・マストヘッドの追加...**」 (Create New Manual Computer Group...)

Fixlet サイトへの新規サブスクリプションを開始します。このコマンドにより、ブラウザー・ウィンドウが開き、マストヘッド・ファイル (通常は .efxm という拡張子が付いています) を選択できるようになります。

「**サイトへのファイルの追加...**」 ユーザーが作成したサイトにテキスト・ファイル、ユーティリティー・ファイル、ドメイン・ファイル、またはダッシュボード・ファイルを追加します。

「**LDAP ディレクトリーの追加...**」 既存の Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ドメインまたは Active Directory (AD) ドメインをコンソールに追加します。

「**カスタム・サイトを作成...**」 ユーザー独自のコンテンツが入っているカスタム・サイトを作成します。カスタム Fixlet、タスク、分析などを作成できます。

「**オペレーターを作成...**」 パスワード保護されたローカル・オペレーターを作成します。

「**LDAP オペレーターを追加...**」 既存の LDAP サーバーにあるユーザー・リストから、コンソール・オペレーターを追加します。

「**役割の作成...**」 コンピューターおよびサイトに対する関連権限を持つ役割を作成します。役割に LDAP グループを組み込んで、複数の潜在ユーザーを一度に追加することもできます。

「**カスタム・フィルターを作成...**」 各種のプロパティーに基づいて特定のカスタム・コンテンツを検索できる名前付きフィルターを作成します。フィルタリングに使用可能なオブジェクトには、Fixlet メッセージ、タスク、分析、コンピューターなどがあります。

**「プロパティの管理...」** 関連句を使用してクライアントから取得するプロパティを作成し、管理します。これらのプロパティは、クライアント・リストの列ヘッダーに組み込まれます。デフォルトのプロパティ・セットがありますが、このセットに対して追加することも、削除することもできます。プロパティを使用して、Fixlet アクションの適用のためのクライアント・サブセットをフィルタリング (選択) します。

**「最近のコメントを表示」** コンソール・オペレーターが作成したコメントのリストを、最新のものから最古のものへの順にソートして表示します。このリストには、基本のオブジェクトに関係なく、すべてのコメントが含まれます。

**「Web レポートを起動...」** データ・レポートへのアクセスを提供します。データ・レポートは、さまざまな BigFix サーバーから収集され、1 セットの HTML レポートに集約されます。これらの HTML レポートには、広範囲のコンピューター・ネットワーク全体にわたる Fixlet メッセージおよびアクションの履歴とステータスが要約されています。

**「視覚表示ツールを起動...」** ツールを実行して、サーバーからリレーを経てクライアント・コンピューターに至るまで、インストール済み環境の階層を視覚的に表示できます。

## ヘルプ・メニュー

ヘルプ・メニューには以下のコマンドがあります。

**内容** 総合ヘルプを提供します。

**「オンライン・サポート」** ブラウザーを起動してサポート・サイトを表示します。

**「コンソール改善プログラム」** BigFix コンソールを拡張するためのコンソール改善プログラムに参加します。このプログラムにより、コンソールの作業セッション中に、匿名の使用状況メトリックおよび統計を自動的に収集できます。

**BigFix について「コンソール...」** 本製品のバージョン番号とサポート用 URL を表示します。

# 第 章16. ダイアログ

## BigFix コンソールについて

「バージョン情報」ダイアログには、BigFixコンソールのバージョンが表示されます。ここでは、テクニカル・サポートの URL も示されています。

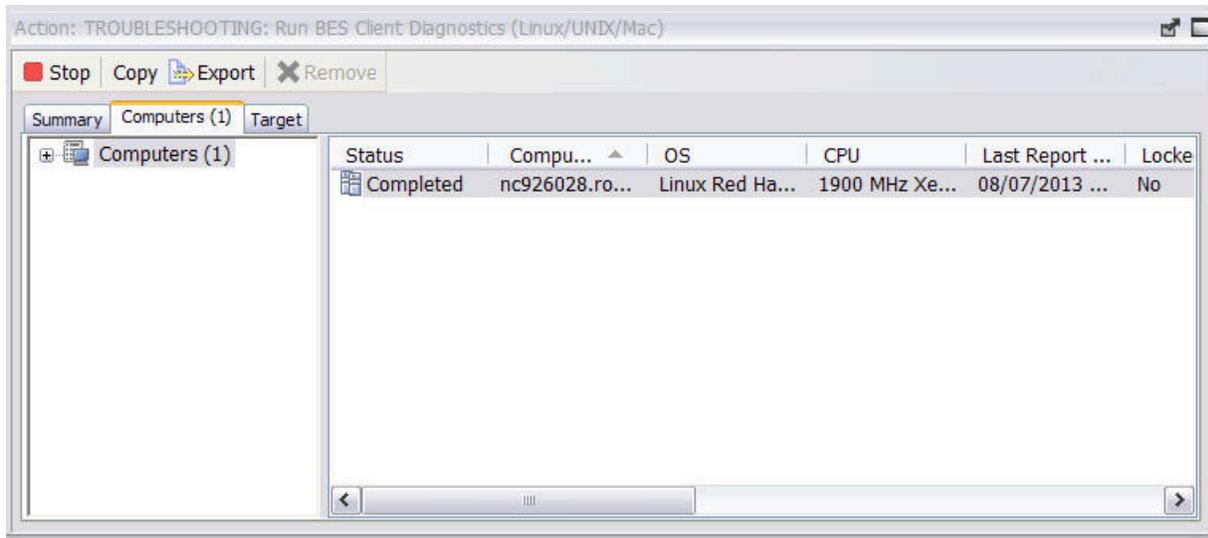


このダイアログは、以下を選択すると表示されます。

- 「ヘルプ」 > 「バージョン情報 (About BigFix Console)」

## アクション: 「コンピューター」

「アクション」文書の「コンピューター」タブには、指定されたアクションの影響を受けるコンピューターの数と、各コンピューターの現在のステータスが表示されます。



特定のアクションのこの情報を表示するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーション・ツリーで「**アクション**」アイコンをクリックします。
2. リスト・パネルで特定のアクションを選択します。アクションに関する情報が作業域に表示されます。
3. 作業域で「**コンピューター**」タブを選択します。

「**コンピューター**」タブの左側にはナビゲーション・ツリーがあります。ここで、指定されたアクションの影響を受けるコンピューターの数を確認したり、分析を容易にするために、絞り込みによってリストをフィルタリングしたりすることができます。フィルタリングされたリストには、アクションの対象であるコンピューターと、各コンピューターの現在のステータスが表示されます。適切なヘッダーをクリックすることにより、リストをソートできます。リスト内のコンピューターをダブルクリックすると、対象のコンピューターの詳細情報を表示できます。

「**ターゲット**」タブには、当初アクションの対象であったコンピューターが表示され、一方、「**コンピューター**」タブには以下の事項が表示されます。

- アクションが当初特定のコンピューターを対象にしていた場合は、対象からの応答の有無にかかわらず、選択された各対象でのアクションのステータス。
- アクションの対象が当初プロパティに応じて指定されていた場合は、実際に応答があった対象でのアクションのステータス。

 **注:** 「アクションの実行」ダイアログの「ターゲット」タブで選択されている対象選択方式が「プロパティに応じて動的に対象を指定」に設定されていた場合、「コンピューター」タブは「報告されたコンピューター」タブと名前変更されます。

適用されたアクションは、明確に定義された一連の段階に沿って、個々のコンピューター上で進行します。さまざまな段階における、コンピューターに対するアクションのステータスを以下に示します。

### キャンセル済み

ユーザーがアクションをキャンセルしました。

### 制約付き

アクションは、「アクションの実行」ダイアログの「実行」タブで設定された関連文によって制約されています。

### ダウンロードに失敗しました

アクションはダウンロードを完了できませんでした。

### エラー

アクションの結果、エラーが発生しました。

### 評価中

アクションはその関連度をまだ評価中です。

### 失敗

アクションは正しく実行できませんでした。

### 修正済み

アクションが完了し、問題が解決されました。

### 無効な署名

署名が無効なため、アクションを実行できません。

### ロック状態

コンピューターはロック状態のため、アクションを実行できません。

### 関連なし

アクションはこのクライアントには関連していません。

### **レポートがありません**

アクションは、アクションの成功または失敗をレポートしていません。

### **無効な提案**

指定されたクライアントで提案を表示できないため、アクションは実行されません。

### **ダウンロードの保留中**

アクションはダウンロードを待機中です。

### **ログインの保留中**

アクションは、ユーザー支援アクションのためにユーザーがログインを実行するのを待機中です。

### **メッセージの保留中**

アクションは、ユーザーがアクション・メッセージに同意するのを待機中です。

### **提案の同意を保留中**

アクションは、ユーザーが提案に同意するのを待機中です。

### **再起動の保留中**

アクションはクライアント・コンピューターの再起動を待機中です。

### **延期済み**

アクションはクライアントによって延期されています。

### **実行中**

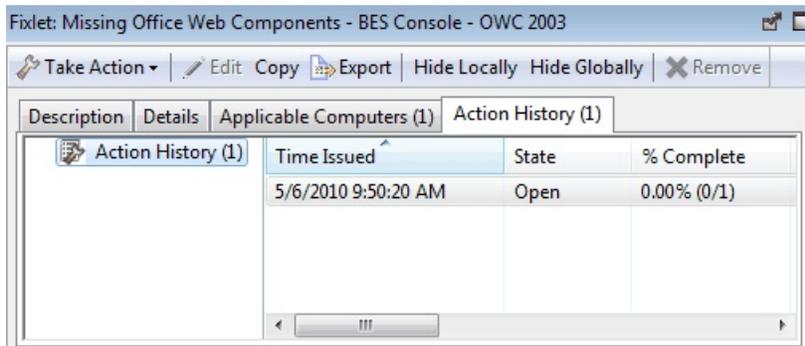
アクションは現在実行中です。

### **待機中**

アクションはユーザー応答を待機中です。

## **「アクション履歴」 タブ**

「**アクション履歴**」タブには、選択した **Fixlet**、**タスク**、または**ベースライン**文書に関連したアクションの適用履歴がリストされます。



このダイアログに何かを表示するには、アクションを実行する必要があります。ヘッダーをクリックすると、アクション履歴リストをソートすることができます。ヘッダーには、**ID**、**実行時刻**、**状態**、**完了率** (成功を報告したクライアント数に基づく)、**名前**、**サイト**、**発行者**、および**タイプ**が含まれています。

このダイアログを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーから Fixlet、タスク、またはベースラインのいずれかのアイコンを選択し、リスト・パネルで項目をクリックして、リストの下の作業域にある「**アクション履歴**」タブをクリックします。

## アクション・リストと文書

これは、アクションに関するメインパネルです。ここでは、コンテンツ・サイトに適用されたすべてのアクションがリスト・パネルに表示され、リスト内で強調表示されたアクションの詳細を含む「**アクション文書**」が作業域に表示されます。

The screenshot displays the BigFix console interface. On the left is a navigation pane with categories like 'Fixlets and Tasks (810)', 'Analyses (87)', and 'Actions (6)'. The main area shows a table of actions:

Time Issued	State	% Complete	Name	Site
24/07/2013 17.21.56	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Software Use Analysis	Master Operator Site
24/07/2013 17.21.25	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Server Automation	Master Operator Site
24/07/2013 17.21.05	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Security and Compliance	Master Operator Site
24/07/2013 17.20.31	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Power Management	Master Operator Site
24/07/2013 17.20.13	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Patch Management	Master Operator Site
24/07/2013 16.17.08	Open	100,00% (1/1)	Accept License for Lifecycle Management	Master Operator Site

Below the table, the selected action 'Accept License for Software Use Analysis' is shown in a detailed view. It includes a toolbar with 'Stop', 'Copy', 'Export', and 'Remove' buttons. The 'Summary' tab is active, displaying:

**Status**  
100,00% Completed (1 of 1 applicable computers)

Status	Count	Percentage
Completed	1	100,00%

Below this, the 'Behavior' section contains 'Messages' and 'Users'.

アクション文書の上部には、アクションの説明があります。その下のツールバーには、**アクションを停止、コピー、エクスポート、または削除**するためのオプションがあります。これらのコマンドについて詳しくは、[アクションでのコマンドの実行 \(ページ 42\)](#)を参照してください。

アクション文書には、3つのタブがあります。タブは以下のとおりです。

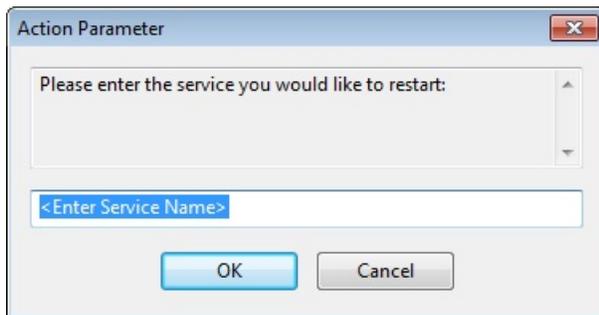
- **「概要」**: 状況、動作 (メッセージ、ユーザー、実行、ポストアクション)、関連度、成功条件、およびアクション・スクリプトを含む各種のアクション属性の HTML 表示。ページの下部に、コメントを入力するテキスト・ボックスがあります。このタブとその内容について詳しくは、[アクション: 概要 \(##### 174\)](#)を参照してください。
- **「コンピューター」**: 指定したアクションの影響を受ける関連コンピューターの数およびリストと、各コンピューターに対するアクションの現在の状況を表示します。左のパネルのフィルターを使用することにより、右のパネルのコンピューターのリストを絞

り込むことができます。このタブとその内容については、[アクション: 「コンピューター」 \(##### 162\)](#)を参照してください。

- 「対象」: アクションの対象とされた元のコンピューター・サブセットを示します。このタブとその内容については、[アクション: ターゲット \(##### 178\)](#)を参照してください。

## アクション・パラメーター

このダイアログ・ボックスは、特定のアクションまたはアクションのグループが実行前に必要とする追加情報を要求します。通常は、パラメーターを入力するためのテキスト・ボックスが付いたプロンプトが表示されます。

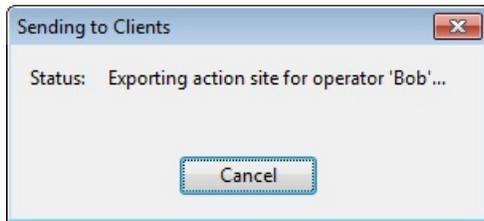


「OK」をクリックすると、アクションの適用を続行します。通常これによって、「アクションの実行」ダイアログが開き、このダイアログで適用オプションをさらに指定できます。

「アクション・パラメーター」ダイアログが開くのは、最終的な対象選定の前に追加情報を必要とする Fixlet 内でアクション・リンクをクリックした場合のみです。

## 「アクションの進行状況レポート (Action Progress Report)」

このダイアログ・ボックスは、アクションが Fixlet ネットワーク全体に適用されたときのアクションの進行状況を示します。



最初に、すべてのダウンロード (パッチや更新など) の進行状況が表示されます。ダウンロードするファイルがある場合、ダウンロードされるファイルの名前、バイト総数、現在ダウンロードされた量、転送速度、および完了までの推定時間が表示されます。

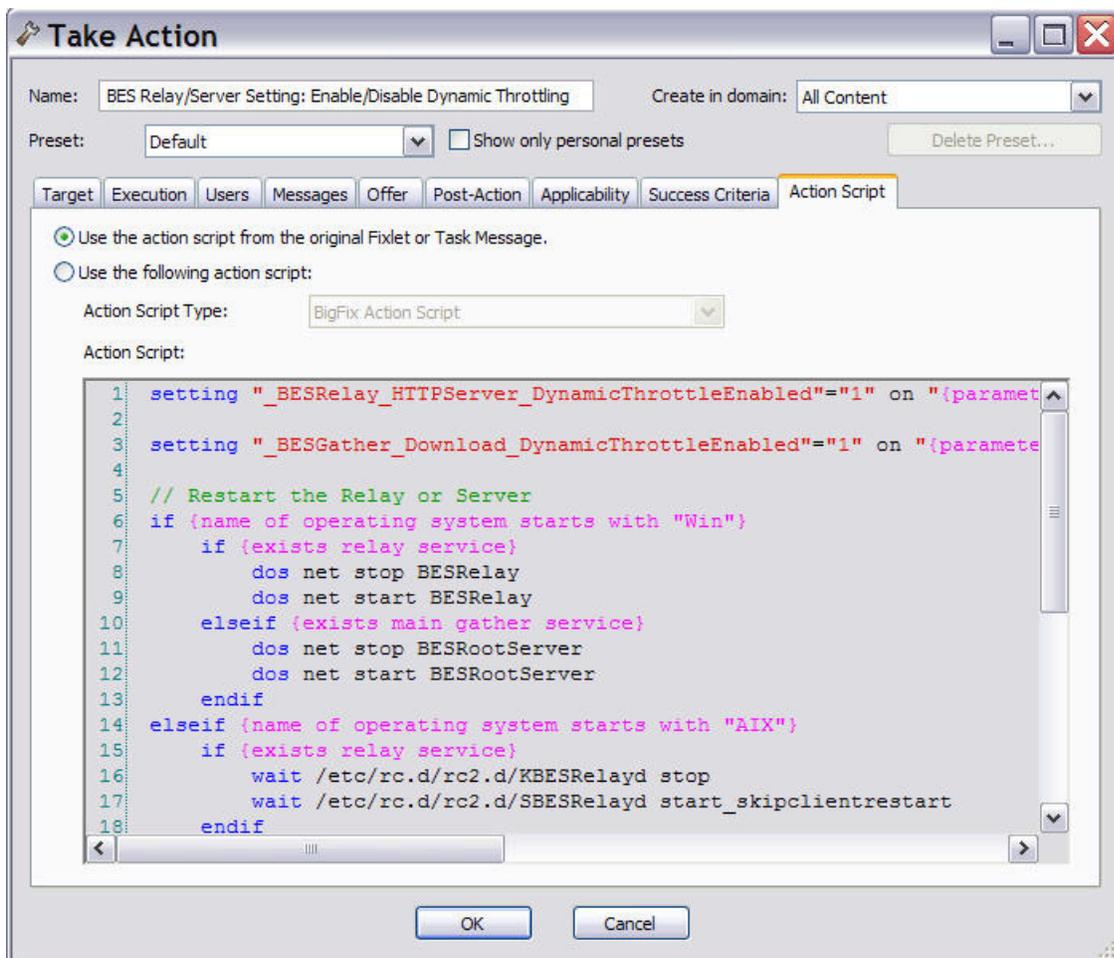
アクションは、クライアントによって収集、評価、および実行されるときにいくつかの状態を経過する可能性があります。以下の状態が含まれます。

- 「**実行中**」：アクションは現在実行中です。
- 「**評価中**」：アクションはその関連度をまだ評価中です。
- 「**失敗**」：アクションは正しく実行できませんでした。
- 「**キャンセル済み**」：ユーザーがアクションをキャンセルしました。
- 「**ダウンロード失敗**」：アクションはダウンロードを完了できませんでした。
- 「**ロック状態**」：コンピューターはロック状態のため、アクションを実行できません。
- 「**無効な提案**」：指定されたクライアントで提案を表示できないため、アクションは実行されません。
- 「**待機中**」：アクションはユーザー応答を待機中です。
- 「**ダウンロードの保留中**」：アクションはダウンロードを待機中です。
- 「**再起動の保留中**」：アクションはクライアント・コンピューターからの再起動を待機中です。
- 「**メッセージの保留中**」：アクションは、ユーザーがアクション・メッセージに同意するのを待機中です。
- 「**ログインの保留中**」：アクションは、ユーザー支援アクションのためにユーザーがログインを実行するのを待機中です。
- 「**提案の同意を保留中**」：アクションは、ユーザーが提案に同意するのを待機中です。
- 「**制約付き**」：アクションは、「アクションの実行」ダイアログの「実行」タブで設定された関連文によって制約されています。
- 「**延期済み**」：アクションはクライアントによって延期されています。
- 「**無効な署名**」：署名が無効なため、アクションを実行できません。

- 「**関連しません**」：アクションはこのクライアントには関連していません。
- 「**レポートがありません**」：アクションは、アクションの成功または失敗をレポートしていません。
- 「**エラー**」：アクションの結果、エラーが発生しました。
- 「**修正済み**」：アクションが完了し、問題が解決されました。

## 「アクション・スクリプト」タブ

一般には、Fixlet またはタスクと共に提供されるアクション・スクリプトを使用することが推奨されますが、ご使用の環境や業務上のニーズに合わせてアクション・スクリプトを調整することが有用な場合もあります。「**アクションの実行**」ダイアログの「**アクション・スクリプト**」タブを使用して、アクション・スクリプトを変更できます。



このタブにアクセスするには、以下の手順を実行します。

1. 任意のリストから、Fixlet メッセージまたはタスクを選択します。
2. アクション・ボタンをクリックします。
3. 「**アクションの実行**」ダイアログで、「**アクション・スクリプト**」タブを選択します。

このダイアログには以下の 2 つのボタンがあります。

### 元の Fixlet またはタスク・メッセージのアクション・スクリプトを使用する

ほとんどの Fixlet アクションではこれがデフォルトで、推奨されるオプションです。

### 以下のアクション・スクリプトを使用

以下のオプションのいずれかを選択し、既存のスクリプトを変更するか、テキスト域に新規スクリプトを入力することができます。このスクリプトに使用するアクション・スクリプトのタイプを選択します。

#### BigFix アクション・スクリプト

これは、アクションの BigFix 標準スクリプト言語です。アクション言語について詳しくは、BigFix Developer Web サイト (<https://developer.bigfix.com>) の「<https://developer.bigfix.com/action-script/> *Action Script Language*」セクションを参照してください。

#### AppleScript

これはコンピューター・リソースを制御するための Apple のスクリプト言語です。

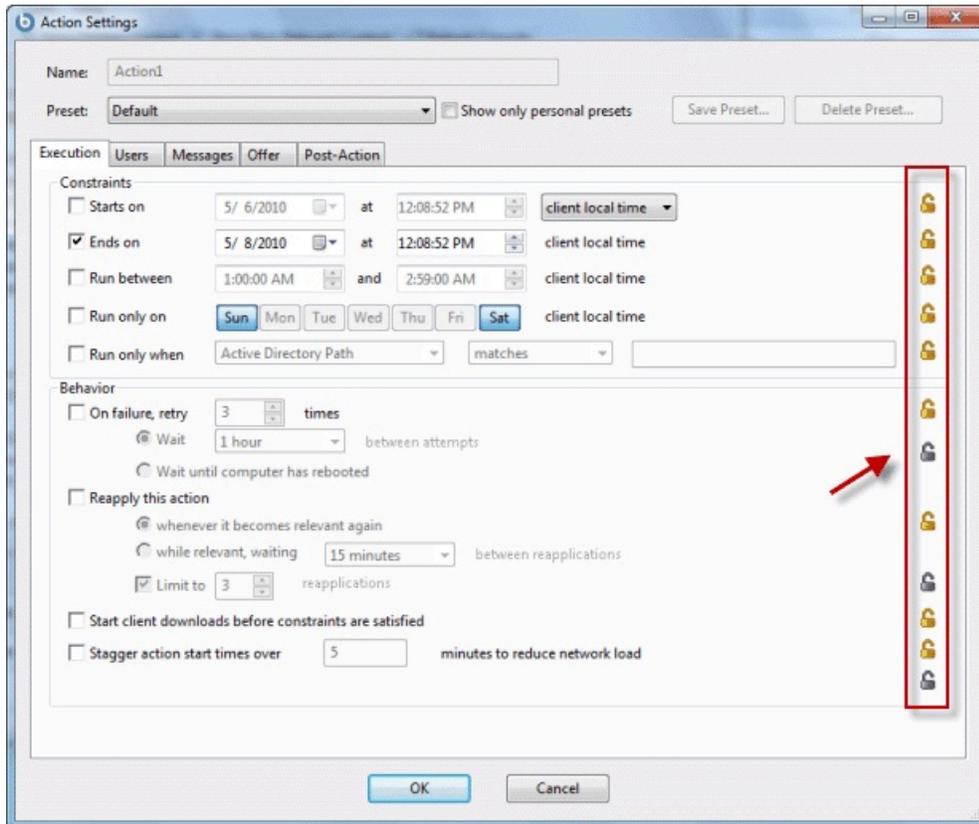
#### sh

アクションは、Linux または UNIX または bsd シェルによって実行されるシェル・スクリプトです。

 **注:** デフォルトでは、アクションを元に戻すことはできません。使用するアクションは、小さい規模でテストしてからネットワーク全体に適用するようにしてください。

## アクション設定

「アクション設定」ダイアログでは、新規またはカスタマイズされた Fixlet メッセージ、タスク、またはベースラインに対してロック可能なアクション設定を適用できます。



画面の右側にあるロック・アイコンを使用して、このダイアログの各タブにある個々の項目をロックし、選択された制約を使用してアクションの実行を強制することができます。

- このダイアログの上部にアクションの**名前**が表示されます。コンテキストによってはこれは編集可能な場合もあり、名前を変更したり情報を追加したりすることができます。

「名前」ボックスの下には、アクションの値を保存または再使用するための以下のボタンがあります。

- 「**プリセット**」：既存のプリセットが存在する場合、その名前を示すプルダウン・メニューです。名前をクリックすると、アクション設定が自動的に入力されます。

- 「**個人用プリセットのみ表示**」：プリセットを自分自身の個人用プリセットに限定する場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。
- 「**プリセットの保存**」：アクションのカスタム設定を作成したら、それを保存して後で再使用できます。
- 「**プリセットの削除**」：プリセットを選択してこのボタンをクリックすると、そのプリセットが削除されます。

ダイアログの本体には、次に示すいくつかのタブが含まれています。

- 「**実行**」：このタブでは、開始日、終了日、実行ウィンドウなどのアクションの制約を設定できます。また、(アクションが失敗または元に戻される場合の) 再試行回数を設定して、ネットワークの負荷を最小化するために、デプロイメントをある期間にわたって分散させることができます。
- **ユーザー**：アクションを実行する前にログオン・ユーザー (または指定されたユーザーのグループ) が存在することが必要かどうかを指定できます。
- 「**メッセージ**」：対象となるクライアントに表示する情報メッセージと、ユーザーによる操作のオプションを指定します。
- 「**提案**」：このタブでは、このアクションを提案に変換でき、提案は、クライアントの選択についての HTML ユーザー・インターフェースの表示をトリガーします。ユーザーには、これらの提案をリストから選択するオプションが示されます。
- 「**ポスト・アクション**」：再起動やシャットダウンなどのアクションのフォローアップ動作と、適切な警告メッセージを指定します。

これらのタブにある任意の項目をロックまたはロック解除するには、右側にあるアイコンをクリックします。

アクション設定の指定が終了したら、「**OK**」をクリックします。コンソールでアクションを実行できるようにするには、パスワードを入力する必要があります。これを実行すると、デプロイメントについての通知を続ける進行状況ダイアログが開きます。

このダイアログは、Fixlet メッセージ、タスク、またはベースラインを作成またはカスタマイズするときに使用できます。タスクおよび Fixlet メッセージの場合は、「**アクション**」タブを選択し、「**アクション設定ロックを含める**」の横のチェック・ボックスをオンにし、「**編集**」ボタンをクリックすると、このダイアログが表示されます。ベースライン

を作成またはカスタマイズする場合は、「コンポーネント」タブをクリックし、「カスタム・アクション設定を使用する (Use custom action settings)」の横のボックスにチェック・マークを付け、「アクション設定のセット」リンクをクリックします。

## 「アクション・サイト署名キー」

このダイアログでは、秘密鍵 (.pvk) の場所を管理したり、アクション署名キーのパスワードを変更したりすることができます。



コンソール・オペレーターは、サイト管理者から秘密鍵 (publisher.pvk または license.pvk) を取得する必要があります。サイト管理者は、BigFix 管理者ツールを使用して秘密鍵を最初に作成する必要があります。これらのキーが作成されたら、サイト管理者は、権限がある担当者にキーを付与し、担当者はアクションを伝搬させることができます。アクションに署名するには、権限があるコンソール・オペレーターは適切な秘密鍵 (通常は取り外し可能なディスクまたはメモリー・スティックに保管されている) を参照し、パスワードを指定する必要があります。

このダイアログは、「ツール」 > 「署名キーの管理」を選択して表示できます。

## アクション: 概要

「アクション」文書の「概要」タブには、選択されたアクションの各種属性が表示されます。これらの設定は、アクションが最初に指定されたときに作成されます。

Action: TROUBLESHOOTING: Run BES Client Diagnostics (Linux/UNIX/Mac)

Stop Copy Export Remove

Summary Computers (1) Target

**▼ Status**

**100,00% Completed (1 of 1 applicable computers)**

Status	Count	Percentage
Completed	1	100,00%

**▼ Source**

This action's source is the Task "[TROUBLESHOOTING: Run BES Client Diagnostics \(Linux/UNIX/Mac\)](#)" in the "BES Support" site.

**▼ Behavior**

**Messages**

No user interface will be shown before running this action.  
No message will be shown while running this action.

**Users**

This action will run independently of user presence.  
User interface will be shown to all users.

**Execution**

This action ends 10/07/2013 13.13.00 client local time.  
It will run at any time of day, on any day of the week.  
If the action becomes relevant after it has successfully executed, the action will not be reapplied.  
If the action fails, it will not be retried.

**Post-Action**

No operations will occur after the action completes.

特定のアクションのこの情報を表示するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーション・ツリーで「アクション」アイコンをクリックします。
2. リスト・パネルから特定のアクションを選択します。アクションに関する情報が作業域に表示されます。
3. 作業域で「概要」タブをクリックします。

「概要」タブには、以下の情報が表示されます。

## 状況

アクションの完了状況ごとにグループ化された、適用可能なターゲットの数を表示します。ステータスは、「**レポートがありません**」、「**待機中**」、「**実行中**」、または「**完了**」の場合があります。

## ソース

このアクションが Fixlet によって開始された場合、このセクションには Fixlet へのリンクと関連するコンテンツ・サイトの名前が含まれます。

## 動作

以下のようなアクション設定を表示します。

### メッセージ

指定されたアクションの実行前または実行中に表示されるメッセージについて説明します。

### ユーザー

アクションでのユーザー介入に対する要件をリストします。ユーザー・グループを選択するためのユーザー・インターフェースを提供することができます。

### 実行

終了時刻、再適用、およびアクションが失敗した場合の動作など、アクションの実行に関する情報が含まれます。

### ポストアクション

再起動やシャットダウンなど、アクション適用後の動作についての情報を提供します。

## 詳細

このセクションには、以下のような、アクション実行に関する情報、および使用された Relevance 式とアクション・スクリプトが表示されます。

### ID

アクションの ID。これは、該当のアクション実行の固有 ID です。

## ドメイン

このアクションをホスティングするドメインの名前。

## Type (タイプ)

アクションが発行された方法に応じて、シングル・アクションまたはマルチアクション。詳細については、[アクションの実行 \(##### 32\)](#)を参照してください。

## 状態

適用されているアクションの全体的な状態。開かれたアクションは、停止されるか期限切れになるまで削除できません。次の状態が考えられます。

### open

アクションは、1つ以上のコンピューターでアクティブです。アクションは、有効期限が過ぎるか、オペレーターによって停止されるまで、オープンのままになります。開いているアクションは削除できません。

### 停止

オペレーターがアクションを停止しました。アクションは、有効期限が過ぎるか、削除されるまで、停止のままになります。

### 期限切れ

アクションは有効期限を過ぎています。アクションが期限切れになると、ターゲットは評価を停止します。したがって、期限切れアクションの場合、ターゲット状況は、期限切れ時にクライアントによって最後に報告されたステータスのスナップショットです。

## 発行日時

実行日付とアクションを実行したオペレーター。

## 関連度 (Relevance)

これは、このアクションの対象を判別する Relevance ステートメントの完全なリストです。Relevance Language について詳しくは、<https://developer.bigfix.com/relevance/> BigFix Developer Web サイト (<https://developer.bigfix.com>) の『*Relevance Language*』セクションを参照してください。

## アクション・スクリプト (Action Script)

このアクションがクライアント・コンピューターに関連する場合に実行されるスクリプトのリストです。アクション言語について詳しくは、<https://developer.bigfix.com/action-script/> BigFix Developer Web サイト (<https://developer.bigfix.com>) の『*Action Script Language*』セクションを参照してください。

## 成功条件

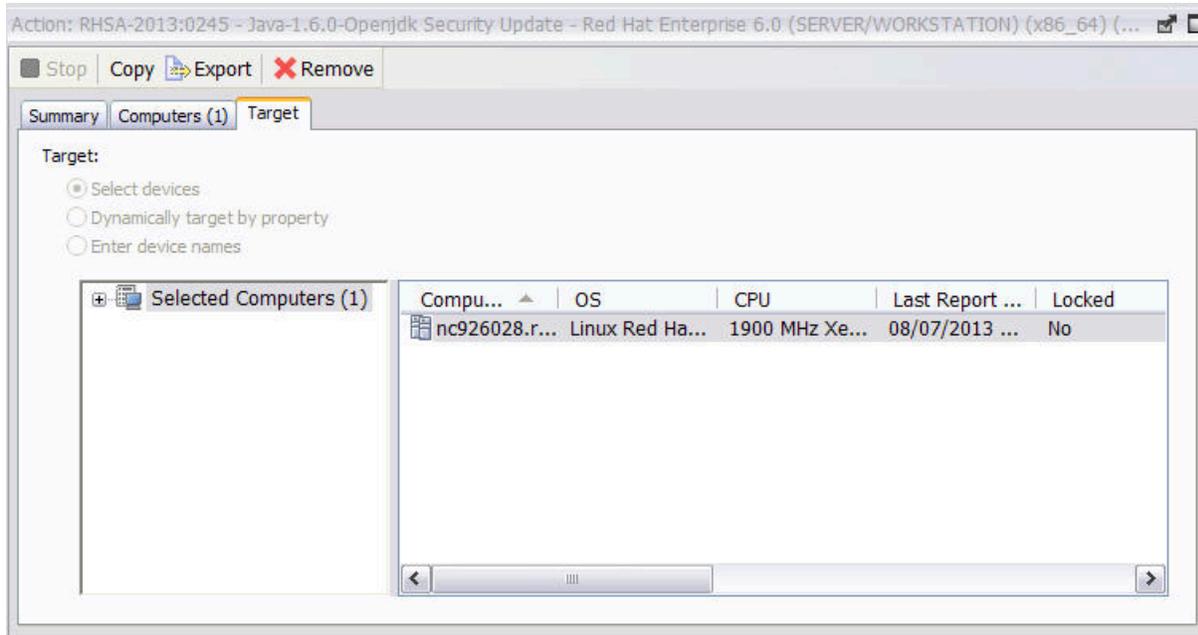
アクションの正常な完了を判別するために使用される条件。

## コメント

アクションについてのコメントを表示または付加することが可能なテキスト・ボックスです。このメッセージは、アクションが属するコンテンツ・サイトへのアクセス権限を持つすべてのオペレーターが表示することができます。

# アクション: ターゲット

「アクション」文書の「対象」タブには、指定されたアクションの対象となるコンピューターが読み取り専用で表示されます。



特定のアクションのこの情報を表示するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーション・ツリーで「アクション」アイコンをクリックします。
2. リスト・パネルで特定のアクションを選択します。アクションに関する情報が作業域に表示されます。
3. 作業域で「対象」タブを選択します。

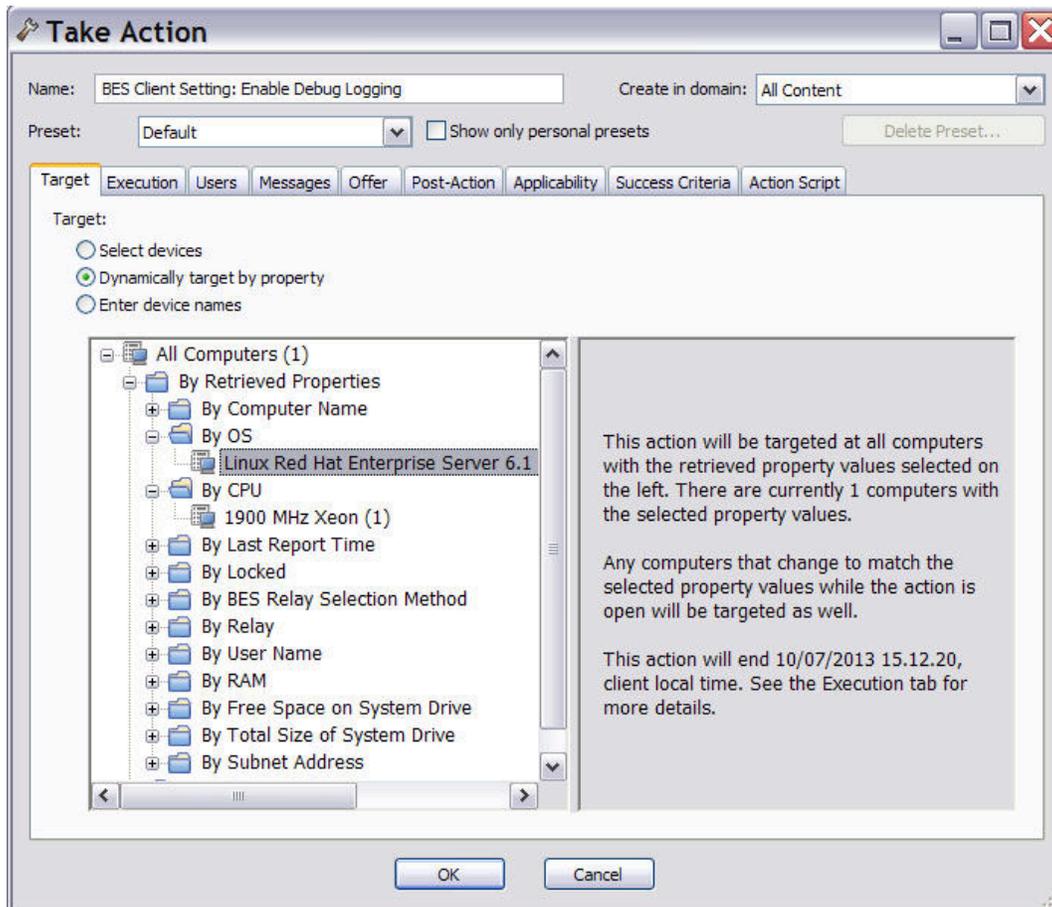
このダイアログでは、現在アクションの対象となっているコンピューターを示します。元の対象は、[アクションの実行 \(##### 301\)](#) ダイアログの「ターゲット」タブでアクションが適用されたときに設定されます。このダイアログの上部にある3つの読み取り専用のラジオ・ボタンによって示される、対象選択方式に応じて、このコンピューターのリストは静的な場合と動的な場合があります。

### デバイスの選択

このオプションが指定された場合、このリスト内のコンピューターは、このアクションに関連するコンピューター、つまり[アクションの実行 \(##### 301\)](#) ダイアログの「適用条件」タブに設定された Relevance 式を満たすものです。これはデフォルトの動作です。

### プロパティに応じて動的に対象を指定

このオプションが指定された場合、指定された取得プロパティを持つすべての BigFix クライアント・コンピューター (例えば、Linux Red Hat Enterprise Server 6.1 がインストールされた任意のコンピューターなど) が選択されます。



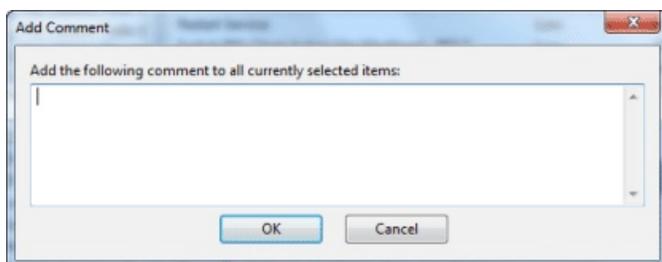
この検索は、「アクションの実行」がトリガーされたときに実行され、アクションが終了するまでタイムリーに再評価されます。アクションの有効期限時刻は、アクションの実行がトリガーされた際に「実行」タブに設定されます。このプロパティを満たす新規コンピューターが見つかった場合、それらのコンピューターは対象のリストに追加され、アクションはそれらのコンピューターに対しても実行されます。この対象設定方式が選択された場合、「コンピューター」タブは「報告されたコンピューター」と名前変更されます。

## デバイス名の入力

このオプションは、このアクションを実行するターゲット・コンピューターのリストを指定するために使用します。コンピューターのリストを入力して、それぞれのコンピューター名を改行で区切るようにしてください。

## コメントの追加

「コメントの追加」ダイアログでは、Fixlet メッセージ、タスク、ベースライン、アクション、コンピューター、コンピューター・グループ、および分析に説明コメントを付加することができます。

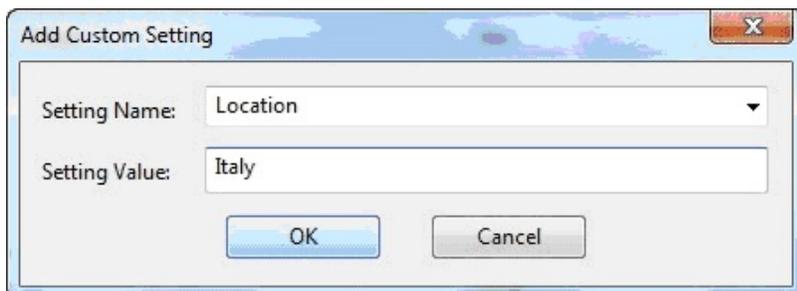


ここに入力するコメントは、関連付けられたいずれかの項目をワークスペース内で開いたときに「説明」タブまたは「概要」タブに表示されます。

このダイアログは、リスト・パネルから項目を右クリックし、コンテキスト・メニューから「コメントの追加」を選択することによって使用できます。

## 「カスタム設定を追加」

このダイアログ・ボックスでは、選択されたコンピューターに適用するカスタムの名前/値の設定を作成できます。



最初の入力ボックスに変数の名前を入力し、2 番目のボックスに変数の値を入力します。これはコンピューターまたはコンピューターのセットに命名したり、テキストまたは数値を付加したりするのに役立ちます。

 **注:**

BigFix V9.5 の UNIX エージェントおよび Linux エージェントへの命名では、以下の 3 つの文字を含めることができません。

```
"]" (right square bracket), "\" (backslash), "=" (equals)
```

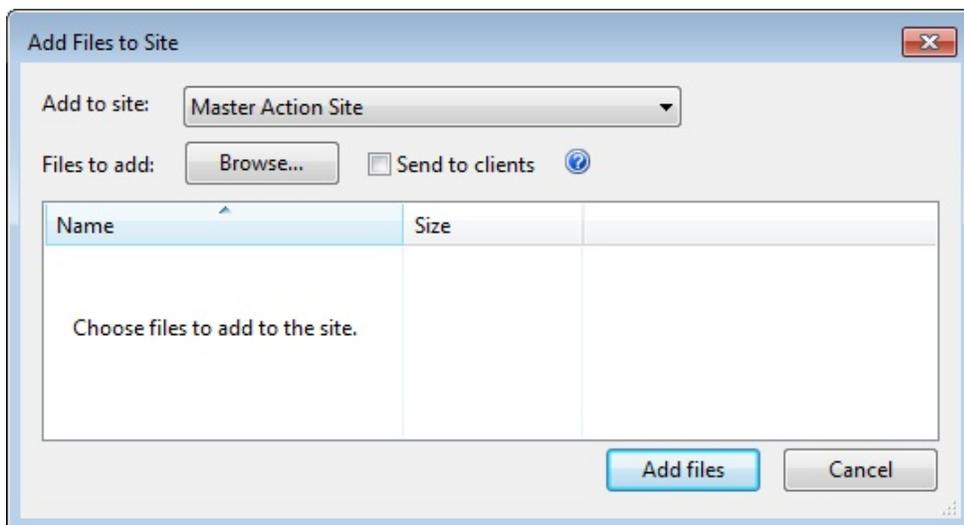
これらの文字のいずれかを設定名に使用した場合、「設定の追加」は成功したように見えますが、設定は失われるか壊れます。近隣の設定にも良くない影響が及ぶ可能性があります。

これらの文字を含む設定が BigFix V9.2 エージェントに存在する場合、それらの設定は BigFix V9.5 エージェントに更新する際に失われるか壊れます。

このダイアログは、「コンピューター設定の編集」ダイアログから使用できます。任意のリストからコンピューターを右クリックし、ポップアップ・メニューから「**コンピューターの設定を編集**」を選択して、「**追加**」ボタンをクリックします。

## サイトへのファイルの追加

このダイアログでは、作成可能な任意のサイトにファイルを追加できます。単純なテキスト・ファイルから機能的なダッシュボードに至るまで、あらゆるものを追加できます。



「**サイトへの追加**」プルダウンからサイトを選択し、「**参照**」をクリックして追加するファイルを指定し、「**ファイルの追加**」をクリックします。

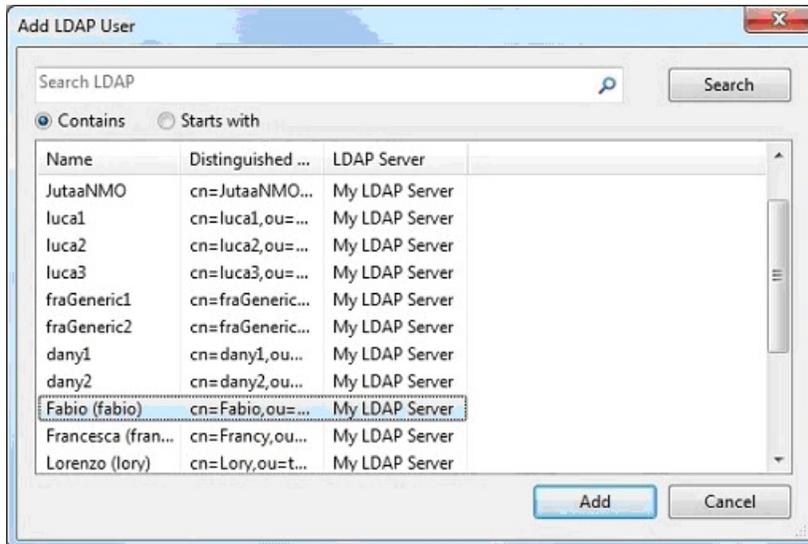
ファイルを各クライアントに配信するには、「**クライアントに送信 (Send to clients)**」ボックスをクリックします。

詳細については、『**サイトへのファイルの追加**』を参照してください。

このダイアログは、「**ツール**」>「**サイトへのファイルの追加...**」を選択することによって使用できます。

## 「LDAP ユーザーの追加」

LDAP ユーザーはコンソールを使用して追加できます。

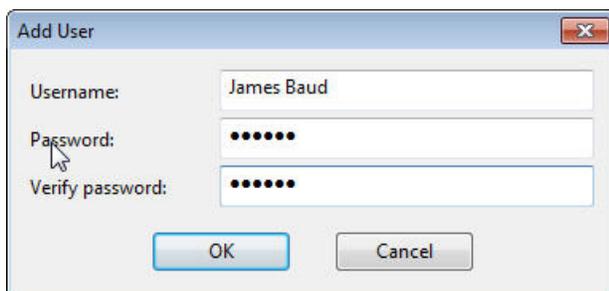


ユーザーの名前を選択するか、検索します。[追加] をクリックします。

このダイアログは、「ツール」 > 「LDAP オペレーターの追加」を選択すると表示されます。

## ユーザーの追加

ローカル・ユーザーは、コンソールでパスワード保護機能を使用して追加できます。

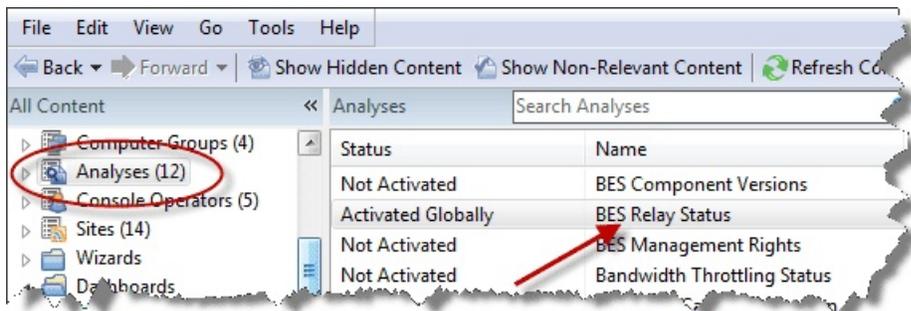


ユーザーの名前とパスワードに加えて、確認パスワードを入力します。[OK] をクリックします。

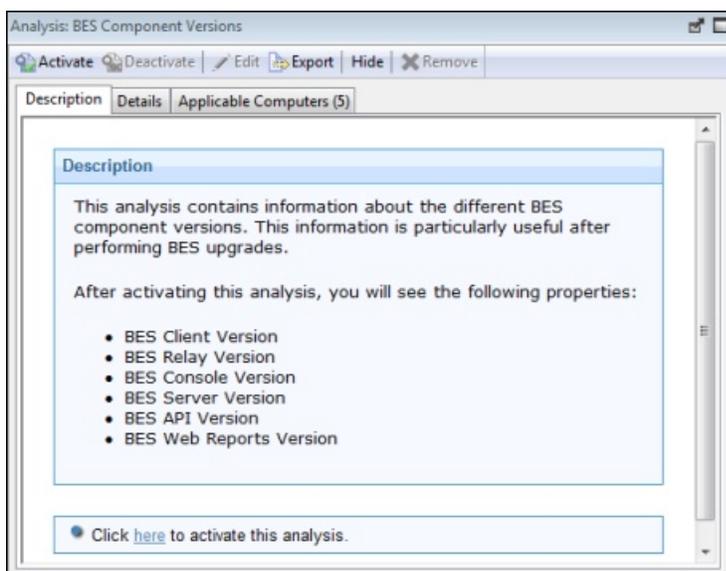
このダイアログは、「ツール」 > 「オペレーターの作成」を選択すると表示されます。

## 分析リストおよび分析文書

ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーから「分析」またはその下位ノードをクリックすると、分析のリストが表示されます。



このリストで項目をクリックすると、コンソールの作業域に**分析文書**が表示されます。



分析文書の上には、分析の名前があります。ウィンドウの上部のツールバーには、以下の選択項目があります。

- 「**アクティブ化**」：指定された分析を開始します。このオプションは、分析が現在非アクティブになっている場合にのみ使用できます。
- 「**非アクティブ化**」：指定された分析を停止します。このオプションは、分析が現在アクティブになっている場合にのみ使用できます。
- 「**編集**」：この分析を変更します。このオプションは、これがカスタム分析の場合にのみ使用できます。

- 「**エクスポート**」: この分析のコピーを保存して、別のコンソールまたはデプロイメントにインポートするか、外部エディターで編集します。
- 「**全体で非表示**」: この分析をすべてのコンソールで非表示にします。
- 「**ローカルで非表示**」: ローカル・コンソールでのみこの分析を非表示にします。
- 「**削除**」: この分析を削除します。このオプションは、カスタム分析についてのみ使用できます。

分析文書にはいくつかのタブがあります。それらは以下のとおりです。

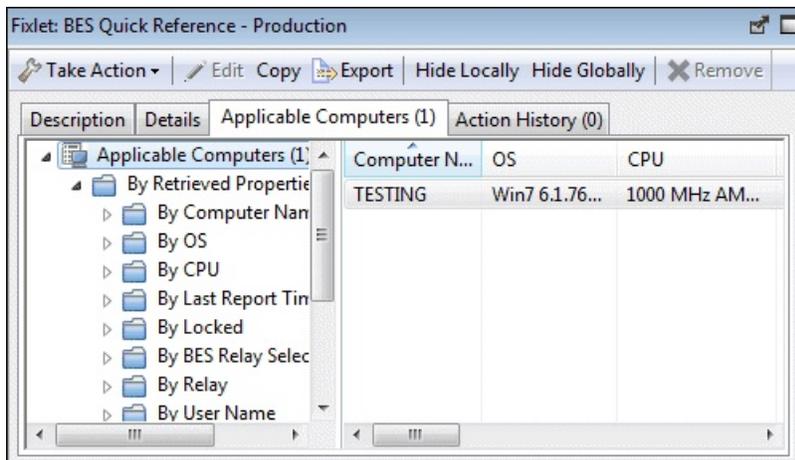
- **説明**: 分析について説明した HTML ページと、分析をアクティブ化または非アクティブ化するためのリンク。
- 「**詳細**」: プロパティーや関連度など、各種の分析属性をリストした HTML ページ。ページの下部には、分析に付加するコメントを入力するためのテキスト・ボックスがあります。
- 「**結果**」: 分析の結果を表示するダイアログ。このタブは、アクティブな分析についてのみ表示されます。
- 「**適用可能なコンピューター**」: この分析が適用可能なクライアントのリスト。これは、コンピューターの標準的なフィルター/リスト・パネルです。左のパネルでフィルターをクリックして、右のパネルのコンピューターのリストを絞り込むことができます。

分析リストを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**分析**」アイコン (またはその下位ノードのいずれか) をクリックします。

分析リスト内の項目を開くと、**分析文書**が開きます。

## 「適用可能なコンピューター」タブ

「**適用可能なコンピューター**」タブは、現在選択されている **Fixlet**、**タスク**、**分析**、または **ベースライン**・オブジェクトによる影響を受ける、すべてのネットワーク・コンピューターを表示します。



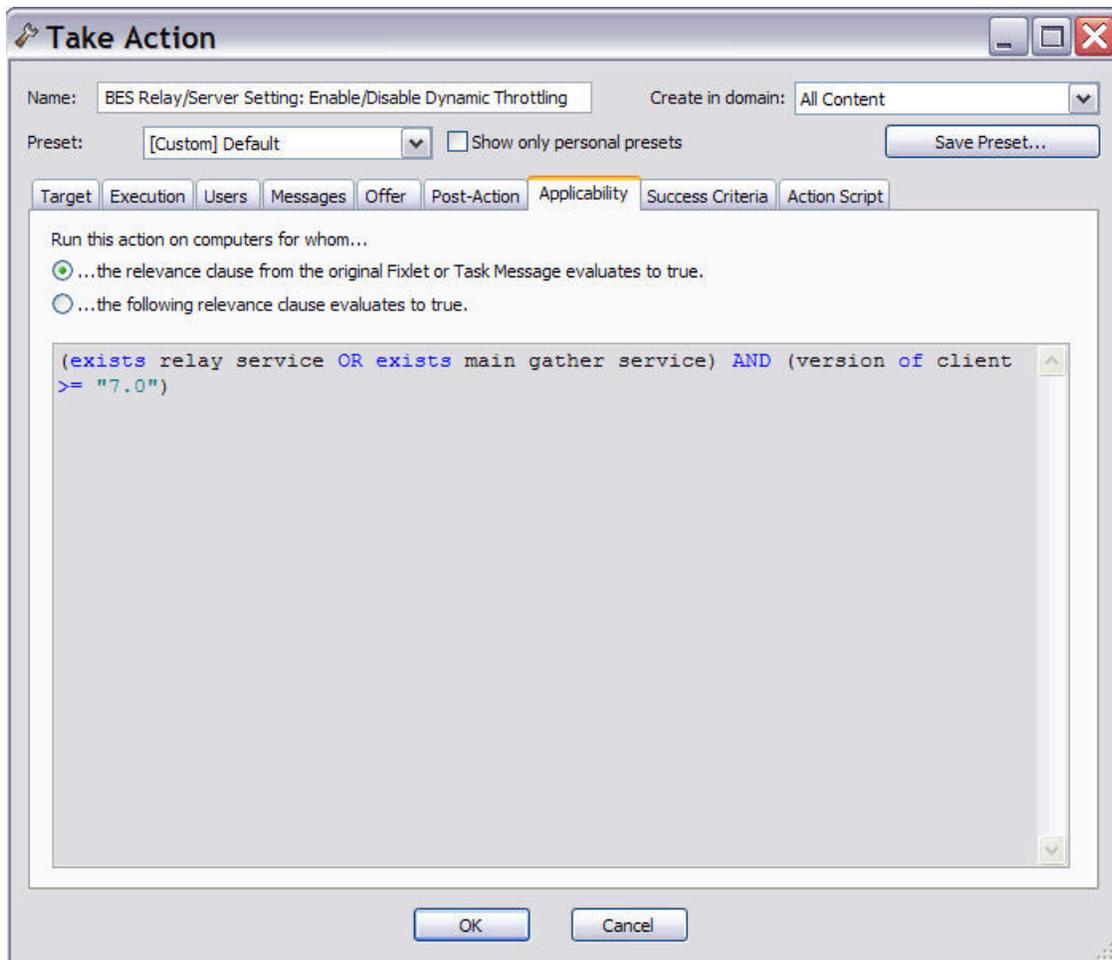
これはフィルター・パネルが左側にあるリスト・ビューで、表示されるコンピューターのリストを絞り込むことができます。これを実行するには、取得プロパティまたはグループを左パネルから開き、リストをフィルタリングするための値を選択します。

コンソール内の他のリストと同じように、列ヘッダーをクリックしてリストをソートできます。ヘッダー行を右クリックすることによって、ヘッダー・プロパティを追加または削除できます。

このダイアログは、リスト・パネルから Fixlet、タスク、分析、またはベースラインを開き、下の作業域で「**適用可能なコンピューター**」タブをクリックすることによって使用できます。

## 「適用条件」タブ

「適用条件」タブでは、Fixlet アクションの関連度を判断するために使用する基準を指定できます。



このタブは、以下のような、いくつかの異なるダイアログから使用できます。

- [アクションの実行 \(##### 301\)](#)
- [マルチアクションの実行 \(##### 305\)](#)
- [「コンピューター設定の編集」 \(##### 244\)](#)

元の関連式を使用することを強く推奨しますが、ニーズにより合うものにするためにはこの関連式をカスタマイズするとよいでしょう。選択:

**...元の Fixlet またはタスク・メッセージの Relevance 句が真になった場合。**

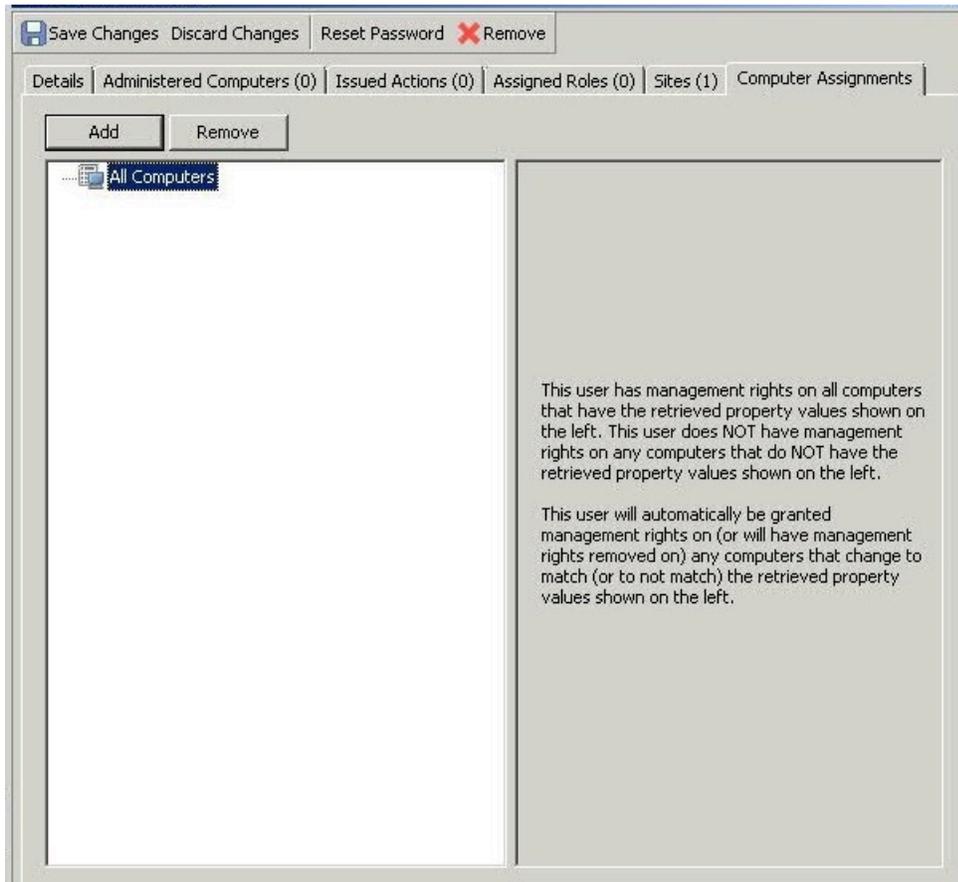
デフォルト・アクションに設定された関連式を確認します。

**...以下の Relevance 句が真になった場合**

既存の Relevance 式の変更、またはニーズに即した新規の Relevance 式を指定します。

## ユーザー管理権限の割り当て

「コンピューターの割り当て」ダイアログでは、オペレーターが管理できるコンピューターを選択できます。



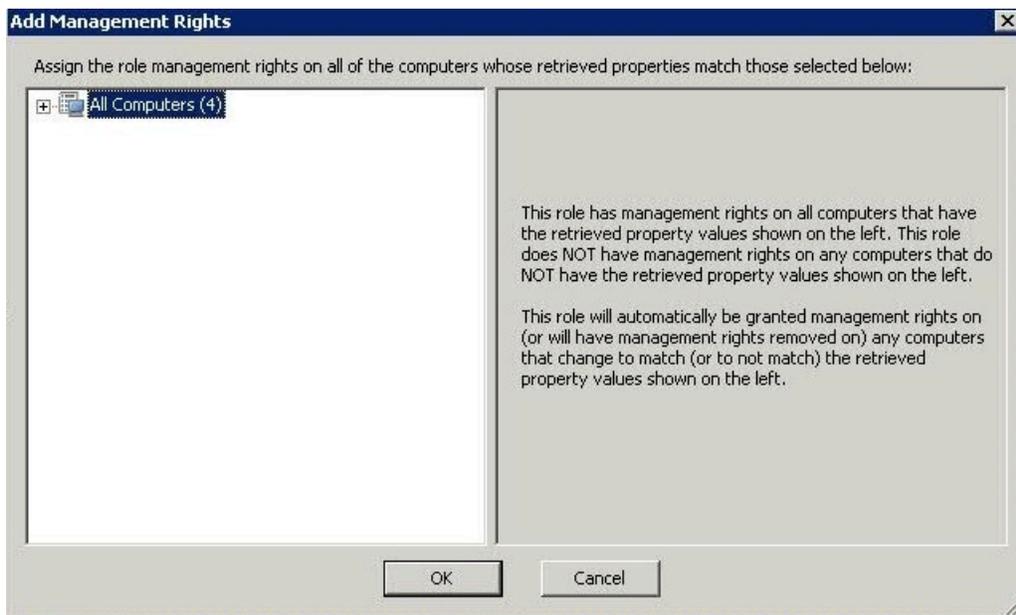
このダイアログは、選択されたコンソール・オペレーターによって管理可能な現在のコンピューターのセットを表示します。また、このセットからコンピューターを追加または削除できます。「ドメイン・パネル」ナビゲーション・ツリーから「**NMO Operators (NMO オペレーター)**」を選択し、「コンピューターの割り当て」を選択し、「追加」または「削除」をクリックして「管理権限」ダイアログを開くことにより使用可能です。このタブを表示するには、管理者権限でログインする必要があります。このダイアログには以下の2つのボタンがあります。

- 「追加」: オペレーターが管理可能なコンピューターのセットに新しいコンピューターを追加します。これにより、ネットワーク上のコンピューターの標準的なフィルター/リスト・ボックスが開きます。取得プロパティの値を使用して、このオペレー

ター用のコンピューターのグループをフィルターで絞り込みます。カスタム・プロパティなどの取得プロパティを使用すると、コンピューターを簡単にグループ化できます。例えば、コンピューターのオペレーティング・システムや CPU のタイプによってコンピューターをグループ化します。あるいは、部門や場所などの特殊なコンピューター設定を作成し、その設定を使用して、選択されたオペレーターに対する管理権限をグループ化することができます。または、特定のアプリケーションを使用するコンピューターを、組織内のスペシャリストに割り当てることもできます。

- 「削除」：このボタンによって、オペレーターが管理可能なコンピューターのセットからコンピューターを削除できます。これによって開くダイアログで、削除する取得プロパティ・フィルターを選択できます。(単一のフィルターによって権限が定義されている場合、「削除」を選択すると、このダイアログを開かずに削除が実行されます。)

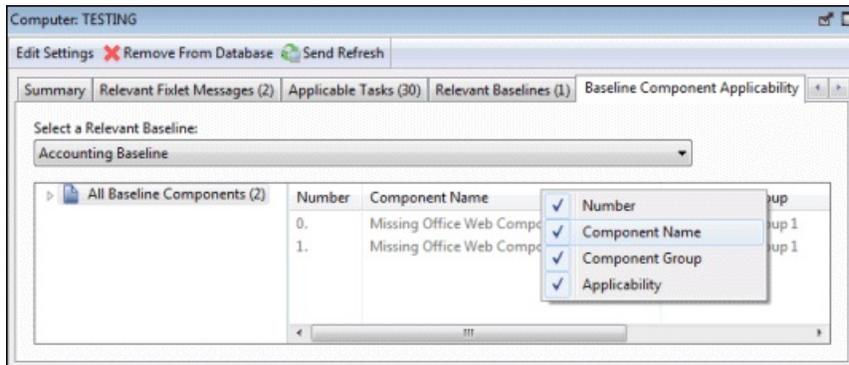
「追加」または「削除」をクリックすると、「管理権限」ダイアログが開きます。



このダイアログでは、そのプロパティが選択されたものと一致するコンピューター上で役割管理権限の割り当てや取り消しを行うことができます。受け入れるには「OK」を、拒否するには「キャンセル」をクリックします。

## 「ベースライン・コンポーネントの適用条件」タブ

「コンピューター」文書の「ベースライン・コンポーネントの適用条件」タブは、選択されたコンピューターに適用可能なベースライン・コンポーネントのリストを表示します。

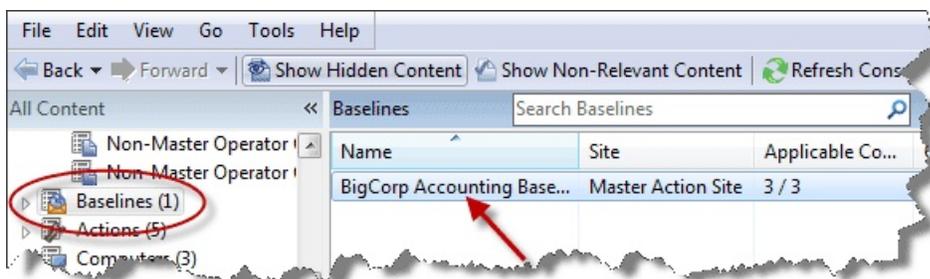


コンポーネントは、ベースライン内で定義されたコンポーネント番号、コンポーネントの名前、関連付けられたグループ、および指定したコンピューターに関連するかどうかのリストされます。ヘッダーを右クリックすると、表示およびソートが可能なフィールドを確認できます。

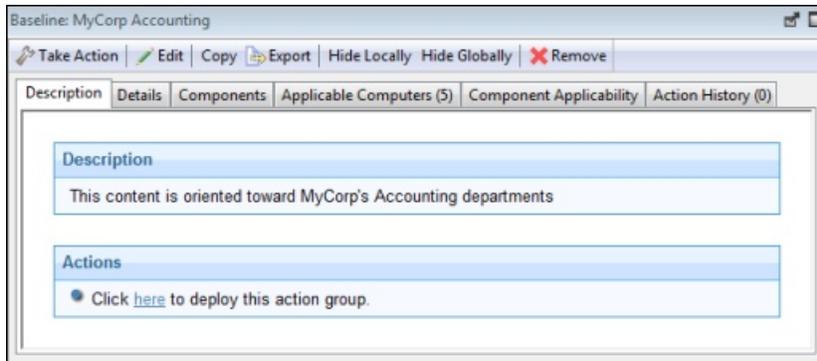
このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーから「コンピューター」を選択し、リスト・パネルからコンピューターをクリックして、「ベースライン・コンポーネントの適用条件」タブをクリックすることによって使用できます。

## ベースライン・リストおよびベースライン文書

ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーから「ベースライン」またはその下位ノードをクリックすると、ベースラインのリストが表示されます。



このリストで項目をクリックすると、コンソールの作業域に「ベースライン」文書が表示されます。



ベースライン文書の上には、ベースライン名と、以下のいくつかのツールを含むツールバーがあります。

- **「アクションの実行」**：このボタンをクリックすると、このベースライン・グループのデフォルト・アクションが実行されます。
- **「編集」**：このベースラインを変更するための「ベースラインの編集」ダイアログが開きます。
- **「コピー」**：このベースラインのコピーを作成して編集するための「ベースラインの作成」ダイアログが開きます。
- **「エクスポート」**：このベースラインを保存し、別のコンソールまたはデプロイメントにインポートしたり、外部エディターで編集したりします。
- **「ローカルで非表示」**：このベースラインをローカル・コンソールで非表示にします。
- **「全体で非表示」**：このベースラインをすべてのコンソールで非表示にします。これは後で、コンソール・ツールバーから**「非表示コンテンツを表示」**ボタンをクリックすることによって取得できます。
- **「削除」**：このベースラインをデータベースから削除します。

ベースライン文書にはいくつかのタブがあります。それらは以下のとおりです。

- **「説明」**：ベースラインについて説明する HTML ページと、記載された問題に対処するように設計されたアクションのセット (リンクとして実装される)。
- **「詳細」**：ベースラインの背後にあるプロパティおよび関連句を記載した HTML ページ。ページの下部には、ベースラインに付加するコメントを入力するためのテキスト・ボックスがあります。

- **「コンポーネント」** : このベースライン内にグループ化された Fixlet メッセージおよびタスクをリストします。
- **「適用可能なコンピューター」** : このベースラインが対象とするコンピューター・コンポーネントのサブセットを表示します。このタブは、適用可能なコンピューターの現在の数も簡易表示します。
- **「コンポーネントの適用条件」** : ベースラインのコンポーネントの数をリストします。「適用可能なコンピューター」列には、ベースライン・コンポーネントを適用可能なコンピューターの数が表示され、スラッシュに続き、ベースラインを適用可能なコンピューターの総数が表示されます。
- **「アクション履歴」** : このベースラインによって呼び出されたすべてのアクションの履歴を表示します。このタブは、実行済みアクションの現在の数も簡易表示します。

ベースライン・リストを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**ベースライン**」アイコン (またはその下位ノードのいずれか) をクリックします。

ベースライン・リスト内の項目をクリックすると、「**ベースライン**」文書が開きます。

## パスワードの変更

ユーザーは、適切な権限を持っている場合、BigFix コンソールでパスワードを変更することができます。現在のパスワードを入力し、新規パスワードと確認パスワードを入力します。

**注:** NT 認証を使用している場合、このダイアログは使用できません。

このダイアログは、「**ファイル**」 > 「**パスワードの変更**」を選択すると使用できます。

## 「秘密鍵のパスワードの変更」

BigFix コンソールでは、秘密鍵のパスワードを変更できます。



現在のパスワードを入力し、新規パスワードを入力して確認します。

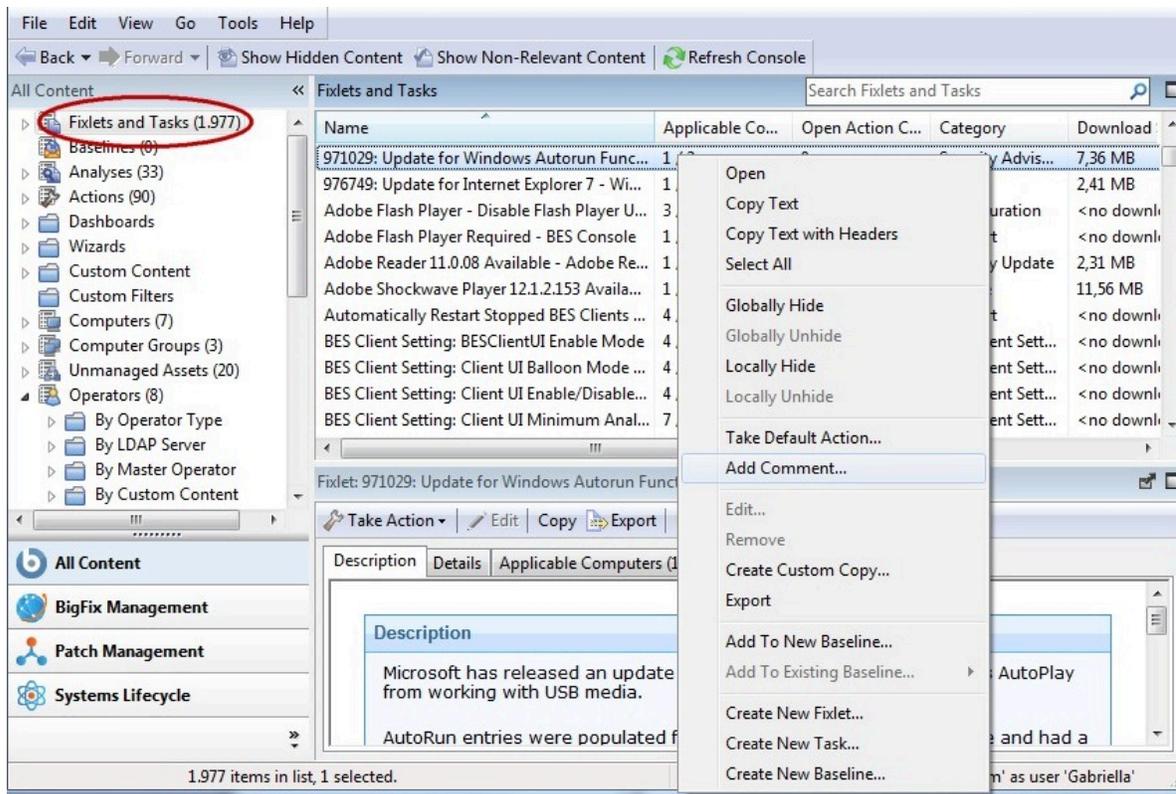
パスワードに割り当てられた値は、「OK」ボタンをクリックした直後に暗号化 (サーバーが Windows システムの場合) または難読化 (サーバーが Linux システムの場合) されます。

このダイアログは、「ツール」 > 「署名キーの管理」 > 「パスワードの変更」を選択すると使用できます。

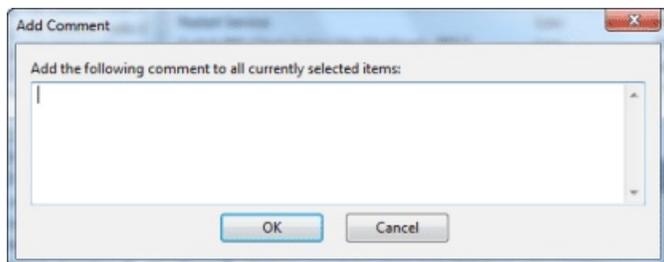
## コメント

BigFix のコンソール・オペレーターは、Fixlet、タスク、アクション、コンピューターなどのほとんどの BigFix オブジェクトに対してコメントを作成することができます。これらのコメントは、Fixlet などのオブジェクトが選択されてメイン・ウィンドウに表示されたときに常に作成できます。Fixlet メッセージにコメントを作成する方法を、以下に示します。

1. ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「Fixlet とタスク」アイコンをクリックします。
2. Fixlet を右クリックして、「コメントの追加」を選択します。



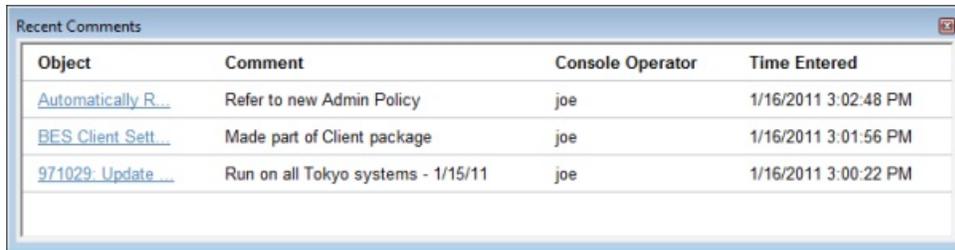
3. 開いたダイアログ・ボックスにコメントを入力します。



4. または、Fixlet メッセージをダブルクリックし、「詳細」タブを選択し、ページの下部にコメントを入力することもできます。

同様に、タスク、アクション、コンピューター、および分析に対してコメントを付加できます。これらのコメントには、キーワードまたは操作メモを含めることができます。特定のコンピューターについての特殊な情報や、特殊なタスクについての使用ポインターについてコメントすることをお勧めします。これはフリー・フォームのフィールドであるため、独自のコメント用の規則を作成することができます。

すべてのコメントが集約されたリストを表示するには、「ツール」メニューから「最近のコメントを表示」を選択します。

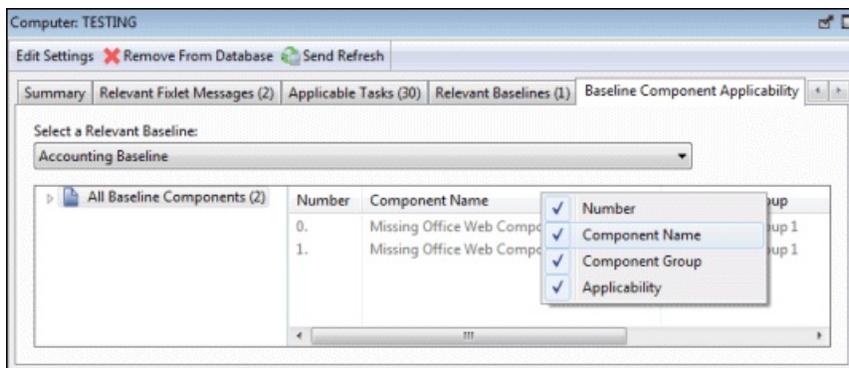


Object	Comment	Console Operator	Time Entered
<a href="#">Automatically R...</a>	Refer to new Admin Policy	joe	1/16/2011 3:02:48 PM
<a href="#">BES Client Sett...</a>	Made part of Client package	joe	1/16/2011 3:01:56 PM
<a href="#">971029: Update ...</a>	Run on all Tokyo systems - 1/15/11	joe	1/16/2011 3:00:22 PM

このダイアログには、当日までに作成されたすべてのコメントがタイム・スタンプでソートされてリストされ、最新のコメントが先頭になっています。コメントに責任を持つコンソール・オペレーターの名前は説明の横にリストされます。各コメントに含まれるリンクによって、元のオブジェクトがメイン・ウィンドウに開き、オブジェクトの説明やその他の側面について表示することができます。

## 「コンポーネントの適用条件」タブ

「ベースライン」文書の「コンポーネントの適用条件」タブは、特定のコンポーネントの対象となるコンピューターの数を表示します。



Number	Component Name	Number
0.	Missing Office Web Comp	up 1
1.	Missing Office Web Comp	up 1

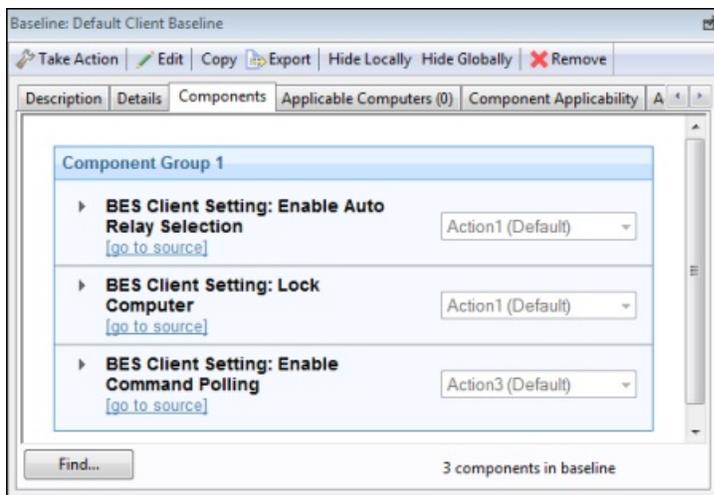
コンポーネントには、「コンポーネント」タブでのコンポーネントの順番に対応した番号が振られます。

番号の後には、コンポーネントの名前と、適用可能なコンピューターの数が続きます。この列は、「35/50 (4 不明)」のような形式の複数の数値で構成されます。最初の数値はコンポーネントを適用可能なコンピューターの数で、2 番目の数値はベースラインによって対象となるコンピューターの総数です。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「ベースライン」アイコンを選択し、結果として表示されたリスト・パネルから項目を開き、「コンポーネントの適用条件」タブをクリックすることによって使用できます。

## 「コンポーネント」タブ

「ベースライン」文書の「コンポーネント」タブは、この特定のベースラインにグループ化されているすべてのコンポーネント Fixlet メッセージおよびタスクのリストを表示します。



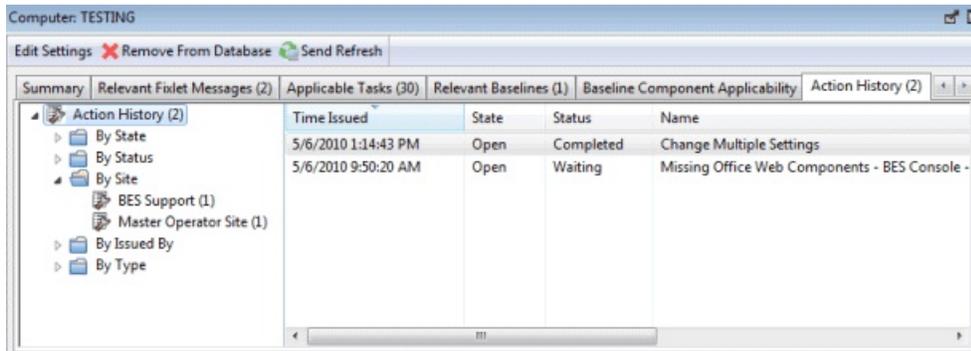
各コンポーネントの下のリンクをクリックすると、ソース Fixlet またはタスクが表示されるか、関連文およびアクション・スクリプトの背後にある実際のコードが表示されます。

ベースラインのコンポーネントは、元の Fixlet またはタスクのコピーであり、ポインターではありません。したがって、基本の Fixlet またはタスクが変更されると、ベースラインが元の Fixlet またはタスクと同期がとれなくなることがあります。これが発生すると、「**ソース Fixlet が異なります**」というメッセージがコンポーネント・リストに表示されます。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「ベースライン」アイコンを選択し、結果として表示されたリスト・パネルから項目を開き、「コンポーネント」タブをクリックすることによって使用できます。

## 「コンピューター」：「アクション履歴」

「アクション履歴」タブには、指定されたコンピューター上で適用されたすべてのアクションのリストが表示されます。



メインのアクション・タブから使用できるすべてのコンピューター用の一般的なアクション・リストとは異なり、このリストには、選択されたコンピューターを対象とするアクションのみが含まれます。

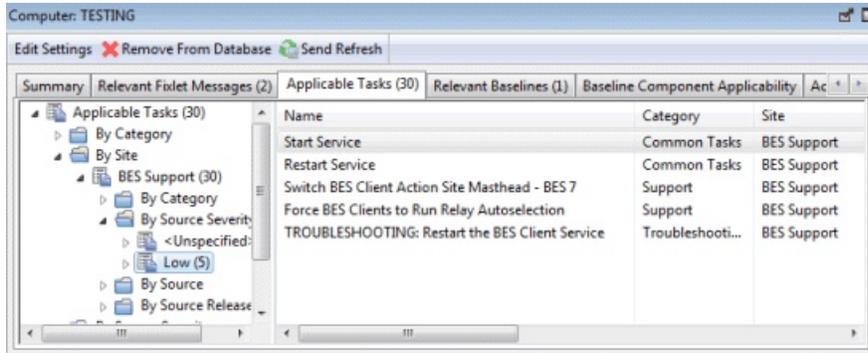
アクション履歴リストには、他のアクション・リスト・パネルに類似したオプションがあります。

特定のアクションについて詳細な情報を表示するには、アクションをダブルクリックします。これによって、対応する**アクション文書**が作業域に開きます。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーから「コンピューター」アイコンをクリックして、リストからコンピューターをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター」文書ウィンドウの「アクション履歴」タブをクリックします。

## 「コンピューター」：適用可能なタスク

「コンピューター」文書の「適用可能なタスク」タブには、選択されたコンピューターに関連するすべてのタスクがリストされます。



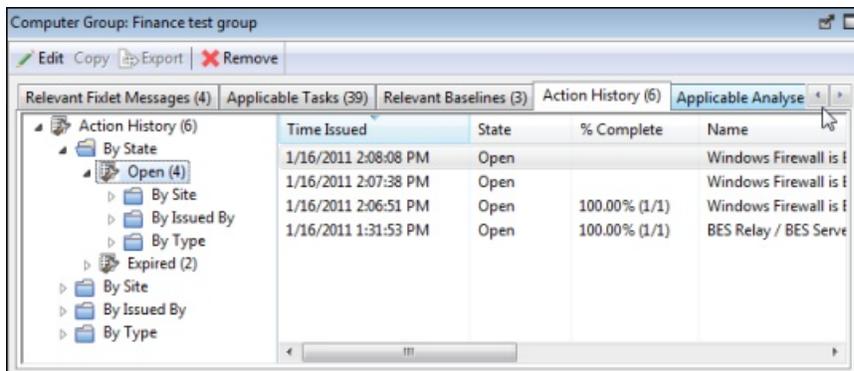
このフィルター・リストはリアルタイムで更新され、タスクが再評価されるたびに表示内容が最新表示されます。左側のペイン内の項目をクリックしてリストをフィルタリングしたり、該当するヘッダーをクリックしてタスクをソートしたりすることができます。

このダイアログには、すべてのタスク・リスト・パネルと同じオプションがあります。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「コンピューター」アイコンをクリックし、結果として表示されたリスト・パネルからコンピューターをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター」文書ウィンドウの「適用可能なタスク」タブをクリックします。

## コンピューター・グループ: 「アクション履歴」

「コンピューター・グループ」文書の「アクション履歴」タブでは、指定されたコンピューター・グループのあらゆるメンバーを対象とするすべてのアクションの履歴リストが表示されます。



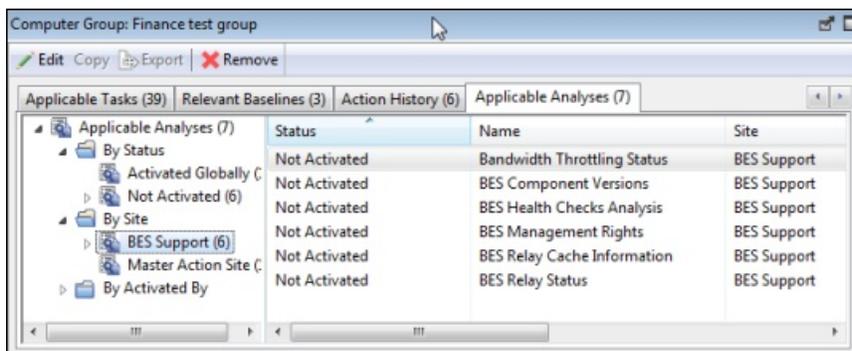
このダイアログには、すべてのアクション履歴リスト・パネルと同じオプションがありますが、選択されたコンピューター・グループを対象とするアクションのみが含まれます。

特定のアクションについて詳細な情報を表示するには、アクションをダブルクリックします。これによって、対応する**アクション文書**が下部パネルに開きます。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター・グループ**」アイコンをクリックし、結果として表示されたリスト・パネルからコンピューター・グループをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター・グループ」作業域の「**アクション履歴**」タブをクリックします。

## コンピューター・グループ: 適用可能な分析

「コンピューター・グループ」文書の「**適用可能な分析**」タブでは、このグループに適用可能なすべての分析のリストが提供され、これらの分析をフィルタリングできます。



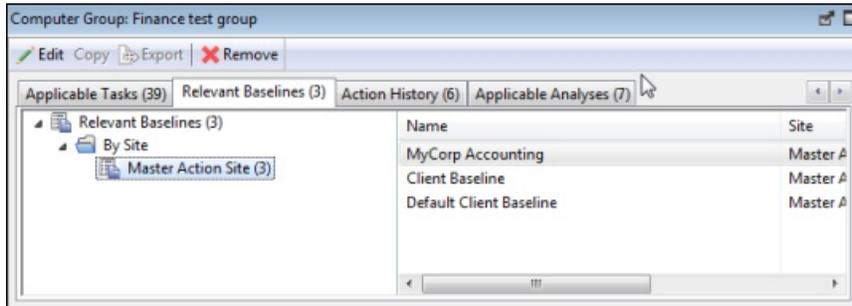
このダイアログには、すべての分析リスト・パネルと同じオプションがあります。

特定の分析について詳細な情報を表示するには、分析をクリックします。これによって、対応する「**適用可能な分析**」文書が下部パネルに開きます。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター・グループ**」アイコンをクリックし、結果として表示されたリスト・パネルからコンピューター・グループをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター・グループ」文書ウィンドウの「**適用可能な分析**」タブをクリックします。

## コンピューター・グループ: 「関連するベースライン」

「コンピューター・グループ」文書の「関連するベースライン」タブでは、指定されたコンピューター・グループ上で適用されたすべてのベースラインのリストが表示されます。



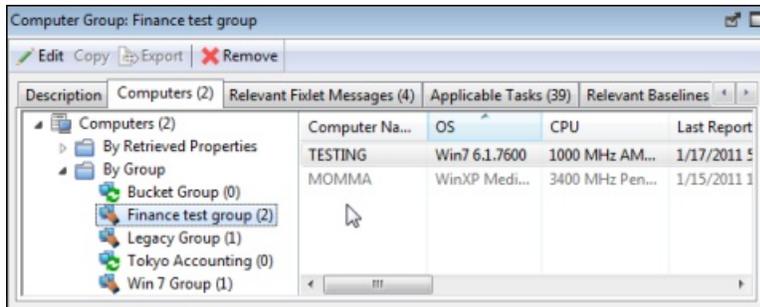
このダイアログには、すべてのベースライン・リスト・パネルと同じオプションがありますが、選択されたコンピューター・グループを対象とするベースラインのみが含まれます。

特定のベースラインについて詳細な情報を表示するには、ベースラインをダブルクリックします。これによって、対応する**関連するベースライン**文書が作業域に開きます。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「コンピューター・グループ」アイコンをクリックし、リスト・パネルからコンピューター・グループをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター・グループ」作業域の「**関連するベースライン**」タブをクリックします。

## コンピューター・グループ: 「コンピューター」

「コンピューター・グループ」文書の「コンピューター」タブでは、指定されたコンピューター・グループの一部となるように手動で選択されたすべてのコンピューターのリストが表示されます。



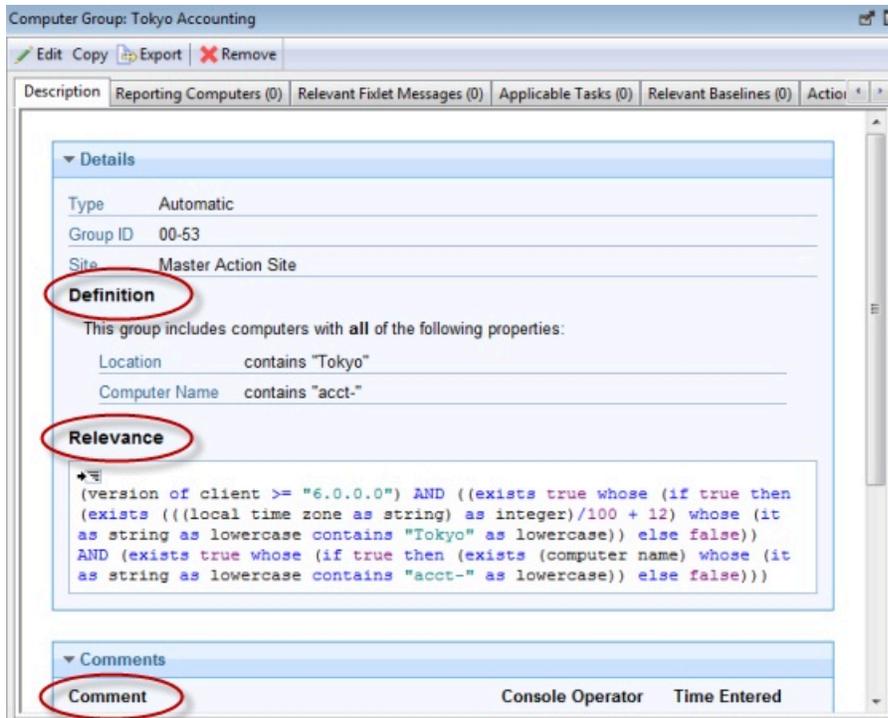
このダイアログは、マニュアル・コンピューター・グループについてのみ表示されます。これには他のコンピューター・リストに類似したオプションがありますが、選択されたマニュアル・コンピューター・グループに属するコンピューターのみが含まれます。レポート中のコンピューターの数タブ自体に表示されており、一目で確認できます。

特定のコンピューターについて詳細な情報を表示するには、そのコンピューターをダブルクリックします。これによって、**対応するコンピューター文書**が下部パネルに開きます。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター・グループ**」アイコンをクリックし、リスト・パネルからマニュアル・コンピューター・グループをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター・グループ」作業域の「**コンピューター**」タブをクリックします。

## コンピューター・グループ: 説明

「コンピューター・グループ」文書の「説明」タブでは、選択されたコンピューター・グループについての情報が表示されます。以下に、自動コンピューター・グループについてのダイアログを示します。



これは、グループが自動かマニュアルかによって異なる情報が含まれます。

「自動」コンピューター・グループには以下のいくつかのセクションが含まれます。

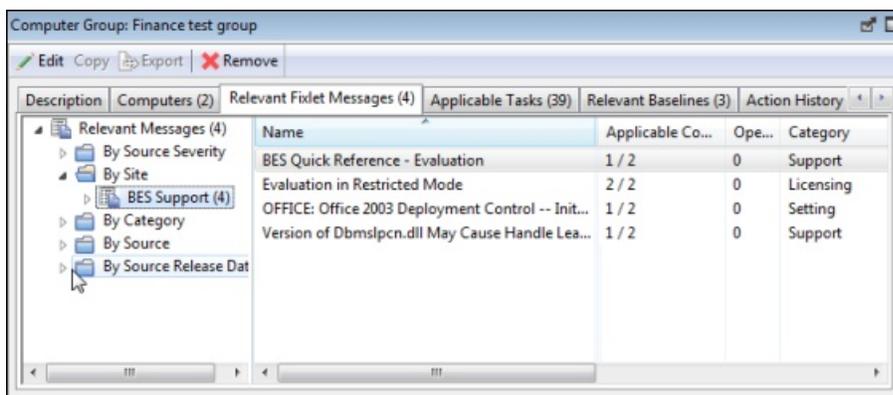
- 「**グループ定義**」：これは、グループへのコンピューターの包含を指定するプロパティのリストです。これらはそれぞれ、<property> <relationship> <value> という形式の句です。例えば、**OS 含む "win"** の場合、Windows マシンで構成される自動コンピューター・グループが作成されます。
- 「**対象の関連度**」：これは上に記載されたプロパティ評価を実装した完全な関連式です。「**関連句のインデント表示**」をクリックすると、式の定様式バージョンが表示されます。
- 「**コメント**」：これは、他のオペレーターに対して表示する、コンピューター・グループに付加されるコメントを入力するためのテキスト・ボックスです。

**マニュアル**・コンピューター・グループには「**コメント**」ボックスのみが含まれます。ここに入力する情報は、このコンピューター・グループに付加されて、他のコンソール・オペレーターが使用できます。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「コンピューター・グループ」アイコンをクリックし、リスト・パネルからコンピューター・グループをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター・グループ」文書ウィンドウの「説明」タブをクリックします。

## コンピューター・グループ: 「関連する Fixlet メッセージ」

「コンピューター・グループ」文書の「関連する Fixlet」タブでは、指定されたコンピューター・グループを対象とするすべての Fixlet メッセージのリストが提供されます。



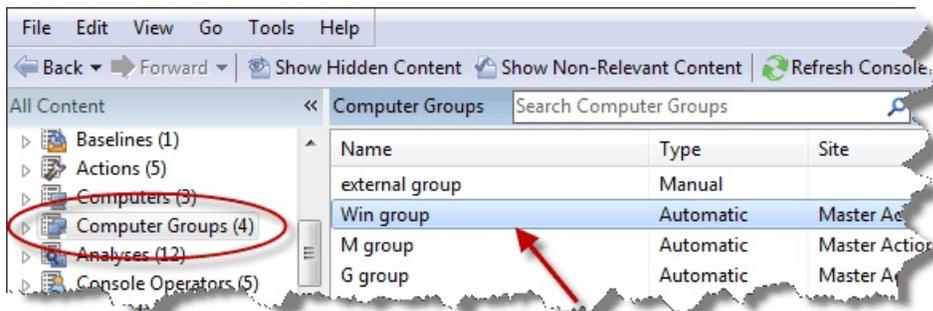
このダイアログには、すべての Fixlet のリスト・パネルと同じオプションがありますが、選択されたコンピューター・グループを対象とする Fixlet メッセージのみが含まれます。

特定の Fixlet メッセージについて詳細な情報を表示するには、その Fixlet メッセージをダブルクリックします。これによって、対応する「関連する Fixlet メッセージ」文書が作業域に開きます。

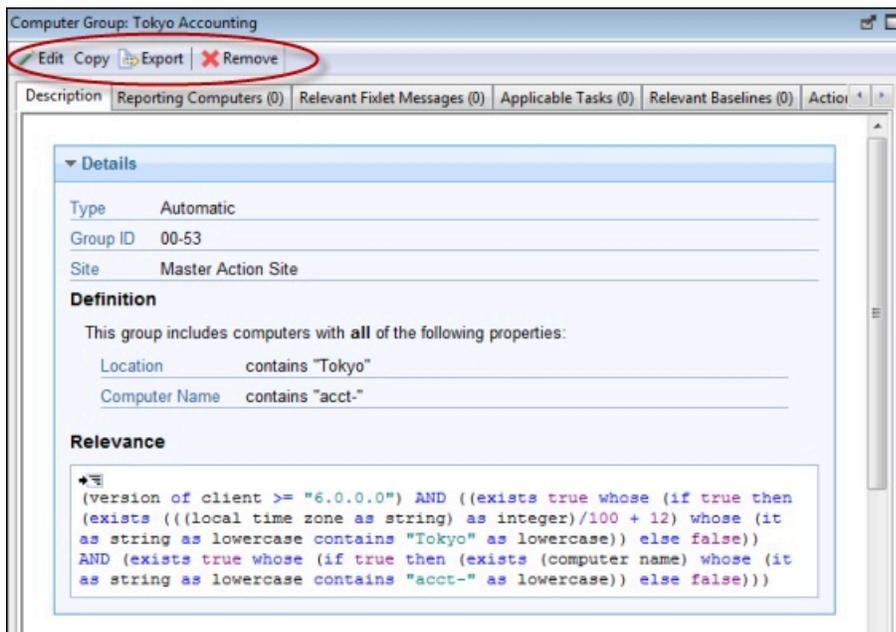
このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「コンピューター・グループ」アイコンをクリックし、リスト・パネルからコンピューター・グループをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター・グループ」作業域の「関連する Fixlet」タブをクリックします。

## コンピューター・グループ・リストおよびコンピューター・グループ文書

ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーから「コンピューター・グループ」またはその下位ノードをクリックすると、コンピューター・グループのリストが表示されます。



このリストで任意の項目をクリックすると、コンソールの作業域に「コンピューター・グループ」文書が表示されます。



コンピューター・グループ文書の上部に、コンピューター・グループの名前があります。その下にはコンピューター・グループのツールバーがあります。これには以下のものが含まれています。

- 「編集」：このグループの条件を編集することができるダイアログが開きます。
- 「コピー」：このグループのコピーを作成して編集します。
- 「エクスポート」：外部エディターで編集するためにこのグループを保存します。
- 「削除」：このグループをリストから削除します。

コンピューター・グループ文書にはいくつかのタブがあります。タブはグループ・タイプによって異なる場合があります。それらは以下のとおりです。

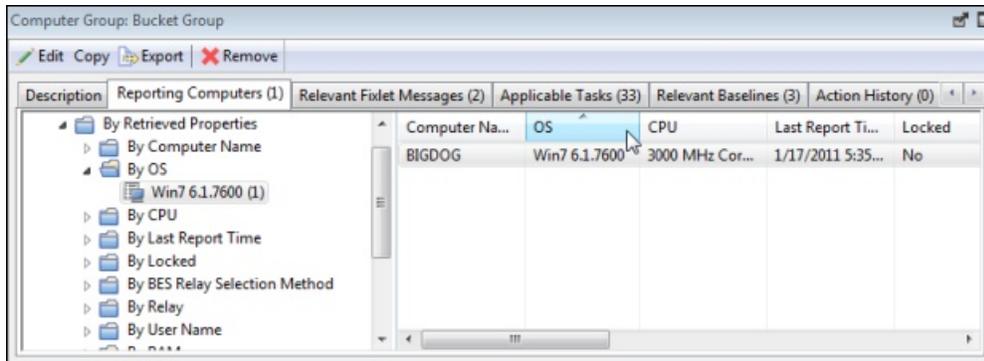
- **「説明」**：自動グループの場合、このタブには、(プロパティに関連付けられた関連式のリストとしての) グループ定義、グループ定義を実装する対象の関連句、およびコメント・ボックスが表示されます。手動グループの場合、このタブにはコメント・ボックスのみが表示されます。
- **「レポート中のコンピューター」**：このタブは自動グループについてのみ表示され、プロパティおよび関連度に基づいて、現在グループのメンバーと見なされるコンピューターのリストを示します。これはフィルター/リスト・パネルで、左側のフィルター・フォルダーから選択することによってリストを絞り込むことができます。
- **コンピューター**：このタブはマニュアル・グループについてのみ表示され、グループのメンバーになるよう手動で選択されたコンピューターのリストを示します。これはフィルター/リスト・パネルで、左側のフィルター・フォルダーから選択することによってリストを絞り込むことができます。
- **「関連する Fixlet メッセージ」**：このコンピューター・グループに適用されるすべての Fixlet メッセージをリストします。
- **「適用可能なタスク」**：このコンピューター・グループに適用されるすべてのタスクをリストします。
- **「関連するベースライン」**：このコンピューター・グループに適用されるすべてのベースラインをリストします。
- **「アクション履歴」**：このコンピューター・グループの任意のメンバーを対象とするすべてのアクションをリストします。
- **「適用可能な分析」**：すべての分析をリストし、分析をコンピューター・グループ別にフィルタリングすることができます。

コンピューター・グループ・リストを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター・グループ**」アイコン (またはその下位ノードのいずれか) をクリックします。

コンピューター・グループ・リスト内の項目をクリックすると、「**コンピューター・グループ**」文書が開きます。

## コンピューター・グループ: レポート中のコンピューター

「コンピューター・グループ」文書の「レポート中のコンピューター」タブでは、コンピューターのプロパティ値によって、指定されたコンピューター・グループに含まれるように自動的に選択されたすべてのコンピューターのリストが表示されます。



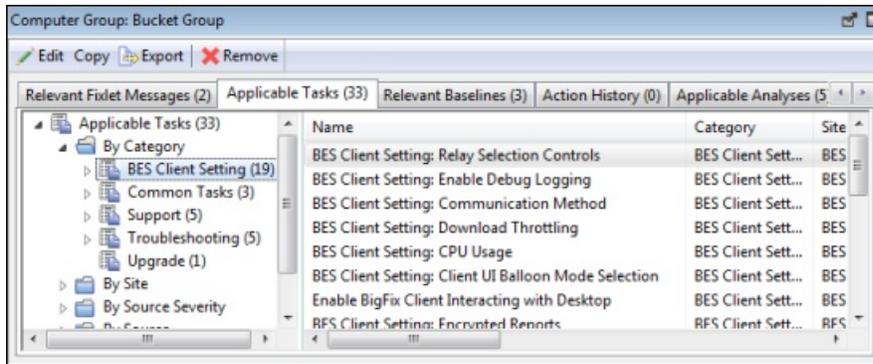
このダイアログは、自動コンピューター・グループについてのみ表示されます。これにはすべてのコンピューター・リスト・パネルと同じオプションがありますが、選択されたコンピューター・グループに対してレポートするコンピューターのみが含まれます。

特定のレポート中のコンピューターについて詳細な情報を表示するには、コンピューターをダブルクリックします。これによって、対応する**コンピューター文書**が作業域に開きます。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「コンピューター・グループ」アイコンをクリックし、リスト・パネルから自動コンピューター・グループをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター・グループ」作業域の「レポート中のコンピューター」タブをクリックします。

## コンピューター・グループ: 適用可能なタスク

「コンピューター・グループ」文書の「適用可能なタスク」タブでは、指定されたコンピューター・グループ内の1つ以上のコンピューターに適用されるすべてのタスクのリストが表示されます。



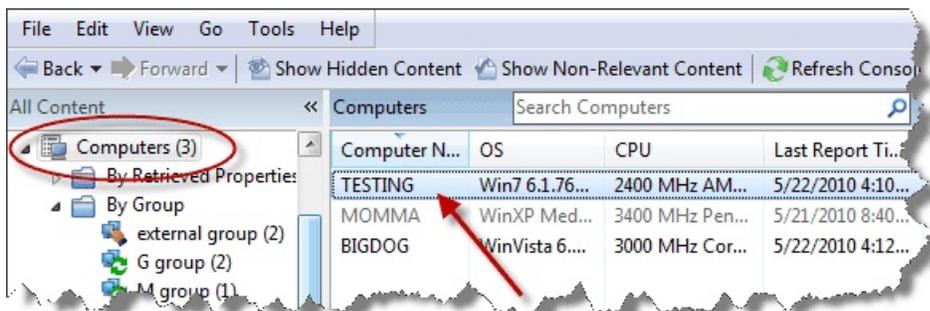
このダイアログには、すべてのタスク・リストと同じオプションがあります。いずれかのヘッダーをクリックすると、リストがソートされます。

特定のタスクについて詳細な情報を表示するには、タスクをダブルクリックします。これによって、対応する**タスク文書**が作業域に開きます。

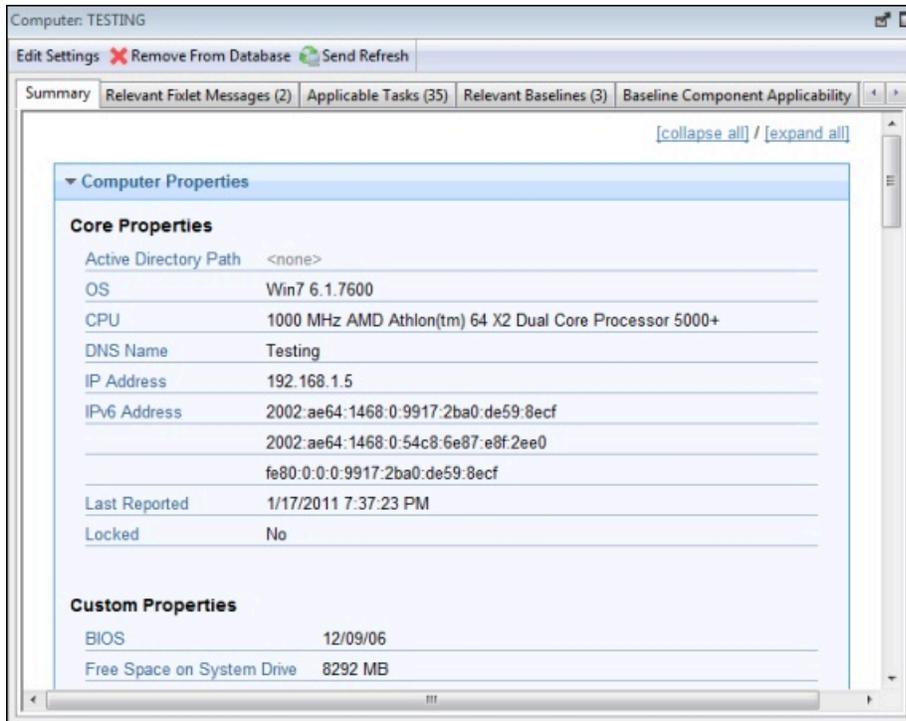
このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター・グループ**」アイコンをクリックし、リスト・パネルからコンピューター・グループをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター・グループ」作業域の「**適用可能なタスク**」タブをクリックします。

## コンピューター・リストおよびコンピューター文書

ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーから「**コンピューター**」またはそのいずれかの下位ノードをクリックすると、コンピューターのリストが表示されます。



このリストで任意の項目をクリックすると、コンソールの下部ウィンドウに**コンピューター文書**が表示されます。「**概要**」タブをクリックすると、このコンピューターについての基本的な情報が表示されます。



ここでは、名前、プロセッサに関する情報、およびオペレーティング・システムが表示されます。スクロールダウンすると、このコンピューターに関連する Fixlet メッセージの数や、オープン中のアクションの数などの情報が表示されます。

コンピューター文書にはいくつかのタブがあります。それらは以下のとおりです。

- **「概要」**：このコンピューターから取得されているプロパティのリストのほか、「クライアント・リレーの状態」、「グループ・メンバーシップ」、「カスタム・サイト」、「設定」、および「コメント」が表示されます。
- **「関連する Fixlet メッセージ」**：このコンピューターについて現在関連する Fixlet メッセージのリストです。これらは左パネルのフィルター・ツリーを使用して絞り込み、列ヘッダーをクリックしてソートすることができます。現在関連するメッセージの数はタブ自体に表示されているため、一目で確認できます。
- **「適用可能なタスク」**：このコンピューターに適用されるすべてのタスクをリストします。現在のタスクの数がタブに表示されます。
- **「関連するベースライン」**：このコンピューターに割り当てられているベースライン項目 (Fixlet およびタスク) をリストします。現在のベースラインの数がタブに表示されます。

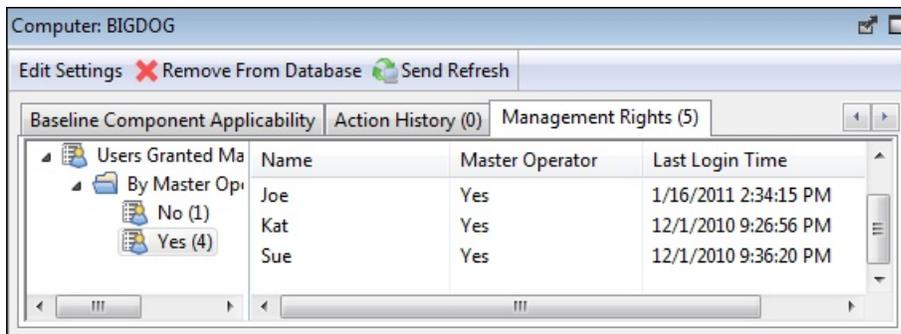
- 「**ベースライン・コンポーネントの適用条件**」：このコンピューターに適用できる、指定されたベースラインのコンポーネントが表示されます。
- 「**アクション履歴**」：このコンピューターに適用されているアクションが表示されます。現在のアクションの数がタブに表示されます。
- 「**管理権限**」：このコンピューターについて権限があるオペレーターの名前が表示されます。現在のオペレーターの数タブに表示されます。

ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター**」アイコン (またはその下位ノードのいずれか) をクリックすると、コンピューターのリストが表示されます。

コンピューターのリスト内の項目をクリックすると、**コンピューター文書**が開きます。

## 「コンピューター」：管理権限

「**コンピューター**」ダイアログの「**管理権限**」タブには、指定されたコンピューターにアクションを適用するための管理権限が現在付与されているオペレーターがリストされます。



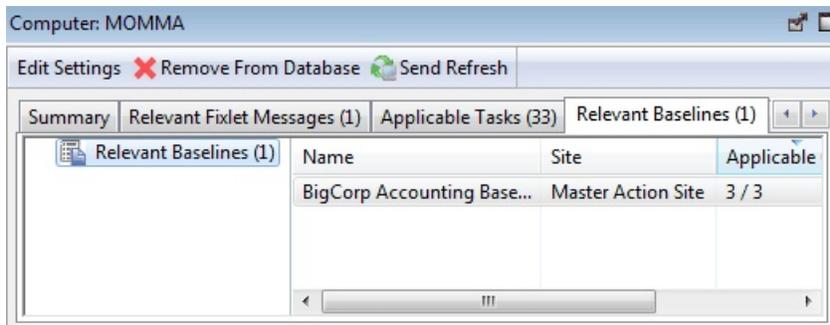
このリストは、左パネルにあるフィルター・ツリーを使用してフィルタリングすることができます。リストには以下の3つのヘッダーがあり、これらを使用してリストをソートできます。

- 「**名前**」：権限が付与されているコンソール・オペレーターの名前。
- 「**マスター・オペレーター**」：権限マネージャーがマスター・オペレーターでもあるかどうかを示す「はい」または「いいえ」のフラグ。
- 「**前回のログイン時間**」：このオペレーターがBigFixシステムに前回ログインした時間

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「コンピューター」アイコンをクリックし、結果として表示されたリスト・パネルからコンピューターをクリックすることによって使用できます。次に、下の作業域で「管理権限」タブをクリックします。

## 「コンピューター」：「関連するベースライン」

「コンピューター」文書の「関連するベースライン」タブには、選択されたコンピューターに適用可能なすべてのベースラインがリストされます。



このフィルター/リストはリアルタイムで更新され、ベースラインが再評価されるたびに表示内容が最新表示されます。現在関連するベースラインの数は、タブ自体に簡易表示でリストされます。ベースラインには、関連度に基づいてコンピューターの対象となる Fixlet などの内容が含まれているため、現在の適用条件によっては、コンピューターが異なれば適用されるベースラインが異なる場合もあります。

このダイアログには、すべてのベースライン・リスト・パネルと同じオプションがあり、同じヘッダーでソートできます。リストから個々のベースラインをダブルクリックし、開いて表示することができます。

このダイアログは、任意のコンピューター・リストで項目をクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター」作業域の「関連するベースライン」タブをクリックします。

## 「コンピューター」：「関連する Fixlet メッセージ」

「コンピューター」文書の「**関連する Fixlet メッセージ**」タブには、選択されたコンピューターに関連するすべての Fixlet メッセージがリストされます。



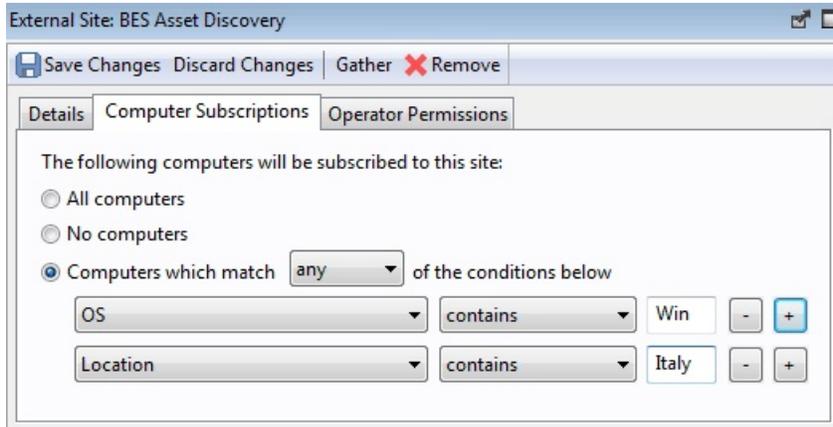
このフィルター・リストはリアルタイムで更新され、Fixlet メッセージが再評価されるたびに表示内容が最新表示されます。現在関連するベースラインの数は、タブ自体に簡易表示でリストされます。

このダイアログには、すべての Fixlet のリスト・パネルと同じオプションがあり、同じヘッダーでソートできます。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「コンピューター」アイコンをクリックし、リスト・パネルからコンピューターをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター」作業域の「**関連する Fixlet メッセージ**」タブをクリックします。

## 「コンピューターのサブスクリプション」タブ

サイト文書の「コンピューターのサブスクリプション」タブでは、指定されたサイトをクライアントがサブスクライブするための条件を設定することができます。

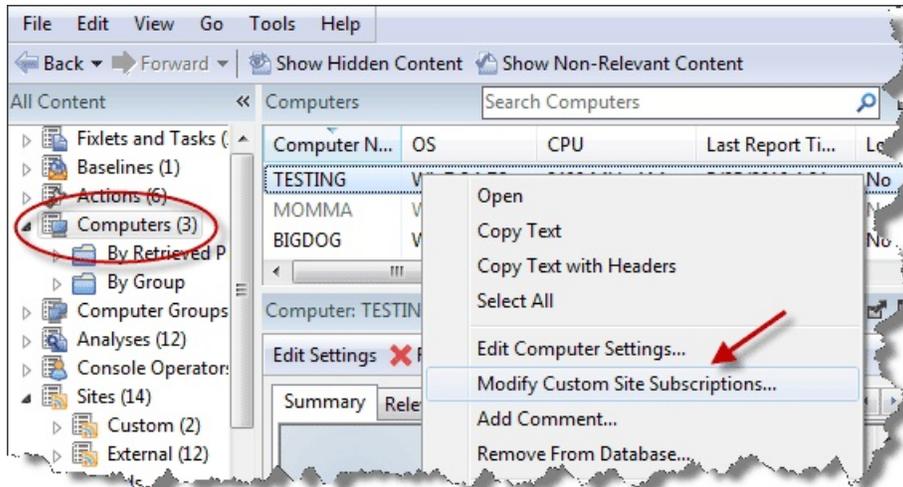


外部サイトの場合、3つのボタンがあります。

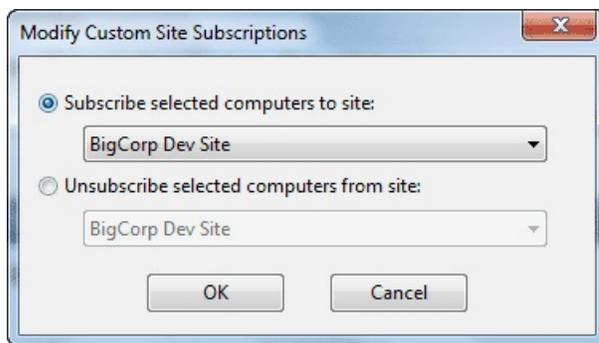
- 「**すべてのコンピューター**」。使用可能なすべてのクライアントが、指定されたサイトをサブスクライブします。
- 「**なし**」。すべてのクライアントはこのサイトをサブスクライブしません。
- 「**以下の...**」：クライアント・プロパティに基づいてサブスクリプションの条件を設定します。これは、プロパティ/演算子/値の3つの組み合わせで指定するプロパティを満たすコンピューターのみにサブスクライブさせる柔軟な手法です。プルダウン・メニューから「**いずれか**」または「**すべて**」を選択して、条件をORまたはANDで結合できます。プラス・ボタンを使用して別の条件を追加したり、マイナス・ボタンを使用して条件を削除したりすることができます。

カスタム・サイトの場合、別のボタンがあります。

- 「**アドホック・カスタム・サイトのサブスクリプション・アクションを介してサブスクライブするコンピューター**」：このオプションでは、すべてのコンピューターがサブスクライブを解除した状態で開始します。後でコンピューターがサブスクライブするには、コンピューターのリストを表示し（ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーから「**コンピューター**」をクリック）、目的のコンピューターのセットを右クリックします。このコンテキスト・メニューで、「**カスタム・サイト・サブスクリプションを変更**」を選択します。



結果として表示されたダイアログで、サブスクライブするサイト、またはサブスクライブを取り消すサイトを選択します。

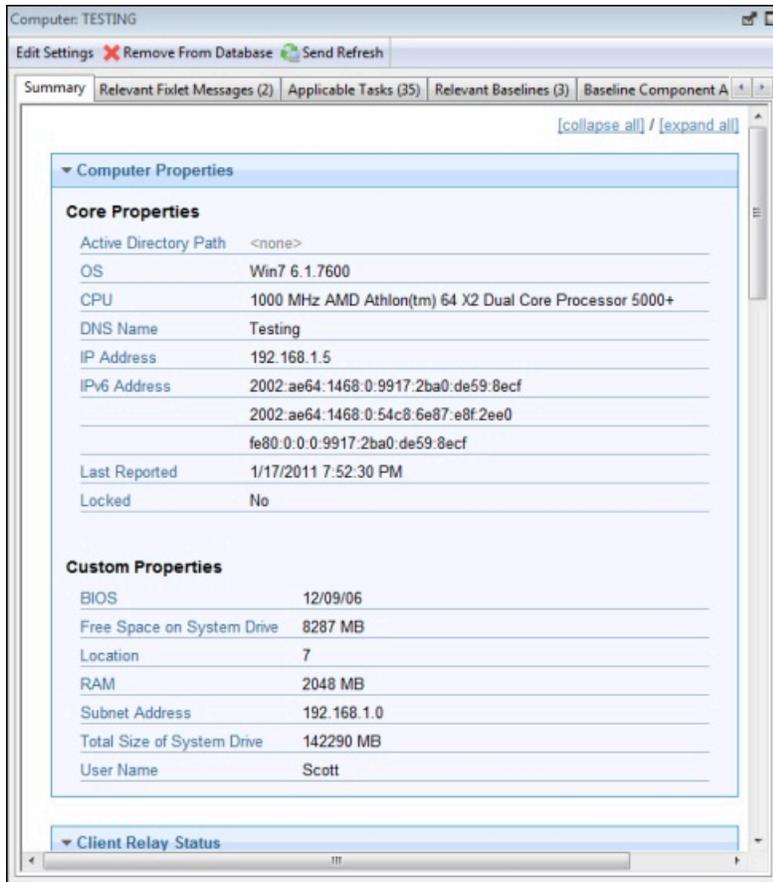


アドホック・オプションが設定されているサイトのみがプルダウン・メニューでサブスクリプション用に選択できます。このダイアログでは、コンピューターによるアドホック・グループのサブスクライブを取り消すこともできます。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**サイト**」アイコンをクリックし、結果として表示されたリスト・パネルから項目をクリックして、「**コンピューターのサブスクリプション**」タブをクリックすることによって使用できます。

## 「コンピューター」：概要

コンピューターの「**概要**」タブには、プロパティ、リレー状態、グループ、カスタム・サイト、設定など、関連する項目がリストされます。



概要リストの「プロパティ」セクションには、特定のコンピューターの、関連式から導き出された各種プロパティがリストされます。これらのプロパティは、管理下にあるさまざまなクライアント・コンピューターのサブセット、ソート・フィールド、レポート、およびグループ条件を定義するのに役立ちます。

デフォルト・プロパティは以下のものですが、これらに限定されるわけではありません。

### コア・プロパティ

- 「**Active Directory のパス**」：Active Directory 階層内でのBigFixクライアントの位置。
- **OS**: 特定のコンピューターのオペレーティング・システム。
- 「**CPU**」：CPU の速度と種類。
- **DNS 名**: コンピューターの名前。
- 「**IP アドレス**」：コンピューターの現在の IP アドレス。
- 「**IPv6 アドレス**」：コンピューターのバージョン 6 IP アドレス。

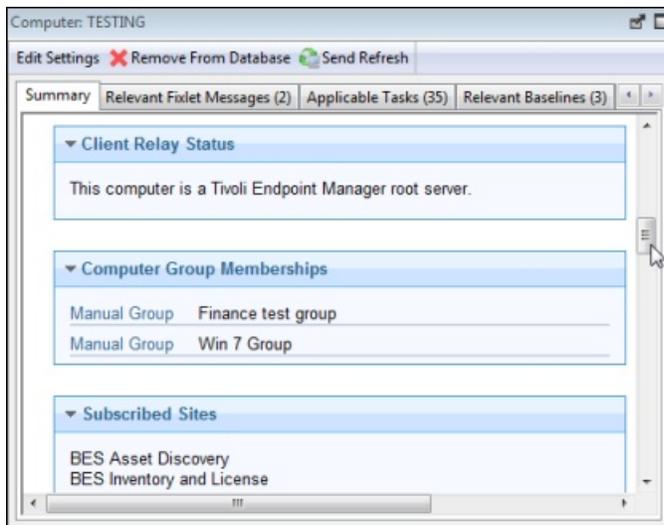
- 「**前回のレポート**」：コンピューターについて前回報告された時刻。
- 「**ロック状態**」：各コンピューターのロック状態（「はい」または「いいえ」）。

## カスタム・プロパティ

- 「**BIOS**」：基本入出力システムのバージョンおよび日付。
- 「**システム・ドライブの空きスペース**」：特定のコンピューターの C ドライブ上で使用可能なスペースの量。
- 「**RAM**」：特定のコンピューターの RAM 容量。
- 「**サブネット・アドレス**」：特定のコンピューターのサブネット IP アドレス。
- 「**システム・ドライブの合計サイズ**」：特定のコンピューター上でオペレーティング・システムを格納するドライブの合計サイズ。
- 「**ユーザー名**」：BigFixクライアント・ユーザーの名前。

これらの事前定義済みプロパティについての詳細は、コンピューターのプロパティおよび関連式についてのセクションで見つけることができます。

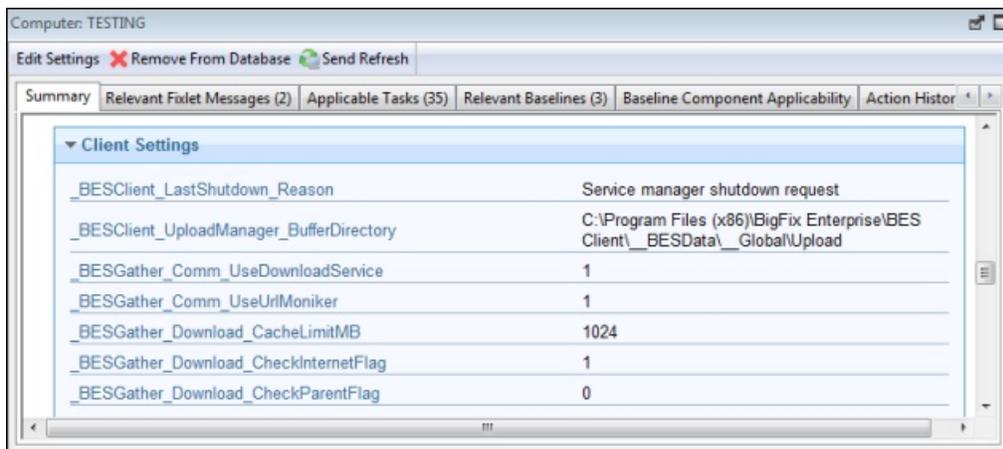
スクロールダウンすると、コンピューターの概要の他のセクションが表示されます。



- 「**クライアント・リレーの状態**」は、選択されたコンピューターの状態が、サーバー、リレー、またはクライアントのいずれであるかを識別します。
- 「**コンピューター・グループ・メンバーシップ**」は、このコンピューターがメンバーになっているすべてのグループ（自動または手動）をリストします。

- 「サブスクライブしたサイト」には、このコンピューターがサブスクライブしているすべてのサイト (外部サイト、オペレーター・サイト、およびカスタム・サイトを含む) がリストされます。

次のセクションには、このコンピューターの**設定**のリスト (クライアント、リレー、サーバー、収集、および WebReport 設定など) と、このコンピューター上で実行中の BigFix ソフトウェアの**バージョン**が含まれています。



ページの下部には、今後参照するためにこのコンピューターに付加する**コメント**を入力できるテキスト・ボックスがあります。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「コンピューター」アイコンをクリックし、右側のリスト・パネルからコンピューターをクリックすることによって使用できます。次に、「コンピューター」作業域の「概要」タブをクリックします。

## データベースへの接続

BigFixコンソールを開始すると、「データベースへの接続」ダイアログが開きます。



これを使用して、管理するデータベースを選択できます。

**「データベース」**：データベースをプルダウン・メニューから選択します。

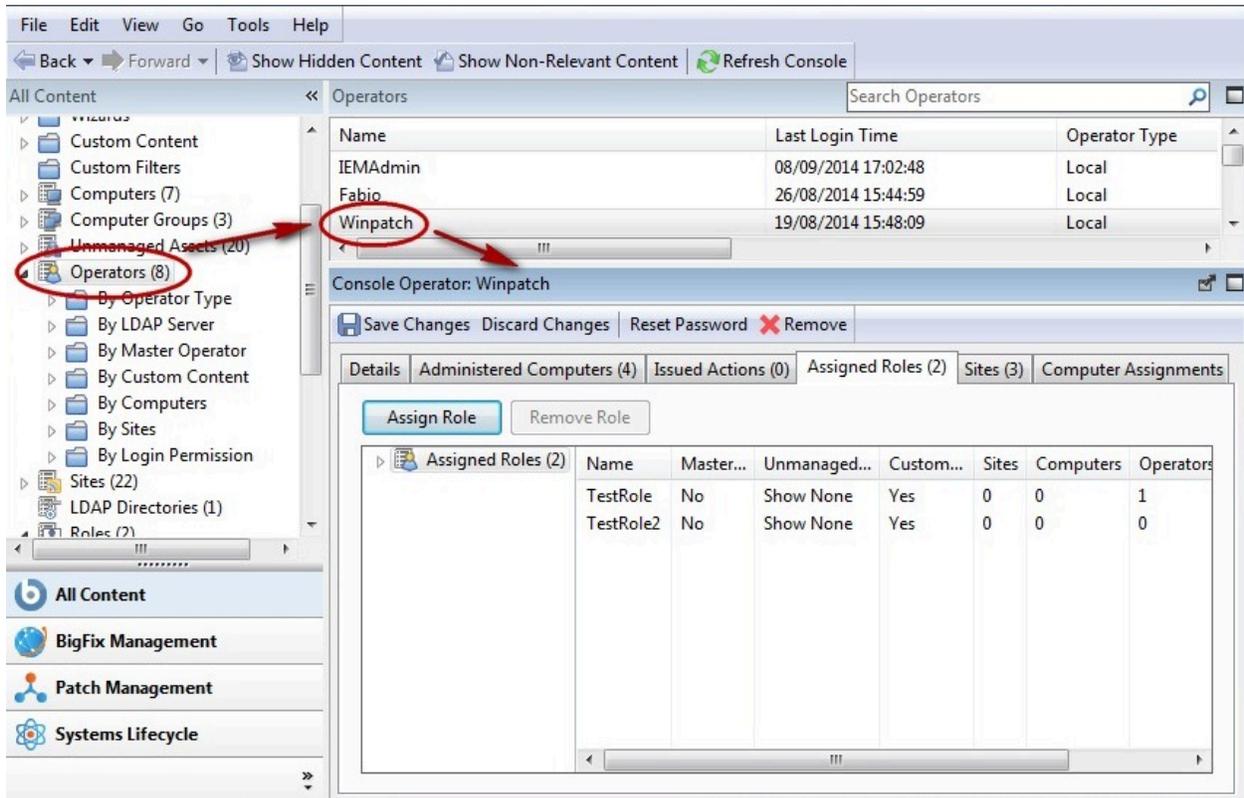
**「ユーザー名」**：データベースにアクセスできるユーザー名を入力します。許可されるユーザーのセットは、BigFix サイト管理者によって BigFix 管理ツールを使用して保守されます。

**「パスワード」**：上記のユーザー名に対応するパスワードを入力します。場合によっては、ユーザーが NT 認証されることがあります。この場合、パスワード・ボックスはグレー化されます。

このダイアログは BigFix コンソールを起動したときに使用できます。

## 「コンソール・オペレーター」：「割り当てられた役割」タブ

オペレーター・ウィンドウの「割り当てられた役割」タブでは、指定されたコンソール・オペレーターに役割を関連付けることができます。



「役割の割り当て」をクリックすると、現在未割り当ての役割が選択用にリストされているダイアログが表示されます。また、リストから役割を選択して「役割の削除」をクリックすることによって、役割をこのオペレーターから削除することもできます。

このウィンドウを破棄する前に必ず「変更の保存」をクリックしてください。

このダイアログは、オペレーター・リストからオペレーターを選択するか、「ツール」メニューで使用できるいずれかのオペレーター作成コマンドを使用してオペレーターを最初から作成した場合に表示されます。

## 「コンソール・オペレーター」：「詳細」タブ

「オペレーター」ウィンドウの「詳細」タブでは、各オペレーターの権限を定義できます。リストからオペレーターを選択し、「詳細」タブをクリックします。

Permissions		
	Explicit Permissions	Effective Permissions
Master Operator	No ▼	No
Show Other Operators' Actions	No ▼	No
Stop Other Operators' Actions	No ▼	No
Can Create Actions	No ▼	No
Can Lock	No ▼	No
Can Send Refresh to Multiple Computers	No ▼	No
Can Submit Queries	No ▼	No
Custom Content	No ▼	No
Unmanaged Assets	Show None ▼	Show None

再起動やシャットダウンをポスト・アクションとしてトリガーする、または BigFix アクション・スクリプトに含めるオペレーターの権限も設定します。

Restart and Shutdown [ ? ]		
	Explicit Permissions	Effective Permissions
Post-Action Behavior	Allow Restart and Shutdown ▼	Allow Restart and Shutdown
Action Script Commands	Allow Restart and Shutdown ▼	Allow Restart and Shutdown

特定のオペレーターに対して設定したシャットダウンおよび再起動の構成によっては、「アクションの実行」パネルのラジオ・ボタンがそのオペレーターに対して無効になる場合があります。この構成は、タイプが BigFix アクション・スクリプトではないアクションに対しては無効です。

BigFixユーザー・インターフェースにアクセスするための権限を設定することもできます。

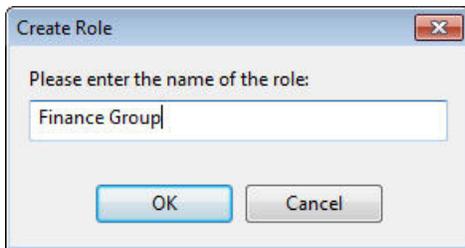
Interface Login Privileges		
	Explicit Permissions	Effective Permissions
Can use Console	Yes ▼	Yes
Can use WebUI	Yes ▼	Yes
Can use REST API	Yes ▼	Yes

このウィンドウを破棄する前に必ず「**変更の保存**」をクリックしてください。

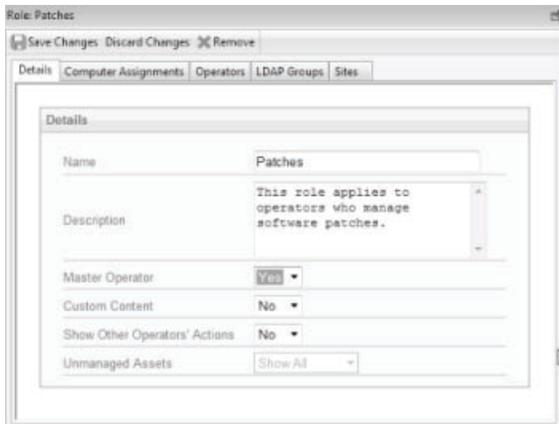
このダイアログは、オペレーター・リストからオペレーターを選択するか、「ツール」メニューで使用できるいずれかのオペレーター作成コマンドを使用してオペレーターを最初から作成した場合に表示されます。

## 役割の作成

このダイアログでは、役割をコンソールに追加し、他のオペレーターと共有することができます。役割の指定を開始するには、「ツール」>「役割の作成」を選択し、役割の名前を入力します。



残りの定義は、タブの付いた文書インターフェースを通じて行います。



「詳細」タブで、役割の基本的な権限を設定します。「コンピューターの割り当て」タブを使用して、この役割に関連付けるコンピューターを決定します。この役割を担う具体的なユーザーを「オペレーター」タブから選択できます。また、「LDAP グループ」タブでは、ユーザーのグループ全体を追加できます。最後に、「サイト」タブを使用して、特定のサイトをこの役割の範囲に割り当てることができます。

このダイアログは、「ツール」>「役割の作成」を選択すると表示されます。

## BigFix コンソールのヘルプ

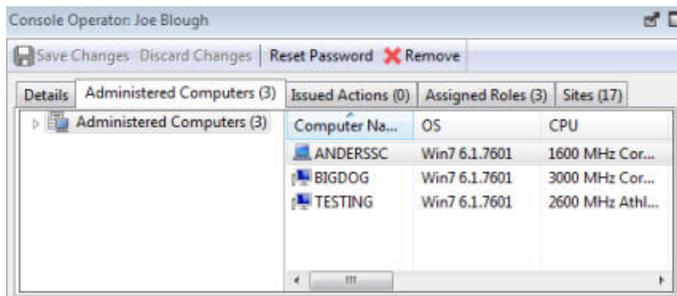
BigFix コンソールのヘルプ・ファイルを表示します。このオンライン・ファイルでは、チュートリアル、プログラムの説明、およびフルテキスト検索機能が使用できます。開始するには、こちら ( [ページ](#) ) をクリックします。

このダイアログは、以下を選択すると表示されます。

- ・ 「ヘルプ」 > 「目次」

## 「コンソール・オペレーター」：管理対象コンピューター

「コンソール・オペレーター」文書の「管理対象コンピューター」タブには、選択されたオペレーターによって管理されるすべてのコンピューターのフィルター/リストが表示されます。



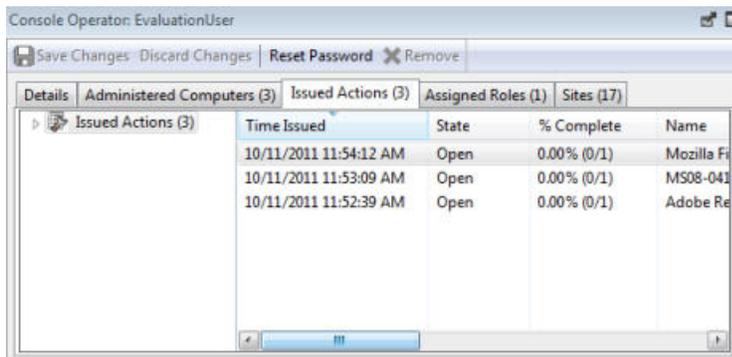
コンピューターの数もタブ自体に表示されており、一目で確認できます。他のコンピューター・リスト・パネルと同様、取得プロパティおよびグループによってリストをフィルタリングおよびソートすることができます。つまり、独自に作成されたカスタムのプロパティまたはグループを使用して、管理権限をひとまとめにできるということを意味します。例えば、取得プロパティを使用して、特定のアプリケーションを組織内のスペシャリストにマッチングすることもできます。または、部門 IT マネージャーを独自のドメインに自動的に接続することもできます。

このリストはコンソールの他のコンピューター・リストに類似していますが、選択されたオペレーターに固有のものであるため、一度に 1 人のユーザーにフォーカスできます。

このダイアログは、任意のコンソール・オペレーター・リストからオペレーターをクリックし、「**管理対象コンピューター**」タブを選択することによって使用できます。

## 「コンソール・オペレーター」：発行されたアクション

「コンソール・オペレーター」文書の「**発行されたアクション**」タブには、選択されたオペレーターによって適用されたすべてのアクションのフィルター/リストが表示されます。



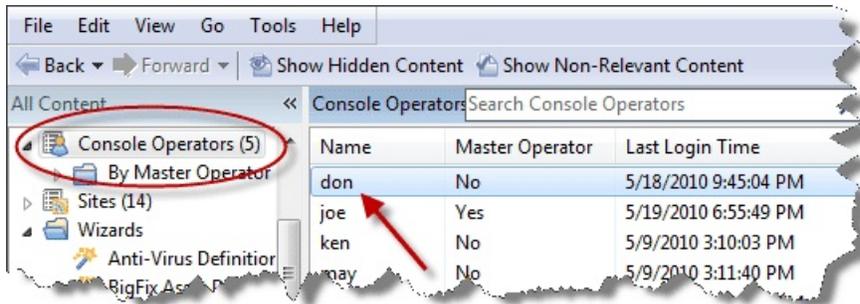
ダイアログの上部に、オペレーターの名前があります。他のアクション・リストと同様、「状態」(オープンまたは有効期限切れ)や「サイト」などの各種プロパティーによってリストをフィルタリングおよびソートすることができます。このオペレーターについて現在実行されたアクションの数はタブ自体に簡易表示されます。

このリストはコンソールの他のアクション・リストに類似していますが、選択されたオペレーターに固有のものであるため、一度に1人のユーザーにフォーカスできます。またこのインターフェースでは、アクションが完了しない場合にアクションを停止できます。停止するアクションを右クリックし、ポップアップ・メニューから「**アクションの停止**」を選択します。

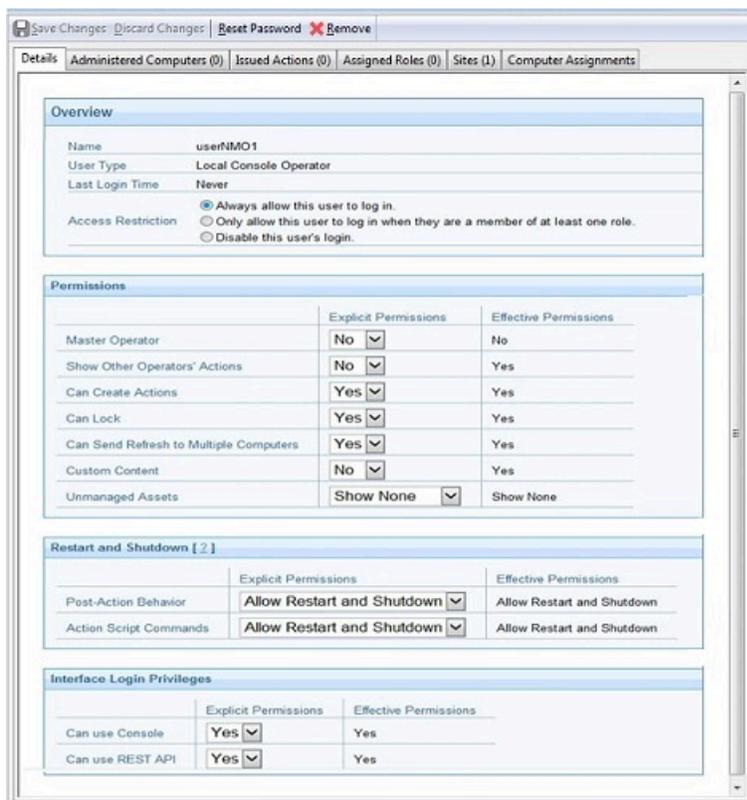
このダイアログは、任意のコンソール・オペレーター・リストからオペレーターをクリックし、「**実行されたアクション**」タブを選択することによって使用できます。

## コンソール・オペレーター・リストおよびコンソール・オペレーター文書

ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーから「**コンソール・オペレーター**」またはその下位ノードのいずれかをクリックすると、オペレーターのリストが表示されます。



このリストで任意の項目をクリックすると、コンソールの作業域に**コンソール・オペレーター文書**が表示されます。



コンソール・オペレーター文書の上部に、オペレーターの名前があります。下のタブには、このオペレーターによって管理されているコンピューターの数と、このオペレーターが実行したアクションの数が一目で確認できるように表示されています。

コンソール・オペレーターのタブには、以下のものがあります。

- **詳細:** このオペレーターの権限の概要を示すウィンドウです。権限には、マスター・オペレーター、他のオペレーター・アクションの表示、アクションの作成、コンピューターのロック、複数のコンピューターへの更新の送信、カスタム・コンテンツの管理、非管理資産の表示があります。

オペレーターがポストアクションとして再起動およびシャットダウンをトリガーする能力、またはそれらを BigFix アクション・スクリプトに含める能力に影響する決定も行ないます。特定のオペレーターに対して設定したシャットダウンおよび再起動の構成に応じて、「アクションの実行」パネルのラジオ・ボタンは、そのオペレーターに対して無効になる場合があります。この構成は、アクションのタイプが BigFix アクション・スクリプトではないアクションに対しては無効です。

また、BigFix コンソールおよび REST API にアクセスする権限を設定することもできます。

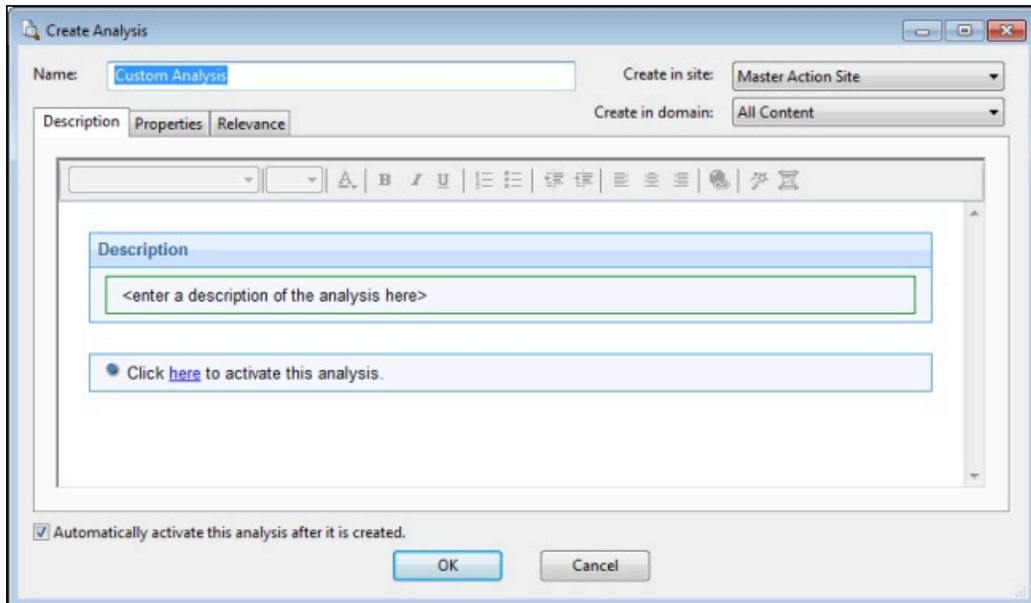
- **「管理対象コンピューター」:** このオペレーターの管理下にあるすべてのコンピューターを含む標準的なフィルター/リストです。
- **「発行されたアクション」:** このコンソール・オペレーターによって適用された Fixlet アクションを示します。
- **「割り当てられた役割」:** このオペレーターに関連付けられている役割がリストされます。
- **「サイト」:** このオペレーターによって管理可能なサイトがリストされます。

このコンソール・オペレーター・リストを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンソール・オペレーター**」アイコン (またはその下位ノードのいずれか) をクリックし、表示するオペレーターを選択します。変更を行った後は、「**変更を保存**」 ボタンを必ずクリックしてください。

## 「分析の作成」

「**分析の作成**」 ダイアログでは、管理対象ネットワーク全体でプロパティを監視および監査するための、独自のカスタム分析を適用できます。分析を最初から作成することや、リストから選択して、「**編集**」 > 「**カスタム分析の編集**」 を選択することによって既存のカスタム分析を編集することができます。

オリジナルの分析を作成するには、「ツール」>「分析の新規作成」を選択します。「分析の作成」ダイアログが開きます。



上部にある以下の3つの項目は、分析を識別するために役立ちます。

- 「名前」：カスタム分析の名前を入力します。
- 「作成先のサイト」：プルダウン・メニューから、分析をホストするサイト (通常は「マスター・アクション・サイト」) を選択します。
- 「作成先のドメイン」：プルダウン・メニューから、分析を収容するドメインを選択します。

これらのデータ・フィールドの下に、以下の3つのタブがあります。

- 「説明」：実行する分析に付ける、ユーザーに分かりやすいタイトルを作成します。これはHTMLページで、上部のテキスト編集ツールを使用して、分析の外観を調整することができます。
- 「プロパティ」：分析のために取得されるクライアントのプロパティを指定します。「プロパティを追加」ボタンをクリックし、名前および関連句を入力します。また、このプロパティの評価期間も指定できます。

- 「**関連度**」：関連句を使用して、カスタム分析のための対象クライアント・コンピューターを指定します。分析は、関連句が true に評価されるすべてのコンピューターに適用されます。

このダイアログの下部には次のチェック・ボックスがあります。

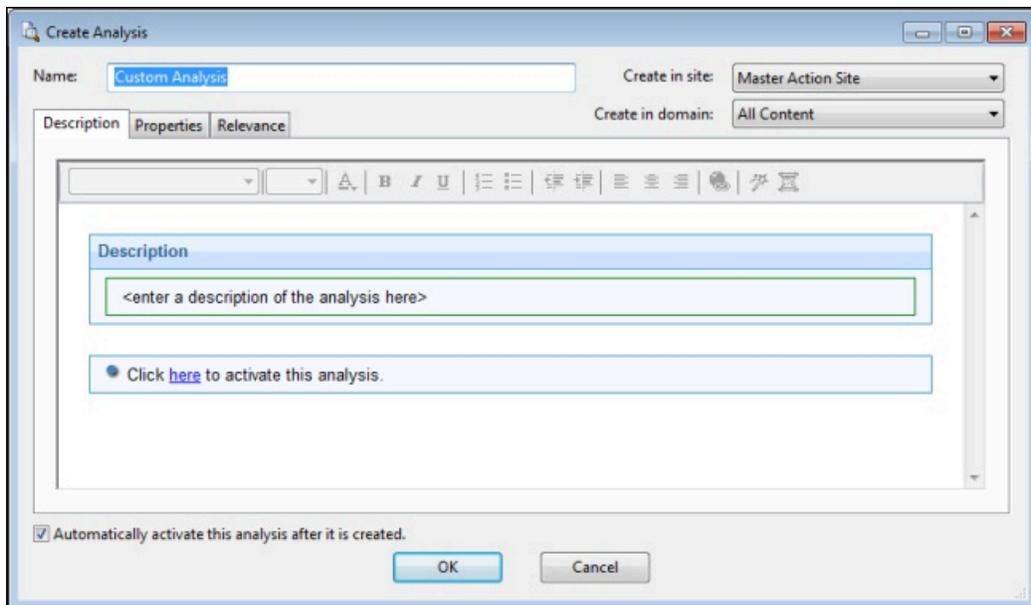
- 「**作成後にこの分析を自動的にアクティブにする**」：「OK」ボタンをクリックしてこの分析をすぐに伝搬させる場合は、このボックスをオンにします。これを空白のままにすると、分析を記述して実際にはアクティブにしないようにすることができます。

新しい分析は、「ツール」 > 「分析の新規作成」を選択するか、分析ウィンドウ内を右クリックして、コンテキスト・メニューから「分析の新規作成」を選択することによって作成できます。

既存のカスタム分析を編集するには、右クリックしてポップアップ・メニューから「編集」を選択します。

## 「分析の作成」の「説明」タブ

「分析の作成」ダイアログの「説明」タブでは、カスタム分析用の HTML ページを定義できます。

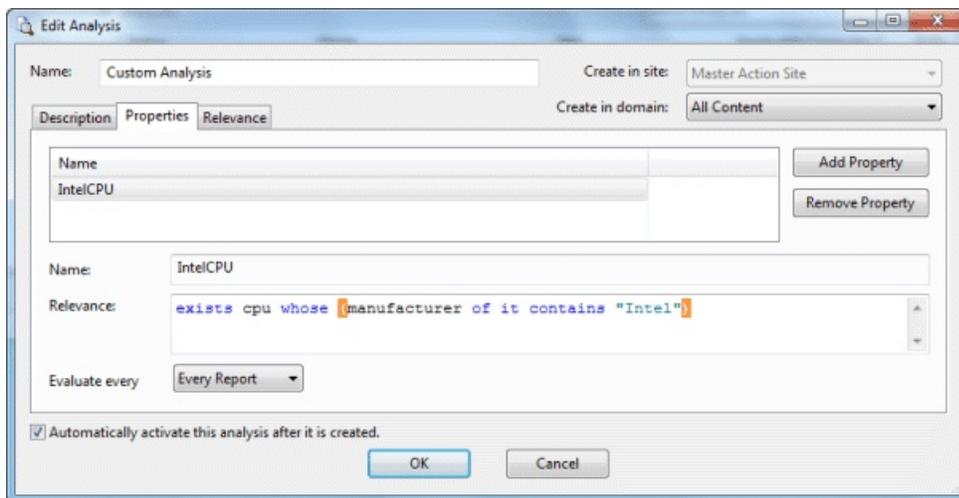


カスタム分析の説明を最初のボックスに入力します。2 番目のボックスもカスタマイズできますが、多くの場合は既存のテキストが標準です。

「ツール」 > 「分析の新規作成」 を選択して新しい分析を作成するか、カスタム分析を右クリックしてコンテキスト・メニューから「カスタム分析の編集」 を選択することによって編集できます。既存の分析を複製して編集するには、最初に右クリックし、コンテキスト・メニューから「エクスポート」 を選択して分析を保存した後に、「ファイル」 > 「インポート」 を選択してその分析を編集用に再取得します。

## 「分析の作成」 の 「プロパティ」 タブ

「分析の作成」 ダイアログの「プロパティ」 タブでは、分析するプロパティを定義できます。



これはカスタマイズされる分析の中核であり、Fixlet、タスク、またはベースラインの各ダイアログの「プロパティ」 タブとは異なります。

「プロパティ」 タブには次の 2 つのボタンがあります。

- **プロパティの追加:** このボタンをクリックして、分析に新しいプロパティを追加します。実行すると、下のテキスト域が編集可能になって、プロパティを定義できます。
- **プロパティの削除.** 左のリストから取得プロパティを強調表示して「プロパティを削除」 をクリックすると、この項目が分析から削除されます。

「プロパティの追加」ボタンをクリックして、プロパティの**名前**と、情報を取得するための**関連文**を入力する必要があります。例えば、各クライアントの管理者の名前を取得することをお勧めします。プロパティに「Client Admins」という名前を付け、「names of administrators of client」という関連式を使用することができます。

「評価頻度」プルダウン・メニューから分析のスケジュールを設定することもできます。デフォルトでは、レポートが要求されるたびにプロパティ値を更新します。ただし、5分から30日までの間の任意の定期的な期間にスケジュールを設定することもできます。

「ツール」>「分析の新規作成」を選択して新しい分析を作成するか、カスタム分析を右クリックしてポップアップ・メニューまたは「編集」メニューから「カスタム分析の編集」を選択することによって編集できます。

## 「分析の作成」の「関連度」タブ

「分析の作成」ダイアログの「関連度」タブでは、特定のコンピューターに対するカスタム分析の適用条件を決定する関連句を定義できます。

以下の3つの関連度オプションから選択できます。

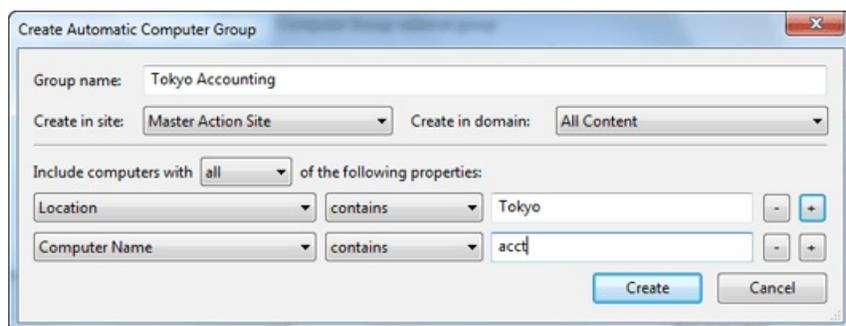
- 「**すべてのコンピューター**」：これがデフォルト選択項目で、ネットワークのすべてのBigFixクライアントについて、指定するプロパティを分析します。
- 「**以下の条件に一致するコンピューター**」：この選択項目を選択した場合、事前定義されたいくつかのプロパティから選択して、分析用のクライアントのサブセットを識別できます。

- 「次のすべての関連句に当てはまるコンピューター」：この選択項目では、カスタムの関連文を使用してコンピューターを指定できます。使用可能な選択項目の中ではこれが最も強力で、分析するコンピューターを容易に絞り込むことができます。

「ツール」 > 「分析の新規作成」 を選択して新しい分析を作成するか、カスタム分析を右クリックしてコンテキスト・メニューから「カスタム分析の編集」を選択することによって編集できます。既存の分析を複製して編集するには、最初に右クリックし、コンテキスト・メニューから「エクスポート」を選択して分析を保存した後に、「ファイル」 > 「インポート」を選択してその分析を編集用に再取得します。

## 「自動コンピューター・グループの作成」

このダイアログでは、特定のコンピューターをグループに自動的に参加させる規則を作成できます。



これには以下の部分があります。

- 「コンピューター・グループ名」：これはグループの名前を入力するためのテキスト・ボックスです。これはすべてのコンピューター・グループ・リストの名前列にリストされます。
- 「作成先のサイト」：これはコンピューター・グループをホストするサイトをリストするプルダウン・メニューです。
- 「作成先のドメイン」：これはコンピューター・グループをホストするドメインをリストするプルダウン・メニューです。
- 「以下のプロパティの「いずれか/すべて」を持つコンピューターを含める」：このオプションでは、コンピューターがグループのメンバーになるために、true に評価さ

れる必要がある条件を指定できます。複数の条件がある場合、このオプションには、リストされた条件の**いずれか**または**すべて**を使用できるようにするプルダウン・メニューが含まれます。条件を定義するために、以下の3つのフィールドが使用されます。

- **取得プロパティ**: 事前定義済みの取得プロパティを多数含むプルダウン・リストからプロパティを選択します。リストの先頭に2つの別のオプションがあります。
  - リストの先頭から「**関連式**」を選択し、関係のプルダウンから「**「true」である**」または「**「false」である**」を選択した後、「**関連句を編集**」ボタンをクリックして、グループが基本とするカスタムの関連式を定義します。
  - プロパティ・リストから「**グループ・メンバーシップ**」を選択し、目的のメンバーシップ・オプションを選択した後、右側にあるプルダウン・リストから**手動グループ**を選択します。
- **「関連」**: 選択可能な4つの比較演算子(「含む」、「等しい」、「含まない」、および「等しくない」)から選択します。特定の取得プロパティによっては、他の関連が選択可能な場合があります。
- **「値」**: 取得プロパティの値と比較する値を入力します。比較で true となった場合、ベースラインは指定されたコンピューターで関連状態になります。例えば、Windows コンピューターを自動的に登録するグループを作成するには、「**OS**」「**含む**」「**Win**」と入力します。

条件のリストの編集で使用するボタンには以下の2つがあります。

- **正符号 (+)**: このボタンをクリックすると、新しい条件がリストに追加されます。複数の条件がある場合、上部のラジオ・ボタンには、リストの**いずれか**または**すべての条件**をトリガーすることを可能にするプルダウン・メニューが含められます。
- **負符号 (-)**: このボタンをクリックすると、それに関連付けられている条件が削除されます。

**「OK」** をクリックしてパスワードを入力すると、新しい自動コンピューター・グループが「コンピューター・グループ」タブに伝達されてリストされます。

このダイアログは、「コンピューター・グループ」タブ内での右クリック・コンテキスト・メニューから「自動グループの新規作成」をクリックするか、「ツール」>「自動グループの新規作成」を選択することによって使用できます。

## 「カスタム・サイトの作成」

このダイアログでは、独自の**カスタム・サイト**に名前を付けることができます。

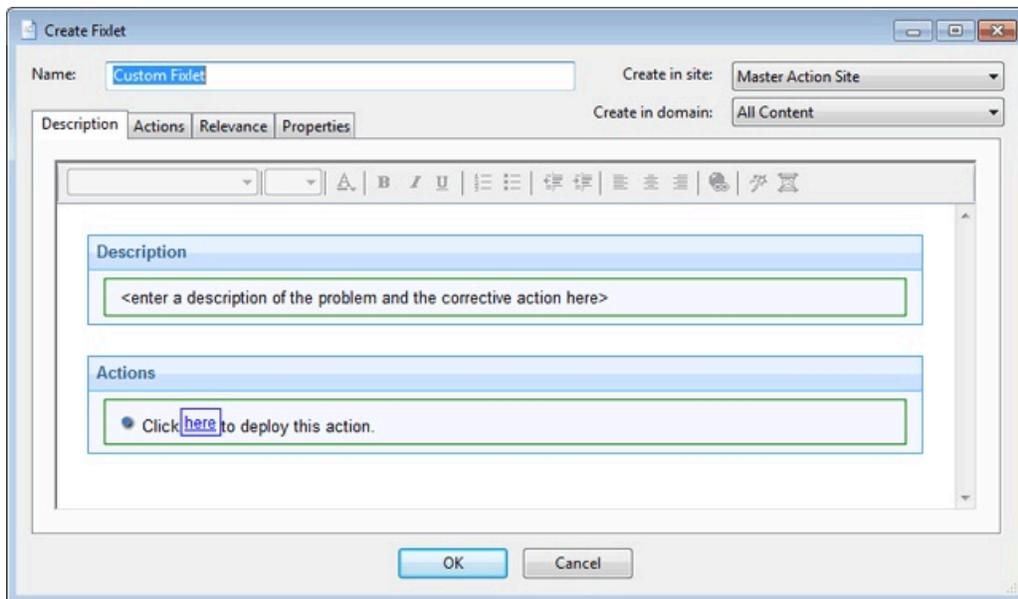


サイトの名前を入力して、「**OK**」をクリックします。これにより「**カスタム・サイト**」ダイアログが開き、このダイアログでサイトの定義を完了できます。

カスタム・サイトを作成するには、「**ツール**」>「**カスタム・サイトの作成**」を選択します。

## 「Fixlet の作成」または「タスクの作成」

「**Fixlet の作成**」ダイアログと「**タスクの作成**」ダイアログは類似しており、Fixlet またはタスクを作成またはカスタマイズできます。



Fixlet またはタスクの定義や編集に役立ついくつかのタブがあります。

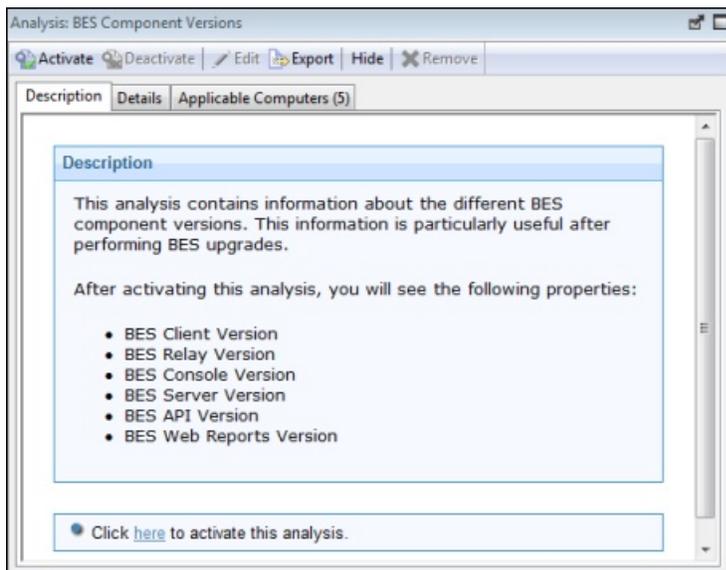
- **「説明」**：このボックスに説明テキストを入力します。ダイアログ上部のテキスト操作ツールバーを使用して、フォーマットを拡張できます。
- **「アクション」**：このダイアログでアクションを定義します。右側にあるボタンを使用して、アクションの追加、削除、または位置の変更を行います。その下のエリアでは、アクションのプロパティをカスタマイズします。ドロップダウン・メニューから「スクリプト・タイプ」を選択します。その下のテキスト・ボックスでは、新しいアクション・スクリプトを入力したり、元のアクション・スクリプトを変更したりすることができます。以下の3つのチェック・ボックスは、アクションを変更するために使用できます。
  - **「このアクションをデフォルトにする」**：このボックスでデフォルト・アクションを作成します。
  - **「アクション設定ロックを含める」**：アクション設定ロック (開始時刻、終了時刻、除外日など) をカスタマイズする場合は、このチェック・ボックスの右側にある「編集」をクリックします。このパネルには、障害および再適用の動作も含まれています。
  - **「カスタム成功条件を含める」**：アクションの成功を定義する条件を指定できます。

- 「**関連度**」: 以下のダイアログでは、デフォルトである「**すべてのコンピューター**」への適用をそのまま使用するか、別のボタンをクリックして条件または関連文を入力します。これは、関連するコンピューターを Fixlet またはタスクのターゲットとして含めるための方法です。
- 「**プロパティ**」: Fixlet またはタスクのプロパティ (カテゴリー、ダウンロード・サイズ、日付、重要度など) を設定します。SANS (SysAdmin、Audit (監査)、Network (ネットワーク)、Security (セキュリティ)) または CVE (Common Vulnerabilities and Exposures (共通脆弱性と暴露)) の ID 番号を追加することもできます。

「**ツール**」 「**Fixlet の新規作成**」 または 「**タスク**」 を選択してカスタム Fixlet またはタスクを作成するか、既存の Fixlet またはタスクをリスト・パネルで右クリックして、コンテキスト・メニューから 「**カスタム・コピーの作成**」 を選択することによってその Fixlet またはタスクを編集できます。

## 「説明」 タブ

「**説明**」 タブには、選択された **Fixlet**、**タスク**、**分析**、またはベースラインの英語の説明が表示されます。



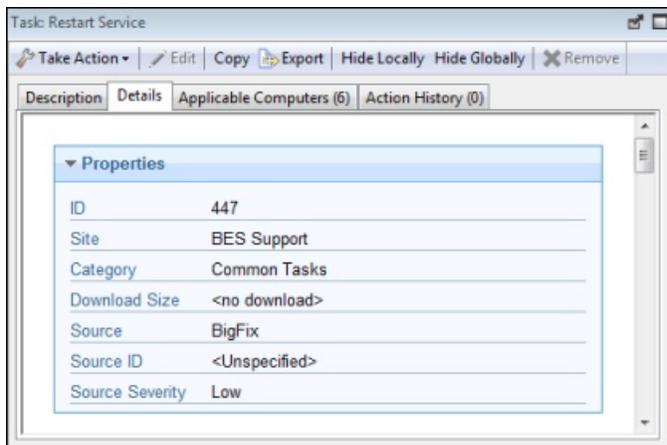
タブには通常、パッチのインストール、レジストリーの変更、アプリケーションの更新、分析の実行などを行うために実行できる、(リンク形式の) 1 つ以上のアクションがあります。

リンクをクリックすると、アクションまたは分析がネットワーク全体に適用されます。Fixlet メッセージの場合、アクションが完了すると問題が存在しなくなるため、開始 Fixlet は通常は表示されなくなります。一方、タスク、ベースライン、および分析は、これらを終了するまでアクティブなままになります。

このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「Fixlet」、「タスク」、「分析」、または「ベースライン」のいずれかのアイコンをクリックし、リスト・パネルから項目を選択し、「説明」タブをクリックすることによって使用できます。

## 「詳細」タブ

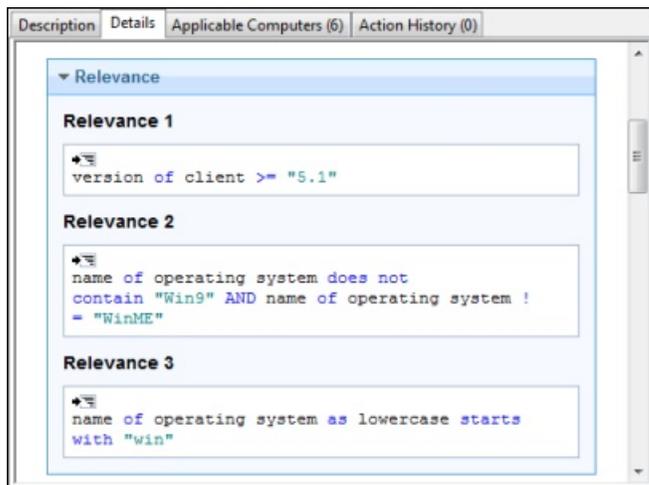
「詳細」タブには、選択された **Fixlet**、**タスク**、**分析**、または**ベースライン**のオブジェクトの背後にある仕組みが表示されます。



ここには Fixlet メッセージのさまざまな側面を示すいくつかのセクションがあります。

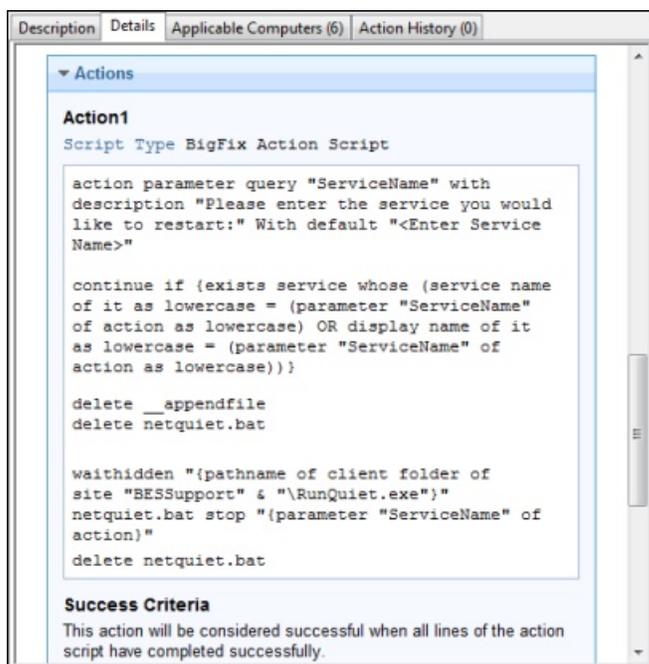
- 「**プロパティ**」: 上に示すように、このセクションには、Fixlet、タスク、またはベースラインのさまざまなプロパティ (カテゴリー、ダウンロード・サイズ、重要度など) がリストされます。これらのプロパティは、オブジェクトの作成時に手動で定義されます。

- 「**関連度**」：このセクションには、個々の Fixlet メッセージまたはタスクの関連度を決定するために使用される関連式が表示されます。

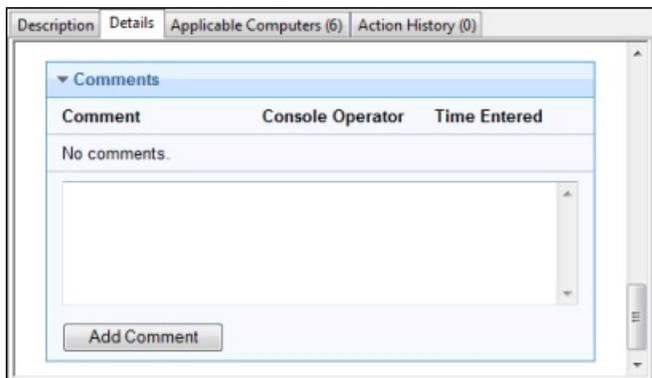


この例には、項目が特定の BigFix クライアントに対して関連するとみなされるためには、すべて true になる必要がある複数の文があります。ベースラインの場合、これはグループの全体的な関連度を決定する「エンベロップ」式です。グループが適用可能な場合のみ、構成要素のタスクおよび Fixlet の関連度が分析されます。関連式を評価してその値を取得する分析の場合、これが中核となる情報です。

- 「**アクション**」：このセクションには、Fixlet またはタスクのいずれかからアクションが適用される場合に実行されるコードが表示されます。



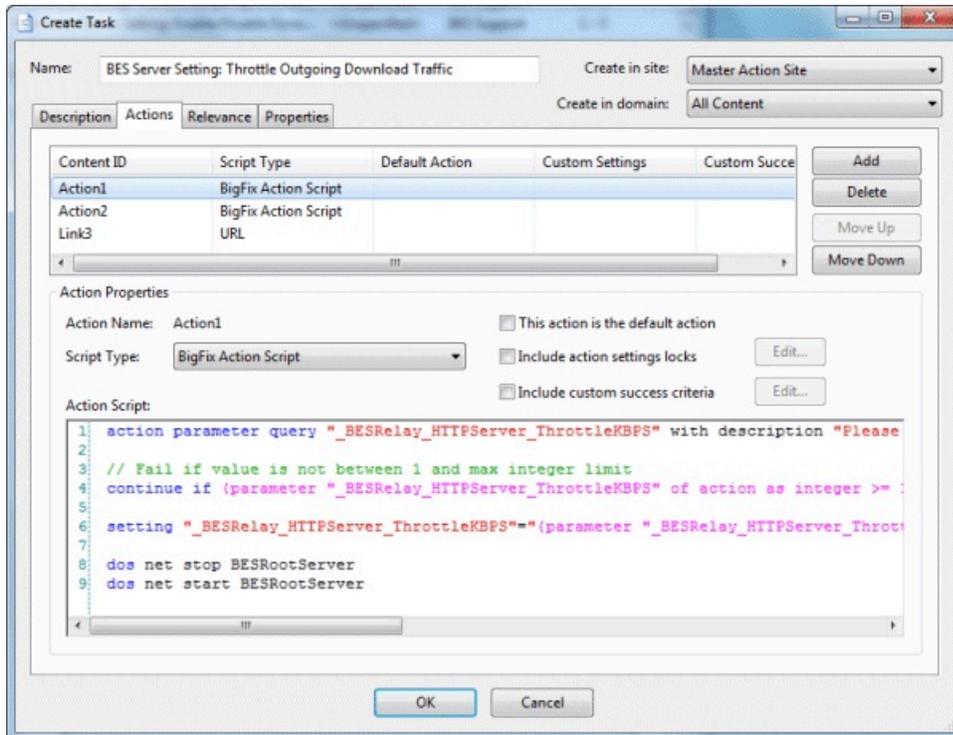
- 「コメント」：このセクションでは、Fixlet、タスク、またはベースラインにコメントを付加できます。



このダイアログは、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「Fixlet」、「タスク」、「分析」、または「ベースライン」のいずれかのアイコンをクリックし、結果として表示されたリスト・パネルから項目を選択し、「詳細」タブをクリックすることによって使用できます。

## 「編集」の「アクション」タブ

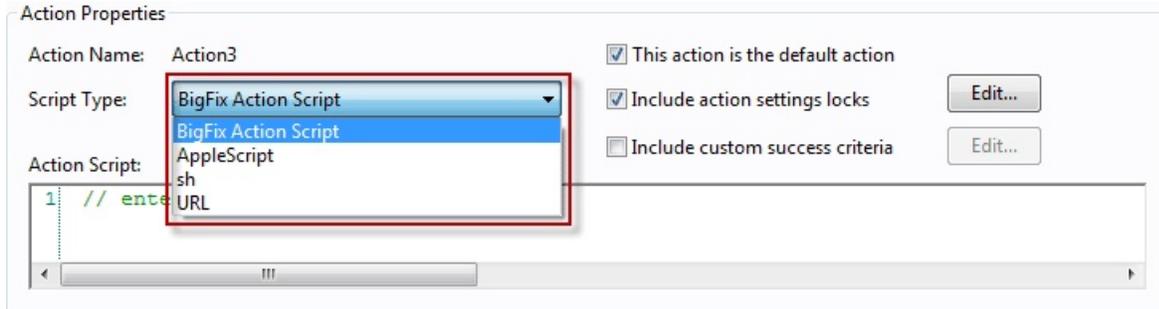
「作成」 / 「編集」ダイアログの「アクション」タブでは、新規あるいはカスタマイズされた **Fixlet** または **タスク**・オブジェクトのアクションを作成できます。



ここで作成するアクションは、完成したタスクまたは Fixlet 内のクリック可能なリンクになり、ネットワーク上の適切なコンピューターに適用されます。アクションは、ダイアログ上部での表示順序でリストされます。リストの右側には以下のボタンのセットがあります。

- **「追加」**：このボタンをクリックすると、新しいアクションが作成されます。これにより、番号が付いた新規エントリーが上のリスト内に作成され、アクション・スクリプトを書き込むための空白のテキスト・ボックスが開きます。
- **「削除」**：リストから項目を選択してこのボタンをクリックすると、項目が削除されます。
- **「上に移動」**：選択されたアクションをリストの上の方に移動します。つまり、このアクションを、より前に表示するようにします。
- **「下に移動」**：選択されたアクションをリストの下の方に移動します。つまり、このアクションを、より後に表示するようにします。

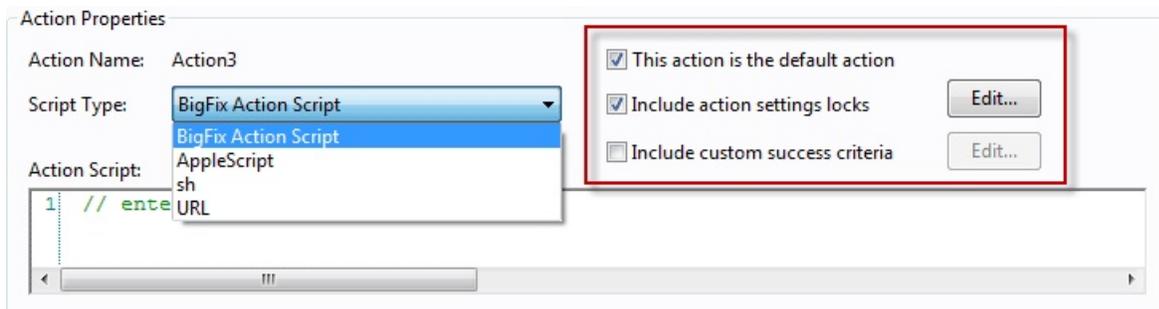
各アクションについて、タイプ、特定の設定、およびスクリプト自体を編集できます。



プルダウン・メニューから、「アクション・スクリプト・タイプ」を選択します。選択項目には以下のものがあります。

- 「**BigFix アクション・スクリプト (BigFix Action Script)**」：これはクロスプラットフォームのスクリプト言語で、デフォルトのスクリプト・タイプです。
- 「**AppleScript**」：これは Macintosh コンピューターを管理するために選択するスクリプト言語です。
- 「**sh**」：これは UNIX システムによって使用されるシェル・スクリプトです。
- 「**URL**」：これは該当するスクリプトまたは情報 Web ページを指定する URL です。アクションが URL として作成されると、アクションは番号が付いたリンクとしてリストされます。

任意のアクションを変更するために使用できるプロパティが他にもあります。



各アクションをカスタマイズするには、以下の 1 つ以上のボックスにチェック・マークを付けます。

- 「**このアクションをデフォルトにする**」：このボックスにチェック・マークを付けると、選択されたアクションがこのアクションのグループのデフォルトになります。デフォルト・アクションは、障害の危険がなく単純であって、無人で起動したり同時デ

プロイメントのためにグループ化したりすることが妥当であるようにする必要があります。

- 「**アクション設定ロック**を含める」：表示メッセージ、ユーザー、実行動作、およびポストアクションなどのカスタム設定およびロックを使用するには、このボックスにチェック・マークを付けます。「**編集**」ボタンをクリックすると、各項目の横にロックが付いた「**アクション設定**」ダイアログが開きます。ロックをクリックすると、これらの値が変更されなくなります。
- 「**カスタム成功条件**を含める」：Fixlet は通常、アクションが完了すると初期の関連度テストに失敗するように設計されています。このテストは通常、脆弱性によってトリガーされるため、テストの失敗は修復の成功を示します。したがって Fixlet はコンソールに表示されなくなります。ただし、このボックスにチェック・マークを付けることによって、成功を確立するための他の条件を選択することができます。「**編集**」ボタンをクリックすると「**アクション成功条件**」ダイアログが開くので、代わりに条件を入力します。

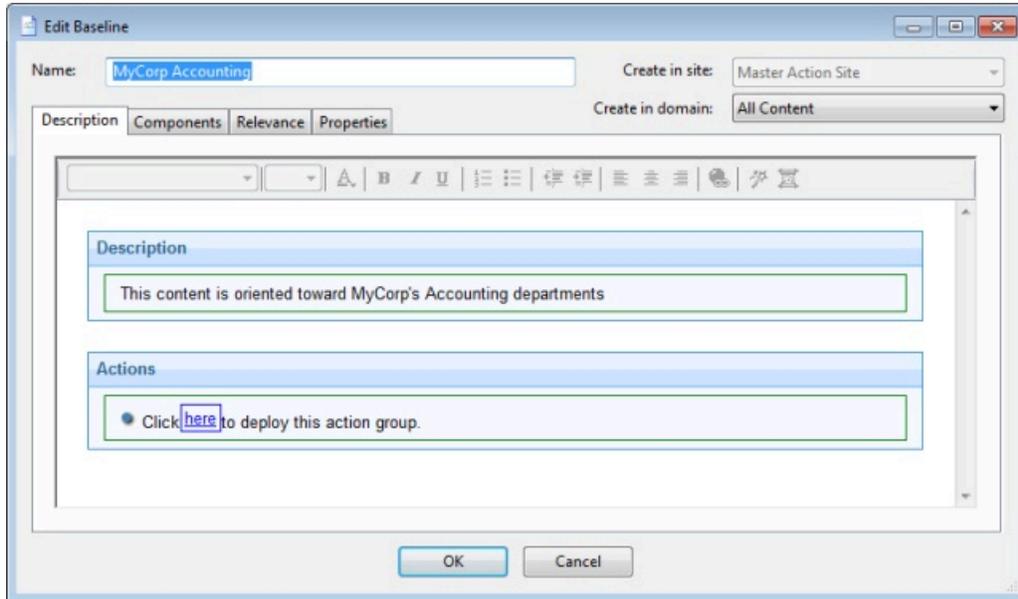
下部のテキスト・ボックスに、**アクション・スクリプト**の実際のテキストを入力します。スタイルは、前のセクションで選択したスクリプト・タイプによって異なります。これらは数十万台のコンピューターに配信される可能性があるため、常に何度もテストすることをお勧めします。

このダイアログを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「Fixlet」、「タスク」、または「ベースライン」のいずれかのアイコンをクリックします。結果として表示されるリスト・パネル内の項目を右クリックし、コンテキスト・メニューから「**カスタム・コピーの作成**」を選択します。

あるいは、「**ツール**」メニューで目的の「**作成**」項目を選択します。

## 「ベースラインの編集」

「**ベースラインの編集**」ダイアログ。ベースラインは、シングル・マウスクリックで実行する Fixlet メッセージ、タスク、および他のベースラインのグループです。



例えば、共通のオペレーティング環境を確保するために、すべてのアプリケーション・パッチまたはセキュリティー問題を一緒にグループ化する目的でベースラインが作成される場合があります。ベースラインを最初から作成したり、既存のベースラインを複製または編集したりすることができます。

このインターフェースを選択すると、以下の3つの入力項目を上部に持つダイアログが表示されます。

- 「名前」：ベースラインの名前を入力します。
- 「作成先のサイト」：プルダウン・メニューから、ホスト・サイトを選択します。
- 「作成先のドメイン」：プルダウン・メニューから、ホストドメインを選択します。

これらのデータ・フィールドの下に、以下の4つのタブがあります。

- 「説明」：適用するベースラインについて、ユーザーに分かりやすいタイトルおよび説明を作成します。
- 「コンポーネント」：このベースラインにグループ化するコンポーネント（つまり Fixlet メッセージ、タスク、および他のベースライン）を指定します。
- 「関連度」：目的のコンピューターのサブセットのみをこのベースラインの対象にするための関連句を作成します。ベースラインの各構成要素にはそれ独自の関連句があるため、デフォルトの関連度は TRUE に設定されています。

- 「プロパティ」: ベースラインの特定のプロパティ (カテゴリー、ソース、重要度、日付など) を指定します。

新しいベースラインを最初から作成するには、以下を選択します。

- 「ツール」 > 「ベースラインの新規作成」

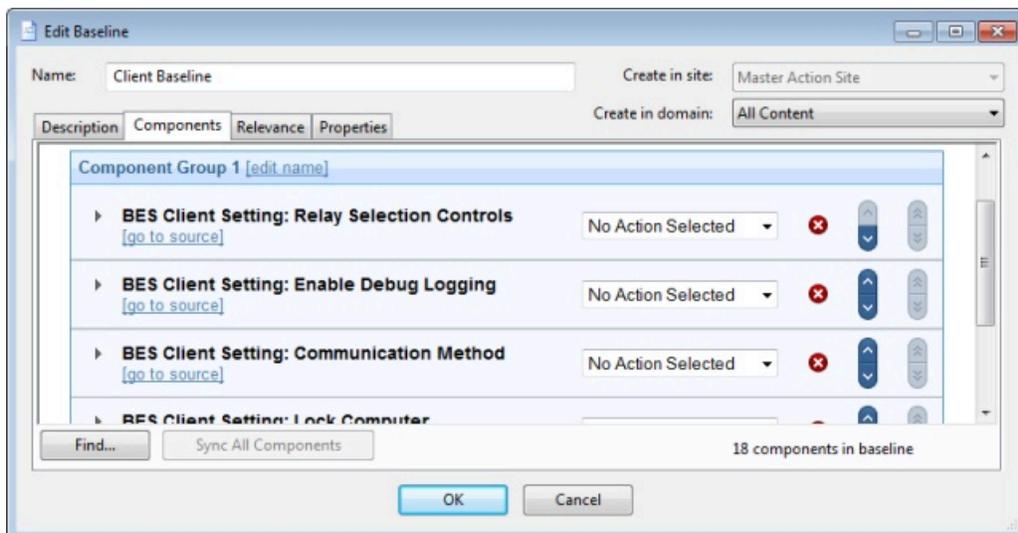
既存のベースラインをカスタマイズするには、任意のベースライン・リストから選択して、以下を選択することもできます。

- 「編集」 > 「カスタム・コピーの作成」

または、ベースライン・リスト内で右クリックして、コンテキスト・メニューから「カスタム・コピーの作成」または「ベースラインの新規作成」を選択します。同様に、右クリック・コンテキスト・メニューから「カスタム・ベースラインを編集」を選択することによって、既存のカスタム・ベースラインを編集できます。

## 「編集」の「コンポーネント」タブ

「ベースラインの編集」ダイアログの「コンポーネント」タブでは、ベースラインに追加する Fixlet メッセージおよびタスクのグループを指定できます。



「**グループにコンポーネントを追加**」のリンクをクリックし、グループに配置する Fixlet、タスク、および他のベースラインを選択します。「**名前を編集**」リンクを使用して、グループに名前を付けます。すべてのコンポーネントを単一グループに配置することも、「**新しいコンポーネント・グループを追加**」リンクをクリックしてベースラインに構造を追加することもできます。赤色の X をクリックすると、関連付けられたコンポーネントが削除され、上矢印 (^) および下矢印 (v) を使用すると、リスト内のコンポーネントの順序が変更されます。

ベースラインのアクション設定を変更する場合は、「**カスタム・アクション設定を使用する (Use custom action settings)**」の横にあるボックスにチェック・マークを付けます。「**アクション設定のセット**」リンクをクリックすると、「**アクション設定**」ダイアログが開きます。

ベースラインのコンポーネントは、元の Fixlet またはタスクのコピーであり、インターではありません。したがって、基本の Fixlet またはタスクが変更されると、ベースラインが元の Fixlet またはタスクと同期がとれなくなることがあります。これが発生すると、「**ソース Fixlet が異なります**」というメッセージがコンポーネント・リストに表示されます。

このダイアログの下部にある「**検索**」コマンドによってダイアログが開き、検索ストリングと、単語全体に一致、大文字小文字を区別、検索方向などのオプションを入力できます。これにより、ベースラインのコンポーネント全体を簡単に検索できます。

「**すべてのコンポーネントを同期**」というボタンもあります。これは、ベースライン・コンポーネントのソースが変更された場合、すべてのベースライン・コンポーネントと、それらのソースの最新バージョンとを強制的に同期させます。

新しいベースラインを最初から作成するには、以下を選択します。

- ・ 「**ツール**」 > 「**ベースラインの新規作成**」

既存のベースラインをカスタマイズするには、任意のベースライン・リストから選択して、以下を選択することもできます。

- ・ 「**編集**」 > 「**カスタム・コピーの作成**」

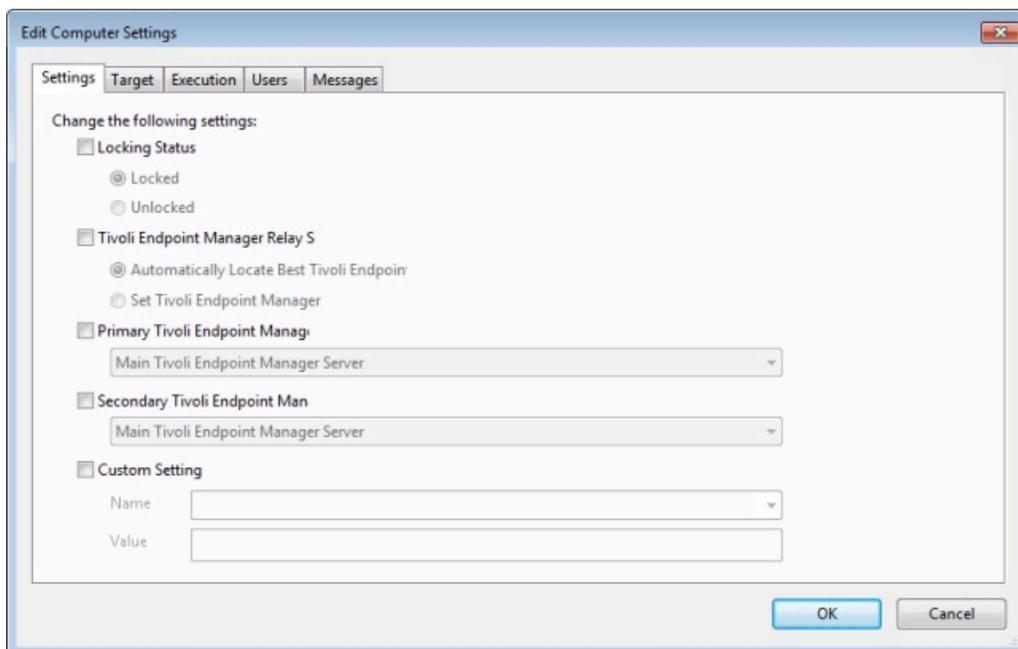
または、ベースライン・リスト内で右クリックして、コンテキスト・メニューから「**カスタム・コピーの作成**」または「**ベースラインの新規作成**」を選択します。

## 「コンピューター設定の編集」

「**コンピューターの設定の編集**」ダイアログでは、BigFixコンソール・オペレーターが、単一コンピューターまたは指定されたコンピューターのセットで、特定のコンピューター属性 (ロックの指定、クライアントをリレーにすること、リレーの指定、カスタム設定の作成など) を変更できます。

**注:** 複数のターゲットを選択した場合、それらのターゲットの設定を選択し、ターゲットの一部のフィールドでパスワードの値を変更すると、各ターゲットについて、クライアント・レベルでサポートされる内容に従って変更が管理されます。

**注:** V9.5 以前のバージョンのワークステーションで「**コンピューター設定の編集**」ダイアログを使用する場合、使用する文字は ASCII 文字のみにする必要があります。そうしないと、コンソールに非 ASCII 文字が正しく表示されない可能性があります。



このパネルには、選択されたクライアントのグループについて、対象を選定し、設定をカスタマイズするための、タブ付きの 5 つのダイアログがあります。

- 「**設定**」: コンピューター設定 (ロック状態、リレー、カスタム変数など) を編集するためのコントロールのグループが表示されます。
- 「**対象**」: 対象として選択した設定のために、編集、フィルター適用、ソート、およびグループ化できるコンピューターのフィルター/リストが表示されます。
- 「**実行**」: 他のアクションと同様、設定のアクティブ化を任意のスケジュールに限定できますが、アクションの適用にはいくらか時間がかかる場合があることに注意が必要です。この設定は、適用されると削除されるまで残ります。また、特定のユーザー対話を指定したり、取得プロパティーの内容に基づいて別の対象を追加することもできます。
- **ユーザー**: 設定をアクティブ化する前にユーザーがログオンすることが必要かどうかを指定できます。
- 「**メッセージ**」: 設定をアクティブ化する前にBigFixクライアントにメッセージを送出できます。

複数のコンピューターが選択されている場合、このダイアログは、右クリックしてコンテキスト・メニューから「**コンピューター設定の編集**」を選択する (または「**編集**」メニューから「**コンピューター設定の編集**」を選択する) ことによって使用できます。

## 「編集」の「説明」タブ

「作成」/「編集」ダイアログの「説明」タブでは、新規あるいはカスタマイズされた **Fixlet**、**タスク**、**分析**、または**ベースライン**・オブジェクトについて説明できます。

- 説明メッセージの本文に、カスタムの**説明**を入力します。HTML ページの説明をクリックして編集します。
- 「説明」ボックスの下には、この Fixlet、タスク、またはベースラインに付加できる**アクション**を説明するテキストがあります。アクションは、説明ページ内のクリック可能なリンクです。テキストをクリックしてテキストを編集します (通常はデフォルトのテキストで十分です)。

 **注:** 分析の場合、このリンクは指定されたプロパティーの取得をアクティブ化します。アクティブ化はアクションの実行を伴いますが、分析の場合、これはコンソールによって読み取り可能なプロパティーを作成するという安全なアクションです。

このダイアログを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「Fixlet」、「タスク」、または「ベースライン」のいずれかのアイコンをクリックします。結果として表示されるリスト・パネル内の項目を右クリックし、コンテキスト・メニューから適切な「作成」オプションを選択します。

あるいは、「ツール」メニューから「作成」項目を選択します。

## 「Fixlet メッセージの編集 (Edit Fixlet Message)」

「Fixlet メッセージの編集 (Edit Fixlet Message)」ダイアログでは、独自のカスタム Fixlet メッセージを作成できます。Fixlet メッセージを最初から作成したり、既存の Fixlet メッセージを複製してカスタマイズしたりすることができます。オリジナルの Fixlet を作成するには、「ツール」>「Fixlet の新規作成」を選択します。以下の 3 つのテキスト・ボックスを上部に持つダイアログが表示されます。

- 「名前」：カスタム Fixlet メッセージの名前を入力します。
- 「作成先のサイト」：プルダウン・メニューから、ホスト先の BigFix サイトを選択します。
- 「作成先のドメイン」：プルダウン・メニューから、このタスクをホストするドメインを選択します。

これらのデータ・フィールドの下に、以下の 4 つのタブがあります。

- 「説明」：適用する Fixlet について、ユーザーに分かりやすいタイトルおよび説明を作成します。既存の Fixlet を複製する場合、デフォルトは元のタイトルと説明です。これは HTML ページであり、上部のツールバーを使用してフォントとフォーマットを変更できます。
- 「アクション」：カスタム Fixlet が実行するアクションを指定します。
- 「関連度」：選択するコンピューターのサブセットをこの Fixlet の対象にするための関連句を作成します。複製された Fixlet の場合、デフォルトは元の関連句です。この関連句を、ご使用のネットワークの要件に合わせて置き換えまたは変更することができます。

- 「**プロパティ**」: Fixlet の特定のプロパティ (「**カテゴリー**」、「**ダウンロード・サイズ**」、「**ソース**」、「**重要度**」、「**日付**」など) を指定します。

新しい Fixlet メッセージを最初から作成するには、以下を選択します。

- 「**ツール**」 > 「**Fixlet の新規作成**」

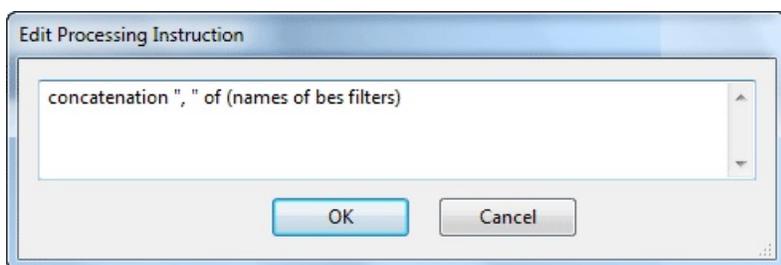
既存の Fixlet メッセージを任意の Fixlet のリストから選択して、以下を選択することで、既存の Fixlet メッセージをカスタマイズすることもできます。

- 「**編集**」 > 「**カスタム・コピーの作成**」

あるいは、Fixlet リスト内で右クリックして、ポップアップ・メニューから「**カスタム・コピーの作成**」または「**Fixlet メッセージの新規作成 (Create New Fixlet Message)**」を選択します。

## 処理命令の編集

「**処理命令の編集**」ダイアログでは、Fixlet、タスク、分析、またはベースラインのテキスト部分に組み込み可能な関連式を作成できます。



この式はテキスト、HTML、またはプレゼンテーション (XML) スタイルとして入力できます。

このダイアログは、新規またはカスタムの Fixlet、タスク、ベースライン、または分析を作成する場合に表示されます。「説明」タグでテキストを入力した後、上部のツールバーにあるマジック・ワンドをクリックします。これで、「**処理命令の編集**」ダイアログが開きます。

## プロパティの編集タブ

「作成」 / 「編集」 ダイアログの「プロパティ」タブでは、新規またはカスタマイズ済みの Fixlet、タスク、またはベースラインの各オブジェクトに特定の重要プロパティを割り当てることができます。

指定可能な各種プロパティの記述に使用できる一連のテキスト・フィールドがあります。

- 「**カテゴリー**」：Fixlet、タスク、ベースラインの各オブジェクトをファイリングするためのカテゴリーは、「設定」、「更新」、「サポート」などの標準的なものを含め、数多く用意されています。必要に応じて、特定のインストール済み環境用に新しい設定を作成することもできます。
- 「**ダウンロード・サイズ**」：ダウンロードが Fixlet、タスク、またはベースラインに関連付けられている場合、ここにサイズを入力できます。これにより、さまざまなカスタム設計オブジェクトをソートおよびフィルタリングでき、それらの帯域幅所要量をトラッキングできます。
- 「**ソース**」：これは、Fixlet、タスク、またはベースラインのソースです。カスタム・オブジェクトの場合、これは一般的に、BigFixの管理者が選択する名前（通常は「**内部**」）です。
- 「**ソース ID**」：これは、上記で説明したソースに関連付けられた ID です。ソースが「内部」の場合、通常この ID は空白です。

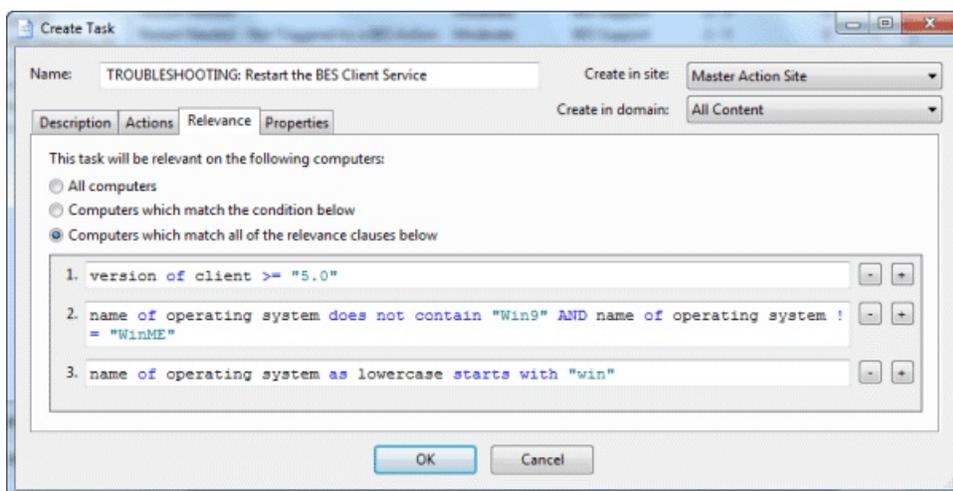
- 「ソース公開日」：この Fixlet、タスク、またはベースラインの公開日を入力して、これらのオブジェクトを経過時間によって管理できるようにします。
- 「ソースの重大度」：Fixlet、タスク、またはベースラインの重要度を、通常は、「低」、「中」、「重要」、および「きわめて重要」を含むリストから選択して入力します。
- 「CVE ID」：Common Vulnerabilities and Exposures 標準の ID (ある場合) を入力します。
- 「SANS ID」：System Administration, Networking, and Security 標準の ID (ある場合) を入力します。

このダイアログを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「Fixlet」、「タスク」、または「ベースライン」のいずれかのアイコンをクリックします。結果として表示されるリスト・パネル内の項目を右クリックし、コンテキスト・メニューから「カスタム・コピーの作成」を選択します。

あるいは、「ツール」メニューから「作成」項目を選択します。

## 「関連句の編集」タブ

「作成」/「編集」ダイアログの「関連度」タブでは、カスタムの Fixlet、タスク、分析、またはベースラインの各オブジェクトの適用を細かく調整する関連式を作成できます。



コンピューター・セットを指定する方法は複数あります。

- 「**すべてのコンピューター**」: デフォルトでは、関連度に関係なく、この特定の Fixlet、タスク、分析、ベースラインのすべてのネットワークにある BigFix クライアントが含まれます。
- 「**以下の条件 [いずれか/すべて] に一致するコンピューター (Computers that match [any/all] the condition below)**」: このオプションでは、コンピューターが Fixlet、タスク、分析、またはベースラインをトリガーする前に true と評価される必要のある条件を指定できます。

複数の条件がある場合、このオプションにプルダウン・メニューが組み込まれ、「**いずれか**」(条件を OR 指定) または「**すべて**」(条件を AND 指定) を選択できます。各条件の定義には、以下の 3 つのフィールドが使用されます。

- 「**取得プロパティ**」: 事前定義済みの取得プロパティを多数含むプルダウン・リストからプロパティを選択します。リストの先頭に 2 つの別のオプションがあります。
  - リストの先頭から「**関連式**」を選択し、関係のプルダウン・リストから「**「true」である**」または「**「false」である**」を選択した後、「**関連度の編集**」ボタンをクリックして、グループが基本とするカスタムの関連式を定義します。
  - プロパティ・リストから「**グループ・メンバーシップ**」を選択し、メンバーシップ・オプションを選択した後、右側にあるプルダウン・リストから手動グループを選択します。
- 「**関係**」: 選択可能な 4 つの比較演算子「含む」、「等しい」、「含まない」、および「等しくない」特定の取得プロパティによっては、他の関連が選択可能な場合があります。

- **「値」** : 取得プロパティの値と比較する値を入力します。比較で true となった場合、ベースラインは指定されたコンピューターで関連状態になります。例えば、Windows コンピューターを自動的に登録するグループを作成するには、「OS」「含む」「Win」と入力します。

条件のリストの編集で使用するボタンには以下の2つがあります。

- **正符号 (+)**: このボタンをクリックすると、新しい条件がリストに追加されます。複数の条件がある場合、上部のラジオ・ボタンには、リストのいずれかまたはすべての条件をトリガーすることを可能にするプルダウン・メニューが含まれます。
- **負符号 (-)**: このボタンをクリックすると、それに関連付けられている条件が削除されます。

- **「以下の関連句が「true」であるコンピューター (Computers on which therelevance clause below is true)」** : このボタンをクリックして各BigFixクライアントで評価されるカスタム関連式を入力します。

関連式が true と評価された場合、Fixlet、タスク、またはベースラインはその特定のクライアントに関連するようになり、コンソールはその状況を反映します。複数の関連文がある場合にタスクまたは Fixlet が関連状態になるには、それらの文がすべて TRUE になる (AND でつながれる) 必要があります。

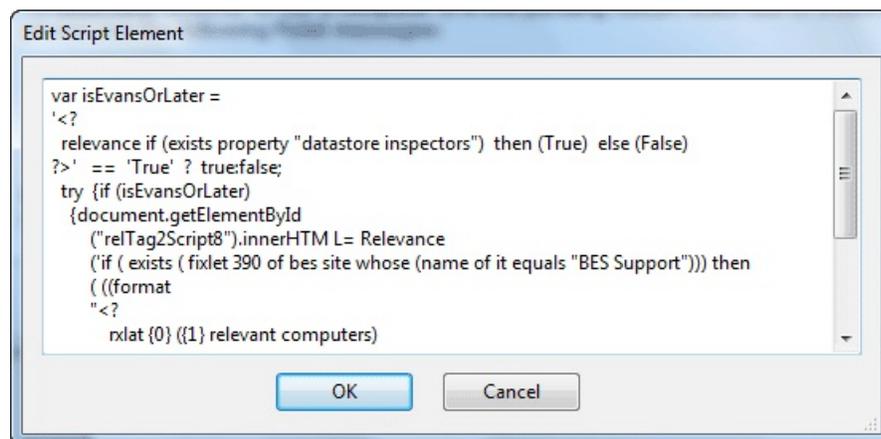
関連式の詳しい説明は本書の対象外です。詳しくは、「**Relevance Language リファレンス**」および各種「**Inspector Guide**」を参照してください。役立つ例として、使用可能な Support Fixlet のカスタム・コピーを作成し、その関連文を調べてください。

このダイアログを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「Fixlet」、「タスク」、「分析」または「ベースライン」のいずれかのアイコンをクリックします。結果として表示されるリスト・パネル内の項目を右クリックし、コンテキスト・メニューから「**カスタム・コピーの作成**」を選択します。

あるいは、「**ツール**」メニューから「**作成**」項目を選択します。

## スクリプト・エレメントの編集

「スクリプト・エレメントの編集」ダイアログでは、新規またはカスタムの Fixlet、タスク、ベースライン、または分析に付随する小さなスクリプトを作成できます。



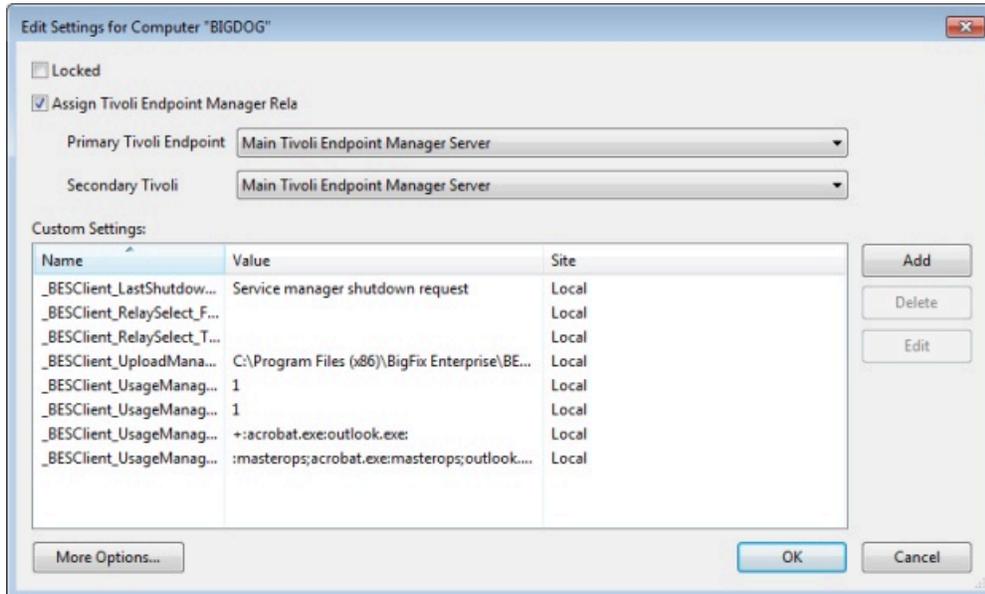
アクションのテキストを入力し、「**OK**」をクリックします。アクション・スクリプトについて詳しくは、「**Action Language Reference**」を参照してください。

このダイアログは、新規またはカスタムの Fixlet、タスク、ベースライン、または分析を作成する場合に表示されます。「説明」タグでテキストを入力した後、上部のツールバーから「**スクリプト**」アイコン  を挿入します。これで「**スクリプト・エレメントの編集**」ダイアログが開きます。

## コンピューターの設定の編集

「**コンピューターの設定の編集**」ダイアログでは、BigFixコンソールのオペレーターが、選択されたコンピューターの設定を変更できます。(その他の設定について、または複数の

コンピューターに設定を適用する場合は、「**コンピューター設定の編集**」を参照してください。)



コンピューターの設定をカスタマイズする方法は複数あります。

- **「ロック状態」**。このボックスにチェック・マークを付けると、コンピューターがロックされます。
- **「リレーを手動で割り当て」**リレーを自動的に割り当てることができます。自動ディスカバリーを選択するには、このボックスをクリアします (推奨設定)。この BigFix クライアント用に特定のリレーを手動で指定する場合は、このボックスにチェック・マークを付け、下のプルダウン・メニューから目的のリレーを選択します。
  - **「プライマリー・リレー・サーバー (Primary Relay Server)」** : プルダウン・メニューからプライマリー・リレーの名前を選択します。選択されたコンピューターは、BigFix サーバーに直接接続される代わりに、Fixlet ダウンロード用のこのリレーを指すようになります。
  - **「セカンダリー・リレー・サーバー (Secondary Relay Server)」** : プルダウン・メニューからセカンダリー・リレーの名前を選択します。プライマリー・リレーが使用可能でない場合、このセカンダリー・リレーが Fixlet ダウンロードを提供する役割を引き継ぎます。

「**カスタム設定**」：このリスト・ボックスには、各コンピューターに割り当て可能なカスタムの名前付き変数が含まれています。これは、コンピューターのネットワークを編成する場合に有用な手法であり、グループだけでなく個々のコンピューターの識別にも役立ちます。このボックスの設定のリストは、該当する見出しをクリックすることでソートできます。

- 「**名前**」：この列には、割り当てられているカスタム変数名 (「dept」など) が示されます。
- 「**値**」：この列には、名前付き変数の値 (「human resources」など) がリストされます。
- 「**サイト**」：これらの名前付き変数はコンソール・オペレーターによって適用されるため、「ローカル」サイトに含まれます。これらの変数は他の Fixlet サイトによって設定される可能性もあります。その場合、そのサイト名がここに示されます。

 **注**: 設定値 `_Enterprise_Server_ClientRegister_ProxyPass` および (Linux の場合のみ) `_BESServer_Database_Password` を使用してパスワードに割り当てられた値は、「OK」ボタンをクリックした直後に暗号化 (サーバーが Windows システムの場合) または難読化 (サーバーが Linux システムの場合) されます。

リストの右側に以下の 3 つのボタンがあります。

- 「**追加**」：このボタンをクリックすると、新しいカスタム変数がリストに追加されます。
- 「**削除**」：このボタンをクリックすると、選択した変数がリストから削除されます。
- 「**編集**」：選択した名前付き変数を編集するには、このボタンをクリックします。これにより、選択した設定の「値」フィールドにカーソルが置かれ、編集が可能になります。

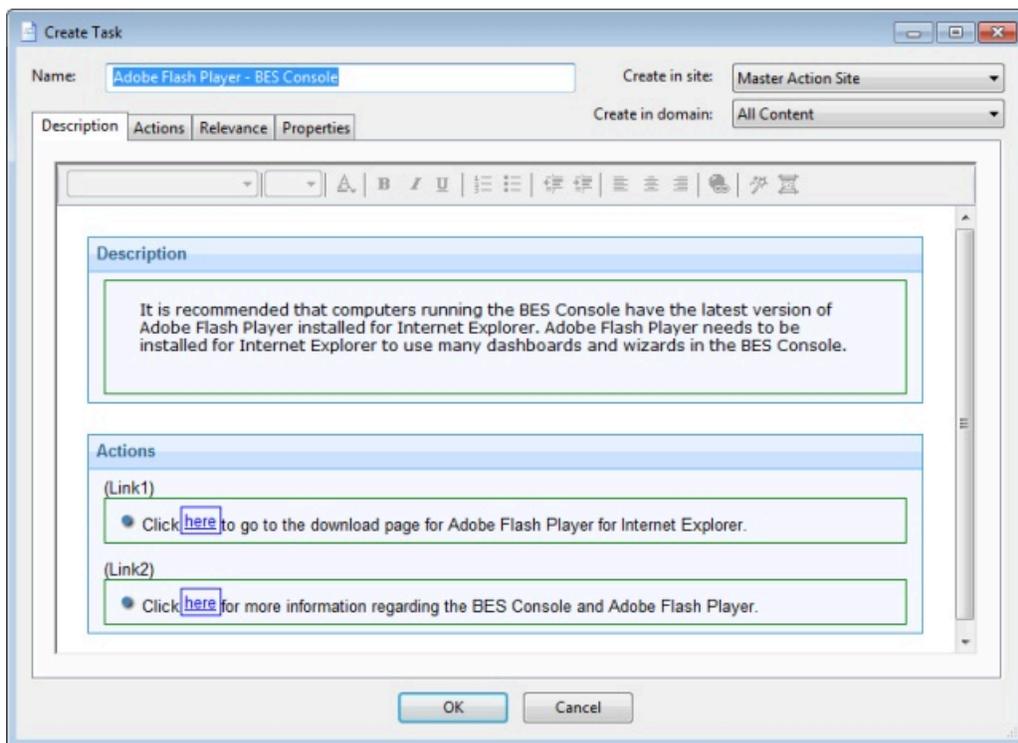
最後に、ダイアログの下部に「**その他のオプション**」ボタンがあります。このボタンによって上記の機能の詳細が表示され、「**コンピューター設定の編集**」ダイアログが開きます。

このダイアログを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**コンピューター**」アイコンを選択し、それによって表示されるリスト・パネルで 1 つのコ

ンピューターを右クリックし、ポップアップ・メニューから「**コンピューター設定の編集**」を選択します。

## タスクの編集

「**タスクの編集**」 / 「**タスクの作成**」ダイアログでは、タスクを最初から作成することも、既存のタスクを複製してカスタマイズすることもできます。



オリジナル・タスクを作成するには、「**ツール**」 > 「**タスクの新規作成**」を選択します。いくつかのテキスト・ボックスが上部にあるダイアログが表示されます。

- 「**名前**」：カスタム・タスクの名前を入力します。
- 「**作成先のサイト**」：プルダウン・メニューから、このタスクをホストさせるサイトを選択します。
- 「**作成先のドメイン**」：プルダウン・メニューから、このタスクをホストするドメインを選択します。

これらのデータ・フィールドの下に、以下の4つのタブがあります。

- **「説明」** : 適用するタスクについて、ユーザーに分かりやすいタイトルおよび説明を作成します。既存のタスクを複製する場合、オリジナルのタイトルと説明がデフォルトになります。これは HTML ページであり、上部のツールバーを使用してフォントとフォーマットを変更できます。
- **「アクション」** : 実行するカスタム・タスクのアクションを指定します。
- **「関連度」** : このタスクの対象を、あるコンピューター・サブセットとするための関連句を作成します。複製したタスクの場合、オリジナルの関連句がデフォルトになります。この関連句を、ご使用のネットワークの要件に合わせて置き換えまたは変更することができます。
- **「プロパティ」** : タスクの特定のプロパティ (カテゴリー、ダウンロード・サイズ、ソース、重要度、日付など) を指定します。

新規タスクを最初から作成するには、以下を選択します。

- **「ツール」 > 「タスクの新規作成」**

任意のタスク・リストから既存のタスクを選択してカスタマイズすることもできます。その場合は、以下を選択します。

- **「編集」 > 「カスタム・コピーの作成」**

あるいは、タスク・リストで右クリックし、ポップアップ・メニューから **「カスタム・コピーの作成」** または **「タスクの新規作成」** を選択します。

## 秘密鍵の入力

**「秘密鍵の入力」** ダイアログでは、パスワードが要求されます。



サイト管理者から付与された発行者パスワードを入力します。認証されたユーザーのみがネットワーク内のコンピューターの更新を許可されるようにするため、アクションが適用されるときは必ずこのダイアログが表示されます。

## 「実行」タブ

「実行」タブは、さまざまなアクションのダイアログに表示されます。このタブで、アクションの適用時に満たされている必要がある、スケジュール、時間間隔、およびリカバリー・オプションを設定できます。

このタブの設定を使用して、ネットワークにおけるトラフィックの負荷を緩和します。

The screenshot shows the 'Take Action' dialog box with the 'Execution' tab selected. The 'Name' field contains 'Install BES Server Plugin Service' and 'Create in domain' is set to 'All Content'. The 'Preset' is 'Default'. The 'Constraints' section has the following settings: 'Starts on' is 08/07/2013 at 21:58:28; 'Ends on' is checked and set to 10/07/2013 at 21:58:28; 'Run between' is 1:00:00 and 2:59:00; 'Run only on' is set to Sun, Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat; 'Run only when' is set to Active Directory Path matches. The 'Behavior' section has the following settings: 'On failure, retry' is 3 times with a 1 hour wait; 'Reapply this action' is checked with 'whenever it becomes relevant again' selected, 15 minutes between reapplications, and limited to 3 reapplications; 'Start client downloads before constraints are satisfied' is unchecked; 'Stagger action start times over' is 5 minutes.

このタブは、以下のような、いくつかの異なるダイアログから使用できます。

- [アクションの実行 \(##### 301\)](#)

- [マルチアクションの実行 \(##### 305\)](#)
- [アクション設定 \(##### 172\)](#)
- [「コンピューター設定の編集」 \(##### 244\)](#)

このダイアログの「制約」セクションで、アクションをスケジュールし、対象のコンピューターを制限できます。具体的には以下のようにします。

#### 開始日 [日付] [時刻]

アクションを最初に行える日時を定義します。プルダウン・メニューから、クライアントのローカル時間または世界時を選択できます。ここでいう選択は、すべてのスケジュールの制限に影響します。バージョン 8.0 以降では UTC のみが使用可能であるので注意してください。

#### 終了日 [日付] [時刻]

アクションの有効期限の日時を定義します。

#### 実行期間 [時刻] [時刻]

アクションを実行できる期間を定義します。

 **注:** 保留中のアクションは、期間が切れた場合でも実行されます。例えば、ベースラインは指定された時間制限に従って開始され、そこに含まれるすべてのアクションは、アクションを実行できる指定した期間とは別に実行される可能性があります。

 **注:** 保留中のダウンロード・アクションは、期間が切れた場合でも実行されます。

#### 指定の曜日のみ実行 [日, 月, 火, 水, 木, 金, 土]

アクションを実行する特定の曜日を定義します。

#### 指定の場合のみ実行 [プロパティ] [演算子] [値]

これにより、取得プロパティによってクライアントがフィルタリングされます。プルダウン・メニューから「プロパティ」と「演算子」を選択した後、比較のための値を選択します。入力する値は、有効な関連式を形成する必要があります。

このダイアログの「ビヘイビア」セクションでは、失敗したアクションおよび繰り返される Relevance を管理できます。BigFixクライアントは、失敗したすべてのアクションを**再試行**し、成功した後に失敗したすべてのアクションを**再適用**できます。この機能により、ネットワークの負荷とオペレーター介入を最小限に抑えながら、継続的なポリシーを自動的に実装することができます。以下のような動作を設定することができます。

### 失敗時の再試行回数 XX 回

アクションが失敗した際の最大試行回数を設定します。デフォルト値は再試行 3 回です。このチェック・ボックスを選択したら、以下の条件の中からいずれか 1 つを選択してください。

#### 次の再試行まで XX 待機する

クライアントは、XX の時間間隔の間待機してからアクションを再試行します。デフォルトの時間間隔は 1 時間です。

#### コンピューターが再起動するまで待機する

クライアントは、リブートを待機してからアクションを再実行します。

### このアクションを再適用する

ターゲットが Relevance 式によって設定されたポリシー・セットに準拠していない状態になっている場合、該当のアクションを再度適用します。このチェック・ボックスを選択したら、以下の条件の中からいずれか 1 つを選択してください。

#### 再び該当する状態になった場合は常に

Relevance 式が再度 true に評価されたときにすぐ、アクションを再適用します。

#### 再適用後も関連状態が続く場合、次の再適用まで XX 待機する

関連状態になってすぐにアクションを再適用するのではなく、再適用の試行の間に一定の期間待機することを指定します。

#### 回数制限 XX 回に制限する

関連状態が続く間に、指定された最大回数、アクションの適用を続けます。デフォルト値は 3 回です。カウントは最初の試行の # から開始されるため、制限が 3 の場合、実際の試行回数は 4 回になります。

### 制約を満たす前にクライアントのダウンロードを開始する

クライアントが実行の制約を満たす前に、ソフトウェアのダウンロードが開始されます。希望の時間フレームが開始されたらすぐにダウンロードを実行できるようにする場合は、このオプションを選択してください。

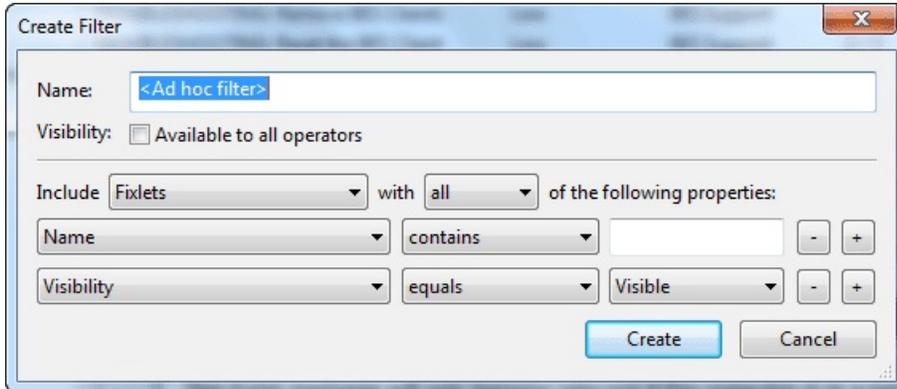
### アクションの開始時刻を分散 MM 分以上間隔を置いて実行する

プログラムに対して、アクションの実行間隔を空けることを強制します。このオプションにより、大きな帯域幅を使用するアクションを実行する場合に、ネットワークの負荷を軽減できます。また、このオプションは、接続された数百のクライアントをリレーが効率的に処理するためにも役立ちます。

 **注:** このオプションでは、アクションが実行されるまでの待機中にクライアントが別のリレーを選択した場合、アクションの開始に追加の遅延を設定し、設定された遅延時間を増やすことができます。

## 検索

どのリスト (Fixlet、タスク、アクションなど) でも、フォーカスすれば情報を検索できます。これを行うには、検索フィルターを作成します。例えば、Fixlet のリストで特定の語を検索するには、Fixlet のリスト・パネル内で任意の場所をクリックし、**Ctrl-F** を押します (または「編集」メニューで「検索」を選択します)。



フィルター用のダイアログにはいくつかのセクションがあります。

**名前:** 「名前」ボックスに検索フィルターの名前を入力します。

**「表示設定」:** このボックスでは、フィルターを自分専用として保持するか、他のユーザーと共有するかを選択できます。

**「次のものを含める」:** このセクションでは、検索の範囲を定義できます。Fixlet、アクション、タスクなど、コンテンツのメイン・カテゴリーのうち、任意のものを選択します。以下の項目の**「すべて」**（プロパティを AND 指定）または**「いずれか」**（プロパティを OR 指定）を含めることを選択できます。

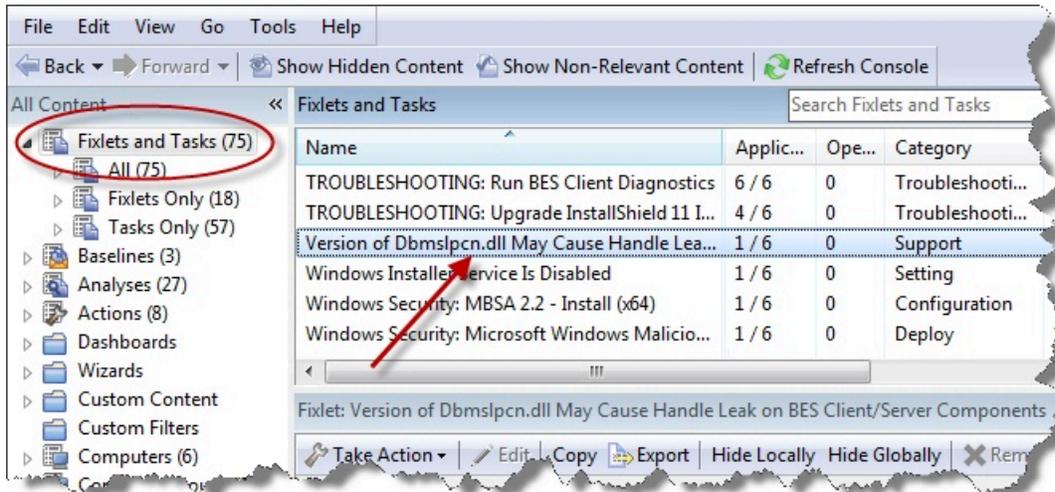
2つのプロパティが事前に用意されていますが、これらのデフォルト選択項目に対して追加や削除が可能です。そのほかのプロパティと同様、**{field} {operator} {search string}**の3つの値を使用して定義します。ここでは、デフォルトによって、値を含む**「名前」**と**「表示設定」**を選択できます。Fixlet、タスク、および分析は非表示になっている可能性があるため、「表示設定」フィールドでは、これらの項目が**「表示」**、**「ローカルで非表示」**、または**「全体で非表示」**のいずれであるかに応じて、これらを検索できます。

検索フィルターの定義を完了したら、**「作成」** ボタンをクリックします。カスタム・フィルターは、**「カスタム・フィルター」** フォルダーの下の**「すべてのコンテンツ」** ドメインに置かれます。変更を行うには、フィルターを右クリックし、コンテキスト・メニューから**「編集」** を選択します。

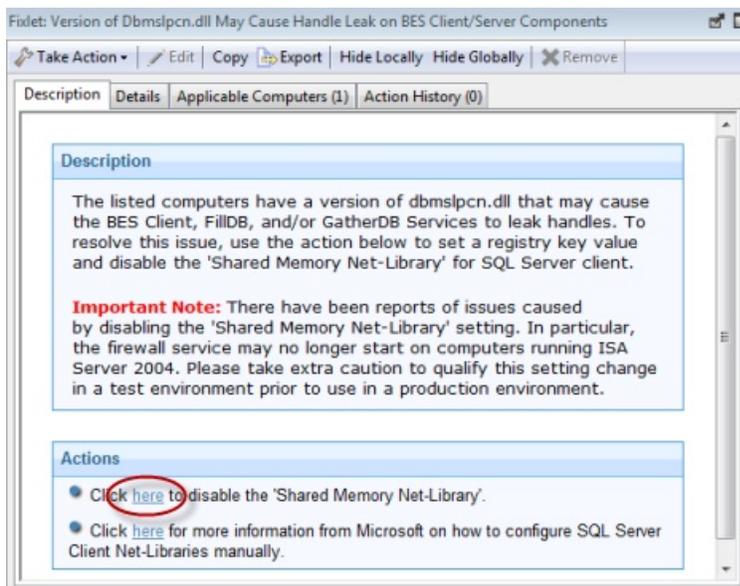
このダイアログを表示するには、メイン・コンテンツ・カテゴリー (Fixlet メッセージ、タスク、アクションなど) の1つ、すなわちドメイン・パネルのナビゲーション・ツリー内のアイコンを選択してフォーカスし、**Ctrl-F** を押すか、または**「編集」** メニューで**「検索」** を選択します。

## Fixlet とタスク: リストおよび文書

ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「Fixlet とタスク」をクリックすると、リストが作成されます。



このリストには Fixlet とタスクの両方が取り込まれており、上記のアイコンを開いて、その下のいずれかの下位ノードをクリックすると、リストをフィルタリングできます。右側のリスト・パネルには、フィルターによって絞り込まれた、現在関連する Fixlet とタスクがすべて含まれています。Fixlet またはタスクの文書は、リスト内の任意の項目をクリックするとコンソールの作業域に表示されます。文書には、説明と、さらに通常は、アクションを適用するための 1 組のリンクが表示されます。



Fixlet とタスクは類似のオブジェクトであるため、基本ツールとタブは同じものが使用できます。この 2 つの主な相違点は、Fixlet がせい弱性によってトリガーされ、それに対し、タスクは進行中のメンテナンス用に設計されていることです。これらは両方とも、関連句を使用してクライアント・コンピューターを適用対象とし、アクション・スクリプトを使用して目標を達成します。ナビゲーション・ツリーの「**すべてのタスク**」または「**すべての Fixlet**」ノードをクリックすると、それぞれ別個のリストを取得できます。

各文書の上部には、Fixlet またはタスクの名前が表示されます。その下には、以下のツールを含むツールバーがあります。

- 「**アクションの実行**」：このツールはアクションのプルダウン・メニューを表示します。メニューからアクションを選択して、ネットワークに適用します。
- 「**編集**」：Fixlet またはタスクを編集できます。このツールは、カスタム Fixlet またはカスタム・タスクの場合にのみ使用できます。
- 「**コピー**」：Fixlet またはタスクをコピーまたは複製して、その実行内容をカスタマイズできます。
- 「**エクスポート**」：Fixlet またはタスクをエクスポートして、外部エディターで編集するか、別のコンソールまたはデプロイメントにコピーできるようにします。
- 「**ローカルで非表示**」：このバージョンのコンソールで Fixlet またはタスクを非表示にします。
- 「**全体で非表示**」：ネットワーク接続されているすべてのコンソールで Fixlet またはタスクを非表示にします。
- 「**削除**」：この Fixlet またはタスクを削除します (カスタム Fixlet またはカスタム・タスクの場合にのみ使用可能)。

この文書にはいくつかのタブがあります。それらは以下のとおりです。

- 「**説明**」：Fixlet またはタスクについて説明し、示されている問題に対処する 1 組のアクション (リンクとして実装) を示す HTML ページ。Ctrl-F を押してから検索文字列を入力すると、コンソール内の任意の HTML インターフェースを検索できます。
- 「**詳細**」：Fixlet またはタスクに関連付けられたプロパティ、関連句、およびアクション・スクリプトを記述する HTML ページ。ページの下部には、メッセージに付加するコメントを入力するテキスト・ボックスがあります。

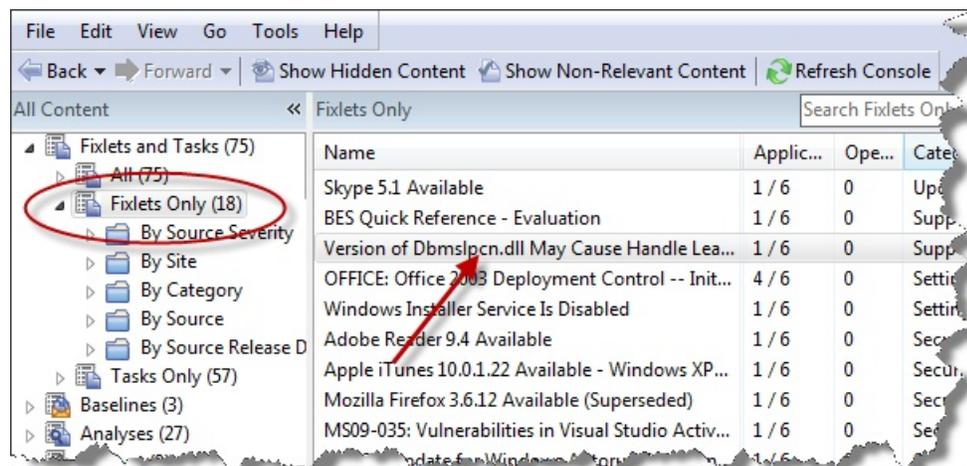
- 「**適用可能なコンピューター**」：アクションの対象となるコンピューターのサブセットを示します。
- 「**アクション履歴**」：この Fixlet またはタスクによって起動されたアクションの履歴を示します。

Fixlet またはタスクのリストを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**Fixlet とタスク**」アイコンをクリックします。

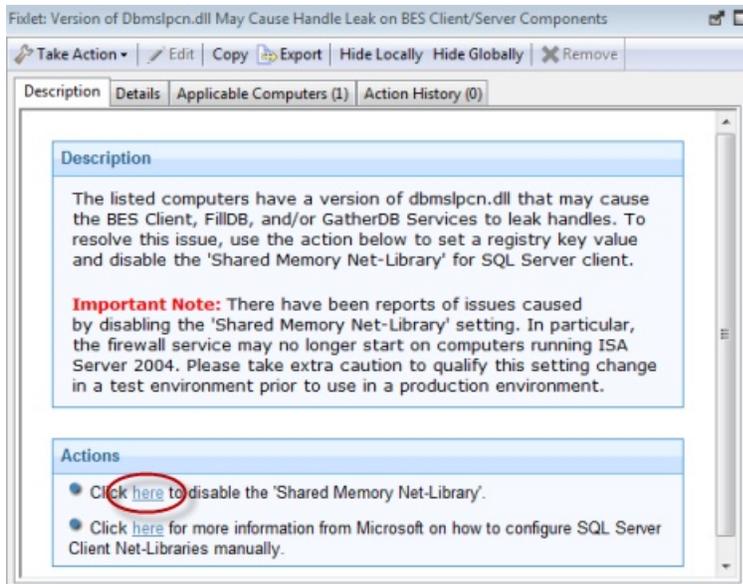
上記の操作で表示されたリスト内の項目を開くと、**Fixlet** または**タスク文書**が開きます。

## Fixlet のリストおよび文書

ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**Fixlet とタスク**」をクリックすると、リストが作成されます。このリストには Fixlet とタスクの両方が取り込まれており、「Fixlet とタスク」アイコンを開いて、その下の「**すべての Fixlet メッセージ**」をクリックすると、リストをフィルタリングできます。



右側のリスト・パネルには、現在関連する Fixlet がすべて含まれるようになっています。**Fixlet 文書**は、リスト内の任意のメッセージをクリックするとコンソールの作業域に表示されます。その文書には、説明とともに、クリック可能なリンクで呼び出されるアクションも含まれています。



Fixlet 文書の上部には、Fixlet の名前が表示されます。その下には、以下のツールを含むツールバーがあります。

- 「**アクションの実行**」：このツールは、Fixlet のデフォルト・アクションを実行します。
- 「**編集**」：このオプションでは Fixlet を編集できます。このツールは、ユーザー自身が作成したカスタム Fixlet にのみ使用できます。
- 「**コピー**」：このオプションでは、Fixlet をコピーまたは複製して、その実行内容をカスタマイズできます。
- 「**エクスポート**」：このツールは、Fixlet をエクスポートして外部エディターで編集できるようにします。
- 「**ローカルで非表示**」：このバージョンのコンソールで Fixlet を非表示にします。
- 「**全体で非表示**」：すべてのコンソールで Fixlet を非表示にします。
- 「**削除**」：この Fixlet を削除します (カスタム Fixlet の場合にのみ使用可能)。

Fixlet 文書にはいくつかのタブがあります。それらは以下のとおりです。

- 「**説明**」：Fixlet について説明し、示されている問題に対処する 1 組のアクション (リンクとして実装) を示す HTML ページ。Ctrl-F を押してから検索文字列を入力すると、コンソール内の任意の HTML インターフェースを検索できます。

- 「**詳細**」: Fixlet に関連付けられたプロパティ、関連句、およびアクション・スクリプトを記述する HTML ページ。ページの下部には、Fixlet メッセージに付加するコメントを入力するテキスト・ボックスがあります。
- 「**適用可能なコンピューター**」: アクションの対象となるコンピューターのサブセットを示します。
- 「**アクション履歴**」: この Fixlet メッセージによって起動されたアクションの履歴を示します。

Fixlet のリストを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**Fixlet とタスク**」アイコンの下の「**Fixlet**」アイコンをクリックします。

Fixlet のリストにある項目を開くと必ず、**Fixlet 文書**が開きます。

## コンテンツのインポート

「**インポート**」ダイアログでは、ユーザー自身がエクスポートした .bes ファイル、または別のオペレーターによって送信された .bes ファイルをインポートすることができます。

BigFix ファイルには、Fixlet メッセージ、タスク、アクション、またはベースラインのグループが含まれている場合があります。それらのグループを開くと、各コンテンツ・タイプで想定される機能とともに作成用のダイアログが表示されます。詳しくは、選択したコンテンツに関連する作成用のダイアログを参照してください。

このダイアログを表示するには、「**ファイル**」メニューから「**インポート**」を選択します。

## Web レポートの起動

「**Web レポート**」ダイアログでは、ネットワーク情報にアクセスできます。この情報は BigFix サーバーから収集され、1 組の HTML レポートに集約されたものです。これらのレポートには、広範囲にわたるコンピューター・ネットワーク全体の Fixlet メッセージとアクションの履歴および状況の要約が含まれています。これらのレポートを使用すると、独立 LAN のグローバル・ネットワークにおけるソフトウェアのデプロイメントとコンプライ

アンスをトラッキングできます。はじめに、「ツール」 > 「Web レポートを起動」を選択します。

Web レポートは、本書で説明されていないスタンドアロン・プログラムです。詳しくは、「Web レポート・ガイド」を参照してください。

このダイアログは、以下を選択すると表示されます。

- 「ツール」 > 「Web レポートを起動」。

## メイン・コンソール・ウィンドウ

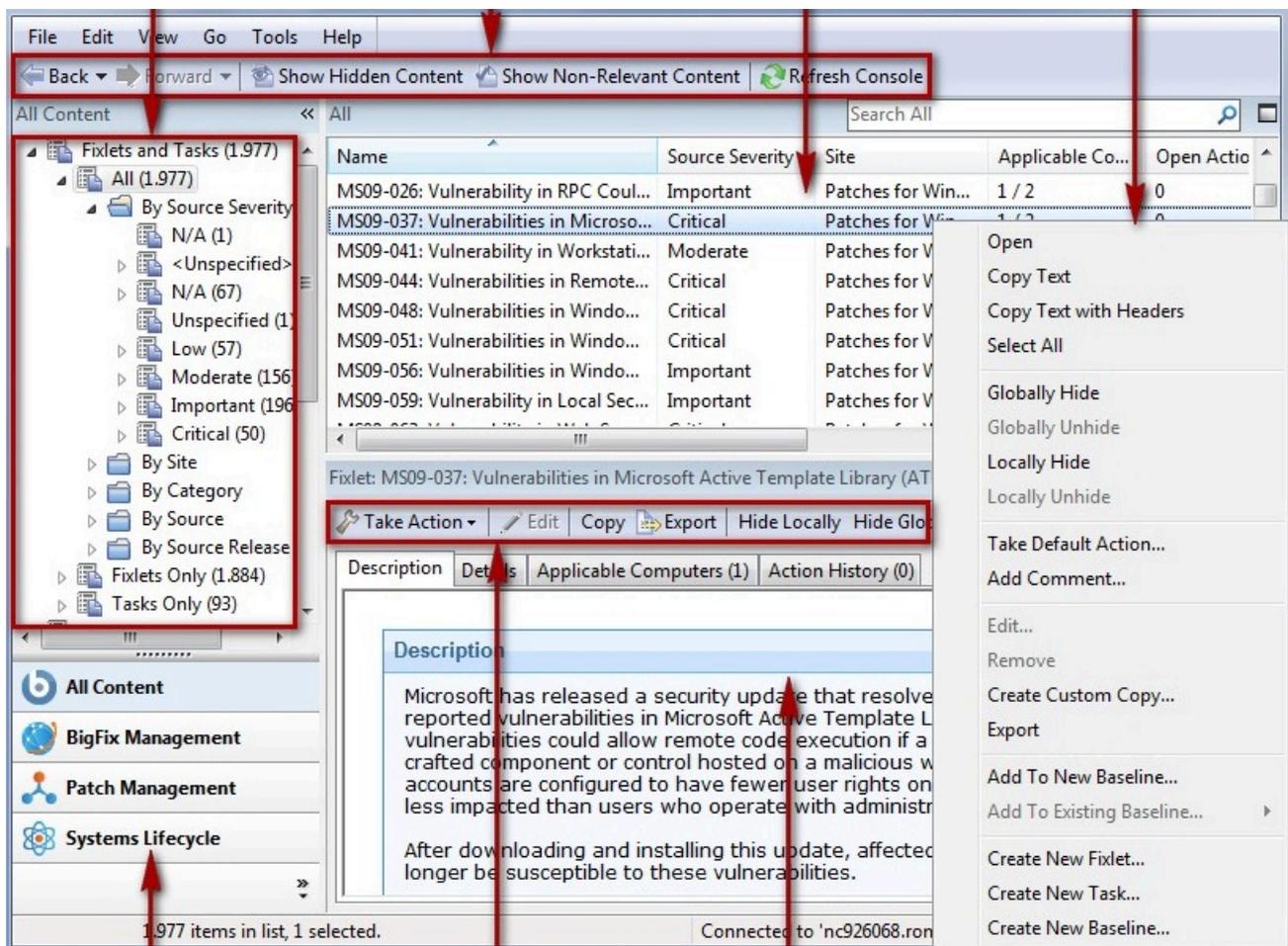
メイン・コンソール・ウィンドウの左側には、ボタンとナビゲーション・ツリーを含む、「ドメイン・パネル」というパネルがあります。ドメイン・パネルから項目を選択すると、それに関連するリスト・パネルが右側に開きます。このリストから、特定の項目を下の作業域に開くことができます。以下が主な部分です。

- **ドメイン・パネル:** このパネルは、コンテンツの概略を表示し、主要な IT 機能ごとに情報を素早く細分できます。各ドメイン内で、このパネルにナビゲーション・ツリーが表示され、これによって Fixlet メッセージ、レポート、分析などのコンテンツに簡単にズームインできます。
- **ドメイン・ボタン:** これらのボタンはドメイン・パネルの下部にあり、現在使用可能なドメイン・セットを表します。ユーザーがサイトをサブスクライブすると、自動的に正しいドメインに入ります。新規ドメインが必要な場合は、そのドメインのボタンをこのグループに追加します。ボタンの下部にあるコントロールを使用して、表示するボタンの数を調整することができます。
- **コンソール・ツールバー:** このツールバーは、ドメイン・ナビゲーション・ツリーから選択した項目の中で自在に行き来する場合に使用します。さらに、非表示にしている可能性のある項目、および現在どのクライアントにも関連していない項目を表示できるボタンもあります (これにより、使用可能なすべてのコンテンツを調査または複製の目的で表示することができます)。また、コンソール表示のコンテンツを再評価する最新表示ボタンもあります。
- **リスト・パネル:** これは、ドメイン・パネルのコンテンツ・フィルターおよびナビゲーション・ツリーによって指定された項目をリスト表示するものです。このリストは、

列ヘッダーをクリックしてソートしたり、ヘッダーを左または右にドラッグして再配置したりすることができます。また、ヘッダーを右クリックすると、選択可能なすべてのフィールドのリストが入ったポップアップ・メニューを表示することができます。ヘッダーとして使用するフィールドにチェック・マークを付けてください。

- **コンテキスト・メニュー:** リスト内の項目を右クリックしたときに開くメニューです。リストが異なると、コンテキスト・メニューも異なります。
- **作業域ツールバー:** このバーには、現行作業域の内容に基づいて各種のアクションを実行できる、コンテキストに依存したボタンがあります。
- **作業域:** 作業域は、リスト・パネルと作業域ツールバーの下にあります。リスト・パネルの項目をダブルクリックすると、コンソールのこのウィンドウに詳細な文書が開きます。

### ドメイン・パネル コンソール・ツールバー リスト・パネル コンテキスト・メニュー



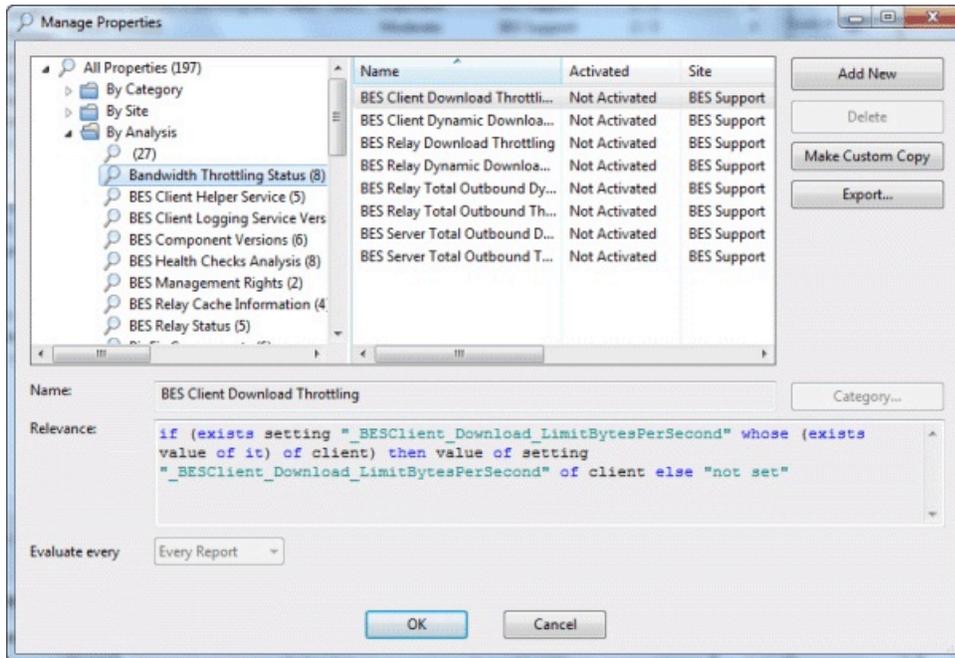
ドメイン・ボタン

作業域ツールバー

作業域

## プロパティの管理

「プロパティの管理」ダイアログには、各BigFixクライアントから一定のスケジュールで取得されるコンピューターのプロパティのリストが含まれています。



コンソール・オペレーターはこのダイアログを使用して、すべての管理対象クライアントの特定の側面をモニターできます。クライアント・コンピューターがリストされているときは、これらのプロパティがコンソールでのクライアント・フィルター（および列見出し）の基礎を形成することもできます。さらに、これらのプロパティを使用して、コンピューターを Fixlet メッセージまたはアクションの対象として指定することもできます。

上部パネルにはいくつかのプロパティがデフォルトとしてリストされていますが、マスター・オペレーターであれば、右側のボタンを使用して、ここにプロパティを追加（およびその他のプロパティを削除）することができます。

- **「新規追加」**：プロパティを追加するには、このボタンをクリックすると、ダイアログの下部が編集可能になります。名前（フィルタリングとソートに使用するもの）を指定し、下のテキスト・ボックスに関連式を入力します。
- **「削除」**：プロパティを削除するには、リストのそのプロパティを強調表示し、このボタンをクリックします。

- **「カスタム・コピーを作成」**：リスト内の任意のプロパティを選択し、このボタンをクリックすると、そのプロパティを複製してカスタマイズすることができます。
- **「エクスポート」**：プロパティを他のユーザーと共有するために XML (.bes) ファイルとしてエクスポートするには、このボタンをクリックして、エクスポート用のファイル名を指定します。

このパネルの下には 2 つのテキスト・フィールドがあります。ここには既存のプロパティ名と関連式が表示されます。予約済みのプロパティの場合、これらのフィールドは表示専用になっています。ただし、プロパティの多くは編集が可能です。

- **名**：プロパティの既存の名前が表示されます。新しいプロパティの名前を入力することもできます。この名前を使用できるようにすると、その名前はインターフェースに組み込まれ、フィルタリング、ソート、および対象指定に使用されます。このフィールドでは、プロパティの名前の変更も行えます。
- **「関連度」**：このテキスト・ボックスには、取得プロパティを生成するために評価される関連式が表示されます。

これらの各プロパティで、オプションの評価期間を設定します。

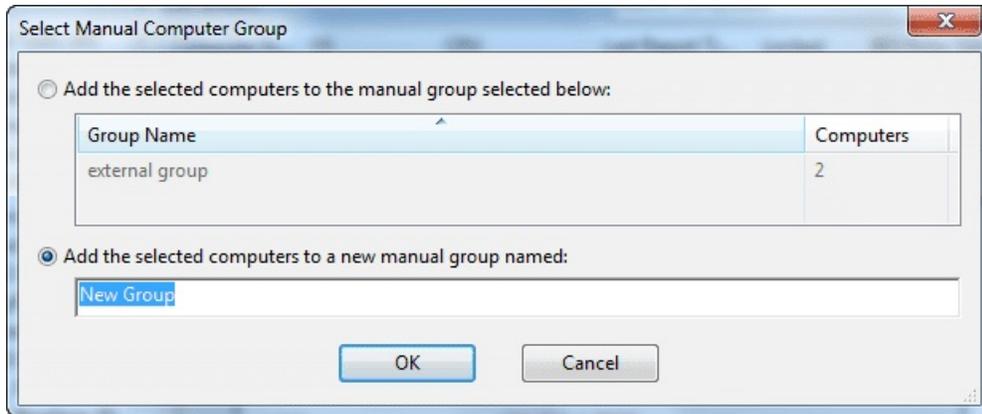
- **「評価頻度」**：プロパティの評価頻度を制御する期間を、5 分から 1 カ月までの範囲で選択します。評価に時間がかかるプロパティには長い期間を設定し、より緊急性の高いプロパティには短い期間を設定できます。デフォルトは **「レポートごと」** です。この場合、レポートごとにプロパティが再評価されます。

**注**：プロパティの中には、コンソールが正しく機能するために不可欠なものがあります (IP アドレスやリレーの状況など)。これらは **「予約済み」** のマークが付けられ、名前変更や削除はできません。

このダイアログを表示するには、**「ツール」** > **「プロパティの管理...」** を選択します。

## マニュアル・コンピューター・グループ

このダイアログでは、手動でコンピューターをグループ化し、それらを同時に対象として指定することができます。



グループ化するコンピューターを選択するには、「コンピューター」リスト・パネルから選択します。右クリックし、コンテキスト・メニューから「**マニュアル・グループに追加**」を選択します。開いたダイアログで、既存のグループにそれらのコンピューターを追加することも、新規グループを定義することもできます。この選択項目として2つのボタンがあります。

- 「**選択したコンピューターを、以下で選択したマニュアル・グループに追加**」: グループをクリックし、「OK」をクリックします。
- 「**選択したコンピューターを、次の新規マニュアル・グループに追加**」: 新しいグループ名を入力して、「OK」をクリックします。

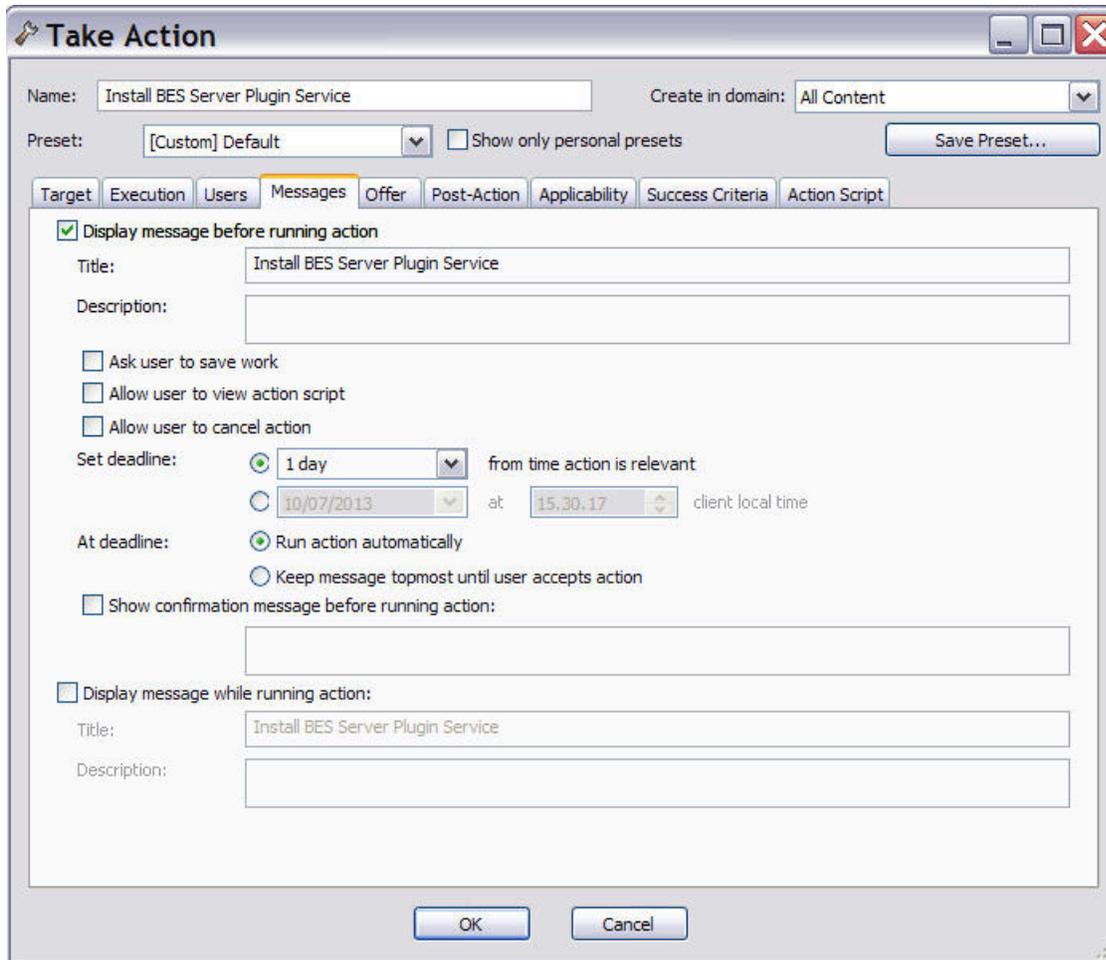
**注:** コンピューターは、複数のグループに属することができます。グループの状況を示すプロパティまたは関連文を使用することで、グループを自動的に定義することもできます。

このダイアログを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「コンピューター」アイコンをクリックし、「コンピューター」リスト・パネルからコンピューターを選択した後、右クリックして、コンテキスト・メニューから「**マニュアル・グループに追加**」を選択します。

## 「メッセージ」タブ

システムは通常、ユーザーの関与なしでアクションをバックグラウンドで適用します。

「メッセージ」タブでは、特定のメッセージによってユーザーにアラートを発行し、メッセージの表示上で特定の対話式機能 (提示されたアクションに関する詳細を表示する機能や、提示されたアクションを取り消す機能など) を提供することが選択できます。



このタブは、以下のような、いくつかの異なるダイアログから使用できます。

- [アクションの実行 \(##### 301\)](#)
- [マルチアクションの実行 \(##### 305\)](#)
- [アクション設定 \(##### 172\)](#)
- [「コンピューター設定の編集」 \(##### 244\)](#)

アクションの実行前、アクションの実行中、またはその両方のタイミングで、ユーザーに対してメッセージを表示することを選択できます。デフォルトではメッセージは表示され

ません。「**アクション実行前にメッセージを表示**」をクリックすると、メッセージのタイトルおよびテキストに加えて、以下の動作を指定できます。

### 作業を保存するかどうかをユーザーに問い合わせる

アクションを起動する前に作業を保存するかどうかをユーザーに問い合わせるプロンプトを含めます。

### ユーザーにアクション・スクリプトの参照を許可する

ユーザーがアクションに同意する前にスクリプトを確認できるようにします。

 **注:** このオプションは、「マルチアクションの実行」ダイアログでは使用できません。

### ユーザーにアクションの取り消しを許可する

ユーザーにアクションを取り消す権限を付与します。

### 期限の設定

アクションが関連状態になった後のユーザーに対する猶予期間を延長します。例えば、この機能はユーザーがアップグレードの準備をできるようにする場合に役立ちます。選択:

#### ##アクションが関連状態になってからの時間

アクションが関連状態になってからの、指定された猶予期間をユーザーに付与します。

#### ####クライアントのローカル時間

「**実行**」タブに指定された時間帯 (クライアントのローカル時間帯、世界標準時の時間帯のどちらでも可) を使用して、期限を特定の日時に設定します。

### 期限が来たら

期限になったときに、「**アクションを自動的に実行**」するか、またはユーザーがクリックしてアクションを受け入れるまでメッセージを最上位に表示

するように「ユーザーがアクションに同意するまでメッセージを最上位に表示」するかを選択できます。

### アクション実行前に確認メッセージを表示

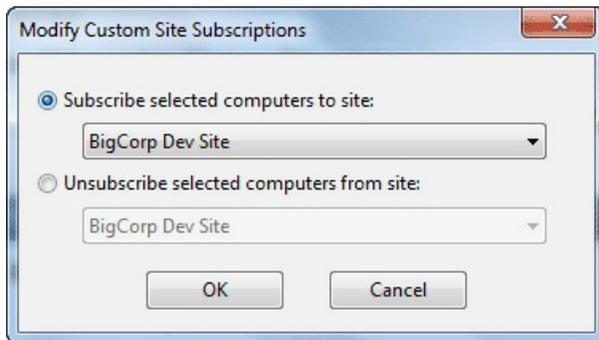
アクションを実行する前に、ユーザーに最終確認メッセージを表示します。

## クライアント・コンピューター上

クライアント・コンピューター上のエンド・ユーザー向け表示事項の詳細は「クライアント UI の主要な操作 ( (ページ) )」を参照してください。

## カスタム・サイト・サブスクリプションの変更

「カスタム・サイト・サブスクリプションの変更」ダイアログでは、任意のアドホック対応カスタム・サイトに対して、指定したコンピューター・グループのサブスクライブまたはサブスクライブ取り消しを行うことができます。



このタイプのアドホック・サブスクリプション用にカスタム・サイトを準備するには、最初にカスタム・サイトを開き、「コンピューターのサブスクリプション」タブを選択して、「アドホック・カスタム・サイトのサブスクリプション・アクションを介してサブスクライブするコンピューター」というボタンをクリックします。必ずツールバーを使用して「変更を保存」してください。

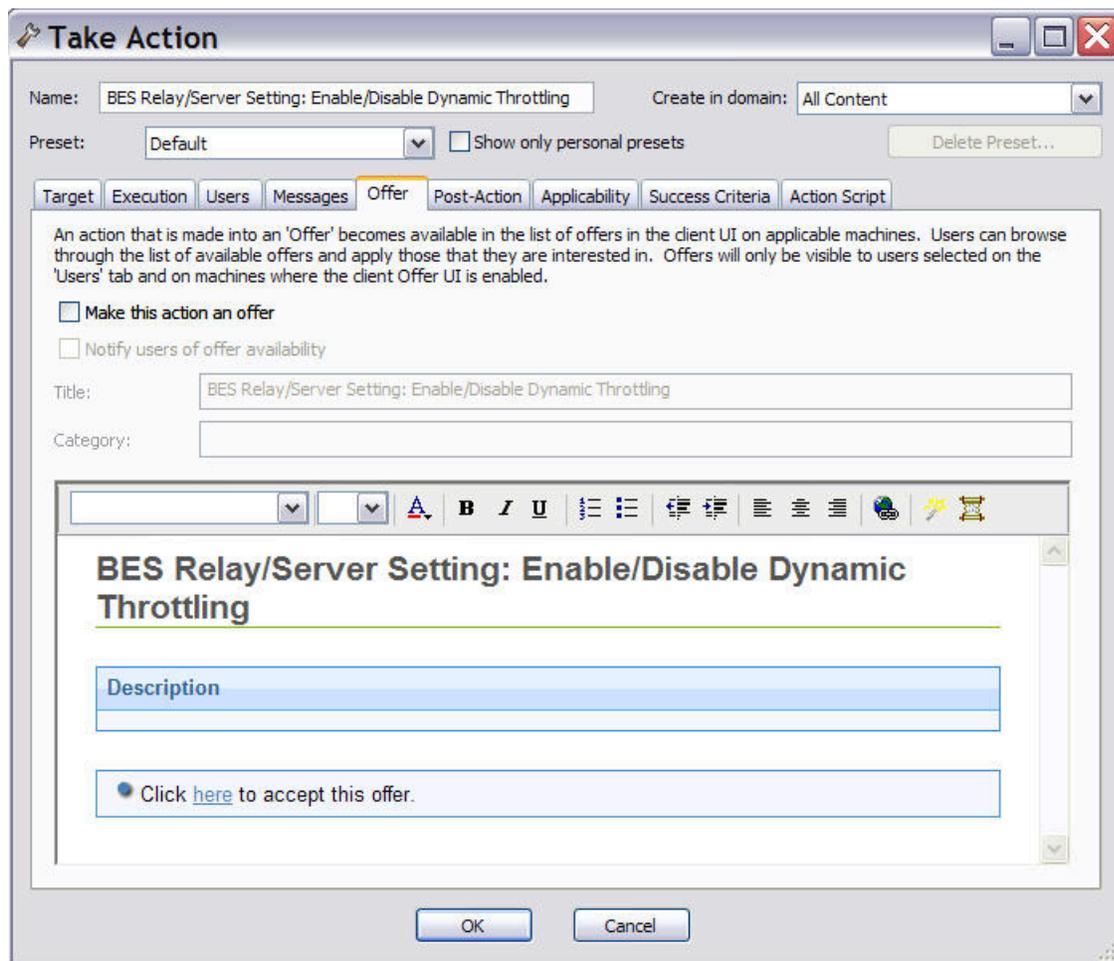
ここで、リスト・パネル内のコンピューターを開き、右クリックしてコンテキスト・メニューを起動し、「カスタム・サイト・サブスクリプションを変更」を選択します。このダイアログが開き、アドホック・サブスクリプションに対応しているカスタム・サイトが、プルダウン・メニューからサブスクリプション対象として選択可能になります。その

サイトがカスタム・サイトを既にサブスクライブしている場合、このダイアログによってサブスクライブ取り消しを行うこともできます。

このダイアログを表示するには、任意の「コンピューター」リストの項目を右クリックし、コンテキスト・メニューから「カスタム・サイト・サブスクリプションを変更」を選択します。このメニュー選択を可能にするには、最初にサブスクライバーでカスタム・サイトをセットアップする必要があります。

## 「提案」タブ

「提案」タブで、BigFixクライアント・ユーザーに対してアクションのリスト（一般に、オプションのパッチや更新）を提示できます。



このタブは、以下のような、いくつかの異なるダイアログから使用できます。

- [アクションの実行 \(##### 301\)](#)
- [マルチアクションの実行 \(##### 305\)](#)
- [アクション設定 \(##### 172\)](#)
- 

このタブの情報を使用して、対象クライアントの管理を許可されたオペレーターが、提案リストからアクションを選択することができます。提案はバージョン 7.0 以降のクライアントに限定されます。

このタブには、以下のオプションが表示されます。

### このアクションを提案にする

当該アクションをユーザーに提示するには、このボックスにチェック・マークを付けます。

### 提案があることをユーザーに通知

#### タイトル

アクションを説明するタイトルを入力します。この通知は、提案を利用するかどうかを決定しなければならないユーザーに対して表示されるため、効果的で、分かりやすい内容にする必要があります。

#### カテゴリー

この提案のカテゴリーを入力します。これは記録を目的としたユーザー定義フィールドであり、特定の適用に役立つ任意の形式を使用することができます。例えば、企業によっては「インストーラー」や「アンインストーラー」などの提案カテゴリーを使用し、「アプリケーション」や「更新」を使用する企業があるかもしれません。

#### HTML ボックス

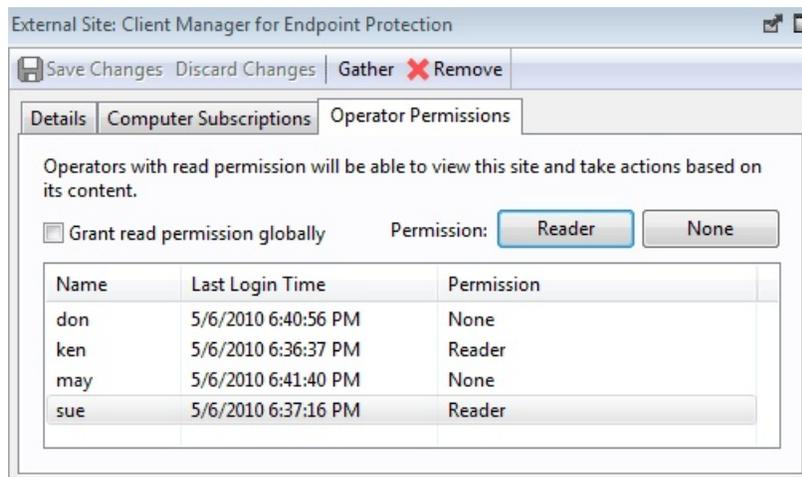
表示されたボックスにアクションの説明を入力します。この説明はユーザーに対して表示されます。フォント、サイズ、スタイル、番号付け、およびフォーマット設定を変更して、説明をカスタマイズできます。

## クライアント・コンピューター上

クライアント・コンピューター上のエンドユーザー向けの表示事項の詳細は「クライアント UI の主要な操作 ( (ページ) )」を参照してください。

## 「オペレーター許可」タブ

サイト文書の「オペレーター許可」タブでは、マスター・オペレーターが他のオペレーターのサイト許可を指定できます。



このダイアログは、マスター・オペレーター、およびサイト所有許可を持つマスター以外のオペレーターが使用できます。

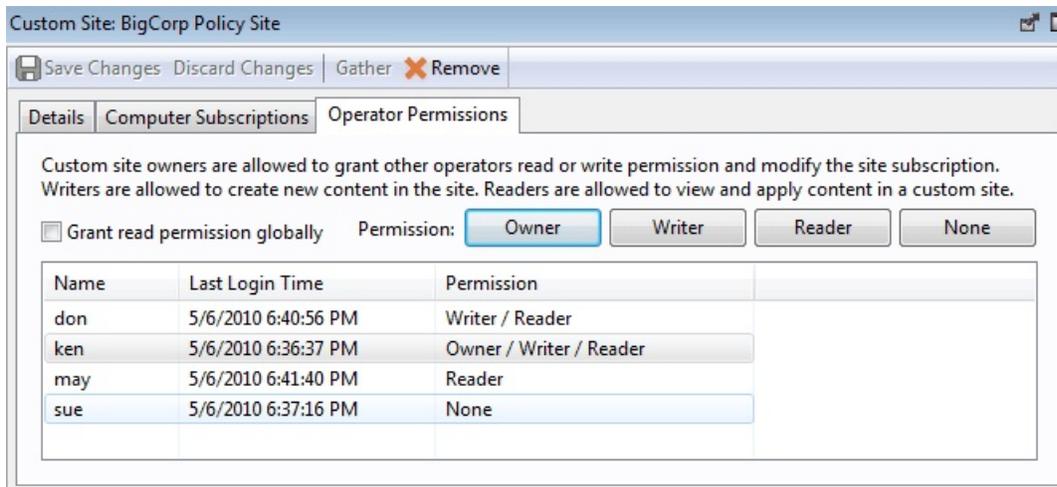
すべてのオペレーターがすべてのサイトについて知っておく必要はありません。サイトの中には、アンチスパイウェアの管理者など、1人のオペレーターが最も容易に管理できるものがあります。このインターフェースを使用すると、Fixlet サイトを1人のオペレーターまたはオペレーターのグループに接続できます。このリストでのオペレーターの削除は随時行えます。

このインターフェースは、マスター以外のオペレーターの閲覧者状況のみに影響します。外部サイトの場合、以下のような1つのチェック・ボックスと2つのボタンがあります。

- 「**全体に対する読み取り権限を付与する**」: すべてのオペレーターに読み取り権限を許可するには、このボックスにチェック・マークを付けます。

- 「**閲覧者**」：リストからオペレーターを選択し、このボタンをクリックすると、そのオペレーターに読み取り権限が付与されます。
- 「**なし**」：リストからオペレーターを選択し、このボタンをクリックすると、指定したオペレーターに対する読み取り権限が拒否されます。

カスタム・サイト (所有および編集が可能) では、さらに 2 つの許可ボタンがあります。



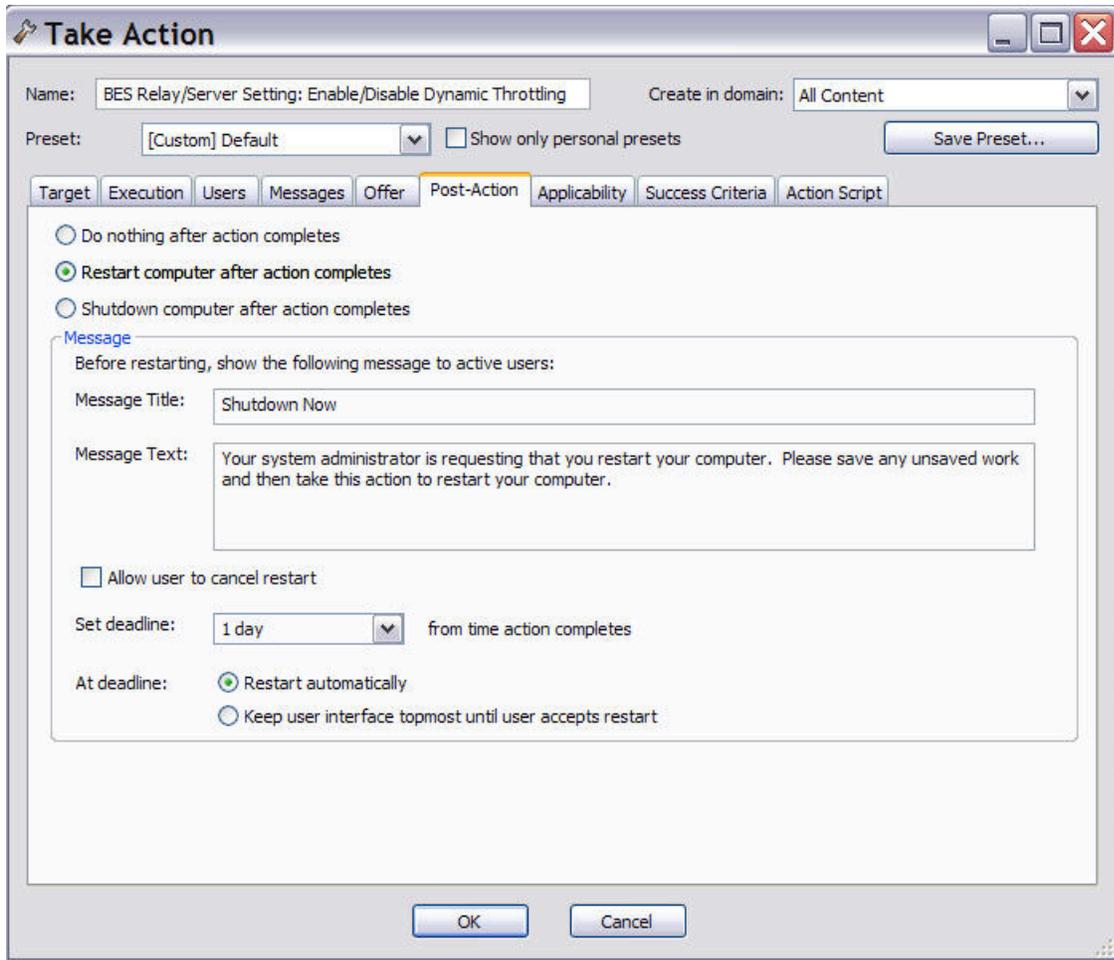
前と同様に、リストからオペレーターを選択し、これらのボタンをクリックして許可を付与します。追加された 2 つのボタンは以下のとおりです。

- 「**所有者**」：このボタンは、オペレーターに最大の権限を付与します。このオペレーターは、閲覧者および作成者の権限を割り当てることができます。
- 「**作成者**」：このボタンを使用すると、オペレーターはサイトを編集できます。

このダイアログを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**サイト**」アイコンをクリックし、それによって表示されるリスト・パネルでサイトを選択してから、「**オペレーター許可**」タブをクリックします。

## 「ポストアクション」タブ

「**ポストアクション**」タブで、アクションの完了後にクライアント・コンピューターを再起動するか、シャットダウンするかを設定できます。



このタブは、以下のような、いくつかの異なるダイアログから使用できます。

- [アクションの実行 \(##### 301\)](#)
- [マルチアクションの実行 \(##### 305\)](#)
- [アクション設定 \(##### 172\)](#)

このタブで指定できる各種設定の中には、以下のものがあります。

#### ユーザーに再起動の取り消しを許可

これにより、提示された再起動をユーザーが取り消すことができるダイアログ・ボックスが表示されます。

#### 期限を設定する

これにより、アクションの完了後に、指定された期間、再起動/シャットダウンを延期することをユーザーが選択できます。通常はインストールを完了す

るために再起動が必要であるため、あまり長く再起動を遅らせないようにする必要があります。

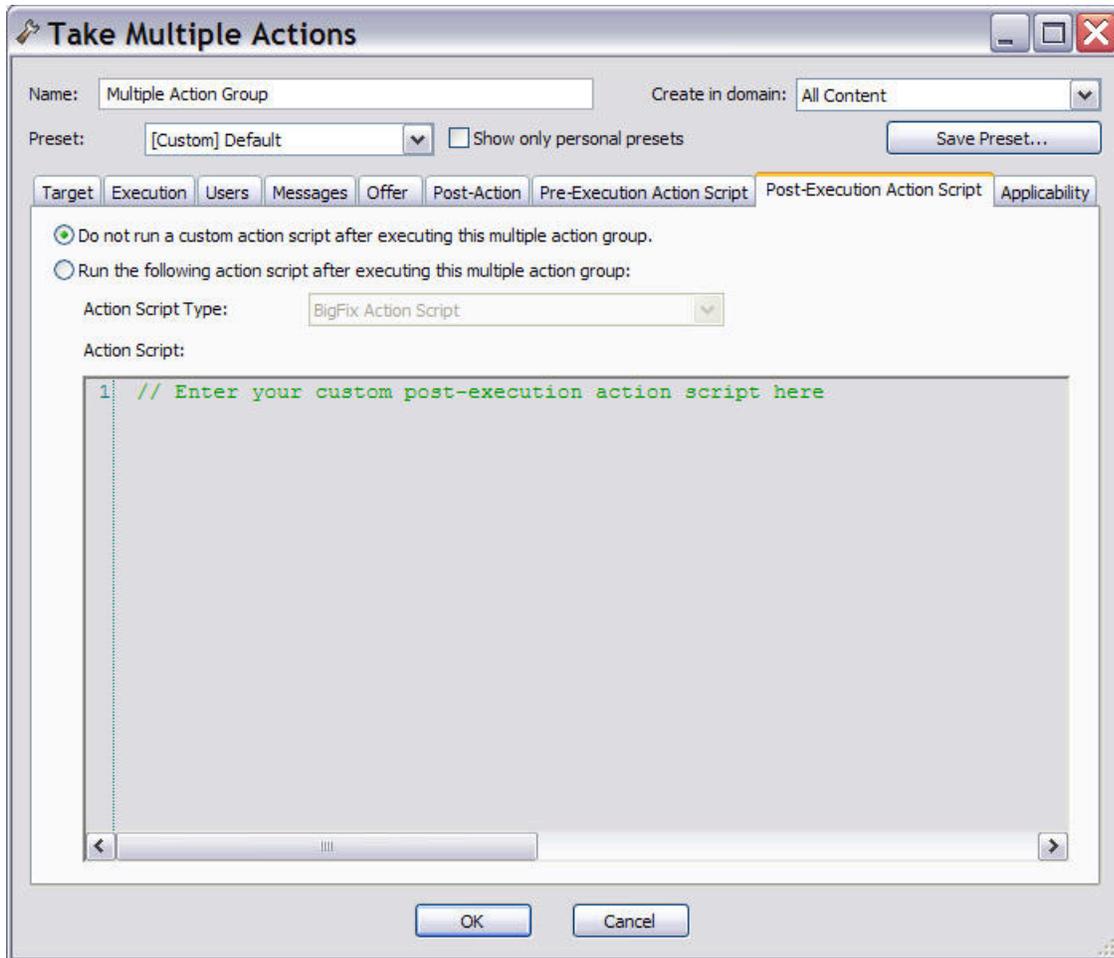
 **注:** 再起動およびシャットダウンは、ターゲット・コンピューターにユーザー・インターフェース (主に UNIX) がない、またはユーザーがログオンしていない場合は、即座に行われます。

### 期限が来たら

これらのボタンのいずれかをクリックして、期限に達したときのアクションを指定します。自動的に再起動するか、またはユーザーが準備完了するまで、画面にダイアログ・ボックスを表示したままにするかを選択できます。

## 「実行後アクション・スクリプト」タブ

「マルチアクションの実行」ダイアログの「実行前アクション・スクリプト」タブでは、選択されたアクションのセットの実行後に実行するアクション・スクリプトを作成することができます



このタブは、以下のような、いくつかの異なるダイアログから使用できます。

- [アクションの実行 \(##### 301\)](#) (ベースラインの適用時)
- [マルチアクションの実行 \(##### 305\)](#)

このダイアログには以下の2つのボタンがあります。

**このマルチアクション・グループを実行した後にカスタム・アクション・スクリプトを実行しないでください**

ほとんどの Fixlet アクションではこれがデフォルトで、推奨されるオプションです。

**このマルチアクション・グループを実行した後に以下のアクション・スクリプトを実行してください**

以下のオプションのいずれかを選択し、既存のスクリプトを変更するか、テキスト域に新規スクリプトを入力することができます。このスクリプトに使用するアクション・スクリプトのタイプを選択します。

### **BigFix アクション・スクリプト**

これは、アクションの BigFix 標準スクリプト言語です。

### **AppleScript**

これはコンピューター・リソースを制御するための Apple のスクリプト言語です。

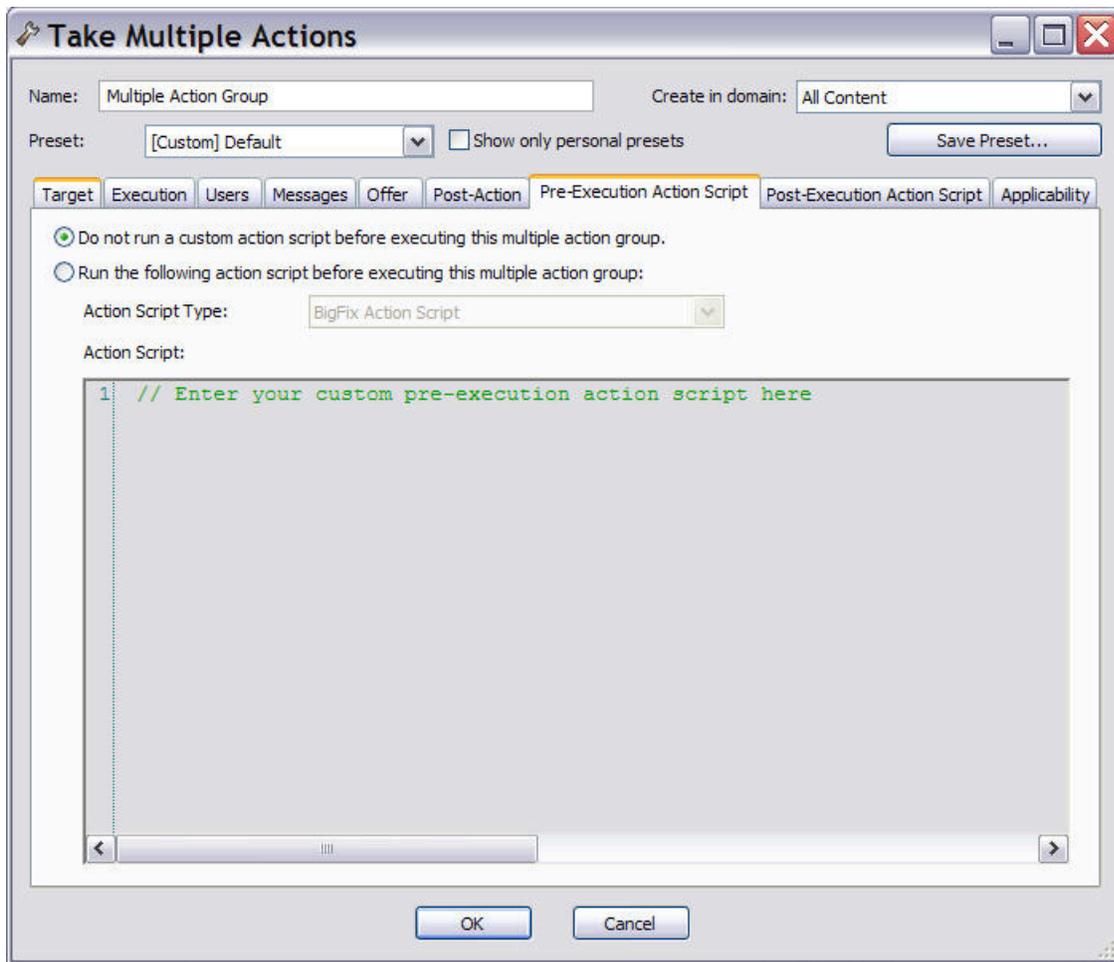
### **sh**

アクションは、Linux または UNIX または bsd シェルによって実行されるシェル・スクリプトです。

 **注:** デフォルトでは、アクションを元に戻すことはできません。使用するアクションは、小さい規模でテストしてからネットワーク全体に適用するようにしてください。

## 「実行前アクション・スクリプト」 タブ

「マルチアクションの実行」ダイアログの「実行前アクション・スクリプト」タブでは、選択されたアクションのセットの実行前に実行するアクション・スクリプトを作成できます。



このタブは、以下のような、いくつかの異なるダイアログから使用できます。

- [アクションの実行 \(##### 301\)](#) (ベースラインの適用時)
- [マルチアクションの実行 \(##### 305\)](#)

このダイアログには以下の2つのボタンがあります。

**このマルチアクション・グループを実行する前にカスタム・アクション・スクリプトを実行しないでください**

ほとんどの Fixlet アクションではこれがデフォルトで、推奨されるオプションです。

**このマルチアクション・グループを実行する前に以下のアクション・スクリプトを実行してください**

以下のオプションのいずれかを選択し、既存のスクリプトを変更するか、テキスト域に新規スクリプトを入力することができます。このスクリプトに使用するアクション・スクリプトのタイプを選択します。

### **BigFix アクション・スクリプト**

これは、アクションの BigFix 標準スクリプト言語です。

### **AppleScript**

これはコンピューター・リソースを制御するための Apple のスクリプト言語です。

### **sh**

アクションは、Linux または UNIX または bsd シェルによって実行されるシェル・スクリプトです。

 **注:** デフォルトでは、アクションを元に戻すことはできません。使用するアクションは、小さい規模でテストしてからネットワーク全体に適用するようにしてください。

## 設定

「環境設定」ダイアログでは、特定のシステム共通パラメーターを調整できます。

「環境設定」ダイアログにはいくつかのセクションがあります。

## Fixlet リスト

- 「一覧の更新頻度 XX 秒」: Fixlet の表示を更新する頻度を制御します。デフォルト設定では、BigFix データベースが 15 秒ごとに照会されます。更新頻度を増やすとネットワーク・トラフィックが増え、更新頻度を少なくすると応答時間が長くなります。BigFix データベースの規模が大きくなるにつれて、リフレッシュ・レートに必要な時間は長くなります。遅延と帯域幅の課題のバランスを考慮すると 15 秒です。

## クライアント・コンピューター

- 「**ハートビートの送信間隔 XX 分**」:BigFixクライアント・コンピューターがその状況を更新するためにBigFixサーバーにチェックインする頻度を制御します。BigFixクライアントはハートビートを送信するたびに、変更された取得プロパティの値を含めます。15分がデフォルト値です。
- 「**オフラインと判断するまでの時間 XX 分**」:最後のハートビート以降、コンピューターがオフラインと宣言されるまで待機する時間を制御します。デフォルトは50分です。

## 関連度 色分け

- 「**関連度の表示に使用する色を変更します**」:関連式を表示するときに、読み取りしやすいようにテキストを色分けすることができます。個人のカラー・スキームをカスタマイズするためのインターフェースを開くには、「**色を設定**」ボタンをクリックします。

## コンソール閉じる

- 「**コンソールを閉じる前に確認プロンプトを表示する**」:この環境設定によって、コンソールを終了するたびに「はい/いいえ」プロンプトが表示されます。

## 言語

- 「**コンソールの言語**」:コンソールの言語を変更するには、言語を選択し、コンソールを再始動します。
- **アクションに BigFix サーバーのエンコーディングと互換性のない文字が含まれている場合は、常に元の未変換の文字列を使用します。**このプリファレンスは、アクションのローカライズ名またはポスト・アクション・メッセージを、対応する未変換の文字列にコンソールが置き換えるときに、プロンプトを表示するかどうかを決定します。このオプションを有効にすると、外部サイトの Fixlet からアクションを実行し、その Fixlet にローカライズされた名前またはポストアクション・メッセージに fxf-encoding で許可されていない文字が含まれている場合、コンソールはプロンプトを表示せずに、ローカライズされた文字列に対応する翻訳されていない文字列に置き換えます。

## キャッシュ・オプション

- 「データベースから常にデータをロード」：コンソール・コンピューターで情報をキャッシュに入れたままにしない場合は、このオプションをクリックします。これにより、コンソールを開くたびにすべてのデータが新たにデータベースからロードされます。
- 「ディスク上のキャッシュの一部を残す」：このオプションを選択すると、取得プロパティの結果を除くすべてのデータがキャッシュに入れられます。その場合でも、コンソールでは Fixlet とアクションの結果がキャッシュに入れられます。これらの結果は終了時に書き出されます。
- 「ディスク上のキャッシュをすべて残す」：このオプションでは、Fixlet とアクションの結果とともに取得プロパティをローカルに保管できます。キャッシュに保持するプロパティ数が多いほど、その維持にかかるコストが増えるため、コンソールがそのキャッシュから項目をクリアするまでに稼働する時間が、キャッシング・ポリシーによって決められます。

**有効期限。** 上記で「ディスク上のキャッシュをすべて残す」オプションを選択した場合、キャッシュを定期的に消去するための有効期限ポリシーも設定する必要があります。

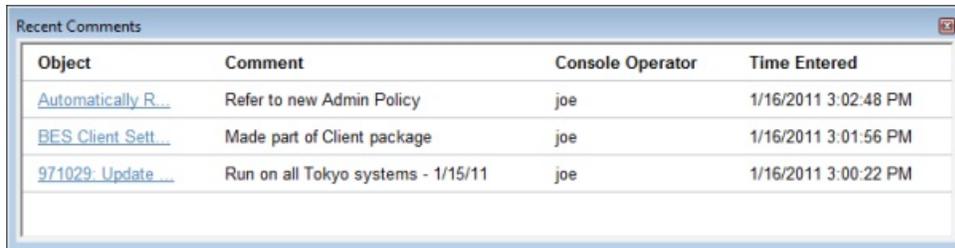
- 「高レベル」：このポリシーでは未使用データが迅速に消去され、前のコンソール・セッションでアクセスされなかった項目がすべて消去されます。
- 「中」：このポリシーは、「高レベル」と「現状維持」の中間です。
- 「現状維持」：このポリシーでは、データが最近アクセスされたかどうかに関係なく、次の消去までにデータを長時間維持することができます。
- 「キャッシュをクリア」：コンソールが次に実行されるときに現在のキャッシュをクリアするには、このボタンをクリックします。

このダイアログは、以下を選択すると表示されます。

- 「ファイル」 > 「環境設定」

## 最近のコメント

このダイアログには、Fixlet メッセージ、タスク、ベースライン、アクション、およびコンピューターに添付されたコメントのリストが表示されます。



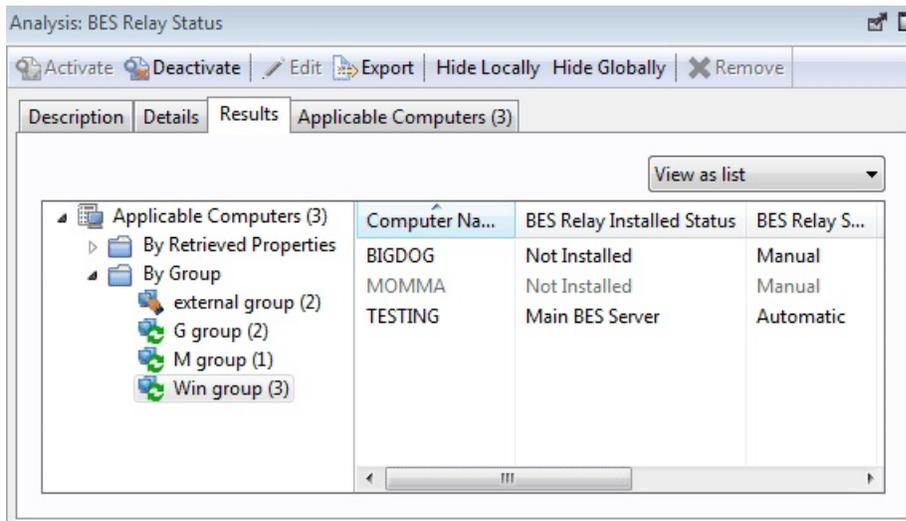
Object	Comment	Console Operator	Time Entered
<a href="#">Automatically R...</a>	Refer to new Admin Policy	joe	1/16/2011 3:02:48 PM
<a href="#">BES Client Sett...</a>	Made part of Client package	joe	1/16/2011 3:01:56 PM
<a href="#">971029: Update ...</a>	Run on all Tokyo systems - 1/15/11	joe	1/16/2011 3:00:22 PM

ここでは、これらの各インターフェースからのすべてコマンドを収集して1カ所に表示できるようにします。

最新のコメントを表示するには、「ツール」>「最近のコメントを表示」を選択します。

## 「結果」タブ

「分析」分析文書の「結果」タブには、対象のコンピューターのリストと、その各コンピューターの分析結果が表示されます。



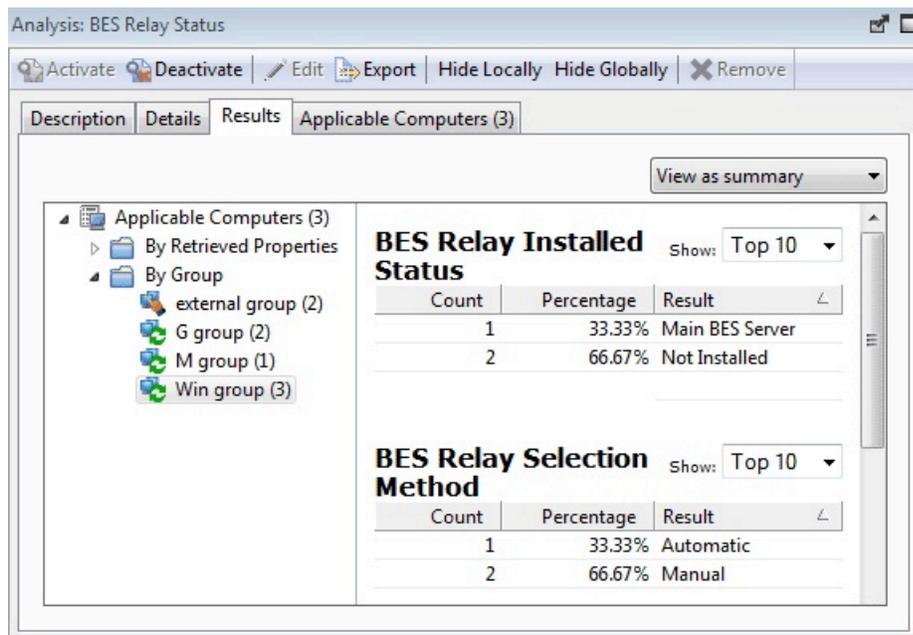
Computer Na...	BES Relay Installed Status	BES Relay S...
BIGDOG	Not Installed	Manual
MOMMA	Not Installed	Manual
TESTING	Main BES Server	Automatic

この表示の形式は、選択したビュー（リストまたは要約）によって異なります。上記にはリスト・ビューを示しています。

リストとして表示する場合、指定した各取得プロパティには対応する見出しが表示され、各プロパティの値がその下に表示されます。1つのプロパティに複数の値がある場合、<複数の結果>が表示されます。このリストは見出しによってソートすることができ、左側のパネルのフォルダーを使用して結果をフィルタリングすることもできます。これに

より、多数のコンピューター・セットをその取得プロパティによって管理することができます。

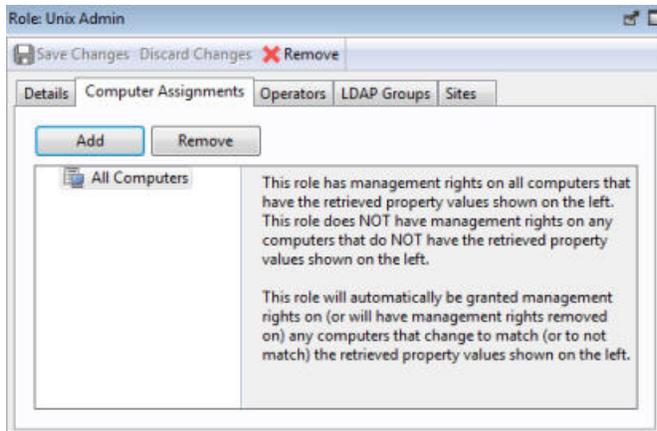
要約として表示する場合、各プロパティにはそれぞれ独自のセクションがあり、プロパティの値ごとに応答カウントとパーセンテージが表示されます。



このダイアログは、該当するリストからアクティブ化された分析を選択すると表示されます。

## 「役割」の「コンピューターの割り当て」タブ

「役割」ウィンドウの「コンピューターの割り当て」タブでは、役割に1組のコンピューターを追加できます。



この役割の定義の一部としてプロパティまたはグループによって定義されたコンピューターを含めるには、「追加」ボタンをクリックします。このウィンドウを破棄する前に必ず「変更の保存」をクリックしてください。

このダイアログは、「役割」リストから役割を選択するとき、または「ツール」>「役割の作成」を選択して最初から役割を作成するときに表示されます。

## 「役割」の「詳細」タブ

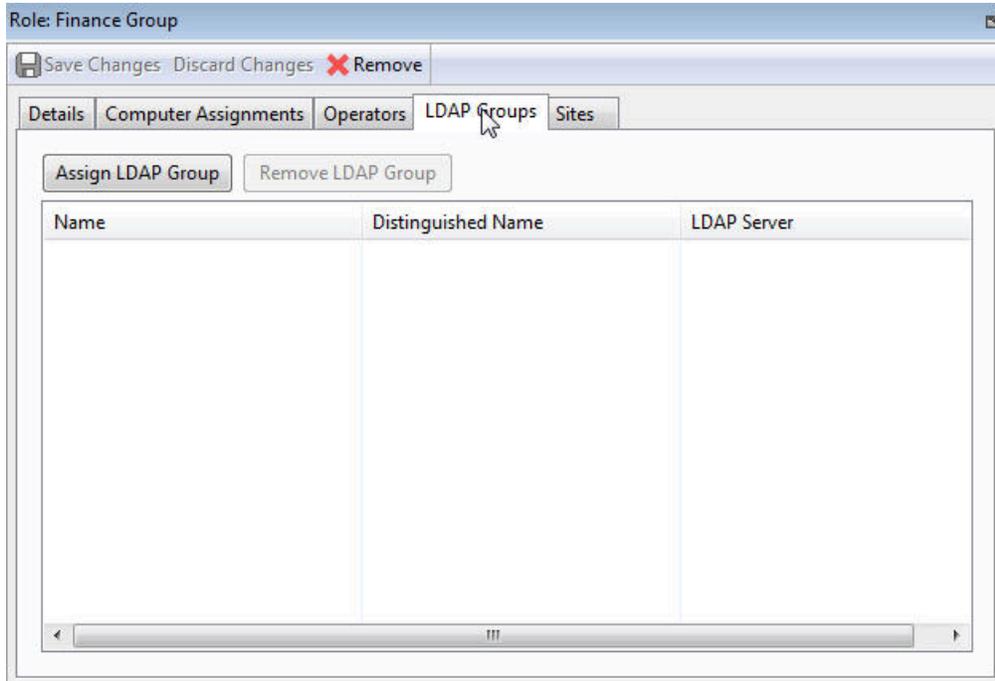
役割の作成と定義は、コンソールによって行うことができます。役割を作成するには、「ツール」>「役割の作成」を選択します。既存の役割を変更するには、ドメイン・パネルで「役割」を選択して表示される「役割」リストで項目をクリックします。

「役割」の「詳細」タブでは、役割について説明し、許可を設定することができます。役割に関連付ける許可レベルと、再起動とシャットダウンの権限、および BigFix ユーザー・インターフェイスにアクセスするための許可を設定できます。このタブにリストされたフィールドは、オペレーターの「詳細」タブにリストされ、ローカル・オペレーターの追加 ( ページ ) に記載されているフィールドに対応します。

このダイアログは、任意の「役割」リストから役割を選択すると表示されます。

## 「役割」の「LDAP グループ」タブ

「役割」ウィンドウの「LDAP グループ」タブでは、LDAP グループを役割定義に関連付けることができます。



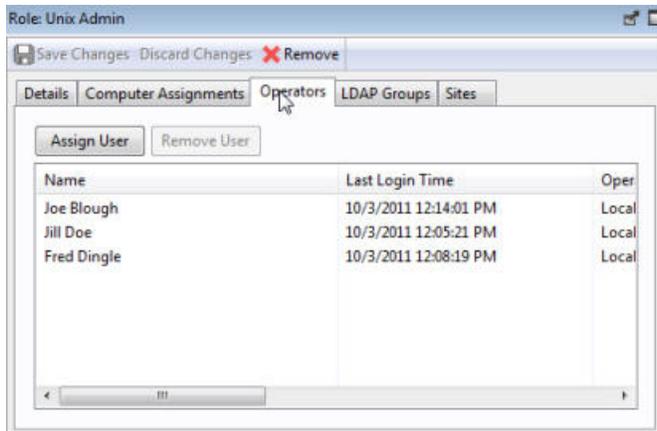
現在未割り当ての LDAP グループが選択用にリストされたダイアログを起動するには、「LDAP グループの割り当て」をクリックします。グループの名前を選択し、「LDAP グループの削除」をクリックすると、グループを削除することもできます。

このウィンドウを破棄する前に必ず「変更の保存」をクリックしてください。

このダイアログは、「役割」リストから役割を選択するとき、または「ツール」>「役割の作成」を選択して最初から役割を作成するときに表示されます。

## 「役割」の「オペレーター」タブ

「役割」ウィンドウの「オペレーター」タブでは、特定のローカル・ユーザーまたは LDAP 定義ユーザーを指定の役割に関連付けることができます。



現在未割り当てのユーザーのリストを起動するには、「**ユーザーの割り当て**」ボタンをクリックします。ユーザーの名前を選択し、「**ユーザーの削除**」をクリックすると、この役割からユーザーを削除できます。

このウィンドウを破棄する前に必ず「**変更の保存**」をクリックしてください。

このダイアログは、「役割」リストから役割を選択するとき、または「**ツール**」 > 「**役割の作成**」を選択して最初から役割を作成するときに表示されます。

## 「役割」の「サイト」タブ

「役割」ウィンドウの「**サイト**」タブでは、コンテンツ・サイトを指定の役割に関連付けることができます。

「**サイトの割り当て**」ボタンをクリックすると、さまざまなサイトを追加できます。さらにカスタム・サイトの場合は、この役割に所有者と作成者を割り当てることもできます。

このウィンドウを破棄する前に必ず「**変更の保存**」をクリックしてください。

このダイアログは、「役割」リストから役割を選択するとき、または「**ツール**」 > 「**役割の作成**」を選択して最初から役割を作成するときに表示されます。

## セキュリティの警告

「**セキュリティの警告**」ダイアログは、スクリプトまたは関連文がテキストに組み込まれていることを警告します。



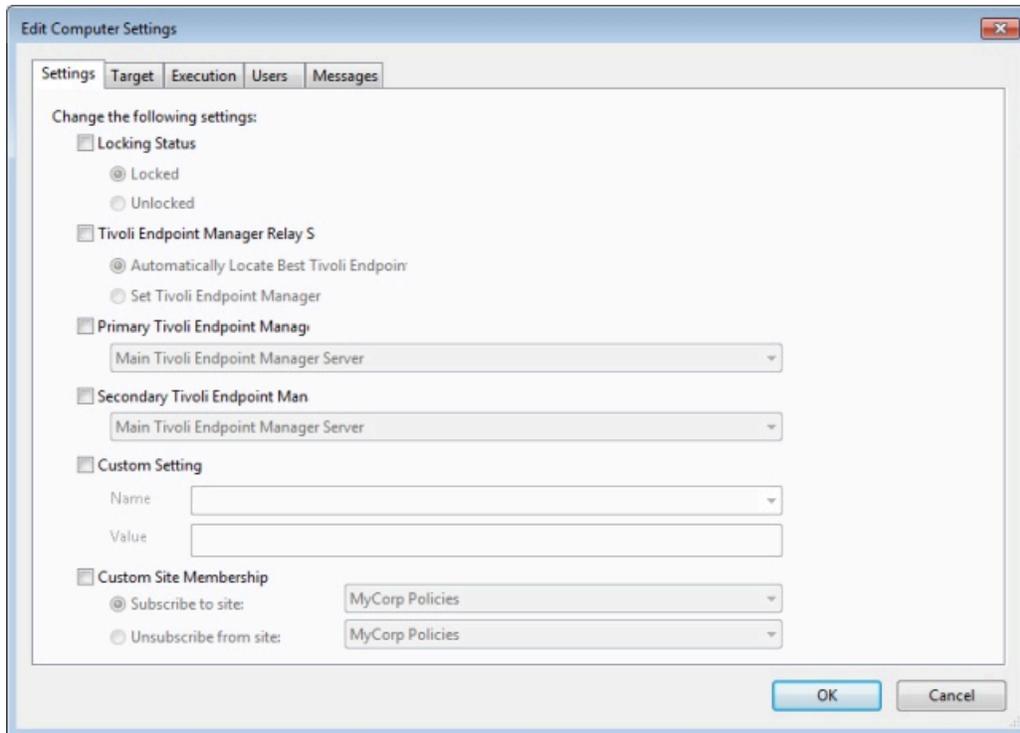
組み込まれている関連句またはスクリプトが表示されようとしていることをコンソールが検出すると、必ずこの警告がポップアップします。実行するために事前のパスワード入力が必要なアクション・スクリプトとは異なり、組み込まれているスクリプトは自動的に実行されるため、詳しく調べる必要があります。一般に、これらのスクリプトをカスタム・サイトから作成した場合、該当するチェック・ボックスをクリックすると、動的スクリプトを常に有効にすることができます。

組み込まれているスクリプトのソースが不明な場合は、「無効化」をクリックします。

このダイアログは、関連文またはスクリプトを含むコンテンツを表示しようとするときに必ず表示されます。

## 「設定」タブ

「コンピューター設定の編集」ダイアログの「設定」タブでは、管理者が特定の設定 (ロック、リレー、カスタム変数など) を複数の対象のコンピューターに適用できます。



ここには以下のコントロールがあります。

- 「**ロック状態**」。対象のコンピューターをロックまたはロック解除するには、このボックスにチェック・マークを付けます。コンピューターをロックする必要があるのは、コンピューターが現在プログラム開発で使用されている場合、長時間プロセスの実行中である場合、特殊なソフトウェアを実行している場合などです。コンピューターがロックされている間は、そのコンピューターに対するアクションは実行されません。
  - 「**ロック状態**」。コンピューターをロックするには、このボタンをクリックします。
  - 「**ロック解除**」。対象のコンピューターをロック解除します。
- 「**リレーの選択方法**」。自動または手動のリレー方法を選択します。
  - 「**最適なリレーを自動的に検出**」。このボタンを選択するとリレーの選択プロセスが自動化されます。これが推奨設定です。
  - 「**リレーを手動で設定 (Set Relays Manually)**」。BigFix リレーの手動選択を強制的に行います。
- **プライマリー・リレー**。プライマリー・リレーを選択します。このボックスにチェック・マークを付け、プルダウン・メニューからコンピューターを選択します。これに

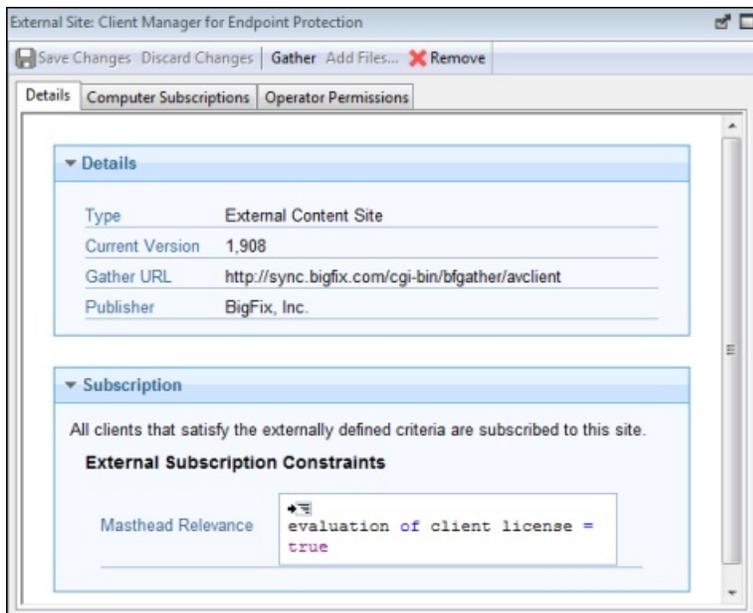
より、接続されたクライアントは Fixlet ダウンロードの収集を BigFixサーバーから直接行うのではなく、このリレーから行います。

- **セカンダリー・リレー**。セカンダリー・リレーを選択します。このボックスにチェック・マークを付け、プルダウン・メニューからコンピューターを選択します。これにより、プライマリー・リレーが使用できない場合、接続されたクライアントはこのリレーから Fixlet ダウンロードを収集します。
- **「カスタム設定」**。BigFixのマスター・オペレーターはこの機能を使用して、対象のコンピューターに関連付けることができる名前付き変数を作成できます。
  - **名前**。すべての対象のコンピューターに関連付ける変数の名前 (「department」など) を入力します。
  - **「値」**。上記で名前を指定した変数の値 (「payroll」など) を入力します。

複数のコンピューターが選択されている場合にこのダイアログを表示するには、右クリックして、コンテキスト・メニューから「**コンピューターの設定を編集**」を選択します。

## サイトの「詳細」タブ

サイト文書の「詳細」タブには、サイトおよびサブスクリプション基準に関する情報が表示されます。



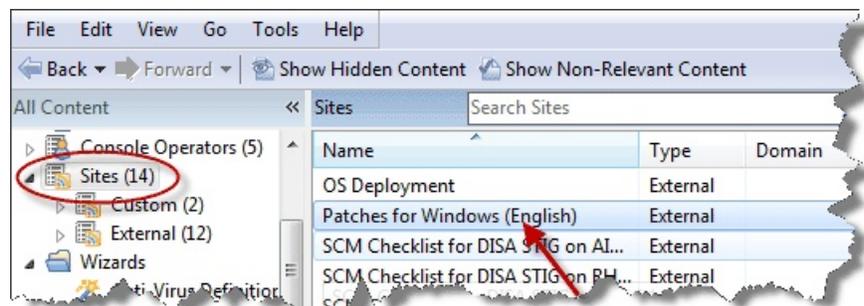
「詳細」グループには、サイトのバージョン、発行者、および URL の情報が表示されます。

「サブスクリプション」グループには、サイトのサブスクリプション対象のクライアントを選択するための、基準の使用方法に関する情報が表示されます。

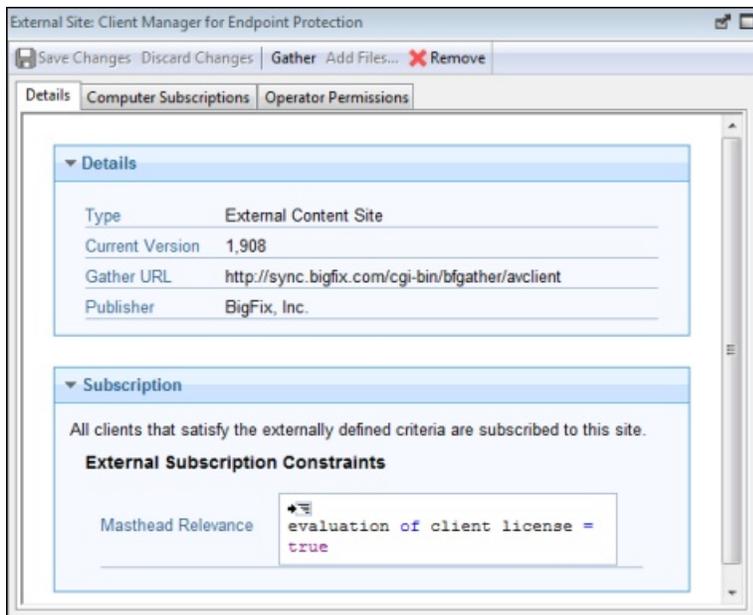
このダイアログを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「サイト」アイコンをクリックし、それによって表示されるリスト・パネルでサイトを選択します。次に、下の作業域の文書から「詳細」タブをクリックします。

## サイトのリストおよび文書

ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「サイト」、またはそのいずれかの下位ノードをクリックすると、サイトのリストが表示されます。



サイト文書は、サイトのリストで任意の項目をクリックするとコンソールの作業域に表示されます。「サイト」アイコンを開いたら、「カスタム」タイプまたは「外部」タイプにサイトをフィルタリングできます。リストで外部サイトをクリックすると、そのサイトが下の作業域に開きます。



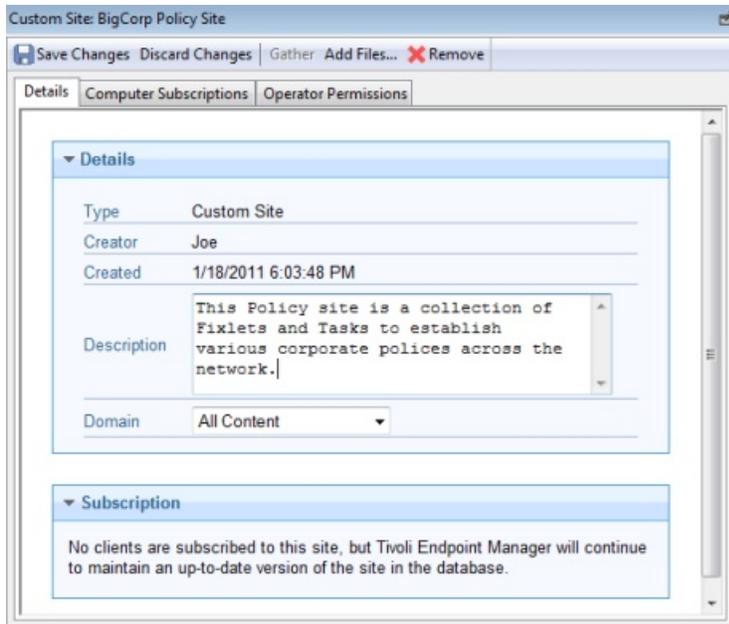
上部には 4 つのボタンを含むツールバーがあります。

- 「**変更を保存**」: 外部サイトの場合は、このボタンはぼかし表示されています。
- 「**変更を破棄**」: 外部サイトの場合は、このボタンはぼかし表示されています。
- 「**収集**」: このボタンを使用して、サイトのコンテンツを収集します。
- 「**削除**」: このボタンを使用して、コンソールからサイトを削除できます。

ツールバーの下には 3 つのタブがあります。

- **詳細**: この読み取り専用タブには、サイトのバージョン、URL、および発行者が表示されます。
- 「**コンピューターのサブスクリプション**」: このタブでは、このサイトをサブスクライブするクライアントを指定できます。
- 「**オペレーター許可**」: このタブでは、所有者、作成者、または閲覧者のいずれかとして、オペレーターをサイトに接続できます。

独自のカスタム・サイトを作成および編集することもできます。カスタム・サイトがある場合は、リストでそのサイトをクリックして表示または編集します。



カスタム・サイトの文書は外部サイトの文書と類似していますが、サイトを編集する機能が追加されています。ツールバーには同じ 4 つのボタンがあります。

- **「変更を保存」**：カスタム・サイトの編集を完了したら、このボタンをクリックして変更を記録します。
- **「変更を破棄」**：このボタンを使用すると、行った変更がすべてクリアされます。
- **「収集」**：通常、カスタム・サイトのコンテンツはローカルに保管されるため、このツールはぼかし表示されている可能性があります。
- **「削除」**：このボタンを使用して、コンソールからサイトを完全に削除できます。

ツールバーの下には同じ 3 つのタブがあります。

- **「詳細」**：このタブでは、カスタム・サイトの説明を表示または編集したり、サイトをホストさせるドメインを選択したりできます。
- **「コンピューターのサブスクリプション」**：このタブでは、このサイトをサブスクライブするクライアントを指定できます。
- **「オペレーター許可」**：このタブでは、所有者、作成者、または閲覧者のいずれかとして、オペレーターをサイトに接続できます。

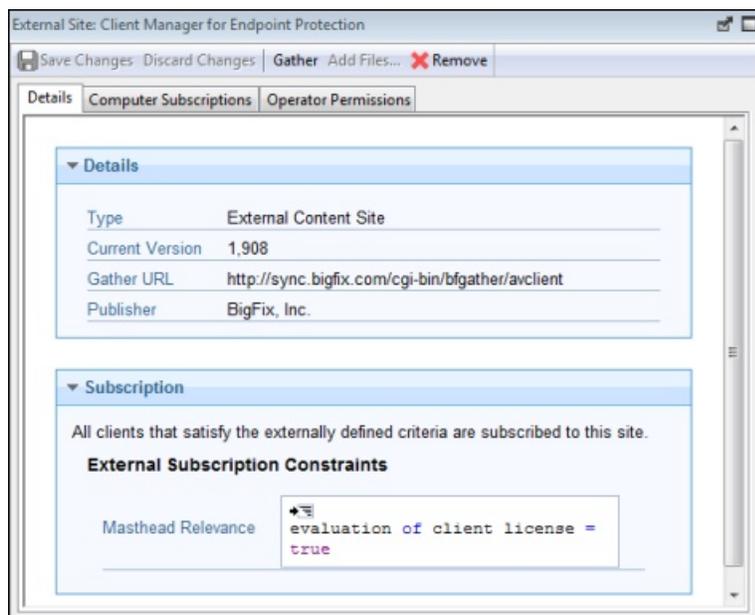
サイトのリストを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**サイト**」アイコン (またはそのいずれかの下位ノード) をクリックします。このアイコンを開いて、リストを「**カスタム**」サイトまたは「**外部**」サイトのいずれかに絞り込みます。

**サイト文書**を表示するには、サイトのリストで任意の項目をクリックします。

カスタム・サイトを作成するには、「**ツール**」 > 「**カスタム・サイトの作成**」を選択します。

## サイトのプロパティ

「**サイトのプロパティ**」ダイアログには、選択した Fixlet サイトに関する情報 (サイトの発行者名、コンテンツの収集元の URL など) が表示されます。



このダイアログには以下のようなタブがあります。

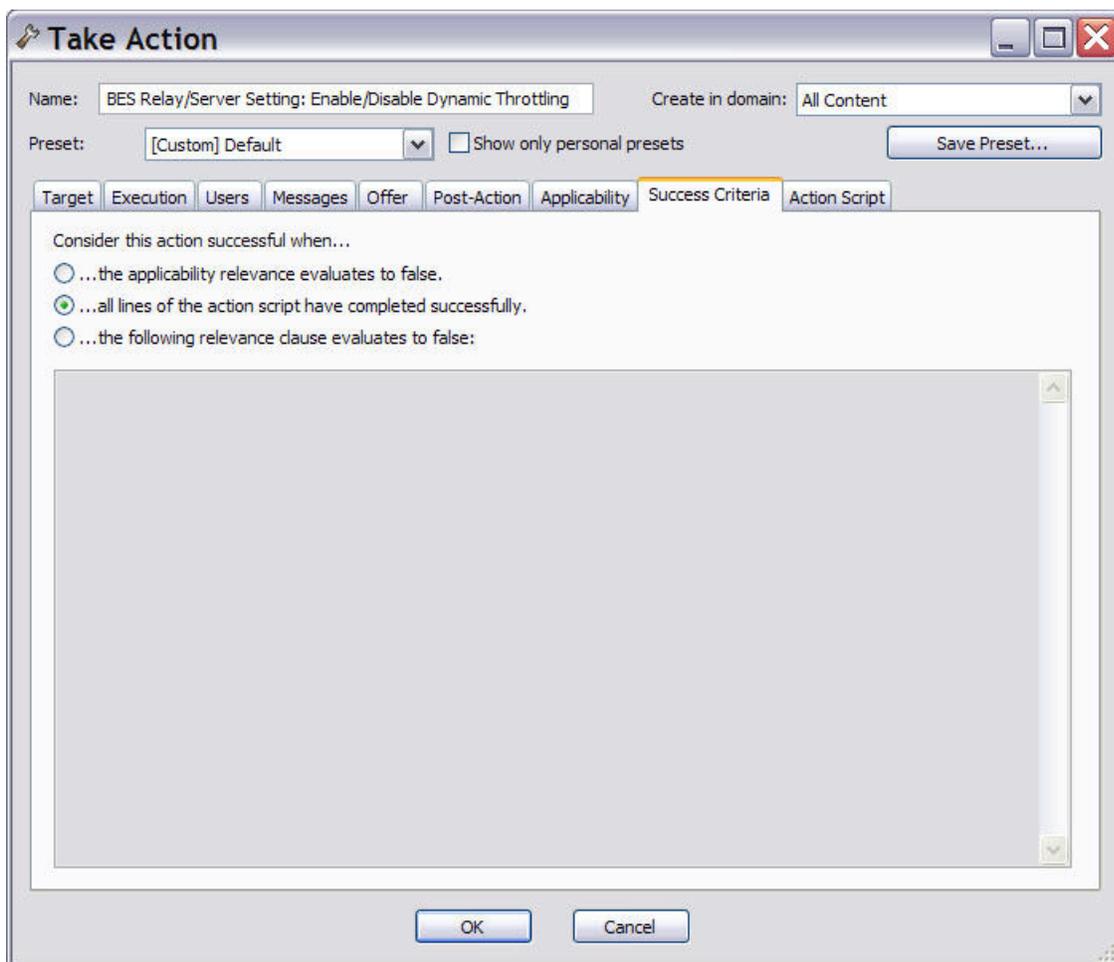
- **詳細:** このタブには、サイトのタイプ (内部、外部)、バージョン、および発行者とサブスクリプションに関する情報が表示されます。
- 「**コンピューターのサブスクリプション**」: このダイアログでは、選択したサイトをサブスクライブしているコンピューターのリストを絞り込むことができます。不必要または重要でない Fixlet サブスクリプションを除去することで、クライアント・コンピューターのディスク・ストレージ所要量を減らすことができます。

- 「オペレーター許可」：これは、オペレーターとその権限レベルのリストです。外部サイトの場合は、通常は読み取り権限のみを付与しますが、カスタム・サイトの場合は、所有、書き込み、または読み取りの権限を付与できます。

このダイアログを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「サイト」アイコンをクリックし、それによって表示されるリスト・パネルで項目をクリックします。下の作業域にサイト情報が開きます。

## 「成功条件」タブ

「成功条件」タブでは、アクションが成功したと見なされる条件を定義できます。



このダイアログを表示するには、任意のリストから Fixlet メッセージまたはタスクを選択し、アクション・ボタンをクリックします。[アクションの実行 \(ページ 301\)](#) ダイアログで、「**成功条件**」タブを選択します。

以下のいずれかのオプションを選択します。

#### 適用の関連度が偽になった場合

これがデフォルトの成功条件です。この場合、アクションを適用可能にした Relevance ステートメントが TRUE でなくなることが求められます。Relevance ステートメントが問題を通知し、アクションがその問題を修正するので、成功を確立するには通常はこれで十分です。

#### アクション・スクリプトのすべての行が正常に完了した場合

成功かどうかを、アクション・スクリプトのすべてのステップが完了したかどうかに応じて判断できます。

#### 以下の関連句が偽になった場合

特殊な Relevance 句を使用して、アクションがその目標を達成したことを確認できます。この場合、下のテキスト・ボックスが編集可能になり、Relevance 句を作成したり、既存の Relevance 句を修正したりできます。

## アクションの実行

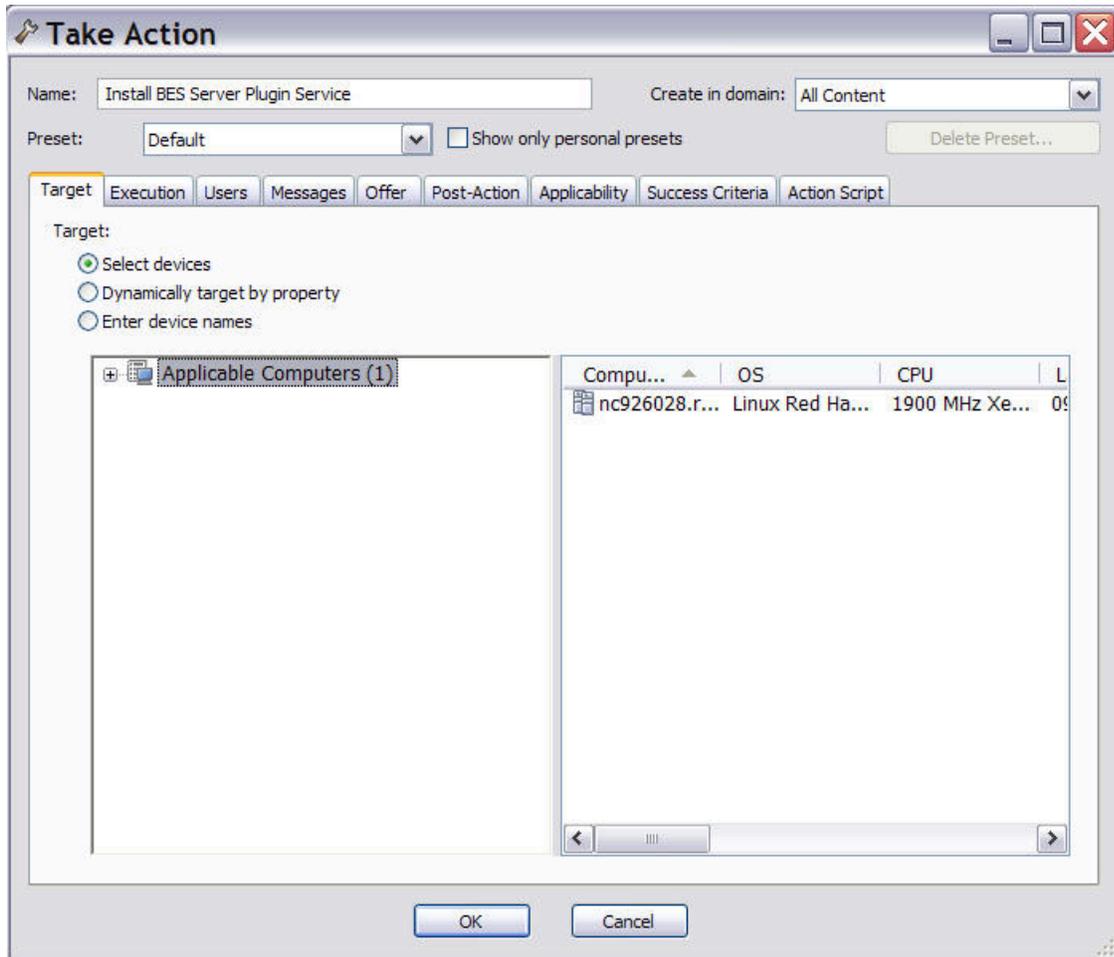
「**アクションの実行**」ダイアログを使用して Fixlet、タスク、またはベースラインの適用を実行します。

「**アクションの実行**」ダイアログは「**マルチアクションの実行**」ダイアログと類似していますが、シングル・アクションのみを実行します。

以下のいずれかの方法で、このダイアログにアクセスできます。

- 関連する Fixlet メッセージまたはタスクを右クリックし、ポップアップ・メニューから「**デフォルト・アクションの実行**」を選択します。
- 関連する Fixlet メッセージまたはタスクをクリックし、「作業域」ツールバーで「**デフォルト・アクションの実行**」を選択します。

- 関連する Fixlet メッセージまたはタスクをクリックし、「説明」タブを選択します。スクロールダウンして推奨アクションを確認します。実行するアクションに関連するリンクをクリックします。



このダイアログの入力フィールドとタブを使用して、選択したアクションをネットワーク内のコンピューターに対して適用する方法を正確に指定することができます。このダイアログに含まれるフィールドとタブを以下に示します。

### **Name (名前)**

アクションの名前。

### **作成先のドメイン**

カスタム・アクションを格納するドメインを表します。「**すべてのコンテンツ**」は最上位のドメインであり、すべてのドメインのオブジェクトを含みます。

## プリセット

プリセットのカスタマイズされたアクションを指定します。「**デフォルト**」および「**ポリシー**」の2つの組み込みのプリセットがあります。アクションに対して有効期限を指定しない場合は、「**ポリシー**」を選択します。現在の入力内容を後から使用できるようにプリセット (プライベートまたはパブリック) として保存することもできます。

### 「対象」タブ

アクションのターゲットのリストが入っています。提供されたリストからアクションのターゲットを選択するか、プロパティを使用してリストをフィルタリングするか、または対象のコンピューターのリストを指定します。「**デバイスの選択**」をクリックした場合は、リストから特定のターゲットを選択する必要があります。このタブについて詳しくは、[アクション: ターゲット \(##### 178\)](#)を参照してください。

### 「実行」タブ

アクションの実行と失敗に対する時間の制約と再試行の動作が含まれます。このタブについて詳しくは、[「実行」タブ \(##### 257\)](#)を参照してください。

### 「ユーザー」タブ

特定のユーザーがコンピューターにログオンしたどうかに基づいてアクションを実行するか、またその対象ユーザーの設定が含まれます。このタブについて詳しくは、[「ユーザー」タブ \(##### 310\)](#)を参照してください。

### 「メッセージ」タブ

アクションの実行前または実行中に表示されるメッセージが含まれます。このタブについて詳しくは、[「メッセージ」タブ \(##### 271\)](#)を参照してください。

### 「提案」タブ

ネットワーク・クライアントが使用のために選択できるプログラムまたはパッチが存在することを通知するかどうかを指定します。これにより、ユーザーがそれぞれの設定をさらに自由にカスタマイズできるようになります。このタブについて詳しくは、[「提案」タブ \(##### 275\)](#)を参照してください。

### 「ポストアクション」タブ

アクションを完了させるために必要なアクティビティ (再起動やシャットダウンなど) をリストします。このタブについて詳しくは、[「ポストアクション」タブ \(##### 278\)](#)を参照してください。

### 「適用条件」タブ

アクションの適用可能性を判断するための Relevance 句が含まれます。このタブについて詳しくは、[「適用条件」タブ \(##### 187\)](#)を参照してください。

### 「成功条件」タブ

アクションの結果が成功と見なされる条件を指定します。このタブでは、問題が修正された時点を判別するために、別の条件を使用できます。このタブについて詳しくは、[「成功条件」タブ \(##### 300\)](#)を参照してください。

### 「アクション・スクリプト」タブ

実行するアクションを記述するスクリプトが含まれます。スクリプトは、アクション言語を使用して記述されます。このアクション・スクリプトを編集するためには、オペレーターにカスタムの作成許可が必要です。このタブについて詳しくは、[「アクション・スクリプト」タブ \(##### 170\)](#)を参照してください。

アクションを実行することにした場合は、「OK」をクリックして、自分のパスワードを入力します。進行状況のダイアログが開き、アクションの適用に関する情報が継続的に提供されます。[実行されたアクションのモニター \(ページ 37\)](#)に記載されている指示に従って、アクションの処理状況をモニターすることもできます。

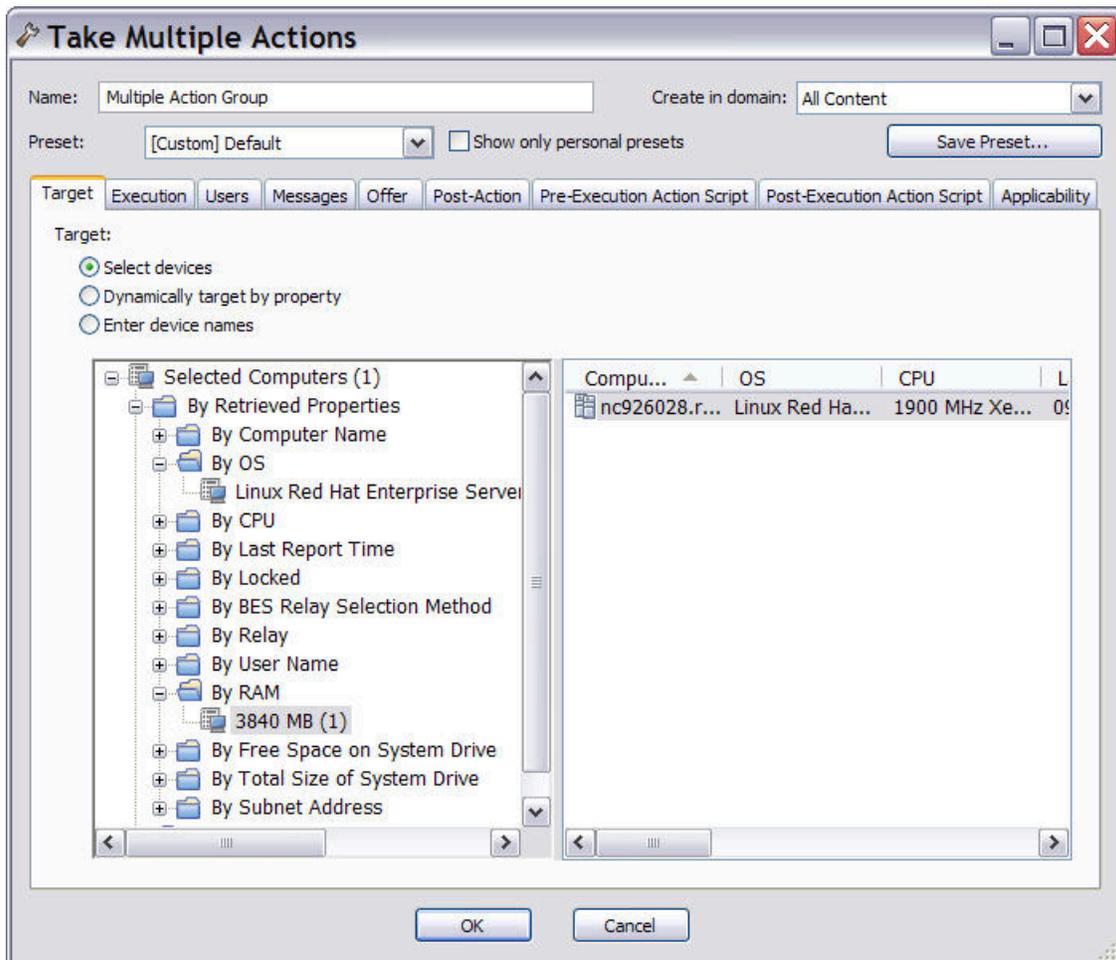
## マルチアクションの実行

「マルチアクションの実行」ダイアログでは、Fixlet やタスクのセットを単一のグループで適用するための設定を指定できます。

グループに含めるそれぞれの Fixlet またはタスクには、デフォルト・アクションが関連付けられていることが必要です。

このタスクの実行方法は以下のとおりです。

1. デフォルト・アクションを含むタスクまたは Fixlet の選択したグループを右クリックします。
2. 「デフォルト・アクションの実行」を選択します。「マルチアクションの実行」ダイアログが開きます。



3. このダイアログで、選択したアクションが、ネットワーク内のコンピューターにどのように適用される必要があるかを指定します。このダイアログに含まれる入力フィールドは、[アクションの実行 \(##### 301\)](#)の表示に含まれるものと同じですが、以下の追加フィールドがある点が異なります。

### エラーに関係なく、アクション・グループのメンバー・アクションをすべて実行する

このフィールドは、「実行」タブに属しており、グループの1つ以上のオブジェクトでエラーが発生した場合にアクションの実行を停止するかどうかを指定します。

### 「実行前アクション・スクリプト」タブ

アクションのグループを適用する前に実行するアクション・スクリプトを指定できます。

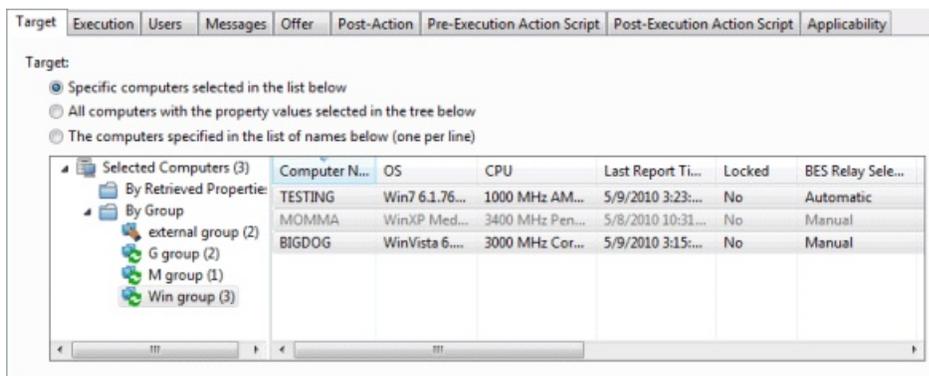
### 実行後アクション・スクリプト

アクションのグループを適用した後に実行するアクション・スクリプトを指定できます。

4. 編集が終了したら、「OK」をクリックしてアクションを適用します。  
5. 認証パスワードを入力し、「OK」をクリックします。進行状況のダイアログが表示され、適用の段階に関する情報が継続的に提供されます。

## 「対象」タブ

「対象」タブは、さまざまなアクションのダイアログに表示されます。



アクションが関連状態になると、コンソール・オペレーターはユーザーのサブセットをアクションの受け取り対象として指定できます。

このダイアログの上部に、以下の3つのラジオ・ボタンがあります。

- **「以下の一覧で選択したコンピューター」**。このボタンを選択すると、コンピューターのリストで強調表示されたクライアントのみがアクションを受け取ります。これはデフォルトの動作です。左側のパネルのツリー・ビューで項目を選択すると、このコンピューターのリストをフィルタリングできるので覚えておいてください。「OK」をクリックすると、このリスト内のコンピューターの選択が凍結され、取得した値がアクションの適用前に再評価されることはありません。そのため、あるコンピューターが将来この問題に影響される場合、そのコンピューターはこのオプションの適用対象にはなりません。これによって同じ Fixlet がトリガーされますが、再度そのコンピューターを対象に指定する必要があります。
- **「以下のツリーで選択した取得プロパティー値を持つすべてのコンピューター」**。このボタンを選択すると、BigFixクライアント・コンピューターが選択したプロパティーと一致する場合に、それらのコンピューターの関連度が継続的に評価されます。前のラジオ・ボタンで説明したシナリオとは異なり、新規のコンピューターが将来この問題に影響される場合、そのコンピューターは自動的に更新されます。また、左側の取得プロパティー・パネルを使用して、この関連コンピューター・セットをフィルタリングすることもできます。この機能はその性質上、無制限であるため、「実行」タブを使用して有効期限を定義することができます。
- **「以下の名前一覧で指定したコンピューター」**。このボタンから特定のコンピューターのリストを入力(または貼り付け)できます。(コンソールに表示されている)コンピューター名のリストは、改行で区切ってフォーマットします。

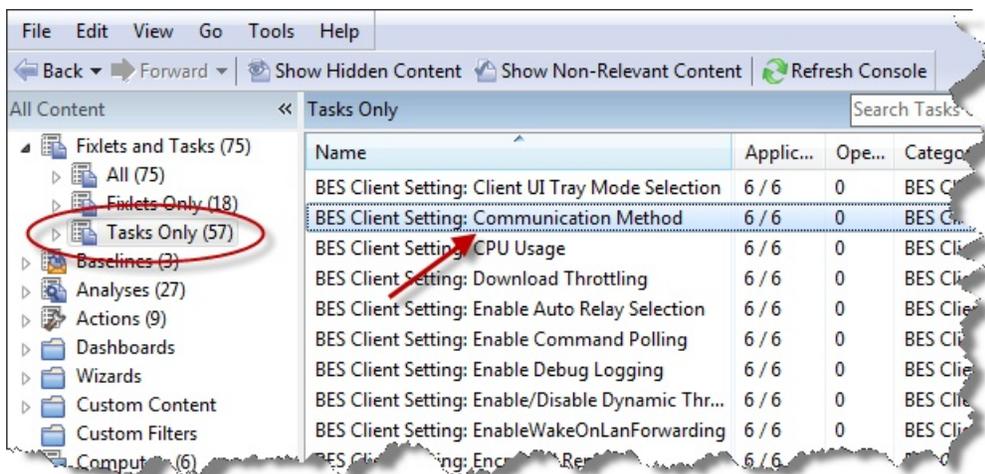
これらのオプションを使用すると、Fixlet アクションの適用に大きな利点が生じます。ここに示す選択項目を慎重に検討してください。最初のボタンは、固定的なコンピューター・セットを対象として記述するため、最も安全です。2番目のボタンを選択すると、関連アクションを継続的に評価し、自動的に適用するので、より強力です。ただし、長期的な結果を生じる可能性があるため、検討が必要です。3番目のボタンを選択すると、特定のコンピューター・リストに適用できるため、デプロイメントを細かく制御できます。

このタブは、以下のような、いくつかの異なるダイアログから使用できます。

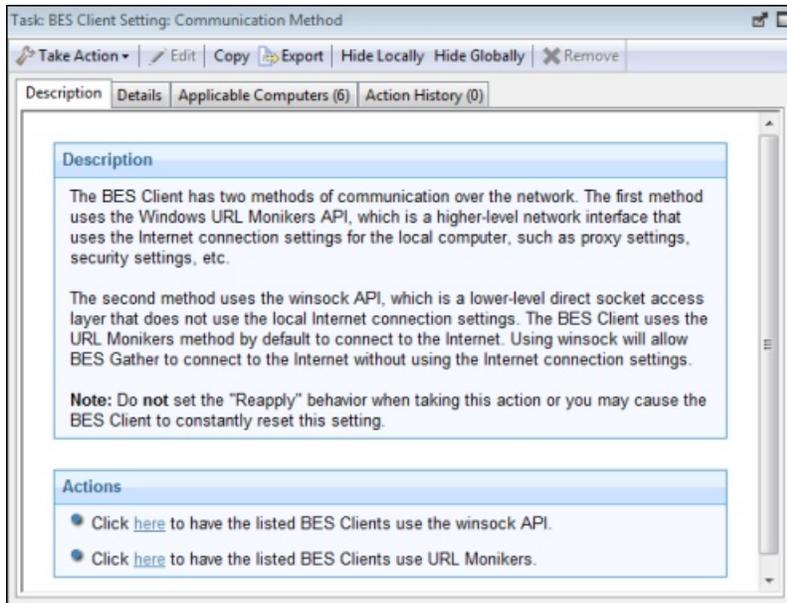
「アクションの実行」、「マルチアクションの実行」、および「コンピューター設定の編集」。

## タスクのリストおよび文書

ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「Fixlet とタスク」をクリックすると、リストが作成されます。このリストには Fixlet とタスクの両方が取り込まれており、「Fixlet とタスク」アイコンを開いて、その下の「すべてのタスク」をクリックすると、リストをフィルタリングできます。



右側のリスト・パネルには、現在関連するタスクがすべて含まれるようになっています。**タスク文書**は、リスト内の任意の項目をクリックするとコンソールの作業域に表示されます。



タスク文書の上には名前が表示されます。その下には、以下のツールを含むツールバーがあります。

- 「**アクションの実行**」：このツールは、Fixlet のデフォルト・アクションを実行します。
- 「**編集**」：このオプションでは Fixlet を編集できます。このツールは、ユーザー自身が作成したカスタム Fixlet にのみ使用できます。
- 「**コピー**」：このオプションでは、Fixlet をコピーまたは複製して、その実行内容をカスタマイズできます。
- 「**エクスポート**」：このツールは、Fixlet をエクスポートして外部エディターで編集できるようにします。
- 「**ローカルで非表示**」：このバージョンのコンソールで Fixlet を非表示にします。
- 「**全体で非表示**」：すべてのコンソールで Fixlet を非表示にします。
- 「**削除**」：この Fixlet を削除します (カスタム Fixlet の場合にのみ使用可能)。

タスク文書にはいくつかのタブがあります。それらは以下のとおりです。

- 「**説明**」：タスクのテキスト・バージョンであり、問題について説明し、問題を解決するためのアクション・ボタンまたはリンクを 1 つ以上提供します。Ctrl-F を押してから検索文字列を入力すると、コンソール内の任意の HTML インターフェースを検索できます。

- 「**詳細**」：タスクを構成するプロパティ、関連文、およびアクションのリストです。
- 「**適用可能なコンピューター**」：タスクの対象となるコンピューターのサブセットをリストします。
- 「**アクション履歴**」：アクションの適用の履歴を示します。タスクに関連付けられているアクションが既にトリガーされている場合を除き、このリストは空になっています。

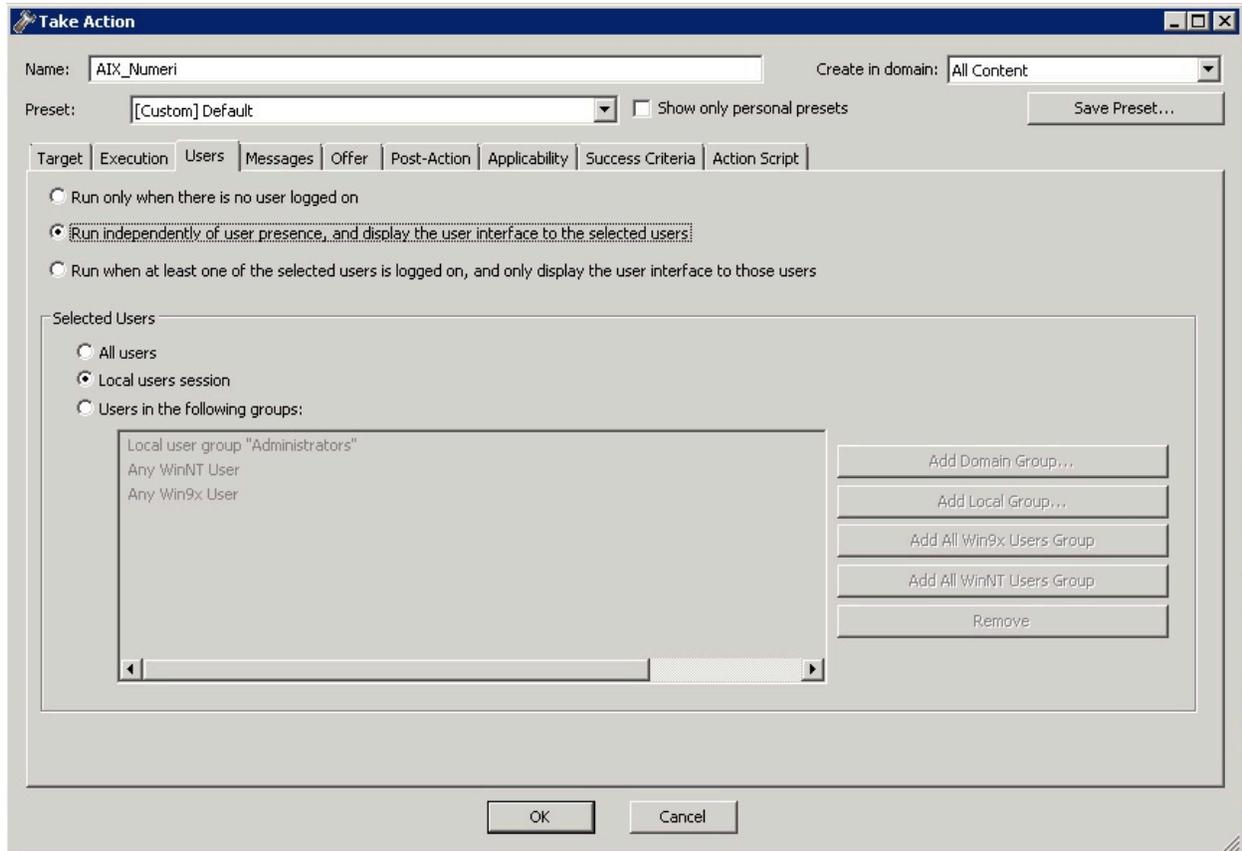
タスクのリストを表示するには、ドメイン・パネルのナビゲーション・ツリーで「**Fixlet とタスク**」アイコンの下の「**タスク**」アイコンをクリックします。

タスクのリストにある項目を開くと、**タスク文書**が開きます。

## 「ユーザー」タブ

「**ユーザー**」タブは、さまざまなアクションのダイアログに表示されます。このタブでは、ユーザーの存在に基づいて、アクションの実行方法を詳細に調整することができます。

例えば、長時間かかるインストールの対象をユーザーがログオフしているコンピューターのみとし、そのインストールによってダウン時間が発生しないようにすることができます。



このタブは、以下のような、いくつかの異なるダイアログから使用できます。

- [アクションの実行 \(##### 301\)](#)
- [マルチアクションの実行 \(##### 305\)](#)
- [アクション設定 \(##### 172\)](#)
- [「コンピューター設定の編集」 \(##### 244\)](#)

次のいずれかのオプションを選択することができます。

#### ユーザーがログオンしていない場合のみ実行する

夜間に行われる可能性のある長時間のインストールではこのオプションを選択しますが、ユーザーがログオフしているクライアントに限りです。

#### ユーザーの存在とは無関係に実行し、指定したユーザーに対してユーザー・インターフェイスを表示する

これは、重要なパッチまたは小規模のサイレント更新の場合に役立つ可能性があります。BigFix クライアント・インターフェースの表示が許可されるユーザー・セットを指定できます。

### **選択したユーザーの 1 名以上がログオンしている場合に実行し、そのユーザーに対してのみユーザー・インターフェースを表示する**

このオプションは、アクションが特定のユーザー・グループのフィードバックまたは介入を必要としている場合に選択します。

ユーザー・インターフェースと対話するユーザー、またはユーザーのグループを選択することもできます。以下のいずれかの値を選択します。

#### **すべてのユーザー**

すべてのユーザーを選択するには、このボタンをクリックします。

#### **ローカル・ユーザーのセッション**

このボタンをクリックして、ローカル・ユーザーのセッションだけを選択します。

#### **次のグループに属するユーザー**

以下のグループからユーザーを選択します。

##### **ドメイン・グループを追加**

ユーザーの Windows NT ドメイン・グループを追加します。

##### **ローカル・グループを追加**

ユーザー・セットにローカル Windows NT または Vista グループを追加します。

##### **Win9x ユーザー・グループの追加**

Windows 9x クライアントにログインしているユーザーを追加します。

##### **WinNT ユーザー・グループの追加**

Windows NT ユーザーとしてログインしているユーザーを追加します。

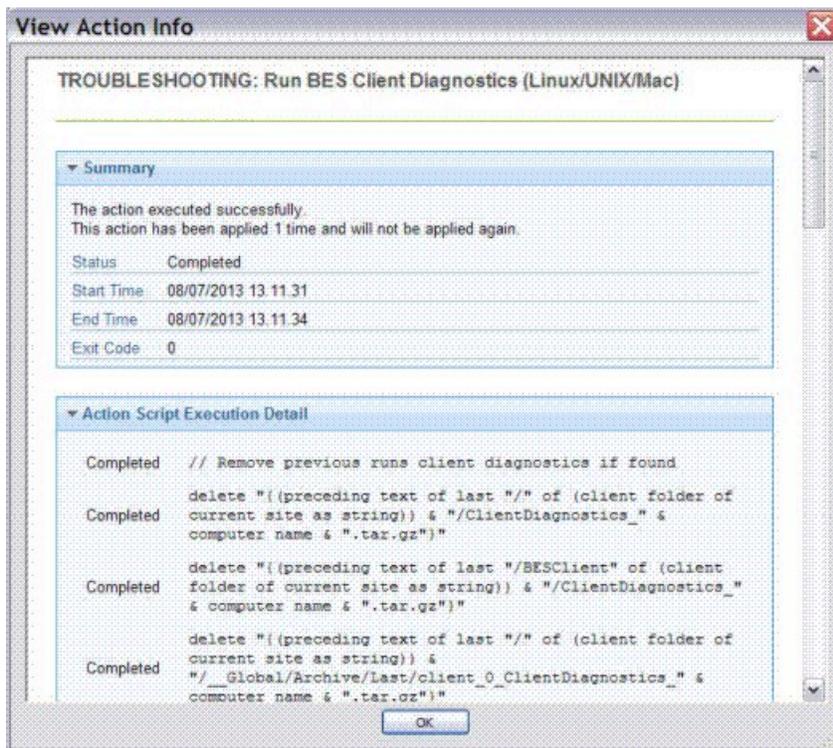
## 削除

選択したユーザー・グループをリストから削除します。

## アクション情報の表示

このダイアログは、開いている任意の**アクション**文書から表示できます。作業域で「**コンピューター**」タブを選択して、リストの任意のコンピューターを右クリックし、コンテキスト・メニューから「**アクション情報の表示**」を選択するか、「**編集**」メニューから「**アクション情報の表示**」を選択します。

「**アクション情報の表示**」ダイアログには、指定のコンピューターに対する特定のアクションに関する情報が表示されます。



## タイトル

アクションを開始した Fixlet またはタスクのタイトルを表示します。

## 概要

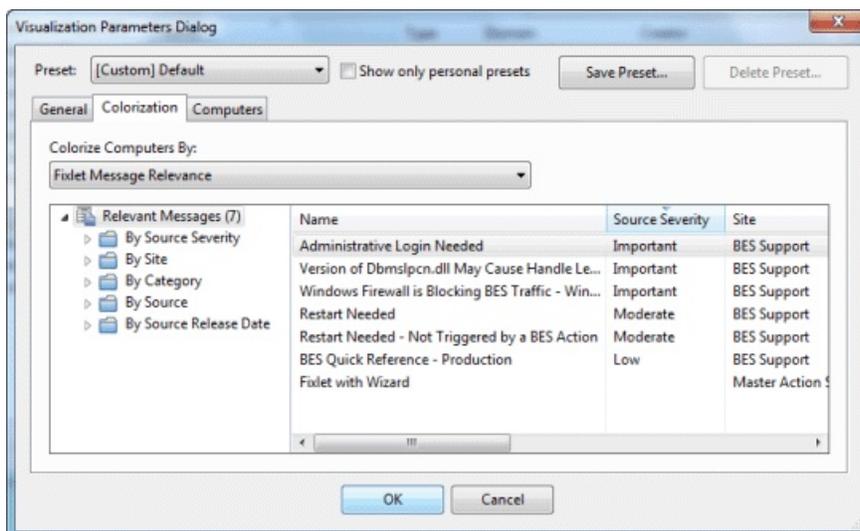
このコンピューターにおけるアクションの適用の要約。ここでは、アクションの実行に関する現在の「ステータス」、「開始時刻」と「終了時刻」、およびアクションによって返される可能性のある「終了コード」が含まれます。

## アクション・スクリプトの実行の詳細

トリガーされたアクションに含まれる各ステップの結果です。

## 「視覚表示パラメーター」：色分け

「視覚表示パラメーター」ダイアログの「色分け」タブでは、ネットワークのグラフィカル表現の色をカスタマイズできます。



このタブではデータの色分け方法が4つ示され、メインのプルダウン・メニューから選択できます。

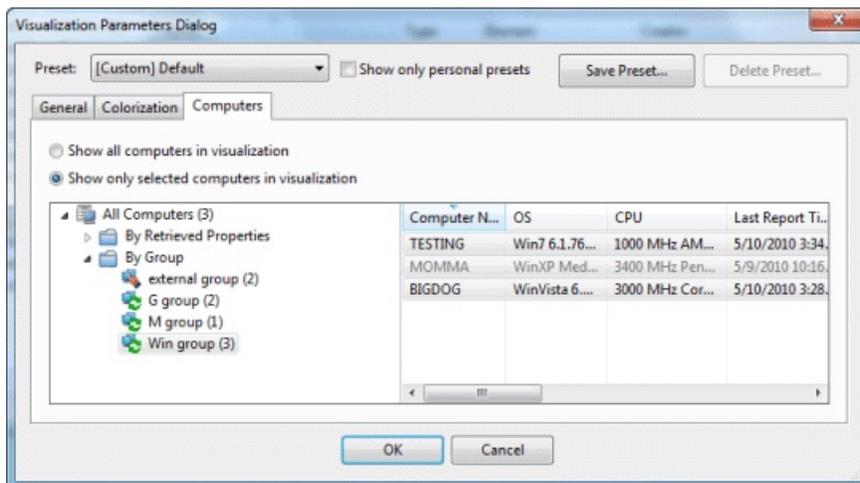
- 「色分けなし」：すべてのコンピューターを白で表示するには、このオプションを選択します。
- 「Fixlet メッセージの関連度」：特定の Fixlet メッセージの関連度 (適用可能または適用不可) に基づいて各コンピューターを色分けします。下のフィルター/リスト・ボックスで Fixlet メッセージを指定します。

- 「**ベースラインの関連度**」：特定のベースライン・グループの関連度 (適用可能または適用不可) に基づいて各コンピューターを色分けします。下のフィルター/リスト・ボックスでベースラインを指定します。
- 「**取得プロパティ**」：指定する取得プロパティに基づいてBigFixクライアント・コンピューターの色を選択します。
- 「**アクションの状態**」：指定するアクションの現在の状態 (「完了」、「オープン」、「有効期限切れ」) に基づいてコンピューターを色分けします。下のフィルター/リスト・ボックスでアクションを指定します。
- 「**関連句**」：下のテキスト・ボックスで指定する関連句に基づいて各コンピューターを色分けします。

このダイアログを表示するには、「ツール」>「視覚表示ツールを起動」>「色分け」を選択します。

## 「視覚表示パラメーター」：「コンピューター」

「視覚表示パラメーター」ダイアログの「コンピューター」タブでは、図示するコンピューターの数を制限できます。



このタブには、簡単に選択を行えるよう、2つのボタンがあります。

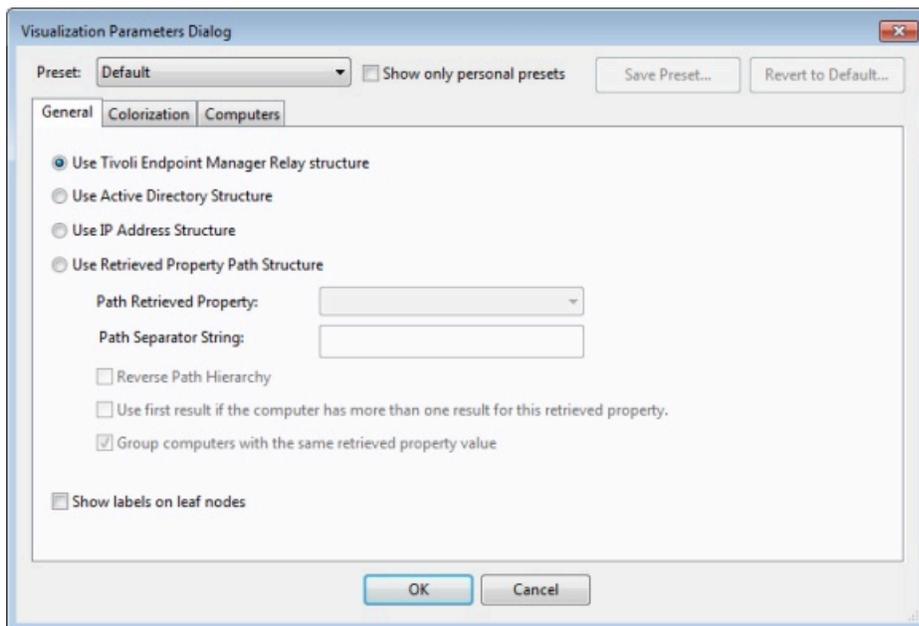
- 「**視覚表示にすべてのコンピューターを表示する**」：これがデフォルト・オプションであり、すべてのクライアントを表示できます。

- 「**視覚表示に選択したコンピューターだけを表示する**」：このオプションを選択すると、コンピューターのフィルター/リストが開き、取得プロパティまたはグループごとにネットワーク内のコンピューターの任意のサブセットを指定できます。

このダイアログを表示するには、「ツール」>「視覚表示ツールを起動」>「コンピューター」を選択します。

## 「視覚表示パラメーター」：一般

「視覚表示パラメーター」ダイアログの「全般」タブは、ネットワークのグラフィカル表現のカスタマイズに役立ちます。



データを表現するには、以下のようにいくつかの方法があります。

- 「**リレー構造を使用する (Use Relay structure)**」：BigFixリレーの観点からネットワーク・ツリーを表示します。これがデフォルトのビューです。
- 「**Active Directory 構造を使用する**」：Active Directory を使用して、視覚表示用にネットワーク・ツリーを図示します。
- 「**IP アドレス構造を使用する**」：IP アーキテクチャーを使用してネットワーク・ツリーを図示します。

- **「取得プロパティパス構造を使用する」**：クライアント・コンピューターの標準プロパティまたはカスタム・プロパティを使用して、カスタム・ネットワーク・ツリーを図示します。このオプションを選択する場合は、使用するパス・スタイル・プロパティを下のセクションから指定する必要があります。
  - **「パス取得プロパティ」**：このプルダウン・メニューには、使用可能なBigFixクライアント・プロパティがリストされます。このうちの1つを選択して、ネットワーク・グラフを定義します。パス・スタイル・プロパティには、パスの各部分を区切るための区切り文字列があります。例えば、パスとしてIPアドレスを使用する場合は、区切り文字としてピリオドを選択します。別の例として、実際のディレクトリー・パスがあります。この場合の区切り文字はバックスラッシュです。自分で選択した区切り文字を使用してフィールドを連結することで、独自のカスタム・パスを作成することもできます。
  - **「パス区切り文字列」**：上記で指定したパスを解析するときに使用する区切り文字を入力します。例えば、ディレクトリー・パスから階層を作成するには、区切り文字列として「」を使用します。
  - **「パス階層を反転する」**：選択したパス・スタイル・プロパティの最も重要な部分が、左側ではなく右側にある場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。
  - **「この取得プロパティに対して複数の結果がある場合は、最初の結果を使用する」**：多くのプロパティでは、単一の項目ではなくリストが返されます。これらの値は無視できます。または、このボックスにチェック・マークを付けて、リストの最初の要素をネットワーク・マップに使用することもできます。
  - **「同じ取得プロパティ値でコンピューターをグループ化する」**：このオプションを選択すると、同じプロパティを共有するコンピューターから視覚表示を容易にするグループを作成できます。
- **「リーフ・ノードのラベルを表示する」**：ネットワーク・ツリーのリーフ・ノードのコンピューターの横にラベルを表示する場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。

このダイアログを表示するには、「ツール」>「視覚表示ツールを起動...」を選択します。